

法政大学 大学院

入学案内 2023

真理探究は プロジェクトマネジメントあってこそ

法政大学総長

廣瀬 克哉



大学院とは専門を極める場所。大学院で学位を得た人は、専門分野を掘り下げて高度な知識や技術を身につけている。しかし、特定の専門に特化しすぎて、実社会ではかえって活躍の場が限られてしまう。現代の日本社会では、大学院修了者に対するイメージはそんなところではないでしょうか。

このイメージは、かなり事実とかけ離れている、というのが自分自身大学院で学び、教員として大学院教育に携わってきての実感です。学問的な真理の探究は、「プロジェクトマネジメント」の裏付けがあって初めて研究成果になります。しかし、そのことが自分自身の「腑に落ちた」深さでわかったのは、大学院で学ぶ機会を得てからのことでした。大学院で何が得られるのかについての認識が、大学院経験者とそれ以外の人とで最も大きく違うのがこの点ではないかと思います。

どれほど純粋に理論的な分野であっても、また、一人で遂行する研究であっても、真理

を探究した結果を、研究論文などの成果としてまとめて発表するためには、そのためのプロジェクトを順を追って進め、順調に進まないところがあれば対応策を講じ、一定の期限内に結果をアウトプットしなければなりません。実際にやってみると、これはけっこう骨の折れることで、そんなに順調には進まないことがほとんどです。それを「何とかして（manage to）進めて」初めて研究成果が出るのです。学位を得ることができた、ということは、どんな分野にあっても、研究というプロジェクトのマネジメントに成功したということを（も）意味しているのです。

大学院で学ぶことによって専門分野の学識を得られることは当然ですが、それ以上に、真理を探究するというプロジェクトの遂行力を身につけられることが大きな財産になります。法政大学大学院で、ぜひその力を磨いてください。

自由を生き抜く実践知

法政大学は、近代社会の黎明期にあって、
権利の意識にめざめ、法律の知識を求める
多くの市井の人びとのために、
無名の若者たちによって設立されました。

校歌に謳うよき師よき友が集い、
人びとの権利を重んじ、多様性を認めあう「自由な学風」と、
なにものにもとらわれることなく公正な社会の実現をめざす
「進取の気象」とを、育んできました。

建学以来この精神を受け継ぎ、
地球社会の課題解決に貢献することこそが、本学の使命です。

その使命を全うすべく、
多様な視点と先見性をそなえた研究に取り組むとともに、
社会や人のために、真に自由な思考と行動を貫きとおす
自立した市民を輩出します。

地域から世界まで、あらゆる立場の人びとの共感に基づく
健全な批判精神をもち、
社会の課題解決につながる「実践知」を創出しつづけ、
世界のどこでも生き抜く力を有する
あまたの卒業生たちと力を合わせて、
法政大学は持続可能な社会の未来に貢献します。

法政の実践知	32 社会科学分野	96 キャリア形成
02 [自由を生き抜く実践知]	34 経済学研究科	98 進路状況 [文系就職状況／理工系就職状況]
04 [研究科・専攻インデックス]	38 法学研究科	100 科目等履修生
06 [研究支援]	40 政治学研究科	102 協定大学院・プログラム
08 [それぞれの実践知]	44 社会学研究科	104 研究所・図書館
12 設置課程／論文指導	48 経営学研究科	106 キャンパス・施設
	52 人間社会研究科	108 学費と各種助成金・奨学金制度
	58 政策創造研究科	110 法政大学大学院ウェブサイトについて
14 人文科学分野	60 公共政策研究科	111 入試結果
16 人文科学研究科	64 キャリアデザイン学研究科	112 進学相談会・公開セミナー／Q&A
28 国際日本学インスティテュート	66 連帯社会インスティテュート	
30 国際文化研究科	68 スポーツ健康学研究科	
	70 自然科学分野	
	72 情報科学研究科	
	74 デザイン工学研究科	
	80 理工学研究科	
	94 総合理工学インスティテュート [IIST]	

※本文中の学生・修了生等の表記は原則として2022年4月時点のものです。

法政の
実践知

現実から理想へ向かう道

自由を生き抜く実践知

フローネシス

法政大学 大学憲章 約束の言葉

「自由という広場」法政大学

なにものにもとらわれることなく
公正な社会の実現をめざす

「進取の気象」

人びとの権利を重んじ、
多様性を認めあう

「自由な学風」

最先端の分野がそろう多彩な知の空間

POINT 01

多様な 研究科を設置

法政大学大学院は1951年に人文科学研究科・社会科学研究科に修士課程を設置したことになります。国際社会に開かれた大学院として新しい時代の最先端で活躍する人材の育成に取り組み、歴史ある研究分野から現代の社会的要請に即した研究領域まで多彩な研究科を設置してきました。現在は、15研究科・31専攻・3インスティテュートを設置しています。

POINT 02

社会を牽引する 教授陣による少人数教育

また、「社会に開かれた大学院」を特色として打ち出し、1995年にはわが国最初の夜間博士後期課程を開設しました。各研究科では、各分野をリードする一流の教授陣が指導に当たります。授業のほとんどは少人数のゼミ形式で、すべての学生が自分の研究課題に適した指導教授について論文指導を受けることになります。

POINT 03

教育の グローバル化を推進

その他、人文科学研究科国際日本学インスティテュート（修士課程）では、2019年度から上海外国语大学（中国）と共同学位（ダブルディグリー）プログラムをスタートさせなど、国際的な教育・研究水準の向上をめざし、グローバルな舞台に積極的に挑戦し活躍できる人材の育成を図っています。

知の最前線であるための教学改革

/ 経済学研究科

多様化の進展とともに、高度に専門化する21世紀のグローバル社会に対応できる人材養成を推進するための改革の一つとして、より専門的なエコノミストや研究者の養成を目的とした、修士課程・博士後期課程5年一貫の「博士5年（Ph.D.）プログラム」を2014年度よりスタートさせました。5年一貫の博士養成課程は、日本ではあまり前例のないプログラムですが、確かな研究基礎力を修得した上で、時間をかけて専門分野を選択できるというメリットがあり、欧米では多くの大学院で採用されています。また、2017年度からは「経済学研究科修士課程1年制コース」を新たに設置しています。

/ 情報科学研究科・理工学研究科

学部から大学院修士課程までの6年間を通じて専門領域を学ぶことが高度技術者・研究者の育成に不可欠となっていることから、本大学院の工学研究科でも、6年一貫教育を行うことのできる体制をめざし、2008年の学部再編（工学部をデザイン工学部、理工学部、生命科学部に分割）をもとにした改組を実施。2013年度より工学研究科から理工学研究科へ改め、学部学科を基礎とする6つの専攻で構成しています。そして、2016年9月には情報科学研究科と理工学研究科が協働し、理系専攻分野の先端的研究を英語で学ぶ横断型大学院プログラム「総合理工学インスティテュート（IIST）」を開設しました。

/ 長期履修制度

長期履修制度は仕事と両立しながら学業にじっくり取り組みたい社会人に配慮した制度です。この制度を活用した場合、年度当たりの授業料負担を軽減することができます。

修士課程の場合

通常の修業年限（2年）に必要な授業料を3年または4年に分納可能

博士後期課程の場合

通常の修業年限（3年）に必要な授業料を4年、5年または6年に分納可能

実施研究科 ■人文科学研究科（修士課程・博士後期課程）

- 国際文化研究科（修士課程）
- 社会学研究科（修士課程）
- 人間社会研究科福祉社会専攻（修士課程）
- 政策創造研究科（修士課程）
- 公共政策研究科（修士課程・博士後期課程）
- キャリアデザイン学研究科（修士課程）
- スポーツ健康学研究科（博士後期課程）



個々の環境に対応できる
3つのキャンパス



History

法政大学大学院の歴史

- 1951 昭和26年 人文科学研究科に哲学・日本文学・英文学専攻、社会科学研究科に経済学専攻の修士課程を開設
- 1952 昭和27年 人文科学研究科に国史学専攻（夜間）と社会科学研究科に私法学専攻の修士課程を増設
- 1953 昭和28年 人文科学研究科に地理学専攻（夜間）の修士課程を増設。大学院専用校舎53年館竣工
- 1954 昭和29年 国史学専攻を日本史学専攻に変更
- 1955 昭和30年 哲学・日本文学・英文学・日本史学・地理学専攻、経済学・私法学専攻に博士後期課程を開設
- 1956 昭和31年 社会科学研究科に政治学専攻・修士課程を増設
- 1958 昭和33年 政治学専攻に博士後期課程を増設
- 1964 昭和39年 社会科学研究科に社会学専攻・修士課程を増設
- 1965 昭和40年 工学研究科を設置し、修士課程に機械工学・電気工学・建設工学専攻を開設
- 1966 昭和41年 社会学専攻に博士後期課程を増設
- 1968 昭和43年 電気工学専攻に博士後期課程を増設
- 1985 昭和60年 工学部大学院棟竣工
- 1986 昭和61年 工学研究科機械工学・建設工学専攻に博士後期課程を増設
- 1987 昭和62年 工学研究科にシステム工学専攻・修士課程を増設
- 1989 平成元年 工学研究科システム工学専攻に博士後期課程を増設
- 1991 平成3年 私法学専攻を法律学専攻へ名称変更
- 1992 平成4年 経営学専攻を経済学専攻から分離独立させ、経営学専攻に修士・博士後期課程を開設。経済学・経営学専攻の修士課程で昼夜開講制を実施。大学院専用棟92年館（現大学院棟）竣工
- 1995 平成7年 経営学専攻・博士後期課程で昼夜開講制を実施
- 1998 平成10年 法律学専攻・修士課程に法曹コースを開設し、従来のものを研究コースとした。政治学専攻・修士課程で昼夜開講制を実施
- 2000 平成12年 人文科学研究科・全専攻修士課程で昼夜開講制を実施
- 2001 平成13年 工学研究科に物質化学・情報電子工学専攻の修士・博士後期課程を増設。電気工学専攻・修士課程に1年制のITプロフェッショナルコースを開設
- 2002 平成14年 社会科学研究科に政策科学専攻（昼夜開講制）修士・博士後期課程を増設
- 2003 平成15年 社会科学研究科環境マネジメント専攻修士課程および国際日本学インスティテュートを増設。社会科学研究科経済学専攻・博士後期課程で昼夜開講制を実施
- 2004 平成16年 法務研究科、イノベーション・マネジメント研究科、人文科学研究科国際文化専攻を増設。経済学研究科経済学専攻、法学研究科法律学専攻、政治学研究科政治学専攻・社会学研究科社会学専攻、経営学研究科経営学専攻、政策科学研究科政策科学専攻、環境マネジメント研究科環境マネジメント専攻を社会科学研究科から独立改組
- 2005 平成17年 経営学研究科キャリアデザイン学専攻、システムデザイン研究科システムデザイン専攻、イノベーション・マネジメント研究科アカウンティング専攻を増設
- 2006 平成18年 國際文化研究科国際文化専攻を人文科学研究科から改組
- 2008 平成20年 人文科学研究科心理学専攻を増設
- 2010 平成22年 政策創造研究科政策創造専攻を開設
- 2011 平成23年 政治学研究科に国際政治学専攻を、工学研究科に生命機能学専攻を増設。工学研究科建設工学専攻・システムデザイン研究科を改組し、デザイン工学研究科に建築学専攻、都市環境デザイン工学専攻、システムデザイン専攻を設置
- 2012 平成24年 國際日本学インスティテュートが改組転換の上、人文科学研究科に設置。人文科学研究科日本史学専攻を史学専攻へ名称変更
- 2013 平成25年 政治学（夜）、政策科学、環境マネジメント、政策創造政治・行政プログラムの4研究科が統合、公共政策研究科として開設。工学研究科生命機能学専攻内に植物医学科領域を設置
- 2014 平成26年 工学研究科から理工学研究科へ改組（機械工学専攻、電気電子工学専攻、応用情報工学専攻、システム工学専攻、応用化学専攻、生命機能学専攻）。経営学研究科から独立し、キャリアデザイン学研究科キャリアデザイン学専攻として開設
- 2015 平成27年 連帯社会インスティテュート開設
- 2016 平成28年 システム工学専攻をシステム理工学専攻へ名称変更
- 2017 平成29年 情報科学研究科・理工学研究科に横断型大学院プログラム（IIST）開設
- 2019 平成31年 /令和元年 公共政策研究科にサステナビリティ学専攻開設
- 2021 令和3年 スポーツ健康学研究科開設
- 経済学専攻に1年制修士課程を開設
- 人文科学研究科国際日本学インスティテュートと上海外国语大学日本文化経済学院との共同学位（ダブルディグリー）プログラム開設
- スポーツ健康学研究科に博士後期課程を開設

研究科・専攻インデックス

大学院

分野	研究科名	専攻名	概要
人文科学分野	人文科学研究所	哲学専攻	古代ギリシア哲学、近代ヨーロッパ哲学、現代哲学、論理学などの西洋哲学を中心に教育研究を進めています。
		日本文学専攻	古代から近代まで各時代の文学、言語、芸能を探求。文芸批評、中国・沖縄文学などの関連科目を幅広く配置しています。
		英文学専攻	英米文学、演劇、英語学、言語科学などの専門教育を行います。学内または提携大学院の豊富な科目も選択できます。
		史学専攻	日本・東洋・西洋史の3分野の広範な授業を開講。伝統的な研究方法を重んじながら、最前線の研究成果も取り入れています。
		地理学専攻	自然地理と人文地理の2本柱で、幅広く複合的な領域をカバーします。どちらかに重心を置きつつ、個別の研究を進めます。
		心理学専攻	知覚・睡眠・発達・発達臨床・言語・教育・行動分析・犯罪・社会・記憶・学習・音声学といった多様な領域を指導します。
		国際日本学インスティテュート	人文科学研究所を横断する形で設置・運営され、専攻にとらわれない多彩な授業が展開されています。
	国際文化研究所	国際文化専攻	文化の「国際性」と「情報性」を研究し、インターナショナル・コミュニケーションを探求します。
	経済学研究所	経済学専攻	経済学、統計学、経済史などの基本科目から経済地理や社会政策など幅広く選択でき、上級レベルの経済理論（ミクロ・マクロ）も開講しています。
	法学研究所	法律学専攻	現代社会の多様な問題を法的に分析し、法的な思考過程を経て最善の解答を生み出す能力を養成します。
社会科学分野	政治学研究所	政治学専攻	オーソドックスな政治学から、都市政策、フェミニズムやジェンダー論など新領域の独創的な科目まで幅広く解説します。
		国際政治学専攻	時代の要請に応える、世界政治、国際開発、地球環境、平和構築、人間の安全保障などの諸分野の研究教育が充実しています。
	社会学研究所	社会学専攻	日本だけでなく、世界で問われている21世紀の社会的課題を認識し解明するため、「人間論的関心を柱にした社会問題の社会学」を中心に、隣接する諸科目を配して研究活動を行います。
	経営学研究所	経営学専攻	経営の基礎から応用までの理論的なアプローチに加え、現実の企業活動や社会現象を実証的に分析するためのさまざまな手法が学べます。
	人間社会研究所	福祉社会専攻	「福祉」や「まちづくり」に関する高度職業人（ソーシャルワーカー、政策立案者など）、研究者の養成を目的としています。
		臨床心理学専攻	心理臨床の分野で活躍する高度職業人（公認心理師、臨床心理士）と、臨床心理学の実践と科学に関わる研究者の養成を目的としています。
		人間福祉専攻	次代の人間福祉を総合的に実現するための理論的かつ実践的研究者を養成することを目的としています。
	政策創造研究所	政策創造専攻	豊かで持続可能な地域社会を実現する革新的な政策を研究・デザインし、それらを実現できる人材を育成します。
	公共政策研究所	公共政策学専攻	グローバル化・知識基盤社会・人口減少社会における総合的な政策提言能力を身に付けた高度職業人、研究者を養成します。
		サステナビリティ学専攻	持続可能な循環型社会の構築に貢献できる人材を養成します。
自然科学分野	キャリアデザイン学研究所	キャリアデザイン学専攻	最先端のキャリアデザイン学分野を体系的に学ぶ日本で初めての研究科です。
	連帯社会インスティテュート	連帯社会インスティテュート	新しい地域社会や国づくりの発展に貢献できる「新しい公共」の担い手を養成します。
	スポーツ健康学研究所	スポーツ健康学専攻	人文社会科学から自然科学まで、多面的なスポーツ・健康について教育研究を進めています。
	情報科学研究所	情報科学専攻	ITを通じ、情報化社会、知識社会と呼ばれる、これからの新しい時代を築く人材を養成します。
	デザイン工学研究所	建築学専攻	建築に関わる7つの項目の素養や能力を養い、建築と都市に関わる専門職業人、教育・指導者、研究者を養成します。
		都市環境デザイン工学専攻	社会基盤などを設計・建設・整備する手法を習得し、環境を保全・再生していくことのできる技術者を養成します。
		システムデザイン専攻	さまざまな側面から総合的にユーザビリティを追究。複雑な社会に存在する諸問題に対応できる技術者や研究者を育成します。
	理工学研究所	機械工学専攻	材料力学、熱力学、水力学などの専門科目や、機能性材料、宇宙工学、環境エネルギー工学など先端的な研究指導を行います。
		電気電子工学専攻	電気電子工学分野に重点を置き、最新設備を利用しながら現代の科学技術を支える先端技術の基礎から応用まで研究します。
		応用情報工学専攻	ICT、クラウド、ユビキタスネットワークなど高度情報化社会を支える実用的かつ高度な最先端システムを研究分野にしています。
		システム理工学専攻 創生科学系	理工学の基幹をなす物理科学、情報学の社会基盤である知能科学、融合領域の人間科学について研究を行います。
		システム理工学専攻 経営システム系	数理、人間を要素として、これらをつなぎ、付加価値の高いシステム構築法を研究します。
		応用化学専攻	幅広い産業界において化学の専門的な知識を生かして持続的社会構築に貢献できる人材養成を行います。
		生命機能学専攻	生命機能学と植物医科学の2つの領域、ゲノム、タンパク質、細胞、生命システム、基盤植物医科、実践植物医科の6分野について研究します。
	総合理工学インスティテュート	総合理工学インスティテュート(IIST)	グローバル社会において総合理工学分野のリーダーとして活躍することができる人材を養成します。

専門職大学院

研究科名	専攻名	概要
法務研究科（法科大学院）	法務専攻	現代社会に生じる多様な法律問題に対して適正かつ迅速に対応できる、創造的応用力を備えた市民のための法曹を養成します。
イノベーション・マネジメント研究科	イノベーション・マネジメント専攻	基礎・専門・応用に分かれた高密度カリキュラムと、実践力を備え、革新を起こすことができるビジネスのプロフェッショナルを育てます。

選択できる3つの開講時間



授業は昼間のみで、夜間の授業はありません。昼間に通学できる方が対象です。



昼間と夜間両方に授業があります。昼間と夜間のどちらかを選ぶコースではありません。



平日2~3日の夜間通学と土曜日の通学によって修了をめざすカリキュラムです。土曜日は夜間に加え昼間授業があります。

	授業時間	市ヶ谷キャンパス	多摩キャンパス	小金井キャンパス
昼 間	1時限	8:50 ~ 10:30	9:20 ~ 11:00	9:00 ~ 10:40
	2時限	10:40 ~ 12:20	11:10 ~ 12:50	10:50 ~ 12:30
	3時限	13:10 ~ 14:50	13:40 ~ 15:20	13:20 ~ 15:00
	4時限	15:00 ~ 16:40	15:30 ~ 17:10	15:10 ~ 16:50
	5時限	16:50 ~ 18:30	17:20 ~ 19:00	17:00 ~ 18:40
夜 間	6時限	18:35 ~ 20:15		
	7時限	20:20 ~ 22:00		

※授業時間について変更が生じた場合はHPで発表します。

課程	授与学位	キャンバス	掲載ページ
修士課程	修士(哲学)	市ヶ谷	P 16
修士課程	修士(文学)		P 18
修士課程	修士(文学)		P 20
修士課程	修士(歴史学)		P 22
修士課程	修士(地理学)		P 24
修士課程 ※一部夜間開講	修士(心理学)		P 26
修士課程	修士(学術)		P 28
修士課程	修士(国際文化)	市ヶ谷	P 30
修士課程	修士(経済学)	市ヶ谷・多摩	P 34
修士課程	修士(法学)	市ヶ谷	P 38
修士課程 ※一部夜間開講	修士(政治学)	市ヶ谷	P 40
修士課程	修士(国際政治学)		P 42
修士課程 社会学コース	修士(社会学)	市ヶ谷・多摩	P 44
修士課程 メディアコース	修士(経営学)	市ヶ谷	P 48
修士課程	修士(福祉社会又は学術)		P 52
修士課程	修士(臨床心理学)	多摩	P 54
—	—		P 56
修士課程	修士(人間福祉又は学術)	市ヶ谷	P 58
修士課程	修士(政策学)		P 60
修士課程	修士(公共政策学)	市ヶ谷	P 62
修士課程	修士(サステイナビリティ学)		P 64
修士課程	修士(キャリアデザイン学)	市ヶ谷	P 66
修士課程	修士(学術)	市ヶ谷	P 68
修士課程	修士(スポーツ健康学)	多摩	P 72
修士課程	修士(理学)	小金井	P 74
修士課程	修士(工学)	市ヶ谷	P 76
修士課程	修士(工学)		P 78
修士課程	修士(工学)	小金井	P 80
修士課程	修士(工学)		P 82
修士課程	修士(工学)		P 84
修士課程	修士(工学)		P 86
修士課程	修士(工学)		P 88
修士課程	修士(理工学)		P 90
修士課程	修士(生命科学)		P 92
修士課程	所属専攻による		P 94

課程	授与学位	キャンバス
専門職学位課程	法務博士(専門職)	市ヶ谷
専門職学位課程	経営管理修士(専門職)	市ヶ谷

研究支援

学費・奨学金
・研究助成



修学支援制度

大学院生の修学に対し、経済的な支援を目的とした制度です。

修士課程

法政大学100周年記念

大学院修士課程奨学金

修士課程に在籍する大学院生への修学支援として、経済的支援を行うことを目的としています。

本制度は、修士課程学生を対象とし、応募資格を有する申請者の中から選考の上、200,000円が支給されます。

博士後期課程

法政大学大学院

博士後期課程研究助成金

博士後期課程に在籍する大学院生への修学支援として、学術活動を奨励し高度な研究能力と豊かな学識を有する若手研究者を育成するため、経済的な支援を行うことを目的としています。

本制度は、より拡充され、文系研究科320,000円、理系研究科480,000円が支給されます。

なお、本助成金は、原則として応募資格を有する申請者全員に給付されます。

〈大学院修士課程奨学金〉を利用

すべての人に学ぶ機会を。
支援制度を通して実感しています

昭和後期に文学から戯曲、映画とマルチに活躍した寺山修司に魅せられ、学部時代からの研究をさらに突き詰めたいと大学院に進みました。慣れ親しんだキャンパスで学べるだけでなく、日本文学専攻のカリキュラムが充実しているからです。好きな研究をする以上、学費だけでも自分で貢献したいとアルバイトをする予定でしたが、入学前後はちょうどコロナ禍の初期のピーク。考えていた飲食店の募集が軒並みなくなり、また慣れないオンライン授業に対応するのが精一杯で、アルバイトをする余裕はとてもありませんでした。「大学院修士課程奨学金」がなければ、安心して研究に打ち込むことは不可能だったと思います。学費はもちろん、寺山修司は自著も研究書も膨大にあるので書籍代がかなりかかります。修士課程の2年間で論文を3本発表できたのも、支援制度があったからこそと感謝しています。年齢も国籍も立場も異なるさまざまな院生を含め、法政大学大学院は「もっと知りたい・学びたい」というすべての人のために開かれた学び舎。支援制度を通して、その姿勢を実感しています。



小林 福実

人文科学研究科 日本文学専攻
修士課程 2021年度修了、博士後期課程 在学中

留学・研究奨励制度

本学では、学生の海外留学や学会発表による学術研究を奨励し、研究力や資質の向上を目的とした制度を設けています。

法政大学大学院

海外留学補助金

海外留学による学術研究を奨励し、資質の向上を図ることを目的とします。本制度は在籍者に加え、申請期間に入学手続きが完了している入学予定者も申請することができます。給付額は、留学期間に応じ、上限2,000,000円（留学期間：1年間）または上限1,000,000円（留学期間：6ヶ月間）が支給されます（留学期間の延長（1年以内）が許可された場合は、同様に支給される場合があります）。

法政大学大学院

学生論文掲載料補助

国内・国外での学術論文発表を奨励するため、200,000円を上限にかかった費用を補助します。

法政大学大学院

学会等発表補助金

大学院における学術研究の高度化・国際化を奨励することを目的に、国内・国外で開催される学会等に係る経費を対象に、国内30,000円、国外100,000円を上限に実費を補助します。

法政大学大学院

現地調査実施費用補助

市ヶ谷、多摩キャンパスで開設している研究科の学生を対象に、国内30,000円、国外70,000円を上限に実費を補助します。

法政大学大学院諸外国語による

論文等校閲補助

国内外の学会発表や研究論文を、英語をはじめとする母語以外の諸外国語で執筆する際に、外国語で執筆した研究論文などの校閲費用について、100,000円を上限に実費を補助します。

法政大学大学院

優秀博士論文出版助成金

優秀な博士論文の出版費用を補助することで、博士学位取得者の研究者としてのキャリア形成、研究実績の蓄積を支援します。審査の上1,000,000円を上限に出版に要した費用を助成します。

〈博士後期課程研究助成金〉を利用

世界に向けて国際学会で研究発表 費用負担を気にせず活動できます

学部時代から引き続き、メタマテリアルと呼ばれる人工材料からなる薄型アンテナの研究に取り組んでいます。メタマテリアルは近年注目される人工材料の一つで盛んに研究が進められています。これを応用し、従来の10分の1の薄型構造を有するアンテナを実現したのは恐らく私たちが初めてです。自動車やドローンといった移動体通信での実用が期待されることから、企業の方とも協力して研究しています。画期的な研究だけに国内外の学会で発表するとともに論文を投稿することも多く、特に国際学会には年に5、6回とかなりの頻度で参加しています。現在はオンラインですが、コロナ禍前はアメリカの現地で開催されていたので、参加費に渡航費、宿泊費も含めると費用が数十万円かかりました。また論文も受理されると出版費や英文の校正費などが必要で高額に上るので、奨学金や研究助成金がなければ行き詰まるところでした。今年発表した学術論文を投稿する際にも補助金を利用しています。充実した支援制度のおかげでこうした負担を気にせず、研究内容を世界に向けて発表できています。



阿部 智希

理工学研究科 電気電子工学専攻
博士後期課程 2021年度修了

それぞれの実践知

01

MESSAGE

日本語文法の研究から
ITエンジニアへ
「チャレンジ」がキーワード



留学生

劉 悅汐

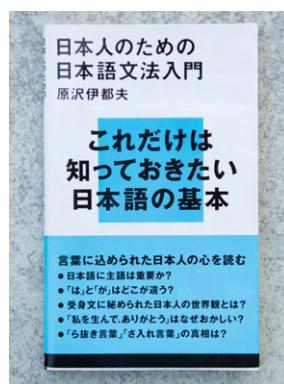
人文科学研究科 国際日本学インスティテュート 日本文学専攻 修士課程 2021年度修了
中国・福州大学外国语学院日本語学科を卒業し、2019年に法政大学大学院入学。

大学で日本語を勉強し、「は」と「が」の違いといった、助詞一つで意味が変わる日本語文法を面白く感じました。特に誤りやすい品詞について国による学習者の違いがあるのか探ることは、今世界中にいる日本語学習者の一助になります。日本に留学して本格的に研究しようと考えた時、真っ先に浮かんだのは第二言語習得の研究で名高い川崎貴子先生がおられる法政大学院でした。念願叶って川崎先生に師事することができました。

修士論文のテーマは特定の文法の誤用です。中国語と韓国語の母語話者を対象に「～している」と「～していた」の誤用に焦点を絞り、日本語学習者の作文コーパスからランダムに60編の作文を抽出して分析した結果、中国グループに誤用が多く、韓国グループは正用率が高いという傾向が見られました。これは教育学の研究に役立つもので、私としては一定の成果を出せたことに満足しています。

学びの転機は、第二言語習得を研究する過程でデータ分析を学び、プログラムのコードを書いたことです。達成感が大きかったことからエンジニアを志すようになり、IT企業に内定しました。文系だから、留学生だから、ではなく、望めば何でも叶えられる。「チャレンジ」が私のキーワードです。

愛読書



『日本人のための
日本語文法入門』
(原沢 伊都夫 著、講談社)

会社で人事に携わるようになって以来、キャリアコンサルタントの資格取得をはじめキャリア関連の勉強を続けてきました。しかし人材開発部の部長になると新任の管理職からの相談に乗る機会が格段に増えるように。働き方の多様化や、労働市場における流動性の変化など、複雑化する課題に取り組むにはさらに知見を深める必要があると痛感したため、大学院への進学を決意しました。キャリア関連を学ぶ者にとってかねてからよく耳にし、評判が高いのが法政大学大学院でした。

現在は新任管理職のキャリアトランジションに関する質的研究を進めています。研究を行うにあたり社会人院生にとっての強みは、何と言ってもリソースとなる「現場のフィールド」を持っていることです。普段から新任管理職の声を聞き、現状を肌感覚で理解していることにより有効性の高い研究ができるとともに、研究で明らかになった管理職への支援策をしっかりと現場で実践するという好循環を期待しています。

学びの環境は申し分なく、教授陣はもちろん院生のバックボーンも多種多彩です。企業人事の方だけでなく高校や大学の先生、医療従事者、自治体のキャリア支援の職員と幅広く、大学院に行かなかったら決して出会うことのない同期との交流を通して、視野も知見も広がりました。



社会人

岩月 優

キャリアデザイン学研究科 キャリアデザイン学専攻 修士課程 在学中

ソフトバンク株式会社に勤務しさまざまな部署を経験。

全社員の能力開発を担う人事本部での経験も長く、2019年から人材開発部の部長を務めている。

愛読書



『トランジション
人生の転機を活かすために』
(ウィリアム・ブリッジズ著、パンローリング)

02 MESSAGE

現場を知る強みを活かして
キャリアの転機を研究。
同期との交流も財産です

それぞれの実践知

卒業論文



子どもの頃から緊張したり動搖したりと感情の揺れ動きを意識することが多く、「こんな風に思うのはなぜだろう」と“心の仕組み”に関心を抱くようになりました。学部で学んだ心理学で精神的回復力を意味するレジリエンスに興味を持ち、また3年次の臨床心理実習で心理療法の一つである内観療法を体験したことが、今に続く研究テーマを得たきっかけです。卒業論文では文献研究を通して、レジリエンスの一つ「自己や他者を理解する」という傾向の強さと内観の関係を考察しました。このテーマをさらに深化・発展させた研究を行うとともに、公認心理師や臨床心理士の資格を取得したいと考えたことが大学院に進学した理由です。修士論文では集中内観を行う前と、内観を体験した直後および1ヶ月後に、レジリエンスがそれぞれどのように変化するか検討する予定です。

資格を取って病院や児童相談所といった臨床現場で働きたいと思ったのは、学部時代のアルバイト経験も影響しているかもしれません。市の児童相談所で親元から一時保護された子どもたちを見守る夜間指導員を務め、苦境にある人を支えたいという思いが芽生えました。大学院の学びを活かせるよう、知識を自分のものにしていきます。

学部卒業生

伊村 うらら

人間社会研究科 臨床心理学専攻 修士課程 在学中
法政大学現代福祉学部臨床心理学科卒業後、法政大学大学院に入学。



04 MESSAGE

都市基盤と環境の
最適な関係性をテーマに
自由度の高い研究を行っています



学部卒業生

志村 綾音

デザイン工学研究科 都市環境デザイン工学専攻 修士課程 在学中
法政大学デザイン工学部都市環境デザイン工学科卒業後、法政大学大学院に入学。

履修モデル（修士課程）

□ 昼間開講

	1限	2限	3限	4限	5限
月	春学期			都市環境デザイン工学基礎	
	秋学期			自然・環境デザイン	
火	春学期				社会基盤施設の資産管理
	秋学期				
水	春学期				
	秋学期	比較都市 環境デザイン	流域水 マネジメント	流域水 マネジメント/ 水域環境の保全	水域環境 の保全
木	春学期				
	秋学期				
金	春学期				環境技術 英語
	秋学期				

自然豊かな里山をわざわざ宅地開発する必要があるのだろうか。そんな疑問から卒業論文ではある土地区画整理事業を取り上げ、その効果や影響を評価しました。コンパクトシティが推奨される今でも予想とは異なり人口が増加し、「郊外に住みたい」という一定の需要があるとわかったため、この問題をさらに突き詰めたいと大学院で「都市基盤」を研究しようと決めました。都市基盤という学問は市民すべての生活に直結するので、環境問題だけでなく他のさまざまな社会問題に関連し、また解決する力がある分野だと思います。将来の都市空間と自然環境の最適な関係性はどうあるべきか。現在はこれを仮テーマに興味のある事項を調べている段階です。将来は都市基盤で環境を守れるよう、開発の発注者側である自治体の公務員をめざしています。

都市系の研究室はいくつかありますが、私の所属する研究室はいい意味で放任主義です。自由に研究を進め、必要に応じて助言をいただくのですが、指導教員も声をかけやすく、オンラインゼミでも素早く対応してくださいます。研究室を選ぶ際には研究内容だけでなく、施設や学習環境などから教授の人柄、相性といった面まで考えて、自分にとって快適かどうかを大事にしてほしいと思います。

設置課程

本学大学院では、修士課程（博士前期課程）と博士後期課程の正規学生のほか、特別学生の受け入れを行っています。また、首都大学院コンソーシアムをはじめとした国内の多くの大学院との相互聴講や海外大学院への留学などにより、より広い範囲での研究が可能となる道も開かれています。

正規学生

▶ 修士課程（博士前期課程）

広い視野に立って、精深な学識を授け、専門分野における研究能力、または高度な専門性を要する職業に必要な能力を養うことを目的としています。

受験資格 原則として、大学卒業見込みの者、大学を卒業した者、大学を卒業した者と同等以上の学力があると本学大学院に認められた者が対象となります。詳細は各研究科により異なります。必ず最新の入試要項でご確認ください。

修了要件 修士課程の修了には、2年以上在学し、指導教員の指導のもとに授業科目より30単位（専攻により最低修得単位数は異なります）以上を修得し、修士論文の審査ならびに最終試験に合格しなければなりません。その他、専攻により修了要件が異なりますので、詳細は本学大学院ホームページでご確認ください。



▶ 博士後期課程

専門分野について、研究者として自立した研究を行い、またはその他の専門的業務に従事するに必要な高度な研究能力およびその基礎となる豊かな学識を養うことを目的としています。

受験資格 原則として、修士課程修了見込みの者、修士の学位を有する者、修士の学位を有する者と同等以上の学力があると本学大学院に認められた者が対象となります。詳細は各研究科により異なります。必ず最新の入試要項でご確認ください。

修了要件 博士後期課程の修了には、3年以上在学し、指導教員の指導により各専攻に示された授業科目を履修のうえ単位を修得し（専攻により修了所要単位数は異なります）、かつ必要な研究指導を受けた上で、博士論文の審査ならびに最終試験に合格しなければなりません。その他、専攻により修了要件が異なりますので、詳細は本学大学院ホームページでご確認ください。

※経済学研究科では2014年度より修士課程、博士後期課程5年一貫の博士5年（Ph.D.）プログラムを導入しています。修了要件は経済学専攻ページ（P.34）をご確認ください。



特別学生

▶ 科目等履修生

詳細は、P.100、101をご覧ください。

本学大学院では、正規の学生の学修を妨げない限り、選考の上「科目等履修生」として修士課程の科目を履修することができます。履修できる単位は年間12単位までとなっています。

また、科目等履修生として単位修得後、正規学生として入学した場合、本人の申請に基づき、教授会の承認により、15単位（研究科により異なります）を上限に正規学生の修了所要単位として認められます。

出願期間 / 3月中旬・7月下旬の2回

案内配布 / 12月下旬頃大学院HPに情報を掲載
(シラバス・時間割は3月中旬頃公開)

▶ 研修生・委託研修生・特別研修生

学士の学位を得た方が大学院の授業科目の履修および特定の主題による研究指導を希望するときに受けられる制度です。

※在留資格「留学」を有する外国人留学生の場合、週10時間以上の履修が求められます。

研修生 大学卒業後に本学大学院修士課程への進学をめざし、その準備教育として入学を希望する方が対象です。研修生試験の結果から各研究科の基準に従って選考します。
期間は1年です（1年に限り延長可）。

委託研修生 公共団体またはその他の機関から委託を受け、各研究科で審査を行います。

特別研修生 国外の大学との協定などにより、修士課程への入学を許可され、事前研修を義務付けられた方を受け入れる制度です。

▶ 研究生・研究員

修士の学位を有する方が対象です。指導教員による個別指導が中心となります。いずれも期間は1年です（1年に限り延長可）。

研究生 修士の学位を得た方で本学大学院博士後期課程の進学をめざし、その準備教育として入学を希望する方、または博士後期課程を退学した方で、さらに研究を継続し、本学の施設の利用を希望する方が対象です。

研究員 国内外の大学・研究所その他の機関から特定のテーマによる研修を委託された方が対象です。

論文指導

大学院の学びにおいて、論文を作成することは最も重要な目標の一つです。具体的な進め方や内容は各研究科・専攻、指導教員によって異なりますが、一般的に以下のようなプロセスを経て、修士課程であれば在学中の2年間で1編以上の論文を完成させます。論文作成では、高度な専門知識に加え、文献の検索方法、論文の解析など、作成に必要な知識も自ら獲得していくことが必要となり、論理的思考力やプレゼンテーション能力の向上に加え、海外文献も含む専門書を読みこなすことで身に付く読解力、語学力、論述するための文章表現力も身に付けます。より充実した論文作成のためには、指導教員とコミュニケーションを取りながら進めていくことが大切です。

研究課題の決定

先行研究の調査

研究計画の策定

実験・調査の実施

論文の作成

論文の校正

論文の提出

人文科学分野

A 研究室の場合〈参考〉

指導教員と相談しながら修士1年次の7、8月頃までに研究テーマを決定します。冬休み前までに同テーマにおける先行研究をまとめ、年明けから第一調査を行います。1年次修了までにそれをまとめ、2年次からは第二調査を実施。それまでの成果を、夏に開催される学会で発表することをめざします。その後、1月の論文提出時期までに約半年をかけて論文を執筆します。2年間を通じて毎月1～2回、指導教員のもと、研究室の修士課程と博士後期課程の学生全員でミーティングを実施。その他にもメールや空き時間を利用した学生からの質問や相談に、指導教員が隨時対応。きめ細かな指導に努めています。

修士1年次

研究テーマを絞る

4月

先行研究をまとめる

9月

第一調査

1月

修士2年次

第二調査

4月

論文執筆

8月

学会発表

修士課程修了

論文提出・審査

1月～2月

社会科学分野

B 研究室の場合〈参考〉

入学直後、新入生ガイドと同日に行われる2年生対象の修士論文構想発表会に参加し、論文執筆に向けた準備過程などを学びます。そこから授業を通した学習を踏まえ、11月に行われる第1回修士論文構想発表会で、修士論文のテーマ・研究方法を発表。その上で、12月下旬頃までに研究テーマと指導教員を決定します。決定した指導教員の指導のもと、構想をさらに練り上げ、修士2年次4月の第2回修士論文構想発表会で発表します。以降、演習を通じた論文指導を受け、9月の第3回修士論文構想発表会で研究の目的・方法・分析結果・結論の概要を発表。引き続き指導教員からの指導を受け、論文完成をめざします。3回の修士論文構想発表会はいずれも、プログラムごとに専任教員と学生が一堂に会し、各自の発表への質問・コメントをもとに議論を行います。

修士1年次

研究テーマを絞る

4月

研究テーマ・指導教員の決定

11月

構想を練り上げる

1月

修士2年次

演習を通じた論文指導

4月

論文執筆

9月

第1回
修士論文
構想発表会

第2回
修士論文
構想発表会

第3回
修士論文
構想発表会

修士課程修了

論文提出・審査

1月～2月

人文科学分野

Humanities Field



大学院学生数/専門職大学院学生数

法政大学ホームページ:情報公開(修学上の情報)
URL <https://www.hosei.ac.jp/hosei/disclosure/acquire/>

人文科学研究科

- | 16 哲学専攻
- | 18 日本文学専攻
- | 20 英文学専攻
- | 22 史学専攻
- | 24 地理学専攻
- | 26 心理学専攻
- | 28 国際日本学インスティテュート

国際文化研究科

- | 30 国際文化専攻

※各専攻ページに掲載の「開講形態」は原則として修士課程に特化した内容です。

※各専攻の「アドミッション・ポリシー」、「カリキュラム・ポリシー」、「ディプロマ・ポリシー」は要約したものです。年度により変更となる場合がありますので、最新の情報は大学院HPをご参照ください。

哲学専攻

詳細はこちら



募集人員

修士課程15名／
博士後期課程2名

キャンパス

市ヶ谷

主な進路

教育関係、情報通信、公務員、出版関係など

長期履修制度有 (修士・博士後期課程)

昼夜開講

修了要件・履修案内
時間割・シラバス



知の探究 知の根源から知の最先端へ

古代ギリシアから、近代を経て現代に至るヨーロッパ（ドイツ、フランス、イギリス）の哲学全般を網羅する科目群が設置されています。哲学一般、さらに、論理学、倫理学、美学・芸術学などを通じて、真善美など哲学知の根源を探究することができます。また、現象学・解釈学、心の哲学、言語哲学、科学哲学、法哲学、社会哲学、比較思想など、知の最先端の研究を通じて、現代社会の諸問題に哲学的な仕方でアプローチすることができます。昼夜開講制により、社会人院生を含む各院生は、それぞれの研究目的、スケジュールに合わせて柔軟な研究計画を立てることができます。また、「修士論文構想発表会」、「博士後期課程在籍者発表会」そして『大学院紀要』（年2回発行）など研究成果の発表の場はもちろん、留学制度や海外大学との連携も充実しています。

〔研究室紹介〕

法哲学研究

人間本性と「正しい社会」

立憲的憲法をはじめとする社会的な規範や制度の正当化根拠を探る研究を進めています。今年度の授業ではオンラインでのツールを使いながら、西洋の「人間本性」観の歴史や特徴に関する英語の論考を精読し、それを踏まえた社会規範のあり方についての議論を行っています。古典的・基本的な哲学理論を踏まえつつ、進化理論、ゲーム理論などの現代的な知見を取り込んだ多角的な検討を行うのが特徴で、受講生には、広い視野に立って学問的な洞察を深めてほしいと思います。



内藤 淳 教授

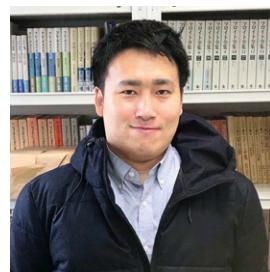
〔学生・修了生の声〕

研究における対話を通じて、
一方だけでなく多角的な視野のもと、
ものごとを考える姿勢が養われました

私の研究

研究テーマ

哲学研究は多くの観点に触れることが大切。
ヘーゲル哲学における行為の概念をテーマに学んでいます。



伊藤 悠

博士後期課程 在学中

ヘーゲル哲学における行為の概念をテーマに研究しています。授業は、先生方からの問い合わせやアドバイスを踏まえて、学生がお互いの解釈を検討し合う対話ベースです。論文を書くには哲学書と自分ひとりで向き合う熟考も必要ですが、そのための力が授業の場で得られると実感しています。一方で、十分に熟考した上で臨めた時はほど授業での対話が腑に落ちることが多く、そうした運動を日々感じながら学んでいます。

学んだこと・身についたこと

自分の中での常識を疑うようになりました。大学院ではさまざまな時代や国、地域の哲学者の書物を歴史的、思想史的な文脈を踏まえて読んでいます。そうした文脈の知識を拓げ深めることで、同じ書物を読んだとしても以前の自分とは異なる捉え方をするようになりました。この学びのおかげで日常生活を送る上で人や社会の文脈をよく捉えようという姿勢が育まれましたね。

[専任教員一覧] [2022年度] ※年度により授業を持たない場合があります。

専任教員	専攻	研究テーマ	主な担当科目
安東 祐希 教授	数理論理学	証明論(演繹体系における正規化手続き)	論理学研究Ⅰ1・2
奥田 和夫 教授	古代ギリシア哲学	現在の持続的テーマはプラトンの政治哲学	古代哲学史研究Ⅰ1・2/Ⅱ1・2
酒井 健 教授	ジョルジュ・バタイユ研究、ゴシック文化史、西洋美術史	ジョルジュ・バタイユ研究、芸術論、西歐美術史	近代フランス哲学史研究Ⅰ1・2/Ⅱ1・2、哲学フランス語研究1・2
菅沢 龍文 教授	ドイツ近代哲学	カントの道徳哲学(倫理学、法哲学、宗教哲学、歴史哲学、政治哲学など)および西洋近代思想	近代倫理学史研究Ⅰ1・2/Ⅱ1・2
内藤 淳 教授	法哲学	人権や憲法の基礎についての研究、進化心理学に基づく人間本性の研究	法哲学研究1・2
中釜 浩一 教授	言語哲学・科学哲学	言語哲学・科学哲学・イギリス経験論	言語分析哲学研究Ⅰ1・2/Ⅱ1・2
山口 誠一 教授	ドイツ近現代哲学(特にヘーゲルとニーチェ)	ヘーゲルからニーチェにいたるドイツ近現代哲学	実践哲学研究Ⅰ1・2
君嶋 泰明 准教授	現象学、解釈学	ハイデガーの西洋哲学史観の批判検討	現象学研究Ⅰ1・2
佐藤 真人 准教授	デカルト、フランス哲学と西洋近世の哲学	デカルト哲学の総合的研究、その西洋近世哲学での位置づけと発展、自然本性概念の研究	科学哲学研究Ⅰ1・2/Ⅱ1・2
西塚 俊太 准教授	日本思想史、日本近代哲学、倫理学	京都学派の哲学研究、日本倫理思想の研究	日本思想史研究Ⅰ1・2/Ⅱ1・2
吉田 敬介 専任講師	社会哲学、宗教哲学	キルケゴーの思想、アドルノやホルクハイマーの批判理論、ドイツ近現代思想	哲学ドイツ語研究1・2

[設置科目] [2022年度] ※開講科目は年度により異なります。() = 単位数

修士課程

- 言語分析哲学研究Ⅰ1・2/Ⅱ1・2(各2)
- 形而上学研究Ⅰ1・2/Ⅱ1・2(各2)
- 古代哲学史研究Ⅰ1・2/Ⅱ1・2(各2)
- 論理学研究Ⅰ1・2/Ⅱ1・2(各2)
- 近代倫理学史研究Ⅰ1・2/Ⅱ1・2(各2)
- 実践哲学研究Ⅰ1・2/Ⅱ1・2(各2)
- 日本思想史研究Ⅰ1・2/Ⅱ1・2(各2)
- 近代ドイツ哲学史研究Ⅰ1・2/Ⅱ1・2(各2)
- 現代哲学研究Ⅰ1・2(各2)
- 科学哲学研究Ⅰ1・2/Ⅱ1・2(各2)
- 比較思想研究Ⅰ1・2/Ⅱ1・2(各2)
- 近代西洋哲学研究Ⅰ1・2(各2)
- 近代フランス哲学史研究Ⅰ1・2/Ⅱ1・2(各2)
- 超越論哲学研究Ⅰ1・2/Ⅱ1・2(各2)

- 現象学研究Ⅰ1・2(各2)
- ヨーロッパ精神史研究Ⅰ1・2/Ⅱ1・2(各2)
- 法哲学研究1・2(各2)
- 哲学ドイツ語研究1・2(各2)
- 哲学フランス語研究1・2(各2)
- 哲学基礎研究Ⅰ/Ⅱ(各2)

博士後期課程

- 哲学特殊研究Ⅰ/2(各2)
- 言語分析哲学特殊講義Ⅰ/2(各2)
- 古代哲学史特殊講義Ⅰ/2(各2)
- 論理学特殊講義Ⅰ/2(各2)
- 近代倫理学史特殊講義Ⅰ/2(各2)
- 実践哲学特殊講義Ⅰ/2(各2)
- 近代ドイツ哲学史特殊講義Ⅰ/2(各2)
- 科学哲学特殊講義Ⅰ/2(各2)
- 比較思想特殊講義Ⅰ/2(各2)
- 近代フランス哲学史特殊講義Ⅰ/2(各2)
- 超越論哲学特殊講座講義Ⅰ/2(各2)
- 法哲学特殊講義Ⅰ/2(各2)
- 現象学特殊講義Ⅰ/2(各2)
- 日本思想史特殊講義Ⅰ/2(各2)

修了生の研究テーマの例

- 機械論に抗うベルクソン
 - －『試論』における因果性と自由の議論を中心に－
- ジョルジュ・バタイユの言語表現について
- カントの最高善と信－最高善を促進する義務の根拠
- プラトン『国家』におけるディアノイアの対象－教育とのかかわり－
 - デカルト哲学における神の観念の認識についての考察
 - マックス・シェーラーの倫理思想における愛と人格について－自己と他者との相互性をめぐって－
 - 様相論理S5における自然演繹体系とヒルベルト流体系との同等性
 - 力への意志をめぐって－ナチス政権下におけるニーチェ－

日本文学専攻

詳細はこちら



募集人員

修士課程20名程度／
博士後期課程2名

キャンパス

市ヶ谷

主な進路

学術・教育関連（教員）、
出版編集など

長期履修制度有 (修士・博士後期課程)



修了要件・履修案内、
時間割・シラバス



日本文学を中心に、

豊かな教養と高度な研究能力を修得

古代から現代までの各時代の文学・言語・芸能に関する科目を中心に学びます。また、文芸批評・中国文学・沖縄文学・国語教育などの関連科目を幅広く配置しています。

2011年度より「文芸創作研究プログラム」を創設。実際に創作を行い、その作品を修士論文の代替として提出できます。プログラムでは、創作そのものについて学ぶ「文芸創作研究」や「作家特殊研究」といった科目だけでなく、編集理論や著作権について学べる科目を開設し、社会における文学作品のあり方を理解していきます。また能楽の研究・普及に携わる人材を送り出してきた「能楽研究者育成プログラム」は、2022年度より学内にある能楽研究所との連携をさらに深め、プログラムに所属する学生が施設や資料を利用する際の優遇措置、プログラム修了証の発行を受けられるようになりました。こうして本専攻では、研究員や教員、学芸員、文芸創作や能楽研究に関わる専門家、専門能力をさまざまな分野で生かせる社会人の育成を幅広く行っています。

[研究室紹介]

文学表現を支える社会的事象について研究します

年度により研究テーマを選んでいます。

2020年度はコロナ禍の影響もあり、メディアの主流が紙ベースからデジタルベースへと変化する分水嶺となりました。IT技術の登場はグーテンベルク以来の大改革と言われます。従来の活字からデジタル技術によるネット配信への変化は、言論形成や文学表現そして著作権の考え方の分野にも大きな変化をもたらしています。この変化を日常的な報道から拾い上げ、検討を加えて行きます。2022年度のテーマは「デジタルがもたらしたもの」です。



中沢 けい 教授

[学生・修了生の声]

研究を進める中で、柔軟な思考力が養われました。

近年のテレビ番組などへの関心も深まります

学んだこと・身についたこと

研究テーマ

戦間期日本における
モダニズム文学としての探偵小説

研究を進め、日本文学への知識を深めたことで、現代のテレビドラマやラジオ番組の構成やストーリー展開にも関心を持つようになりました。文豪が近年のドラマを執筆したらどうなるかといったアプローチ方法を思考するなど、柔軟な手法を考えられるようになりましたね。



杉本 裕樹

博士後期課程 在学中

大学院の魅力

法政大学大学院は学費やアクセスなど入学へのさまざまな敷居が低く、先生方も親身になって指導してくださいます。研究資料が豊富に揃っており、学びやすい環境です。能楽作品研究や文芸創作研究、日本近代文芸演習！といった講義も多く、研究の幅が多角的に広がりました。

作家特殊研究紹介

「作家特殊研究」は文芸創作研究プログラムの基幹科目で、毎年、現代文学の最前線で活躍する鋭い文芸創作家を招聘し、受講生が本人を前にしてその作家の作品について研究するという、きわめてユニークな科目です。どの作品について研究するか、どんなことを作家に語ってもらうかは、学生たちと作家が対話することによって、毎年違うかたちで展開されていきます。そこでは作家についての理解を深めるだけではなく、文学研究全般についての新しい視点を手に入れる学生もいれば、自らの文芸創作への貴重なヒントをもらう学生もいます。また、そうして学んだ研究の成果は、秋学期に冊子としてまとめます。毎年、目次にはオーソドックスな作品研究・

作家研究のみならず、図像や表を駆使した文学研究から文芸創作にいたるまで、多様な記事がならびます。こうして受講生が授業を通して学んだことを言語化した冊子は、その作家についての最新の研究成果であると同時に、手に入れた文学的な知についての実践的な報告になります。さまざまな興味・関心をもつ学生たちと作家の出会いによって、つねに清新な現代文学の息吹を感じられる授業です。



[専任教員一覧] [2022年度] ※年度により授業を持たない場合があります。

専任教員	専攻	研究テーマ	主な担当科目
阿部 真弓 教授	中世文学	日記文学、物語、和歌	日本中世文芸原典研究A・B
伊海 孝充 教授	中世文学(特に能楽)	古典演劇の能研究(能の作品研究・謡本研究)	日本中世文芸演習A・B
尾谷 昌則 教授	言語学	認知言語学から見た意味拡張、文法化、構文ネットワーク	日本言語学演習IA・B
加藤 昌嘉 教授	古代文学(後期)	平安時代の物語(『源氏物語』など)	日本古代文芸演習A・B
小秋元 段 教授	中世文学	軍記物語、史論、説話、お伽草子、近世初期出版文化	日本文芸特殊研究IIA・B
小林 ふみ子 教授	近世文芸	大田南畠・江戸狂歌を中心とする近世中期文学・文化研究	日本近世文芸原典研究A・B・日本文芸特殊研究IIIA・B
坂本 勝 教授	古代文学(前期)	『古事記』『万葉集』を中心とする上代文学研究	日本文芸特殊研究IA・B・日本古代文芸原典研究A・B
スティーヴン・ネルソン 教授	日本音楽史学	雅楽・仏教音楽・平家語り、古典文学作品と音楽	日本文芸特講IA・B(文芸と音楽)・日本文芸特殊研究IV A・B
田中 和生 教授	近・現代文学、文芸批評	日本の近代文学の特質を明らかにすること、そこから現代文学の条件を考えること	日本文芸批評史A・B
中沢 けい 教授	文芸創作	小説、評論、隨筆の執筆	日本文芸特講IIA・B(アートマネジメント研究)
中丸 宣明 教授	近・現代文学	明治・大正の作家・作品研究	日本近代文芸原典研究A・B
藤村 耕治 教授	近・現代文学	昭和以降の文学、特に戦後文学およびその継承者による現代文学の作家・作品研究	日本近代文芸演習IA・B
間宮 厚司 教授	日本古典語学	『万葉集』や『おもろさうし』などの語学的研究	日本言語学原典研究A・B
宮本 圭造 教授	芸能史	能の歴史研究、中世芸能史	能楽資料研究A・B
山中 玲子 教授	能楽研究	能の作品研究・演出研究、能の所作研究	能楽作品研究A・B・現代能楽論
遠藤 星希 准教授	中国古典文学	主に唐詩、唐代传奇および幕末期を中心とした日本漢詩の研究	中国文学A・B
王 安 准教授	言語学	対照言語学、現代中国語文法、認知言語学、形容詞、感情表現	日本言語学演習IIA・B

[設置科目] [2022年度] ※開講科目は年度により異なります。() = 単位数

修士課程

- 日本文芸学A・B(各2)
- 日本文芸批評史A・B(各2)
- 日本古代文芸原典研究A・B(各2)
- 日本古代文芸演習A・B(各2)
- 日本中世文芸原典研究A・B(各2)
- 日本中世文芸演習A・B(各2)
- 日本近世文芸原典研究A・B(各2)
- 日本近世文芸原典研究A・B(各2)
- 日本近代文芸原典研究A・B(各2)
- 日本近代文芸原典研究A・B(各2)
- 日本言語学原典研究A・B(各2)
- 日本言語学演習IA・B/IIA・B(各2)
- 日本語学特講A・B(各2)
- 沖縄文芸史A・B(各2)
- 中国文学A・B(各2)
- 日本文芸特講IA・B(文芸と音楽)(各2)
- 日本文芸特講IIA・B(アートマネジメント研究)(各2)
- 国語と文芸教育法A・B(各2)
- 女性文学A・B(各2)
- 文芸と視聴覚芸術A・B(各2)
- 学際的文学論(文学の境界領域、文学と宗教等)A・B(各2)
- 文学と風土A・B(各2)
- 能楽作品研究A・B(各2)
- 能楽資料研究A・B(各2)
- 現代能楽論(2)
- 日本語・日本文学の基礎A・B(各2)
- 歴史と文学論A・B(各2)
- 表現と社会(2)
- 編集理論(2)
- 作家特殊研究A・B(各2)
- 文芸創作研究A・B(各2)
- 日本文芸特殊研究IA・B/IIA・B/IIIA・B/IV A・B(各2)
- 日本文学・国際日本学基礎演習(2)
- 日本文学・国際日本学論文作成基礎実習(2)

博士後期課程

- 日本文学特殊演習A・B(各2)
- 日本文芸学特殊研究A・B(各2)
- 日本文芸批評史特殊研究A・B(各2)
- 日本古代文芸特殊研究A・B(各2)
- 日本中世文芸特殊研究A・B(各2)
- 日本近世文芸特殊研究A・B(各2)
- 日本近代文芸特殊研究A・B(各2)
- 日本言語学特殊研究A・B(各2)
- 能楽作品特殊研究A・B(各2)
- 能楽資料特殊研究A・B(各2)

修了生の研究テーマの例

- 現『伊勢物語』本文形成過程
- 古活字本『保元物語』本文考
- 『方丈記』の文末表現研究
- 世阿弥作夢幻能における脇役の工夫
- 濑澤龍彦後期小説論
- 視覚表現(漫画)と文章表現(小説)の違い
- カタカナ表記語の語用論的特徴

英文学専攻

詳細はこちら



募集人員

修士課程20名／
博士後期課程2名

キャンパス

市ヶ谷

主な進路

学術・教育関連（教員等）、製造など

長期履修制度有 (修士・博士後期課程)



修了要件・履修案内
時間割・シラバス



少人数教育による、 文学・言語科学の専門的訓練

英米の文学、英語学、言語科学などの専門教育を行います。

教育の目標は「英米文学・英語学・言語科学の研究者の養成」「言語関連の幅広い知識を生かせる中学・高校英語教員の養成と、科学的訓練による再教育」「幅広い学歴・職歴・年齢層の人への再学習機会の提供」です。そのため社会人入試も実施しています。

開講科目はすべて、少人数のゼミ方式の授業であり、学生のニーズに応えて柔軟かつ丁寧な指導に努めています。また、自由度の高いカリキュラムも大きな魅力です。専任教員と相談しながら、専攻内・研究科内・学内または提携大学院（2021年時点、11校）の豊富な科目の中から、自分独自のカリキュラムを編成することができます。

アドミッション・ポリシー

(学生受け入れ方針)

カリキュラム・ポリシー

(教育課程の編成・実施方針)

ディプロマ・ポリシー

(学位授与の方針)

入学が期待されているのは、文学に強い興味を持つ人、外国语教育や言語理論の研究のために科学的思考を養いたいと考える人です。社会人は、基本的な思考力があれば勉学意欲のある方を社会人入試という形で積極的に受け入れています。また、基礎学力と勉学意欲、日本語と英語の能力がある外国人学生も積極的に受け入れています。一般入試に加え、本専攻の専任教員の推薦を得た人（学内者とは限らない）を推薦入試という形式で積極的に受け入れます。

文学系の教育課程では、少人数制の強みを生かしたきめ細かい指導を実施し、学生各自の興味やテーマについて、当該する専門分野の研究会や学会で一定レベルの研究発表ができるよう指導しています。言語系の教育課程では、修士に入学した段階で、科学方法論・統計学・実験法などの方法論やスキルの入門講座を実施します。各自の研究テーマに必要なスキルは、個々の授業科目において習得します。

修士の学位は、各自の選んだ研究テーマに必要な研究方法論を身に付け、そのテーマの成果や結果についての知識を十分に習得したと、修士論文によって判断された場合に授与します。博士の学位は、修士の授与基準に加えて、当該分野に新たな知識を加え、その研究分野に独自の貢献をしたと、博士論文によって判断された場合に授与します。

[研究室紹介]

第二言語習得理論と英語教育学の関連性

第二言語学習者への効果的な指導法を探る

本研究室では、第二言語習得理論と英語教育学の関連を研究しています。第二言語習得理論から得るヒントを教育現場でどのように応用するのか、効果的な英語の指導法とは何なのかにフォーカスしています。私の最近の研究対象は、メタ言語的知識や個人の言語適性などが第二言語の手続き的知識の習得において果たす役割についてです。このような研究には、心理言語学・認知科学・言語学・教育学などの知見も欠かせませんが、それぞれの分野が相互協力することで研究面での相乗効果が得られ、第二言語の習得過程や効果的な外国语教育法がより明らかになっていくと期待されています。

※本専攻には、このほかに英米文学や英語学・言語学などの分野を扱う、全部で10の研究室があります。



ブライアン・ウイスナー
教授

[学生・修了生の声]

多彩な言語学を学べる環境で

バイリンガリズムの知見を広げています

私の研究

研究テーマ 第二言語習得、バイリンガリズム

海外生活と、外資系企業での多文化、多国籍環境での仕事が長かったことから、自然と第二言語習得とバイリンガリズム（二言語併用）に関心を抱くようになりました。授業では第二言語習得のさまざまな理論を学ぶほか、研究データの実践的な分析法、言語学関連の文献精読・発表と、興味のある科目を柔軟に選択できます。

英文学専攻の魅力

最終的には、バイリンガルの障害児の脳の行動機能に与える影響について研究を進めていきたいと考えており、そのために現段階ではバイリンガリズムと行動機能の関係について調べています。第二言語習得と言語科学方法論により視野が広がったほか、教授陣がとてもフレンドリーで質問もしやすく、いろいろなアドバイスがいただけることが魅力です。



川口 世志子
博士後期課程 在学中

[専任教員一覧] [2022年度] ※年度により授業を持たない場合があります。

専任教員	専攻	研究テーマ	主な担当科目
石川 潔 教授	理論言語学(統語論・意味論)、心理言語学(音声知覚、文理解)	音素や音節の知覚、アスペクトの実時間処理など	言語科学方法論A、言語学特殊研究(理論言語学・認知科学)B
ブライアン・ウィスナー 教授	応用言語学(第二言語習得理論、英語教育)	第二言語習得におけるメタ言語的知識の役割、言語テストの妥当性など	言語科学方法論B、理論言語学・認知科学A
川崎 貴子 教授	理論言語学(音韻論、第二言語習得理論)	第二言語習得による母語への影響、第二言語学習者の音韻習得など	言語学演習(応用言語学)A/B
椎名 美智 教授	英語学・日本語学(文体論、語用論、社会言語学、コミュニケーション論)	近代英語期口語表現の歴史語用論的研究	英語学特殊研究第一(英文法・文体論・語用論)A/B
丹治 愛 教授	イギリス文学	19世紀および20世紀イギリス小説	英米文学演習第三(British Fiction) A/B
利根川 真紀 教授	アメリカ文学	アメリカ南部文学、女性文学、ジェンダー研究	※今年度は、特定の科目を担当しません
日中 鎮朗 教授	ドイツ文学、比較文学	比較文化、F.カフカ、P.オースターの文学、文学理論、比較芸術	比較文学研究A/B
福元 広二 教授	英語学、英語史	英語史における形態・統語・意味の変化、初期近代英語期における文法化・主觀化	英語学演習(英語史・言語変化理論) A/B
宮川 雅 教授	アメリカ文学	アメリカ文学史と宗教と神秘学、小説の語りと技法	英米文学演習第二(American Fiction) A/B、文学方法論A/B
小島 尚人 専任講師	アメリカ文学	米国リアリズム小説の勃興と展開、小説の歴史と理論	米文学特殊研究第二(小説論) A/B
田中 裕希 専任講師	英米文学	近現代詩、抒情詩論	英文学特殊研究第一(British Fiction)

[設置科目] [2022年度] ※開講科目は年度により異なります。() = 単位数

修士課程

- 英文学思潮研究第一(文学方法論) A/B (各2)
- 英文学思潮研究第二(文化研究) A/B (各2)
- 米文学思潮研究第一(American Drama) A/B (各2)
- 米文学思潮研究第二(American Poetry) A/B (各2)
- 英文学特殊研究第一(British Fiction) A/B (各2)
- 英文学特殊研究第二(British Drama) A/B (各2)
- 米文学特殊研究第一(文学史) A/B (各2)
- 米文学特殊研究第二(小説論) A/B (各2)
- 英米文学演習第一(Shakespeare) A/B (各2)
- 英米文学演習第二(American Fiction) A/B (各2)
- 英米文学演習第三(British Fiction) A/B (各2)
- 英米文学演習第四(British Poetry) A/B (各2)
- 英語学演習(英語史・言語変化理論) A/B (各2)

- 言語学演習(応用言語学) A/B (各2)
- 英語学特殊研究第一(英文法・文体論・語用論) A/B (各2)
- 英語学特殊研究第二(英語リーディングの科学) A/B (各2)
- 言語学特殊研究(理論言語学・認知科学) A/B (各2)
- 英語教育学研究A/B (各2)
- 英語発音法A/B (各2)
- 英語表現演習A/B (各2)
- Fiction演習I A/B (各2)
- Poetry演習I A/B (各2)
- Drama演習I A/B (各2)
- 文学方法論A/B (各2)

- 英語音声・応用研究A/B (各2)
- 理論言語学・認知科学A/B (各2)
- 応用言語学・理論研究A/B (各2)
- 英語科教授法・教材研究A/B (各2)
- 言語科学方法論A/B (各2)
- 音声言語科学特論(2)
- 音声言語科学演習(2)
- 比較文学研究A/B (各2)
- Issues in Japanese Studies I/II (各2)
- Academic English (Effective Writing) A・B (各2)
- Academic English (Oral Presentation) A・B (各2)

博士後期課程

- 英米文学特殊演習I A/B (各2)
- 言語学特殊演習I A/B (各2)
- 文学方法論特講A/B (各2)
- 言語科学方法論特講A/B (各2)
- 英米文学特講I～VI A/B ((各2))
- 言語科学特講I～V A/B (各2)

修了生の研究テーマの例

- Re-visioning the Ending of *The Secret Garden* : The Author's Dream-Fulfilled World
- Aspects of Madness in *Gulliver's Travels*
- Investigating the Influence of Bilingualism on Self-Assessed Cognitive Flexibility
- A Relevance-Theoretic Approach to Impoliteness
- The Relationship Between Self-Regulated Vocabulary Learning Strategies and Vocabulary Size
- Willa Cather's *My Ántonia*: In Memory of Her Precious Past
- *Nineteen Eighty-Four* から読みとるユートピア(ディストピア)とモダニズムの関連—矛盾対立する概念の共存
- The Effects of Test Anxiety on Japanese University Students' Phonetic Knowledge and Performance
- 言語間における非対格性の普遍性—日英語の比較を通じて
- The Maxson Family's Struggles in *Fences*
- Nella Larsenの *Passing* におけるヒロインの正体ーパッシングによって失ったもの
- 第二言語における読みにくさと学習効果の関係性について
- The Effects of Listening Repetition and Word Categories on L2 Dictation

史学専攻

[詳細はこちら](#)



募集人員

修士課程15名／
博士後期課程2名

キャンパス

市ヶ谷

主な進路

教員、公務員など

長期履修制度有 (修士・博士後期課程)



昼夜開講

修了要件・履修案内・
時間割・シラバス



日々進化する歴史学。

あなたの眼で歴史を発見しよう

日本史(考古学・古代史・中世史・近世史・近現代史の5領域)、東洋史、西洋史の3分野にわたる多彩な授業を展開しています。歴史学は長い伝統を持ち、日々、学説の前進・更新・進化が続く学問です。近年、歴史学は人類史的視点により一層進化しました。本専攻は、史資料批判を通して自ら歴史像を再構成するという伝統的な研究方法を重んじ、同時に最新の研究方法・成果も取り入れています。そして、歴史学の発展に寄与することをめざしています。本専攻の修了者は、大学・高校・中学の教員、博物館の学芸員、資料館・文書館の専門職員(アーキビスト)、図書館の司書、都道府県史・市町村史の編纂員、文化財保護事業の専門職員などの諸分野で活躍しています。

[研究室紹介]

日本近世の国家と社会

歴史家の仕事

本研究室は、日本近世、とりわけ江戸時代を研究対象としています。これまでの所属院生の研究テーマは、地域社会史、交通史、心性史、記憶論などさまざまです。こうした個々の興味関心を、如何に歴史学の大きな流れのなかに位置づけるか。それが大学院生にとって最初のハードルになるでしょう。近世史において独創的な研究を展開するためには、全国各地への古文書探訪と、その地道な解説が必要です。私もコロナ禍前は毎年各地へ古文書調査に出掛けっていました。こうして集めた古文書の読解から、新しい歴史像を組み立てることが歴史家の仕事の一つだと言えるでしょう。大学院はその入り口なのです。



松本 剑志郎 准教授

[学生・修了生の声]

考古学の理論や発掘調査など

院生時代に得た知見が今の仕事につながっている

私の研究

研究テーマ 東北地方における石刃石器群に伴う 石器加工ハンマーの研究

旧石器時代の打製石器は、石や鹿角、木といったさまざまな材質のハンマーで叩き割って作られるのが一般的です。このうち石のハンマーに着目し、その形や叩いた痕跡などの特徴、出土状況などを総合的に検証しました。修士論文では、石器加工ハンマーの利用形態は人の移動のあり方や情報交換網の違いなど、社会全体の動態に強い影響を受けていると考察しました。



村井 大海

修士課程 2015年度修了／
一般財団法人長野県文化振興事業団 長野県埋蔵文化財センター

現在の仕事

長野県松本平に所在する氏神遺跡の発掘調査と調査結果の整理、報告書の執筆や刊行作業などを主に行っています。氏神遺跡は縄文時代の中期初頭から中期中葉、および平安時代の集落跡です。院生の時に学んだ考古学の理論や発掘調査の実践的方法、また多くの院生・先生方との交流で得た幅広い知見が、今の私の思考や歴史観の基礎となり仕事の糧となっています。

[専任教員一覧] [2022年度] ※年度により授業を持たない場合があります。

専任教員	専攻	研究テーマ	主な担当科目
日本史分野	小倉 淳一 教授	日本考古学	日本考古学、特に東日本の弥生時代社会の研究 日本考古学演習Ⅰ/Ⅱ、日本考古学特殊研究Ⅲ/Ⅳ
	小口 雅史 教授	日本古代史・東アジア比較法制史、日本北方史	日本古代社会経済史、日中比較律令法(土地法)史、蝦夷論、敦煌・吐魯番学 日本古代史演習Ⅰ～Ⅳ
	大塚 紀弘 准教授	日本中世史	中世の对外関係および仏教に関する研究 日本史学原典研究Ⅰ/Ⅱ、日本中世史演習Ⅰ/Ⅱ、日本古文書学研究Ⅰ/Ⅱ
	松本 剣志郎 准教授	日本近世史	近世都市論 日本近世史演習Ⅰ/Ⅱ、日本近世史料学研究Ⅰ/Ⅱ
	内藤 一成 准教授	日本近現代史	近現代の政治と文化 日本近代史特殊研究Ⅰ/Ⅱ、日本近代史演習Ⅰ/Ⅱ、日本近代史研究Ⅰ/Ⅱ
東洋史分野	塩沢 裕仁 教授	中国史・物質資料学	漢・魏晋南北朝・隋唐の都城考古学 東洋史学特殊研究Ⅰ/Ⅱ
	齋藤 勝 准教授	中国史・文献史料学	唐代の社会・民族・文化の研究 東洋史学演習Ⅰ/Ⅱ、東洋古代史研究Ⅰ/Ⅱ
	宇都宮 美生 准教授	東アジア交流史・水利史	前近代中国の都市の水利・交通 東洋中世研究Ⅰ/Ⅱ、文書管理研究Ⅰ/Ⅱ
西洋史分野	高澤 紀恵 教授	西洋近世史	近世フランス社会史・都市史 西洋史学演習Ⅲ/Ⅳ、ヨーロッパ近現代政治史研究Ⅰ/Ⅱ
	大澤 広晃 准教授	西洋現代史	イギリス帝国史 西洋史学演習Ⅴ/Ⅵ

[設置科目] [2022年度] ※開講科目は年度により異なります。() = 単位数

修士課程

- 日本史学研究Ⅰ/Ⅱ(各2)
- 日本史学原典研究Ⅰ/Ⅱ(各2)
- 日本古代史特殊研究Ⅰ/Ⅱ(各2)
- 日本中世史特殊研究Ⅰ～Ⅳ(各2)
- 日本近世史特殊研究Ⅰ～Ⅳ(各2)
- 日本近代史特殊研究Ⅰ～Ⅳ(各2)
- 日本考古学特殊研究Ⅰ～Ⅳ(各2)
- 日本古代史演習Ⅰ～Ⅳ(各2)
- 日本中世史演習Ⅰ/Ⅱ(各2)
- 日本近世史演習Ⅰ/Ⅱ(各2)
- 日本考古学演習Ⅰ/Ⅱ(各2)
- 日本古文書学研究Ⅰ/Ⅱ(各2)
- 日本古代史研究Ⅰ/Ⅱ(各2)
- 日本古代史料研究(2)
- 日本中世史研究(2)
- 日本近世史料学研究Ⅰ/Ⅱ(各2)
- 日本近代史研究Ⅰ/Ⅱ(各2)
- 沖縄学入門Ⅰ/Ⅱ(各2)
- 東洋史学特殊研究Ⅰ～Ⅳ(各2)
- 東洋史学演習Ⅰ～Ⅵ(各2)
- 東洋古代史研究Ⅰ/Ⅱ(各2)
- 東洋中世史研究Ⅰ/Ⅱ(各2)
- 東洋近世史研究Ⅰ/Ⅱ(各2)
- 西洋史学特殊研究Ⅰ～Ⅵ(各2)
- 西洋史学演習Ⅰ～Ⅵ(各2)
- 西洋古代史研究Ⅰ/Ⅱ(各2)
- 西洋中世史研究Ⅰ/Ⅱ(各2)
- ヨーロッパ近現代政治史研究Ⅰ/Ⅱ(各2)
- アーカイブズ学Ⅰ/Ⅱ(各2)
- 文書館管理研究Ⅰ/Ⅱ(各2)
- 記録史料学研究Ⅰ/Ⅱ(各2)
- 記録史料学演習Ⅰ/Ⅱ(各2)
- 外書講読Ⅰ/Ⅱ(各2)

博士後期課程

- 史学特殊演習AⅠ/Ⅱ・BⅠ/Ⅱ(各2)
- 日本史学特殊講義AⅠ/Ⅱ～EⅠ/Ⅱ(各2)
- 東洋史学特殊講義AⅠ/Ⅱ・BⅠ/Ⅱ(各2)
- 西洋史学特殊講義AⅠ/Ⅱ～CⅠ/Ⅱ(各2)

修了生の研究テーマの例

- | | |
|---|--|
| <ul style="list-style-type: none"> ■ スウェーデン福祉国家形成に関する考察
－19世紀後半から20世紀前半を中心に－ ■ 大正末～昭和初期の宮中
－19世紀ロシア帝国の海峡問題 ■ 弁護士と人権擁護の闘い
－労農弁護士団事件を中心に－ ■ 礼法要項研究
－近代最後の礼法書の成立過程と特質－ ■ ベリクレスの市民権法が神官の選出方法に与えた変化と
ゲノスの変質に関する考察 ■ 宮号舎人の騎兵軍事力と馬飼集団
－信濃国の金刺舎人・他田舎人を例として－ | <ul style="list-style-type: none"> ■ 幕末朝廷の政治行動について
－御内慮と御直達のあいだ－ ■ 日露両国領土概念と認識
－千島列島をめぐって－ ■ 敦煌初盛唐窟と興福寺の八部衆像の研究
－東アジアの仏教美術における位置づけ－ ■ 吉田路線の形成過程
－新日本建設と伝統継承－ ■ 敦煌籍帳の四至に見られる「自由」の再検討
－日本古代公田賃租の經營と自田の經營を比較して－ ■ 幼年期における仮親習俗の日中比較研究
－日本高知県と中国山東省、河南省の比較を中心に－ |
|---|--|

地理学専攻

詳細はこちら



募集人員

修士課程15名／
博士後期課程2名

キャンパス

市ヶ谷

主な進路

教育関連（教員）やコンサル分野など

長期履修制度有 (修士・博士後期課程)



修了要件・履修案内・
時間割・シラバス



世界の多様さ、自然環境の多様さ、 人間社会の多様さを科学的に解明

自然地理と人文地理の2本柱でカリキュラムを構成しています。その幅広く複合的な領域をバランス良くカバーする教育体制が整っています。地理学は地域の科学、あるいは空間の科学ともいわれます。地理学という地域（空間）とは、身近なミクロの範囲から、国・大陸・地球規模と、さまざまな規模を含んでいます。地球規模の環境問題に直面する現代、現場のフィールドワークをもとに、地表付近で起こる時空間的現象にアプローチする地理学は、社会的にもその重要性を増しています。本専攻では、学生は自然地理・人文地理のどちらかに重心を置きつつ、個別の研究テーマを設けて研究を進めます。養成する人材は、地理学研究者、中学・高校教員、公務員、社会に貢献する人材などです。また、社会入試制度により現職の教員や有職者の再学習にも力を注いでいます。

[研究室紹介]

気候学・生気象学

気候変動から 身近な気候現象の実態解明まで

自然地理学の中でも、気候学・生気象学を専攻し、気候変動が人間や自然環境に及ぼす影響を研究しています。生気象学はヨーロッパを中心に研究が行われていますが、日本では数少ない研究室の一つとなっています。

現在、在籍している院生は、「只見川における川霧の発生と気象条件」、「関東平野における空っ風とかしぐねの分布」を研究テーマとし、只見川での気象観測や関東平野の屋敷林の調査を行っています。現地研究では、韓国密陽近郊のオルムゴルや、鹿児島・宮崎県内にある複数の風穴において気象観測を実施しました。桜島では、これまで学術的な調査が未実施の風穴を発見し、学会で発表するなど、幅広く研究に取り組んでいます。

また、ヒートアイランド現象をはじめとした都市気候や都市緑化技術、熱中症などの研究や東京の自然環境（多摩部や島しょ）、気候景観に関する研究も行っています。

大学院修了生は、大学院での学びを活かし、教員や環境コンサルタント会社において技術者として活躍しています。



山口 隆子 准教授

[学生・修了生の声]

専攻の魅力

研究意欲の高い院生や留学生との交流が大きな刺激に。
恵まれた環境がビジネスや海外への関心を広げてくれた



吉原 圭佑

博士後期課程 在学中

学んだこと、身に付いたこと

恵まれた環境で研究に邁進できています。具体的例を挙げると、第一人者の先生方からの指導や豊富な蔵書、研究補助金、専攻室、他大学院との単位互換制度を擁しており、キャンパスは都心に立地するため国立国会図書館や他大学の図書館、現地調査へも至便です。普段から留学生や社会人院生と共に学び研究し、現地研究では海外に赴くこともあるため、日本人院生同士での交流以上の刺激を受け、ビジネスや海外へも関心事の範囲が拡大しました。

[専任教員一覧] [2022年度] ※年度により授業を持たない場合があります。

専任教員	専攻	研究テーマ	主な担当科目
伊藤 達也 教授	経済地理学、資源・環境研究	水資源研究、環境問題研究、地域経済・地域社会研究	人文地理学研究Ⅰ/Ⅱ、人文地理学演習Ⅰ/Ⅱ
米家 志乃布 教授	歴史地理学、江戸東京のツーリズム、日本北方・ロシア地域研究	蝦夷地・北海道の歴史地理学、シベリア・極東の地図史研究、江戸東京の名所研究	歴史地理学研究Ⅰ・Ⅱ、歴史地理学演習Ⅰ・Ⅱ
中俣 均 教授	文化地理学、島嶼の地理学	沖縄地域研究	文化地理学研究Ⅰ/Ⅱ、文化地理学演習Ⅰ/Ⅱ
前塙 英明 教授	自然地理学、地形学、第四紀学	地殻変動および環境変動に関する地形・地質学的研究	地形学研究Ⅰ/Ⅱ、地形学演習Ⅰ/Ⅱ
吉田 智 教授	原子核物理学	平均場理論による原子核構造の研究	※今年度は、特定の科目を担当しません
小原 文明 准教授	都市地理学、都市開発論	都市開発の空間的・社会的意義、土地所有から見た都市形成・変容	社会経済地理学研究Ⅰ・Ⅱ、社会経済地理学演習Ⅰ・Ⅱ
小寺 浩二 准教授	自然地理学(水文学)、海洋陸水学、地域環境情報解析	水循環に伴う物質循環に関する研究、地域環境問題、河川流域の水環境保全と管理に関する研究	水文学研究Ⅰ/Ⅱ、水文学演習Ⅰ/Ⅱ
佐々木 達 准教授	経済地理学、農業地理学、地域経済論	日本経済の地域構造の解明、農業問題の地理学	地域社会論研究Ⅰ/Ⅱ、地域社会論演習Ⅰ/Ⅱ
山口 隆子 准教授	自然地理学、気候学・生気象学	都市気候研究、都市緑化研究、自然地誌研究	気候学研究Ⅰ/Ⅱ、気候学演習Ⅰ/Ⅱ

[設置科目] [2022年度] ※開講科目は年度により異なります。() = 単位数

修士課程	博士後期課程
■ 地形学研究Ⅰ/Ⅱ(各2)	■ 人文地理学研究Ⅰ/Ⅱ(各2)
■ 地形学演習Ⅰ/Ⅱ(各2)	■ 歴史地理学演習Ⅰ/Ⅱ(各2)
■ 気候学研究Ⅰ/Ⅱ(各2)	■ 空間構成論研究Ⅰ/Ⅱ(各2)
■ 気候学演習Ⅰ/Ⅱ(各2)	■ 社会地理学文献講読Ⅰ/Ⅱ(各2)
■ 水文学研究Ⅰ/Ⅱ(各2)	■ 人文地理学特殊講義Ⅰ/Ⅱ(各2)
■ 水文学演習Ⅰ/Ⅱ(各2)	■ 地理情報システム研究Ⅰ/Ⅱ(各2)
■ 第四紀学研究Ⅰ/Ⅱ(各2)	■ 地理学現地研究Ⅰ/Ⅱ(各1)
■ 自然地理学文献講読Ⅰ/Ⅱ(各2)	■ 地域社会論研究Ⅰ/Ⅱ(各2)
■ 自然地理学特殊講義Ⅰ/Ⅱ(各2)	■ 地域社会論演習Ⅰ/Ⅱ(各2)
	■ 地理学特別演習Ⅰ/Ⅱ(各2)
	■ 自然地理学特別講義Ⅰ～Ⅳ(各2)
	■ 人文地理学特別講義Ⅰ～Ⅳ(各2)
	■ 地誌学特別講義Ⅰ～Ⅳ(各2)

修了生の研究テーマの例

- 河川・地下水の流入負荷を考慮した塩湖の物質収支
－中央アジア、イシク湖を事例に－
- 南海トラフに面した紀伊半島串本町における珪藻分析による完新世地殻変動の解明
- 風穴の熱環境と周辺気候との関係
－温暖な地域を中心にして－
- 伊豆諸島における島霧発生条件の気候学的推定
- 草津白根山周辺水環境の水質形成要因
－火山体からの物質供給に着目して－
- 北海道南富良野町における防災意識と防災行動の中期的変容
－2016年8月台風10号による洪水災害を事例として－
- 中国の都市交通におけるシェアバイクの位置づけとその持続可能性に関する考察
- 中山間地域における若者の移住動機とその持続性
－山梨県小菅村を事例として－
- 外国人技能実習生導入に伴う農家の変容と実習生の来日要因と意識
- 現代の不安定居住者層集中地域の特性による影響
－大田区蒲田を中心に－

心理学専攻

詳細はこちる



募集人員

修士課程10名／
博士後期課程3名

キャンパス

市ヶ谷

主な進路

教職、公務員（家庭裁判所調査官、各県心理職、各県警科学捜査研究所、法務省）、企業（発達支援、情報通信（ICT）、リサーチ会社、出版社など）、博士後期課程への進学、大学や研究機関など

長期履修制度有 (修士・博士後期課程)

◎ 昼間開講

(一部夜間開講)

修了要件・履修案内
時間割・シラバス



心の機能を認知と発達を柱に考える

心理学のさまざまな領域を学びます。知覚・睡眠・発達・発達臨床・学校心理・言語・教育・行動分析・犯罪・社会・記憶・学習・音声学・スポーツ・健康・精神保健といった多岐にわたる領域のエキスパートが勢揃いしています。指導は特定の分野の教員だけではなく、集団指導体制によって、いずれの領域の教員からも指導を受けることができます。年に数回の発表会やイベントなどもあり、フレンドリーな交流を大切にしています。実験・心理検査・面接・調査・統計など、心理学の研究法に関する技術を十分に習得できるようにカリキュラムが編成されています。さらに、高度なコンピュータ・リテラシー、文章表現力、プレゼンテーション能力、カウンセリングの基本スキルなども身に付けることができます。所定の条件を満たすことにより、学校心理士あるいは学校心理士補の受験資格を取得することもできます。大学院特定課題のライフスキル教育研究所とも連携しており、エビデンスに基づいた研究実践を社会に展開し、貢献する機会も得られます。

主なアドミッション・ポリシー (学生受け入れ方針)

- 心理学研究への強い意欲と心理学の各分野における学部卒業レベルの知識。
- 修士論文・博士論文研究の実施と論文執筆のために必要となる英文読解力や批判的読解力、論理的思考力、データ分析力、プレゼンテーション能力、およびITリテラシー。

主なカリキュラム・ポリシー (教育課程の編成・実施方針)

- 年に3回の研究発表会では専任教員全員で集団指導。
- グループ討論や発表機会、情報技術を活用する課題の設定。

主なディプロマ・ポリシー (学位授与の方針)

- 観察・実験・調査を通して、人の認知や発達について科学的に理解できる。
- 国内外の先行研究や社会的要請をふまえ、自ら課題を設定できる。
- 研究・学習目標を達成するために他者と協働でき、成果を的確に他者に伝えられる。

[研究室紹介]

心はどうに発達していくのか－胎児期から高齢期までの生涯発達を探求する

感情リテラシーの発達の解明と対人関係のトラブルを予防するアプローチの開発

研究室では、喜怒哀楽だけではなく、「ワクワク」「マッタリ」といった多様な感情に焦点を当て、感情の理解、感情の表出、感情のマネジメントなどの感情リテラシーがどのように獲得されるかについて探求しています。円滑な対人関係を営むには、言葉だけでなく、表情や声といったノンバーバルなコミュニケーションを通して、他人の気持ちを理解し、感情を適度に調整することが大切です。同時に適度なモラルやソーシャルスキルを獲得することも必要です。こうした感情、社会性、モラルに関して、それぞれ発達のアウトラインを解明し、対人関係の葛藤で悩んでいる人たちが前向きに生活できる教育支援策を開発、そして学校などで展開しています。社会に役立つ研究と実践をめざしています。

*写真は、高校生を対象に、ムードメーターという教材で日常で用いている言葉の背景にある「感情」を探っているところです。



渡辺 弥生 教授

[学生・修了生の声]

指導教授の手厚いサポートのおかげで 洗練された論文をめざせる学びのプロセス

専攻の魅力

研究テーマ 学習履歴による強固な行動の制御と行動変容を促進する 環境変数の実験的探索

日常生活において繰り返される“何気ない行動”的メカニズムに興味をもち、理論・基礎を中心に応用まで見据えた知識・技術の習得をしたいと考えたことから、行動分析学の研究室を選びました。集団指導体制が充実しており、専攻内の研究発表会では自身の研究に関して他領域の先生方から直接アドバイスをいただけるほか、さまざまな専門領域の先生方と交流する機会も多く、領域横断的な視点も取り入れることができました。コロナ禍で対面による実験実施が困難な状況でしたが、指導教授の手厚いサポートのおかげで、データ収集も順調に進めることができました。



高野 愛子

博士後期課程 2021年度修了

学びの魅力

指導教授のゼミでは、論文の執筆や学術雑誌への投稿に関して丁寧なアドバイスをいただけました。また、副指導教授のゼミでは、さまざまな視点から論理的に文章を洗練させる手法を学んだほか、実験データを論文化する際のアピールポイントについて具体的な提案をいただきました。論文執筆が思うように進まず、つらい時期もありましたが、何度も精神的に救われました。こうした先生方の支えがあったからこそ、博士論文の完成に辿り着くことができたのだと思感しています。

[専任教員一覧]

[2022年度] ※年度により授業を持たない場合があります。

専任教員	専攻	研究テーマ	主な担当科目
高橋 敏治 教授	生理心理学、睡眠科学、精神保健学	時差症候群とシフト勤務に関する精神作業能力やP300の変化、サーカディアンリズム睡眠障害	精神保健特論、精神生理特講、精神生理特殊講義
渡辺 弥生 教授	発達心理学、発達臨床心理学、学校心理学	社会性や感情、道徳性の発達メカニズムの解明、いじめなどの対人関係の問題の予防と心理教育プログラムの開発・展開、ソーシャルスキルトレーニング	発達心理特論、学校カウンセリング演習、発達心理学特殊講義
福田 由紀 教授	言語心理学、教育心理学	浅い処理から見た文章理解モデル、コミュニケーションにおける言語活動の役割、読みと感情	言語心理特論、言語心理演習、言語心理学特殊講義
島宗 理 教授	行動分析学、産業組織心理学	パフォーマンス・マネジメント、インストラクショナルデザイン、組織行動マネジメントや消費者行動に関する研究	発達行動特論、学校コンサルテーション特論、行動分析学特殊講義
藤田 哲也 教授	認知心理学、教育心理学	人間の記憶を中心とした認知メカニズムに関する基礎研究と、学習場面における動機づけと学習方略との関連を中心とした教育への応用研究	学習心理特論、学習指導特論、認知学習過程演習、大学教員心理学基礎講座
越智 啓太 教授	犯罪心理学、社会心理学	犯罪心理学、特に犯罪捜査における心理学の応用についての研究、データバイオレンス、プロファイリング	社会心理特論、犯罪心理特論、犯罪心理学特殊講義
田嶋 圭一 教授	言語心理学、音声学、言語学、認知科学	音声言語の産出と知覚、言葉のリズムや韻律的特徴の分析、外国語学習(特にスピーキングやリスニング)に関する実証的研究	音声言語科学演習、音声言語科学特論、心理学英語論文作成指導
荒井 弘和 教授	スポーツ心理学	アスリートに対するメンタルサポート、ソーシャルマーケティングによる生涯スポーツの普及	スポーツ心理特論
竹島 康博 専任教員	知覚心理学・認知心理学	異種感覚間相互作用の生起に影響する諸要因の研究、視聴覚刺激間の時間処理過程に関する研究	心理研究法特論、知覚研究論演習

*2022年度に新任教員が着任する予定です。

[主要な研究設備]

- NIRS(脳血流量測定装置)：全脳型1台、前頭型2台。
- 脳波計：据置型1台、携帯型2台、P300などの事象関連電位測定。
- ポリグラフ：脳波、筋電図、呼吸運動、心電図、指尖脈波、耳栓型温度、皮膚活動電位などが測定可能。
- 観察室、心理検査など各種。
- その他、サーモグラフィー、アイカメラ、呼吸代謝測定機器、事象関連電位や周波数、3次元動作や自律神経系の解析ソフト、防音室など。

[設置科目]

[2022年度] ※開講科目は年度により異なります。() = 単位数

修士課程

- 心理学研究法演習Ⅰ/Ⅱ(各1)
- 学習心理特論(2)
- 音声言語科学特論(2)
- 社会心理特論(2)
- 読書心理特論(2)
- 教育心理特論(2)
- 犯罪心理特論(2)
- 学習指導特論(2)
- 知覚研究論演習(2)
- 音声言語科学演習(2)
- 精神生理特論(2)
- 認知学習過程演習(2)
- 臨床心理特論(2)
- 発達心理特論(2)

- 障害児心理特論(2)
- 人格心理特論(2)
- 言語心理特論(2)
- 精神保健特論(2)
- 学校カウンセリング演習(2)
- 発達行動特論(2)
- 生徒指導特論(2)
- 言語心理演習(2)
- 学校コンサルテーション特論(2)
- 心理教育アセスメント特論(2)
- 心理教育アセスメント演習(2)
- スポーツ心理特論(2)
- 健康心理特論(2)
- 心理研究法特論(2)

- 応用心理統計Ⅰ/Ⅱ(各2)
- 言語分析哲学研究Ⅱ1・2(各2)
- 古代哲学史研究Ⅱ1・2(各2)
- 近代倫理学史研究Ⅱ1・2(各2)
- 科学哲学研究Ⅱ1・2(各2)
- 超越論哲学研究Ⅱ2(2)

博士後期課程

- 心理学特殊研究Ⅰ/Ⅱ(各2)
- 大学教員心理学基礎講座(2)
- 心理学英語論文作成指導(2)
- 知覚認知心理学特殊講義(2)
- 精神生理学特殊講義(2)
- 発達心理学特殊講義(2)
- 言語心理学特殊講義(2)
- 行動分析学特殊講義(2)
- 犯罪心理学特殊講義(2)

修了生の研究テーマの例

- 不安喚起の差異からみた入眠期の脳波・自律神経活動による精神生理学的検討
- 子どもの発達に関する知識が育児ストレスに及ぼす影響
- 人物同定再認における幸福顔優位性の生起因
—再認の二過程説による検討—
- 漢字・ひらがな・カタカナの書き分けと印象の違いについて
—日本語表記に関する実証的研究—
- 音響的な特徴が音声による羞恥感情の程度と種類の認知に及ぼす影響
—ピッチと時間に着目して—
- 商品名に含まれる音相の違いが購買意欲、商品画像の選択に与える影響
- オノマトペの感覚関連性および表記形態が意味理解に与える影響
—感覚情報を測定する評価用語への応用を目指して—
- パートナーに対する暴力のメカニズム
—Dark Triadと生活史戦略による個人差に対するアプローチ—
- アニメーションによる物語理解過程の心理学的検討
- 児童期における感情リテラシーの発達と共感性との関連

国際日本学 インスティテュート

詳細はこちる



募集人員

修士課程14名程度／
博士後期課程5名程度

キャンパス

市ヶ谷

入学後は人文科学研究科のいずれかの専攻（心理学専攻を除く）に在籍することになります。

長期履修制度有
(修士・博士後期課程)

昼夜開講

修了要件・履修案内・
時間割・シラバス

「学際」と「国際」—学問領域の枠を超える、 国境を超える、世界の中の日本を見る

国際日本学インスティテュートは、哲学・日本文学・英文学・史学・地理学の5専攻が共同で開設する、日本研究に特化した教育研究プログラムです。思想・サブカル・芸術・文学・言語・歴史・民俗・生活文化・地理・環境・経済などを切り口に、日本について深く探究することをめざします。一言で「日本」といっても、そこには多様な側面が存在しています。例えば、沖縄からアイヌ民族、そして在日外国人とともに作り上げてきた日本文化や、これまで必ずしも学術的な研究対象として捉えられてこなかったアニメに代表されるサブカルチャーなど、日本研究の領域には広がりがあります。従来の分野に収まりきらないテーマや広い視野で日本を研究したいと願っている学生や社会人、外国人留学生にとって最適な専攻です。国際日本学インスティテュートでは「学際性」と「国際性」を重視して研究を進めます。一つの学問領域を研究しているだけでは得られない知見を、専攻横断的なカリキュラムを通じて獲得することができます。また、世界各国の留学生と日本人が集まり、交流する場として、海外からの視点や比較の視点による研究も実現することができます。多様な日本を、多様な背景と関心を持った仲間が学び合う、新たな知的探究の場がここにはあります。

[研究室紹介]

東アジアとの関係を踏まえた、日本の音楽・古典芸能に関する歴史的研究

日本の音楽や古典芸能を、東アジアという 枠組みの中で捉え、その歴史的な変遷を考察

日本の音楽文化は、海外（主にアジア大陸）からの影響を受ける時期と、それを消化し日本的なものに変容させていく時期との推移の中で形成されてきました。こうした歴史的経緯を踏まえて、音楽史学の方法論的可能性を考えながら研究しています。

狭義の音楽文献史料（楽譜や楽書）に加え、一般的な文献史料（日記などの記録）や文学作品の中の音楽描写場面にも着目し、音楽史を探る材料として読み解きます。楽器などの物的史料も、また日本に豊富に現存する音楽・古典芸能の生きた演奏伝承も研究対象とします。文化における音楽の不变性と可変性を探りながら、「日本的なもの」を明らかにしていきます。

スティーヴン・ネルソン
教授

[学生・修了生の声]

日本と韓国との「ドキドキ」を研究。

常に問い合わせる力や課題発見・解決力を磨きました

専攻の魅力

研究テーマ

「ドキドキ」に関する一考察
—韓国語の「dugun-dugun」との比較を中心に—

言語学をはじめ思想から歴史、サブカルチャーまで、多岐にわたる切り口で学際的な研究ができる点が魅力です。私はかねてから言語学という学問をきちんと学びたいと思い、社会人10年目にして夢を叶えました。パフォーマンスを発揮する仕事と違い、大学院での研究は勉強と発表、つまりインプットとアウトプットの繰り返しです。仕事との両立は大変でしたが、教授の指導のもとバランス良く、多くの気づきを得ながら研究ができました。



丁 維那

修士課程 2018年度修了／
サムスン電子ジャパン株式会社

私の研究

日本人女性がよく使うオノマトペ、「ドキドキ」に着目し、その用法の変遷を明らかにするとともに、統語的・意味的特徴を韓国語でドキドキを表す「dugun-dugun」と比較しました。共通点も多い一方で相違点も見られ、それぞれの言語文化について理解を深めました。研究を通して常に問い合わせる力や課題を明確にする力、また解決に向けて行動する力を培ったことが大きな成果です。私自身の知見を広げ、仕事や今後の人生の原動力になっています。

[専任教員一覧] [2022年度] ※年度により授業を持たない場合があります。

専任教員	専門	研究テーマ	主な担当科目
哲学専攻	君嶋 泰明 専担准教授	哲学 西洋哲学史、人間存在論、現象学、技術の哲学、日本におけるハイデガーの受容	国際日本学演習Ⅰ/Ⅱ
	西塚 俊太 専担准教授	日本思想史・日本近代哲学・倫理学 京都学派の哲学の研究・日本倫理思想の研究	国際日本学演習Ⅰ/Ⅱ
	伊海 孝充 専担教授	日本文学 能楽を中心とした古典芸能・民俗芸能	国際日本学演習Ⅰ/Ⅱ
	小秋元 段 専担教授	日本文学 日本中世文学、中世・近世初期出版文化、和漢比較文学	国際日本学演習Ⅰ/Ⅱ
	小林 ふみ子 専担教授	日本文学・文化 江戸時代文化、文芸(漢文戯作や狂詩含む)、絵本、浮世絵など	国際日本学演習Ⅰ/Ⅱ、江戸の文芸と文化Ⅰ/Ⅱ
	坂本 勝 専担教授	上代文学 古事記・万葉集を中心とする上代文学研究	国際日本学演習Ⅰ/Ⅱ、神話と歌Ⅰ/Ⅱ
	島田 雅彦 専担教授	創作、小説論、文学史、戦後史、サブカルチャー 日本学、比較文化学、サブカルチャー諸ジャンル	国際日本学演習Ⅰ/Ⅱ
	スティーヴン・ネルソン 専担教授	日本音楽史学 音楽・古典芸能の歴史、古典文学作品と音楽	国際日本学演習Ⅰ/Ⅱ、国際日本学論文作成実習(英語)Ⅰ/Ⅱ
	遠藤 星希 専担准教授	中国文学 中国唐代文学、江戸・明治期を中心とした日本漢文学	国際日本学演習Ⅰ/Ⅱ
	尾谷 昌則 専担教授	言語学 若者言葉・意味論、文法論、認知言語学	国際日本学演習Ⅰ/Ⅱ
英文学専攻	間宮 厚司 専担教授	言語学 日本語の意味・表記・流行語の変化	国際日本学演習Ⅰ/Ⅱ
	王 安 専担准教授	言語学 対照言語学、現代中国語文法、認知言語学	国際日本学演習Ⅰ/Ⅱ
	川崎 貴子 専担教授	言語学 言語習得、音韻論、心理言語学、第二言語習得	国際日本学演習Ⅰ/Ⅱ
	椎名 美智 専担教授	言語学 日本語と英語の語用論、社会言語学、文体論、談話分析	国際日本学演習Ⅰ/Ⅱ、国際日本学合同演習
	福元 広二 専担教授	言語学 歴史言語学、語用論、社会言語学、日英語比較	国際日本学演習Ⅰ/Ⅱ
史学専攻	小口 雅史 専担教授	古代日中比較文化論、日本古代中世北方史 日中比較律令法史・土地法史、蝦夷論、日本古代社会経済史	国際日本学演習Ⅰ/Ⅱ、東アジアの律令文化Ⅰ/Ⅱ
	謝 荘 専担教授	中国漢族社会の文化人類学的研究 現代中国・日本社会の民族文化の比較	国際日本学演習Ⅰ/Ⅱ
	水野 和夫 専担教授	マクロ経済学、現代日本経済論、資本主義経済史 デフレ・ゼロ金利下における日本経済の課題、資本主義経済の課題と将来展望	国際日本学演習Ⅰ/Ⅱ
	松本 剣志郎 専担准教授	日本近世史 城下町江戸の空間と社会	国際日本学演習Ⅰ/Ⅱ
	高田 圭 専担講師	社会学・現代史 市民社会と社会運動、グローバリゼーションと社会変動、現代社会論など	国際日本学演習Ⅰ/Ⅱ、日本の思想・西欧の思想Ⅰ/Ⅱ
地理学専攻	伊藤 達也 専担教授	地理学、地域社会、地域経済研究 日本から東アジアにかけての水資源問題、環境問題	国際日本学演習Ⅰ/Ⅱ、日本の環境論Ⅰ/Ⅱ
	米家 志乃布 専担教授	日本の歴史地理学、日本とロシアの地図史 画像史料を用いた日本研究、日本における歴史的町並み保存	国際日本学演習Ⅰ/Ⅱ、地図の文化誌Ⅰ/Ⅱ
	小原 丈明 専担准教授	地理学、都市に関わる社会的・経済的な事象 日本における都市の形成・変容および開発に関する研究	国際日本学演習Ⅰ/Ⅱ、日本の都市と産業Ⅰ/Ⅱ
	佐々木 達 専担准教授	経済地理学、農業地理学、地域経済論 日本経済の地域構造の解明、農業問題の地理学	国際日本学演習Ⅰ/Ⅱ

[設置科目] [2022年度] ※開講科目は年度により異なります。() = 単位数

修士課程

【必修科目】 ■ 国際日本学演習Ⅰ/Ⅱ(各2) ■ 国際日本学演習Ⅰ/Ⅱ(各2) ■ 国際日本学合同演習Ⅰ/Ⅱ(各1)	■ サブカルチャー論Ⅰ/Ⅱ(各2) 【国際日本学関連科目・文学と言語】 ■ 日本文學・国際日本学基礎演習(2) ■ 日本文學・国際日本学論文作成基礎実習(2) ■ 近代の文芸批評Ⅰ/Ⅱ(各2) ■ 神話と歌Ⅰ/Ⅱ(各2) ■ 平安時代の物語Ⅰ/Ⅱ(各2) ■ 書誌学と文献学Ⅰ/Ⅱ(各2) ■ 能と楽劇Ⅰ/Ⅱ(各2) ■ 戸の文芸と文化Ⅰ/Ⅱ(各2) ■ 江戸の思想史Ⅰ/Ⅱ(各2) ■ 日本語の歴史と現在Ⅰ/Ⅱ(各2) ■ 現代日本語のしくみⅠ/Ⅱ(各2) ■ 沖縄文芸史Ⅰ/Ⅱ(各2) ■ 中国文学Ⅰ/Ⅱ(各2) ■ 女性文学Ⅰ/Ⅱ(各2)	■ 文学と映画Ⅰ/Ⅱ(各2) ■ 文学と風土Ⅰ/Ⅱ(各2) ■ 表現と社会(2) ■ 編集理論(2) ■ 英語発音法Ⅰ/Ⅱ(各2) ■ 行動科学方法論Ⅰ(2) ■ 西欧比較文学Ⅰ/Ⅱ(各2) ■ Issues in Japanese StudiesⅠ/Ⅱ(各2) 【国際日本学関連科目・歴史と思想】 ■ 西欧の思想Ⅰ/Ⅱ(各2) ■ 東北アジアの文化伝播 11・2/11・2/11・2(各2) ■ 東アジアの律令文化 11・2/11・2(各2) ■ 王權の政治文化Ⅰ/Ⅱ(各2) ■ 天皇制と政務・儀礼Ⅰ/Ⅱ(各2) ■ 日本の歴史と宗教(2)	■ 古文書から読む江戸社会・入門編Ⅰ/Ⅱ(各2) ■ 江戸の地方文化Ⅰ/Ⅱ(各2) ■ 日本文化と西洋文化Ⅰ/Ⅱ(各2) ■ 日本の近代と国際社会Ⅰ/Ⅱ(各2) ■ 沖縄学入門Ⅰ/Ⅱ(各2) ■ アーカイブズ学Ⅰ/Ⅱ(各2) ■ 文書館管理研究Ⅰ/Ⅱ(各2) ■ 記録史料学研究Ⅰ/Ⅱ(各2) ■ 記録史料学演習Ⅰ/Ⅱ(各2)
【国際日本学基礎幹科】 ■ 世界の日本論と日本学Ⅰ/Ⅱ(各2) ■ 国際日本学論文作成実習(英語)Ⅰ/Ⅱ(各2) ■ 日本語論文作成実習Ⅰ/Ⅱ(各2) ■ 日本語論文作成基礎AⅠ~IV(各1) ■ 日本語論文作成基礎BⅠ~IV(各1) ■ 日本語の性格Ⅰ/Ⅱ(各2) ■ 伝統文化と民衆世界Ⅰ/Ⅱ(各2) ■ 日本の思想・西欧の思想Ⅰ/Ⅱ(各2) ■ 史料から読み解くアジアⅠ/Ⅱ(各2) ■ 戦後沖縄と对外関係Ⅰ/Ⅱ(各2) ■ 仏教思想と仏教美術Ⅰ/Ⅱ(各2) ■ データ分析法Ⅰ/Ⅱ(各2)	■ 文学と映画Ⅰ/Ⅱ(各2) ■ 文学と風土Ⅰ/Ⅱ(各2) ■ 表現と社会(2) ■ 編集理論(2) ■ 英語発音法Ⅰ/Ⅱ(各2) ■ 行動科学方法論Ⅰ(2) ■ 西欧比較文学Ⅰ/Ⅱ(各2) ■ Issues in Japanese StudiesⅠ/Ⅱ(各2) 【国際日本学関連科目・歴史と思想】 ■ 西欧の思想Ⅰ/Ⅱ(各2) ■ 東北アジアの文化伝播 11・2/11・2/11・2(各2) ■ 東アジアの律令文化 11・2/11・2(各2) ■ 王權の政治文化Ⅰ/Ⅱ(各2) ■ 天皇制と政務・儀礼Ⅰ/Ⅱ(各2) ■ 日本の歴史と宗教(2)	■ 古文書から読む江戸社会・入門編Ⅰ/Ⅱ(各2) ■ 江戸の地方文化Ⅰ/Ⅱ(各2) ■ 日本文化と西洋文化Ⅰ/Ⅱ(各2) ■ 日本の近代と国際社会Ⅰ/Ⅱ(各2) ■ 沖縄学入門Ⅰ/Ⅱ(各2) ■ アーカイブズ学Ⅰ/Ⅱ(各2) ■ 文書館管理研究Ⅰ/Ⅱ(各2) ■ 記録史料学研究Ⅰ/Ⅱ(各2) ■ 記録史料学演習Ⅰ/Ⅱ(各2)	■ 国際日本学研究Ⅰ/Ⅱ(各2) ■ 国際日本学特殊講義AI・JI・KI(各2) ■ 国際日本学特殊講義B~H、LI/II(各2)

博士後期課程

■ 古文書から読む江戸社会・入門編Ⅰ/Ⅱ(各2) ■ 江戸の地方文化Ⅰ/Ⅱ(各2) ■ 日本文化と西洋文化Ⅰ/Ⅱ(各2) ■ 日本の近代と国際社会Ⅰ/Ⅱ(各2) ■ 沖縄学入門Ⅰ/Ⅱ(各2) ■ アーカイブズ学Ⅰ/Ⅱ(各2) ■ 文書館管理研究Ⅰ/Ⅱ(各2) ■ 記録史料学研究Ⅰ/Ⅱ(各2) ■ 記録史料学演習Ⅰ/Ⅱ(各2)
【国際日本学関連科目・風土と民族】 ■ 日本の環境論Ⅰ/Ⅱ(各2) ■ 日本の都市と産業Ⅰ/Ⅱ(各2) ■ 日本の農業と農村Ⅰ/Ⅱ(各2) ■ 地図の文化誌Ⅰ/Ⅱ(各2)

修了生の研究テーマの例

- The Dance of the Herons in Yamaguchi and Tsuwano:History, Present Practice and Transmission of a Medieval Performing Art
- 中国と日本における忠本位思想の問題
- 広東語母語話者による日本語リズムの習得
- 副詞「なんなら」の新用法に関する考察
- 『万葉集』における風と恋との関わり
—風の使をめぐって—
- 日中両国語における味覚表現の比較について
- 東アジアにおける「瘤取爺」型昔話について
—『五常内義抄』『醒睡笑』『笑府』『睡隱集』を中心に—
- 否定接頭辞の付く日中同形語に関する一考察
—「不～」「無～」「非～」を中心に—
- 中日民芸思想の比較研究—柳宗悦と張道一を中心
- 英語の動詞由来-er名詞の研究
—合成的意味と構文的意味の連続性と多義—
- 日中社会における竈神祭祀の今日の様相
—文献調査およびフィールドワークからの考察—
- 山村留学における留学生家族の意識変化についての考察

国際文化専攻

詳細は[こちら](#)

募集人員

修士課程15名／
博士後期課程3名

キャンパス

市ヶ谷

主な進路

研究職、進学、教員、公務員、商社、サービス業、小売業、製造業、青年海外協力隊など

長期履修制度有 (修士課程)



昼夜開講

修了要件・履修案内
時間割・シラバス



異文化との交流によって成立する 「国際文化」を探究

グローバル化・情報化が進展する世界を、既存の主権国家の枠組みだけではなく、異文化間の理解と交流によって成立する「国際文化」として捉え研究することが本専攻の目的です。そのため、本専攻では主に以下の3つの研究領域に科目を配置しています。

- ・異文化相関関係研究：国際社会に存在する多様な地域文化間の相関関係を扱う
- ・多文化共生研究：多文化・多民族社会での共生を扱う
- ・多文化情報空間研究：さまざまなメディアが介在する情報化社会における文化交流・認識を扱う

さまざまな文化が共有する問題と構造に関する重層的な研究や文化を中心に政治・経済も加えた広い視野による国際社会の考察、どのような文化にも存在する「内なる他者」「内なる異文化」の解明、国際文化における日本文化の相対化、更には情報空間に成立する文化に対する国際文化学としての理解などに取り組んでいます。

異なる文化がせめぎ合い、かつ多様な文化情報がインターネット等を通して行き交う国際社会において、そこから生じる諸問題を主体的、自立的かつ創造的に研究し、問題解決につなげられる柔軟な知性としての「実践知」を備えた人材を育成します。

アドミッション・ポリシー

(学生受け入れ方針)

修士課程 入試を通して、研究に必要な外國語（非母語）能力、研究の基盤となる学問分野の基本文献の理解、文献への論理的で批判的な思考力、文化や情報のある方を主体的に研究・実践する意欲、自己文化の枠にとらわれず通文化的かつ複眼的な視点を備えている方を受け入れます。

博士後期課程 上記の修士課程の条件に加え、研究基盤となる知識と方法論を備え、先行研究の体系的理解と批判的に評価でき、一次資料を発掘し、その結果を論理的に伝えることができる独創性を有している方を受け入れます。

カリキュラム・ポリシー

(教育課程の編成・実施方針)

修士課程「国際文化研究」「国際文化共同研究」を必ず履修し、国際文化学の学際性・専門性・方法論を身につけます。3つの研究領域の科目を横断的に受講し、毎年研究発表を一度以上行い、異なる研究領域の教員の指導を受けます。異文化間の理解や交流に関わる実務的な課題に取り組む科目により実践知が身につきます。さらに、文献講読や議論を中心とする科目により、クリティカル・リーディングの能力も備わります。

博士後期課程 2017年度導入のコースワークを通して、独立した研究者としてだけでなく教育者としての研鑽を積みます。国内外の研究発表を強く奨励します。外国人学生は日本語論文指導も受けることが可能です。

ディプロマ・ポリシー

(学位授与の方針)

修士課程修了時 3つの研究領域の基盤的な知識と方法論を十分身につけることで、異文化間で生じる課題に対して、先行研究・事例を批判的に評価できるだけでなく、現実の問題発見や実務的な問題解決に結びつけられるようになります。質的・量的調査を通して一次資料を発掘し、独創的な視点を見出すことができ、研究結果を口頭表現や文章表現、あるいはICT等を活用して論理的に伝えられるようになります。

博士後期修了時 最先端の専門知識と方法論を身につけ、研究成果を単著として発表できる独立した研究者、また実践知を尊重する後進を育成できる教育者となります。外国語を用い、研究の成果を的確に伝達するためのプレゼンテーション能力やコミュニケーション能力が身につきます。

研究室紹介

開発や国際協力の研究は深くて楽しい！

「それ以外でもりえる」知=フロネーシスの醍醐味

この研究室の特徴は3つのismです。Academism—私は学部で経済学、修士で地理学、博士で国際協力学を修め学際的な研究を重視しています。Activism—NGO職員として、東南アジアでの草の根協力や調査に基づくアドボカシー活動に15年余り関わってきました。Journalism—放送記者として5年余り、警察、行政、選挙、農業、原発、アイヌ民族、旧ソ連などを取材しました。これらの経験をもとにフロネーシス（実践知）を大切にする研究室です。

修士課程では広い意味での開発や国際協力を、博士課程では特に開発や国際協力の機能に着目した研究を志す院生を歓迎します。その上で、方法論を重視し、事象を多角的に分析できる力を備えた高度職業人や研究者を育てます。



松本 悟 教授

学生・修了生の声

韓国の文化遺産を国際的な枠組みから捉え直し 「ソウル漢陽都城」の世界遺産登録をめざす

私の研究

研究テーマ

朝鮮時代漢陽のシティプランニング
—世界遺産登録基準から見たその価値—

ソウル市では2016年「ソウル漢陽都城」のユネスコ世界遺産登録を推進ましたが、評価の結果が「不登録」になり戦略的の全面的な修正を迫られました。ソウル市庁の学芸員として登録に関わった私は、韓国の文化遺産を国際的な視点から再検討し、その価値と独自性を導き出すためにこの研究に取り組みました。



金 瑞蘭

修士課程 2020年度修了／
ソウル市庁

将来の目標

世界遺産を異文化の視点から深く研究するため日本に留学。修了後は再びソウル市庁に復帰し、世界遺産チームのリーダーとして登録推進業務を担っています。法政大学大学院での学びや知見を活かして世界遺産を広い枠組みで見直すことにより、漢陽都城がいつか必ず世界遺産に登録されるよう力を尽くします。

[専任教員一覧] [2022年度] ※年度により授業を持たない場合があります。

専任教員	専攻	研究テーマ	主な担当科目
粟飯原 文子 教授	アフリカ文学	アフリカ現代文学(特に小説)、およびアフリカの映画・音楽を中心とする文化の研究	※今年度は、特定の科目を担当しません
浅川 希洋志 教授	心理学、人間発達学	フロー経験(flow experience)と精神的健康・Well-beingとの関連について	異文化社会論IIA・B
石森 大知 准教授	文化人類学、オセアニア地域研究	オセアニア地域を主な対象とし、宗教運動、植民地主義、グローバル化と文化変容、開発現象、地域紛争などに関する研究	国際文化研究A、ナショナリズム/エスニシティ論A・B
和泉 順子 教授	インターネット上の情報流通に関する研究	主にITSや移動体通信などが扱う実空間情報を軸にしたインターネット上の情報流通と、情報技術の普及や社会性に関する問題に取り組む	多文化情報ネットワーク論A・B
今泉 裕美子 教授	国際関係学、太平洋島嶼国際関係史、ミクロネシア研究、沖縄研究	アジアや太平洋島嶼を中心に世界諸地域の植民地政策、そこでの人々のくらし、社会・諸運動、移動、脱植民地化を分析し、現代世界の諸問題との関係性を追究する	国際文化共同研究B、異文化社会論IA・B
大嶋 良明 教授	デジタル・メディア処理、音声情報処理	我々の知的活動や芸術表現の手段、媒体としてコンピュータやインターネットを取り上げ、諸問題を検討する	多文化情報メディア論IA・B
大中 一彌 教授	政治学、政治思想史(近現代のフランスを中心に)	ヨーロッパ連合地域の政治・経済・文化を公共空間とグローバル化の関係を軸に検討する	多言語社会論A・B
大野 口ベルト 准教授	日本文学	古典文学およびその受容と翻訳の研究、日本文学に通じる詩学の研究、文学と権力の関係性をめぐる研究	国際文化研究B、多言語相関論IIA・B、外国語実践研究B
甲 洋介 教授	ヒューマンインターフェース	道具の使いやすさ(usability)を実現するための設計方法論、日常生活を豊かにする情報空間と人工物のデザイン	※今年度は、特定の科目を担当しません
グアリーニ・レティツィア 専任教員	日本近現代文学、ジェンダー理論、表象文化論	現代日本社会における家族、とりわけ父親や父娘関係の表象について研究している。また、日本近現代文学における妊娠・出産・授乳に焦点を当て、「女性の身体」という問題について文化表象の側面から考えている	多文化相関論IA・B
熊田 泰章 教授	テクスト論、文化記号論	文化の表出原理を、言語と言語以外のテクストについての理論的考察を通して解明する	国際文化共同研究A、多文化相関論IIA・B、外国語実践研究A
輿石 哲哉 教授	英語学、言語学	英語の形態論、英語史、辞書学、対照言語学。英語の語を中心とした領域が他の領域にどのように関わるか、さまざまな角度から検討する	多言語相関論IIIA・B
佐々木 一恵 教授	歴史学、ジェンダー研究、異文化接觸論、帝国主義研究	20世紀初頭のアメリカにおける帝国的国民主義と歴史意識とジェンダーの関係	多文化相関論III、ジェンダー論
佐藤 千登勢 教授	20世紀ロシア文学、文学理論、ロシア(ソ連)映画	日常批判・社会批判の装置として、また人間の内的世界の縮図として、文学や映画のテクストを捉え直し、その多義性・重層的構造を分析する	多文化芸術論I、外国語実践研究A・B
重定 如彦 教授	情報科学	ユビキタスコンピューティング、分散OS	国際文化研究B、多文化情報メディア論II
曾 士才 教授	文化人類学、中国民族学	華南少数民族のエスニシティ、日本華僑の文化の再構築とアイデンティティ	マイノリティ社会論A・B、外国語実践研究B
高柳 俊男 教授	朝鮮近現代史、在日朝鮮人史研究、伊那谷地域研究	在日朝鮮人(広義)の歴史や文化を多面的に描き出し、新しい時代に合わせた等身大の在日像と、日本社会のあるべき姿を考察すること	多民族共生論IIA・B
廣松 勲 准教授	フランス語圏文学、文学理論	カリブ海域文学およびハイチ系ケベック文学に関する、ポスト・コロニアリズム論およびメランコリー論に基づいた地域研究	多文化芸術論II
マーク・フィールド 教授	言語学(応用現代英語)、経済学	人材資質の開発、日本経済と教育改革、英語圏の思想史	Oral Presentation、外国語実践研究A
松本 悟 教授	開発研究、国際協力、東南アジア地域研究	国際協力が引き起こす諸問題について、関わる主体(国家、国際機関、NGOなど)に着目して社会科学的な分析をする	多民族共生論IA・B、国際協力論
森村 修 教授	現代哲学、現代アートの哲学、応用倫理学、近代日本哲学	現象学研究、「こころ・魂・身体」の哲学研究。「死者」と「亡靈」を含む「他者」概念に基づく、現象学的他者論の構築	多文化情報空間論IA・B

[設置科目] [2022年度] ※実際の開講科目は年度により異なります。() = 単位数

修士課程

- 国際文化研究A/B (各2)
- 国際文化共同研究A/B (各2)
- 多言語相関論
IA・B/IIA・B/IIIA・B (各2)
- 多文化相関論
IA・B/IIA・B/III (各2)
- 多文化芸術論I/II (各2)
- 异文化社会論IA・B/IIA・B (各2)
- ナショナリズム/エスニシティ論A/B (各2)
- マイノリティ社会論A/B (各2)
- ジェンダー論 (2)
- 多言語社会論A/B (各2)
- 多民族共生論IA・B/IIA・B (各2)
- トランサンショナリズム論 (2)
- 國際ジャーナリズム論 (2)
- 國際文化交流論I/IIA・B (各2)
- 比較宗教文明論 (2)
- 多文化情報空間論IA・B/IIA・B (各2)

- 多文化情報メディア論IA・B/II (各2)
- 外国語実践研究A/B (各2)
- Thesis WritingA/B (各2)
- Oral Presentation (2)
- 國際協力論 (2)
- 國際人権論 (2)
- 多文化情報ネットワーク論A/B (各2)
- 國際文化研究日本語論文演習A/B/C (各2)
- 修士論文演習A/B (各2)

博士後期課程

- 博士論文演習
IA・B/IIA・B/IIIA・B (各2)
- 博士ワークショップ
IA・B/IIA・B/IIIA・B (各1)

修了生の研究テーマの例

- イメージとしての「アフリカ」－『朝日新聞』『飢えるアフリカ』を通して－
- 張芸謀の映画から見る封建社会における女性像
－『菊豆』と『紅夢』を例にして－
- 現代中国における地域文化の復興の特徴
－上海市徐匯区華涇鎮の黄道婆文化の復興の動きを事例に
- 版權時代の字幕組に関する研究
－オンライン言説の分析を中心として
- デンマーク映画におけるニュ・ダンスク・フィルムの展開
－アナス・トマス・エンセン作品の「ハリウッド化」と「デンマークらしさ」をめぐって－
- グギ・ワ・ジョンゴの『Wizard of the Crow』における翻訳の政治性と手法の分析
- アルゼンチン・ブエノスアイレスにおける沖縄移民社会の形成と社会団体
－「在亜沖縄人連合会」の設立までを中心に(1908-1951)－

- アイダ・B・ウェルズとニクロ・フェローシップ・リーグから見る革新主義期シカゴの人種とジェンダー
- 大江健三郎『個人的な体験』の英訳出版および受容と評価に関する分析・考察
- 「未識別民族」のアイデンティティはどう構築されてきたのか
－貴州省織金県の穿青人を例に－
- コンピュータ黎明期の日本における技術の受容と発展
－IBMジャパンの日本化路線を中心として
- モバイルゲーム『FATE / Grand Order』のユーザーはゲーム中にどのような経験をしているのかへフロー理論の視点から－
- 子どもを朝鮮学校に通わせる在日朝鮮人のアイデンティティの維持について
－朝鮮学校の学生の保護者を対象に－
- 「承認をめぐる闘争」の宗教哲学的考察

社会科学分野

Social Science Field



大学院学生数/専門職大学院学生数

法政大学ホームページ:情報公開(修学上の情報)
URL <https://www.hosei.ac.jp/hosei/disclosure/acquire/>

経済学研究科

| 34 経済学専攻

法学研究科

| 38 法律学専攻

政治学研究科

| 40 政治学専攻

| 42 國際政治学専攻

社会学研究科

| 44 社会学専攻

経営学研究科

| 48 経営学専攻

人間社会研究科

| 52 福祉社会専攻

| 54 臨床心理学専攻

| 56 人間福祉専攻

政策創造研究科

| 58 政策創造専攻

公共政策研究科

| 60 公共政策学専攻

| 62 サステイナビリティ学専攻

キャリアデザイン学研究科

| 64 キャリアデザイン学専攻

連帯社会インスティテュート

| 66 連帯社会インスティテュート

スポーツ健康学研究科

| 68 スポーツ健康学専攻

※各専攻ページに掲載の「開講形態」は原則として修士課程に特化した内容です。

※各専攻の「アドミッション・ポリシー」、「カリキュラム・ポリシー」、「ディプロマ・ポリシー」は要約したものです。年度により変更となる場合がありますので、最新の情報は大学院HPをご参照ください。

経済学専攻

詳細はこちら



募集人員

修士課程50名／
博士後期課程10名

キャンパス

市ヶ谷

(例外的に多摩で開講
される科目もあります)

主な進路

専門研究者（大学・シンクタンク）、金融、商社、
製造、公務員など



修了要件・履修案内・
時間割・シラバス



QE（博士論文研究基礎力審査）を導入した 世界標準のカリキュラムで専門研究者、応用エコノミストを養成

経済学専攻は、1951年の創立以来、一流の教授陣のもと、多くの優れたエコノミスト、研究者を輩出してきました。1992年には他大学に先駆けて夜間社会人大学院を設置し、2003年には博士後期課程を昼夜開講制にするなど、常に時代や社会の新しいニーズに応え続けてきました。2014年度からは、多様化の進展とともに高度に専門化する21世紀のグローバル社会に対応できる人材養成をこれまで以上に推し進めるために、昼夜開講制の「修士（M.A.）プログラム」と「博士5年（Ph.D.）プログラム」に抜本的に制度変更し、より質の高い教育プログラムを提供しています。また2017年度より、「経済学研究科修士課程1年制コース」も併せて設置されています。

修士（M.A.）プログラム

アドミッション・ポリシー (学生受け入れ方針)	カリキュラム・ポリシー (教育課程の編成・実施方針)	ディプロマ・ポリシー (学位授与の方針)
----------------------------	-------------------------------	-------------------------

教育目標に掲げる人材の資質に適合する、旺盛な勉学意欲と研究志向を併せ持つ人材の国内外、学部新卒・社会人からの受け入れ。

国際的に通用する質保証制度を伴った教育課程をコアに、修士課程の教育目標、ディプロマ・ポリシーの実現をめざす科目編成と教育内容・方法の実践。

各々の分野における「応用エコノミスト」「高度職業人」「高度教養人」としての経済学の研究基礎力と自立的研究能力の達成。

博士5年（Ph.D.）プログラム

アドミッション・ポリシー (学生受け入れ方針)	カリキュラム・ポリシー (教育課程の編成・実施方針)	ディプロマ・ポリシー (学位授与の方針)
----------------------------	-------------------------------	-------------------------

教育目標に掲げる国際社会に発信力のある専門研究者の資質に適合する、経済学に対する非常に旺盛な勉学意欲を持ち、経済学の諸分野についての強い研究志向を持つ人材の国内外、学部新卒・社会人からの受け入れ。

国際的に通用する質保証制度を伴った教育課程をコアに、先端的研究遂行能力を含めた博士後期課程の教育目標・ディプロマ・ポリシーの実現をめざす科目編成と教育内容・方法の実践。

国際社会に発信力のある新たな知的創造のために必要な研究遂行能力の達成。

[研究室紹介]

ファイナンスの実証分析



行動ファイナンス、マーケットマイクロストラクチャー

ファイナンスは経済学の応用分野の中で最も大きなフィールドで、経済学モデルを用いて証券市場の価格付けや企業行動を理論的に分析し、そこで得られた理論的考察を統計学、計量経済学のアプローチを用いて実証していく学問です。金融世界の実務と非常に強く結びついており、学術世界で提起された考察が実際の資産運用に活用されることがしばしばあります。大学院では、ファイナンスの実証分析を行うにあたって必要な計量経済学を教えています。教員の研究テーマはファイナンスに関わる実証分析全般で、最近は企業経営者の行動バイアスがその意思決定に与える影響、経済的インパクトに注目して研究をしております。

[学生・修了生の声]

移民送金のマクロ経済への影響を研究。

理論から実践まで網羅的に学び直したい社会人にも

満足度の高いカリキュラムが用意されています

私の研究

研究テーマ	移民送金のマクロ経済への影響 —DSGEモデルを用いた分析—
-------	-----------------------------------

新興国では近年、海外に働きに出た人が家族に送る「移民送金」が急激に増加しています。これは外貨獲得の手段としてだけでなく、自国の経済成長の原資になるとして注目が高まっています。研究では移民送金における負の効果も含めたさまざまな側面を、動学的に検証が可能な動学的確率的一般均衡モデル（DSGE）を用いて検証し、移民送金のマクロ経済への影響を検証することを主眼としています。

専攻の魅力

私は現在、主に開発途上国を支援する機関で、担当国の経済分析や信用リスク評価等を行っています。本専攻では社会人が仕事をしながら、通常の院生と同じ密度でコースワークや論文執筆に取り組めるカリキュラムが構築されています。また科目等履修制度を活用するなど、計画的な履修ができることも魅力の一つです。



藤原 真名人

修士課程 在学中

修士(M.A.)プログラム

昼夜開講

「修士(M.A.)プログラム」は、経済学研究科修士課程の教育目標である「新しい経済社会を創り出す知性と意欲を持った『応用エコノミスト』や『高度職業人』、また生涯学習における『高度教養人』を養成する」ための修士課程プログラムです。プログラムの履修要件を満たし、修士論文を提出して口述試験に合格することで修士号が授与されます。

※修士(M.A.)プログラムでは、指導教員の指導・了解のもと、「リサーチペーパー」をもって修士論文に代えることができます。その場合、34単位以上が修了要件となります。

※修士課程1年間で修了所要単位をすべて修得し、修士論文を提出して口述試験に合格することで修士号が授与されるプログラム、すなわち「修士(M.A.)プログラム1年制コース」も出願時に選ぶことができます。

修士(M.A.)プログラム 修了要件

導入科目群、基本科目群	12単位以上
「経済学演習I」「経済学演習II」	4単位以上
専門科目群	4単位以上
修士論文	
合計	30単位以上

M1 (修士1年)

「導入科目群」(リカレント教育用科目)または「基本科目群」から履修

M2 (修士2年)

研究テーマ・目標に合わせて「基本科目群」「専門科目群」から履修

修士論文
口述試験

「修士ワークショップ」にて
修士論文中間発表

博士5年(Ph.D.)プログラム

昼夜開講

「博士5年(Ph.D.)プログラム」は、経済学研究科博士後期課程の教育目標である「国際社会が直面する諸問題の解決に挑戦する意欲的な専門研究者養成」のための修士課程・博士後期課程5年一貫の教育プログラムです。プログラムの履修要件(修士課程分)を満たし「博士論文研究基礎力審査 Qualifying Examination(QE)」に合格することで博士後期課程に進学し、研究プロジェクトと内外での研究発表・公表を進め、博士論文を執筆します。

※QE合格により修士号が授与されます。※修士1年制コースでは、1年で修士取得+3年の博士後期課程で「博士4年プログラム」になります。

博士5年(Ph.D.)プログラム 修了要件

修士課程	導入科目群・基本科目群(QE筆記試験コースワークを含む)	12単位以上
	「経済学演習I」「経済学演習II」	4単位以上
	専門科目群(専攻分野コースワーク)	12単位以上
	博士論文研究基礎力審査(QE)*	
	修士課程合計	30単位以上

*QE筆記試験(2科目)、QE口述試験の合格が、修士課程修了と博士後期課程進学に必要となります。

博士後期課程	「経済学演習III～V」	8単位以上
	専門科目群	4単位以上
	博士論文	

博士後期課程合計 16単位以上

M1 (修士1年)

QE筆記試験
コースワークから履修

博士論文
研究基礎力
審査(QE)
筆記試験
(2科目合格)

M2 (修士2年)

専攻分野コースワークから履修
専攻分野コースワーク1 分野6科目12単位
以上GPA「2.7」以上、研究計画書の提出判定

「修士ワークショップ」にて
「研究計画書」中間発表

D1～D3 (修士後期1～3年)

論文指導・博士ワークショップ
「専門科目群」から履修

「修士ワークショップ」にて
博士論文中間発表

博士論文
口述試験

転プログラム(M.A.→Ph.D./ Ph.D.→M.A.)について

- 入学時、オリエンテーション後に転プログラムが可能です。両方のプログラムの特徴について理解した上で、変更の判断をしてください。
- 年度途中のプログラム変更はできませんが、次年度(4月～)に向けて2月末には(M.A.→Ph.D./ Ph.D.→M.A.どちらとも)変更の申請が可能です。
なお変更に際しては、必ず指導教員と相談してください。

経済学研究科博士後期課程修了者対象助教採用制度

博士号取得者には、経済学部助教採用(4年任期)の可能性があります。

※経済学部の採用枠内にあります。採用には教授会による審議・承認が必要となります。

修了生の研究テーマの例

- 医療資源に乏しい低・中所得国における医療サービス利用の経済分析
- 世代会計の長期比較
— 1998年から2018年の20年間における分析 —
- 自然災害が自殺へ与える影響
— 東日本大震災へのフォーカス
- 新規開業企業の資金調達と廃業に関する実証研究
- 革命後の中国における最低賃金制度の形成と発展
— 政策史的考察 —
- PPP事業における品質向上のインセンティブ構造の研究
— 中国のインフラ事業を中心として
- 両側市場における独占販売と間接ネットワーク効果
: 日本のビデオゲーム機市場のデータを用いた構造推定
- 中国の輸出企業の為替デリバティブ使用と企業価値
- 中国における地方政府間のヤードスティック競争のメカニズムデザイン
- 現代資本主義の課題と方向性
— シュンペーターの資本主義論を拠所として

[専任教員一覧] [2022年度] ※年度により授業を持たない場合があります。

専任教員	専攻	研究テーマ	主な担当科目
阿部 俊弘 教授	統計科学	角度統計、非対称モデル、推測理論、データ解析	統計学 A/B
池上 宗信 教授	開発経済学	家計の異時点間の意思決定と貧困動学、東アフリカ乾燥地におけるインデックス型家畜保険	実証経済学基礎A、開発経済論B
梅津 亮子 教授	管理会計、原価計算論	マネジメント・コントロール、コスト・マネジメント	※今年度は、特定の科目を担当しません
奥山 利幸 教授	理論経済学	景気循環・経済成長の動学・ミクロ・ゲーム理論分析	※今年度は、特定の科目を担当しません
小黒 一正 教授	財政学、公共経済学	人口動態と政治経済の相互作用や世代間問題の分析	社会保障論 A/B
小沢 和浩 教授	情報処理論	ソフトコンピューティングによるデータ解析手法	※今年度は、特定の科目を担当しません
河村 真 教授	産業組織論	産業やマクロ経済のデータを用いた統計学的分析	※今年度は、特定の科目を担当しません
岸 牧人 教授	監査論	企業財務と公認会計士監査	※今年度は、特定の科目を担当しません
後藤 浩子 教授	イギリス社会思想史	社会思想におけるリプロダクション	※今年度は、特定の科目を担当しません
小林 克也 教授	地方財政論・ミクロ経済学の応用	政府間関係の分析や政府組織についての理論分析	ミクロ経済学B、応用ミクロ経済学B
近藤 章夫 教授	経済地理学、都市・地域経済学	都市・産業集積と経済発展、立地と分業の国際比較、イノベーションの空間経済分析	経済地理学B
酒井 正 教授	労働経済論	社会保障制度と就業との関係についての実証分析	労働経済学A/B
佐柄 信純 教授	数理経済学、函数解析学	最適成長論、一般均衡理論、協力ゲーム理論	※今年度は、特定の科目を担当しません
ジェス・ダイヤモンド 教授	マクロ経済学、ファイナンス、労働経済学	投資、インフレーション、コーポレートファイナンス	※今年度は、特定の科目を担当しません
篠原 隆介 教授	公共経済学・ミクロ経済学	公共財、外部性、交渉、メカニズムデザイン	公共経済学B
胥 鵬 教授	金融ファイナンス、法と経済学	企業金融、国際金融、企業統治	金融ファイナンス論A
進藤 理香子 教授	ドイツ近現代史、西洋経済史、ヨーロッパ経済政策	ドイツ近現代史、東プロイセン史、ヨーロッパ社会経済史	※今年度は、特定の科目を担当しません
菅 富美枝 教授	民法(契約法)、消費者法	契約当事者間における交渉力の格差や非良心的取引をめぐる法的諸問題の分析	※今年度は、特定の科目を担当しません
菅 幹雄 教授	経済統計	ビジネスレジスター、経済センサス、産業連関表、観光統計	※今年度は、特定の科目を担当しません
菅原 琢磨 教授	社会保障論、社会政策、医療経済	医療・福祉・介護政策、医療品・医療機器産業の分析	※今年度は、特定の科目を担当しません
杉浦 未樹 教授	世界経済史	繊維製品や飲料のグローバルな流通、商品マーケティング史、都市史、女性史	経済史A/B
鈴木 豊 教授	契約理論、企業の理論、制度の契約理論分析	ガバナンスの比較セクター分析:ゲーム理論・契約理論によるアプローチ	※今年度は、特定の科目を担当しません
砂田 充 教授	産業組織論、企業経済学	企業経済学の実証的研究	企業経済学B
高橋 秀朋 教授	ファイナンス	株式市場の効率性の検証、マーケット・マイクロストラクチャー	実証経済学基礎B、計量経済学B
竹口 圭輔 教授	財務会計論	ストック・オプションを中心とする株式報酬の会計	※今年度は、特定の科目を担当しません
武田 浩一 教授	金融論	金融の応用ミクロ経済分析	※今年度は、特定の科目を担当しません
武智 一貴 教授	国際経済学	距離と貿易コストの関係の実証分析	※今年度は、特定の科目を担当しません
田中 優希 教授	財務会計論、環境会計	企業の環境情報開示	※今年度は、特定の科目を担当しません
田村 晶子 教授	国際経済学、マクロ経済学	国際経済の理論と実証分析	マクロ経済学A
長原 豊 教授	経済史、日本経済史、経済理論、経済学方法論	日本経済史、経済理論、経済学方法論(「レン特資本主義論」を主題にしています)	※今年度は、特定の科目を担当しません
西澤 栄一郎 教授	環境政策論	欧米の環境政策、環境保全型農業・農村の構築	環境政策論A/B
朴 傑玄 教授	都市地理学	文化産業と企業行動のグローバル化と国際的都市システム	※今年度は、特定の科目を担当しません
馬場 敏幸 教授	アジア経済、技術経営、自動車産業	開発途上国の中自動車産業創始の諸条件、自動車産業のグローバルバリューチェーン、技術変遷が経済に与えたインパクト	地域経済論IA/IB

専任教員	専攻	研究テーマ	主な担当科目
平井 俊行 教授	ゲーム理論、ミクロ経済学、公 共経済学	情報財取引や公共財供給の協力ゲーム分析、マッチング 理論	ミクロ経渋学A、応用ミクロ経済学A
廣川 みどり 教授	社会選択論、公共経済学	制度の形成についてのミクロ経済学の基礎	※今年度は、特定の科目を担当しません
ブー・トウン・カイ 教授	国際マクロ経済学の理論と実証	アジア諸国の経済成長、貿易、為替制度	国際金融論A/B
馬 欣欣 教授	中国経済論、労働経済学	中国労働市場の実証分析、中国社会保障政策の経済分析	※今年度は、特定の科目を担当しません
松波 淳也 教授	環境経済学	循環型社会形成に向けた社会経済システム	※今年度は、特定の科目を担当しません
宮崎 憲治 教授	計量経済学、マクロ経済学	マクロ経済学の計量経済学	マクロ経済学B、応用マクロ経済学B
宮脇 典彦 教授	経営統計学、経営科学、デー タ解析	経営分析と情報、統計学とその応用	※今年度は、特定の科目を担当しません
明城 聰 教授	実証産業組織論、計量経済学	消費者および企業行動に関する構造推定、規制産業における競争政策の評価	計量経済学A、応用計量経済学B
八木橋 毅司 教授	マクロ経済学、国際マクロ絏 済学、応用計量経済学	公的機関におけるマクロ経済モデルの活用、 消費・余暇選択・健康投資に関する家計行動分析	※今年度は、特定の科目を担当しません
湯前 祥二 教授	ファイナンス	リスク管理、コンピューテーション・ファイナンス	※今年度は、特定の科目を担当しません
井上 祐樹 准教授	技術経営、イノベーション・マ ネジメント	イノベーション、プラットフォーム戦略、ビジネスエコシス テムの分析と設計	※今年度は、特定の科目を担当しません
倪 彬 准教授	国際経済学、開発経済学、応 用計量経済学	国際貿易、外国直接投資、開発経済、環境経済	※今年度は、特定の科目を担当しません
濱秋 純哉 准教授	公共経済学、応用計量経済学	家計行動のミクロ計量分析	経済政策A
平瀬 友樹 准教授	経済理論形成史	戦間期におけるマクロ経済分析の再評価	※今年度は、特定の科目を担当しません
森田 裕史 准教授	マクロ経済学、時系列分析	金融財政政策の効果に関する実証分析	※今年度は、特定の科目を担当しません

[設置科目] [2022年度] ※開講科目は年度により異なります。() = 単位数

修士課程

- 【導入科目群】
- リカレント教育用科目
 - 経済学基礎A/B(各2)
 - 実証経済学基礎A/B(各2)
- 【基本科目群】
- 研究基礎力
 - (QE筆記試験コースワーク科目)
 - 社会経済学A/B(各2)
 - 経済史A/B(各2)
 - ミクロ経済学A/B(各2)
 - マクロ経済学A/B(各2)
 - 計量経済学A/B(各2)
- 【専門科目群】
- 研究応用力
 - (専攻分野コースワーク科目)
 - ◆歴史・思想・制度
 - 応用ミクロ経済学A/B(各2)
 - 応用マクロ経済学A/B(各2)
 - 統計学A/B(各2)
 - 金融経済学A/B(各2)
 - 金融ファイナンス論A/B(各2)
 - 実証ファイナンスA/B(各2)
 - 企業経済学A/B(各2)
 - 経済と会計A/B(各2)
 - 國際金融論A/B(各2)
 - 政策・環境
 - 応用ミクロ経済学A/B(各2)
 - 応用マクロ経済学A/B(各2)
 - 統計学A/B(各2)
 - 日本経済論A/B(各2)
 - 環境経済論A/B(各2)
 - ◆政策・環境
 - 応用ミクロ・応用マクロ・計量
 - 応用ミクロ経済学A/B(各2)
 - 応用マクロ経済学A/B(各2)
 - 統計学A/B(各2)
 - 日本語I A/I B(各1)
 - 日本語II A/II B(各1)
 - 日本語III A/III B(各1)

「修士(M.A.)プログラム・履修科目例 (A/Bは省略)

「公共政策」「社会保障」をテーマにして、修士論文を執筆する方の履修科目例	
M1 (修士1年)	「経済学基礎」「実証経済学基礎」 「ミクロ経済学」「マクロ経済学」 「経済学演習I」
M2 (修士2年)	「公共経済学」「社会保障論」 「経済学演習II」修士ワークショップ

*修士ワークショップにおいて修士論文中間発表

*「プログラム」とは、履修上の区分であり、修士課程のみで修了しようとする方は「修士(M.A.)プログラム」に沿った履修を、修士課程から博士後期課程に進学しようとする方は「博士5年(Ph.D.)プログラム」に沿った履修を行います。
※修士課程入学前に科目等履修生として「導入科目群」あるいは「基本科目群」のいくつかを履修することも可能です。科目等履修生として履修した科目は、修士課程入学後、申請・審査の上、単位認定されます。
認定可能単位数は入学時にご確認ください。

博士後期課程

- 【研究指導科目群】
- 経済学演習
III A/III B(各2) [1年次]
 - 経済学演習
IV A/IV B(各2) [2年次]
 - 経済学演習
V A/V B(各2) [3年次]
- 【専門科目群】
- 修士課程と合同で行われます
- なお、単位にはなりませんが、ワークショップでの報告(修士2回、博士後期3回)が修了要件となります。

- 【研究指導科目群】
- 経済学演習I A/I B(各2) [1年次]
 - 経済学演習II A/II B(各2) [2年次]

- 【特別講義】
- 特別講義I A/B ~IV A/B(各2)

【留学生向け科目】

- 日本語I A/I B(各1)
- 日本語II A/II B(各1)
- 日本語III A/III B(各1)

「博士5年(Ph.D.)プログラム」修士課程・履修科目例 (A/Bは省略)

「金融」「ファイナンス」を研究テーマにして博士後期課程をめざす方の履修科目例	
Ph.D.1 (修士1年)	「実証経済学基礎」 「マクロ経済学」「計量経済学」 「経済学演習I」
Ph.D.2 (修士2年)	「応用マクロ経済学」「金融経済学」「実証ファイナンス」 「経済学演習II」修士ワークショップ

*修士ワークショップにおいて「研究計画書」中間発表
※この履修例は「修士(M.A.)プログラム」の履修要件も満たす

法律学専攻

詳細は[こちら](#)



募集人員

修士課程20名／
博士後期課程5名

キャンパス

市ヶ谷

主な進路

公務員、金融、情報通信、
サービスなど



昼間開講

修了要件・履修案内・
時間割・シラバス



高度な専門性と柔軟な法的思考

少子高齢化・グローバル化など、私たちを取り巻く環境が大きな転換期を迎えた今日、大学院における法律学研究の社会的な意義や役割もまた、多様化の時代を迎えています。

かつては、やがて法律学の研究者・教育者として巣立っていくことをめざす人たちの学びの場としての機能が大半を占めていました。しかしながら今日では、社会人経験を持つ方が実体験の中から獲得した法律上の疑問点等について考究する場として、あるいは外国からの留学生の方が母国との法と日本法との比較法研究を行った上で、母国や日本で両国の架け橋となるような研究や仕事に就くための学びの場としても機能することが、大いに期待されるようになっています。私たちはこのような多様なニーズに応えるべく、一般入試に加え社会人入試や外国人入試を実施し、幅広い学生を受け入れています。

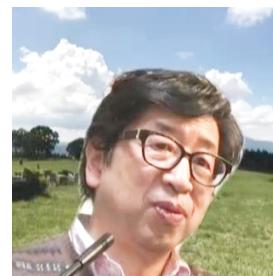
その上で、コースワーク科目によって外国文献の読み方・理解の仕方の修得や、各法分野の専門的・体系的知識の獲得を促す一方、リサーチ科目によって各自の研究テーマ・問題関心の深化を図るとともに、法律学論文を執筆するためのさまざまな手法・作法等を教授しています。本専攻での学びを通じて、物事を多様な観点から法的に分析し、説得力のある法理論に基づいて法律を解釈し、あるいは法制度設計を行う能力を身につけていただくことを、教員一同心から期待しています。

[研究室紹介]

商法(特に会社法・決済法)研究

新時代の法律問題に 多角的な視点から取り組む研究を

商法分野、とりわけ会社法・金融法に関する研究テーマの学生を受け入れています。ここ数年の間に私の論文指導のもとで学位取得した院生の研究テーマを挙げると、クラウドファンディングの法規制、ビットコインの法律関係、キャッシュ・アウト時の少数派株主保護など、いずれも私法上の法律関係についての考察だけでは収まり切らず、ソフト・ロー行政規制も含めた多角的な視点で法状況へ目配りすることを要する新しいテーマに取り組んだものでした。指導する私にとっても、旧来の知識や視点の置き方を現代の企業活動に適したものにアップデートする貴重な機会になると感じ、楽しく研究指導をさせてもらっています。



橡川 泰史 教授

[学生・修了生の声]

国際社会の平和実現に少しでも貢献するため 国際法の研究者をめざす

専攻の魅力

研究テーマ

国際法における保護法益の相克とその法的調整
—国連海洋法条約27条を素材として—

国際法の研究者をめざし、国際法に関する専門的な勉強に力を注いでいます。現在は国際法に関する国内外の論文や、国際裁判所の判例といった文献の精読が中心ですが、扱う文献は多岐にわたり、中には1世紀近く前に発表されたドイツ語の論文などもあります。古今東西の文献に触れて知的好奇心が大いに刺激されるとともに、先生のご指導のもとで研究の楽しさを実感しています。



小野 純矢
博士後期課程 在学中

将来の目標

国際社会には紛争や貧困など、さまざまな問題が存在し、多くの関係者がその解決に向けて力を尽くしています。私自身もそうした国際社会の平和の実現に少しでも貢献できるよう、本専攻でしっかりと学び「研究力」を高めたいと考えています。本専攻では法律の各分野を代表する先生方にご指導いただけるので、学問の潮流を肌で感じながら、最先端の学びができることが魅力です。

[専任教員一覧] [2022年度] ※年度により授業を持たない場合があります。

専任教員	専攻	研究テーマ	主な担当科目
青柳 由香	教授 経済法	国家の競争中立性（国家補助規制、調達と競争政策）、独占禁止法と知的財産権法	※今年度は、特定の科目を担当しません
荒谷 裕子	教授 商法、金融商品取引法	金融商品取引法上の諸問題の研究。株式会社の機関に関する研究	商法演習Ⅲ/IV、商法論文指導Ⅰ～IV
大澤 彩	教授 民法、消費者法、医事法	消費者法との関係から見た現代における民法典の意義、フランス契約法・消費法研究	民法特殊講義Ⅰ/II、民法論文指導Ⅰ～IV、民事法特殊研究Ⅲ/IV、民法特研研究Ⅲ/IV
大野 達司	教授 法哲学	法の妥当性、法の動態、自治、ドイツ法・国家思想	法律学原典研究（独語）Ⅰ/II、法哲学特殊講義Ⅰ/II
小山田 朋子	教授 英米法	医事法、信託法、AI法などの分野における日米比較	英米法特殊講義Ⅰ/II、基礎法特殊研究Ⅰ/II
金子 匡良	教授 憲法、人権政策	国及び自治体の人権救済制度、国内人権機関	憲法特殊講義Ⅲ/IV
神谷 高保	教授 会社法・商法・海商法・保険法・信託法・法と経済学	取締役の責任・内部統制など、利得禁止原則・新保険法、共同海損など、信認法・医療と法など、商事法制史、法学（大学・古典）教育	※今年度は、特定の科目を担当しません
川口 由彦	教授 日本法制史	日本近代の土地法制、日本近代法史の通史、村落制度と行政村の関係について	法制史特殊講義Ⅰ/II、法制史論文指導Ⅰ～IV
川村 洋子	教授 民法の所有権法と契約法	契約損害賠償制度を軸とする日本民法の約束保障制度の比較法研究	民法特殊講義V/VI、民法論文指導Ⅰ～IV、民事法特殊研究Ⅰ/II、民法特研演習Ⅰ～VI
倉部 真由美	教授 民事訴訟法・倒産法	民事再生手続や会社更生手続のような再建型倒産手続における担保権の処遇	倒産法特殊講義Ⅰ/II
國分 典子	教授 憲法、韓国法	アジアの比較憲法思想史的研究、アジアの違憲審査制度についての研究	憲法演習Ⅲ/IV
杉本 和士	教授 民事手続法・倒産法	民事実体法と手続法の交錯、倒産手続における優先権の処遇	※今年度は、特定の科目を担当しません
高 友希子	教授 西洋法制史	エクイティ研究、英國法の日本民法典への影響	法制史特殊講義Ⅲ/IV
高橋 滋	教授 行政法、環境法	行政法、環境法	※今年度は、特定の科目を担当しません
武生 昌士	教授 知的財産法	先使用概念/先使用権制度に関する研究	知的財産法論文指導Ⅰ～IV
建石 真公子	教授 憲法	憲法と条約の関係、フランスの基本権に対するヨーロッパ人権条約の影響、「家族形成権」と「生命に対する権利」における「個人の尊重」	憲法特殊講義Ⅰ/II、憲法論文指導Ⅰ～IV、公法特殊研究Ⅲ/IV、憲法特研演習Ⅲ/IV
櫻川 泰史	教授 商法・会社法・有価証券法・決済取引法	決済取引の法的問題	※今年度は、特定の科目を担当しません
西田 幸介	教授 行政法	行政計画、私人間の協定、土地法、アメリカ土地利用法	行政法特殊講義Ⅰ、行政法演習Ⅰ/II、行政法論文指導Ⅰ～IV、公法特殊研究Ⅰ、行政法特研演習Ⅰ～VI
沼田 雅之	教授 社会保障法、労働法	有期労働契約、労働者派遣、非正規労働者の社会保険加入など、非正規労働者の労働法・社会保障法上の課題研究	労働法演習Ⅰ/II、社会保険法演習Ⅰ/II、労働法論文指導Ⅰ～IV、社会法特研演習V/VI
浜村 彰	教授 労働法	労働者代表制、労働者派遣法、労働契約法など	労働法論文指導Ⅰ～IV、労働法特殊講義Ⅲ/IV
潘 阿憲	教授 会社法、保険法、金融商品取引法	会社の運営管理機構等に関する研究	商法特殊講義Ⅰ/II、商法演習V/VI、商法論文指導Ⅰ～IV
藤本 茂	教授 労働法	雇用平等法、労働契約法	労働法特殊講義Ⅰ/II
森田 章夫	教授 國際法	國際コントロール、國際海洋法、國家管轄権の域外適用	公法特殊研究Ⅰ/II、國際法特研演習Ⅰ/II
和田 幹彦	教授 民法（特に親族・相続法）・民事法立法史・法と遺伝学	家族法解釈学・立法史、法と生命倫理、法と遺伝学、法と進化生物学・進化心理学	※今年度は、特定の科目を担当しません
佐藤 輝幸	准教授 刑事法	危険犯論、社会的法益に対する罪	※今年度は、特定の科目を担当しません
佐野 文彦	准教授 刑事法	刑事責任論、刑罰論	刑法特殊講義Ⅰ/II
田中 佐代子	准教授 國際法	國際法上の緊急避難、自衛権	※今年度は、特定の科目を担当しません

[設置科目] [2022年度] ※開講科目は年度により異なります。() = 単位数

修士課程

- リーガル・リサーチ(2)
 - 法律学原典研究
(英語) I / II (各2)
 - 法律学原典研究
(独語) I / II (各2)
 - 法律学原典研究
(仏語) I / II (各2)
 - 法律学原典研究
(露語) I / II (各2)
 - 法律学特殊講義A～C (各4)
 - 法哲学特殊講義 I / II (各2)
 - 法史学特殊講義 I～IV (各2)
 - 比較法特殊講義 I / II (各2)
 - 英米法特殊講義 I / II (各2)
 - 基礎法特殊講義A/B (各4)
 - 憲法特殊講義 I～IV (各2)
 - 行政法特殊講義 I～IV (各2)
 - 國際法特殊講義 I / II (各2)
 - 國際人權法特殊講義 I / II (各2)
 - 公法特殊講義A～C (各4)
 - 法民特殊講義 I～VI (各2)
 - 商法特殊講義 I～VI (各2)
 - 経済法特殊講義 I / II (各2)
 - 知的財産法特殊講義 I / II (各2)
 - 民事訴訟法特殊講義 I / II (各2)
 - 逆訴訟法特殊講義 I / II (各2)
 - 国際私法特殊講義 I / II (各2)
 - 民事法特殊講義 A～C (各4)
 - 勞働法特殊講義 I～IV (各2)
 - 社会保障法特殊講義 I / II (各2)
 - 教育法特殊講義 I / II (各2)
 - 社会法特殊講義A/B (各4)
 - 刑法特殊講義 I～IV (各2)
 - 刑事訴訟法特殊講義 I / II (各2)
 - 刑事政策特殊講義 I / II (各2)
 - 刑事法特殊講義A～C (各4)
 - 法哲学演習 I / II (各2)
 - 法制史演習 I / IV (各2)
 - 英米法演習 I / II (各2)
 - 法哲学論文指導 I～IV (各2)
 - 制法論文指導 I～IV (各2)
 - 英米法論文指導 I～IV (各2)
 - 憲法演習 I～IV (各2)
 - 行政法演習 I / II (各2)
 - 國際法演習 I / II (各2)
 - 憲法論文指導 I～IV (各2)
 - 行政法論文指導 I～IV (各2)
 - 國際公法論文指導 I～IV (各2)

博士後期課程

- 基礎法特殊研究Ⅰ～Ⅳ(各2)
 - 基礎法特殊研究A～C(各4)
 - 公法特殊研究Ⅰ～Ⅳ(各2)
 - 公法特殊研究A～C(各4)
 - 民事法特殊研究Ⅰ～Ⅳ(各2)
 - 民事法特殊研究A～C(各4)
 - 社会法特殊研究Ⅰ～Ⅳ(各2)
 - 社会法特殊研究A～C(各4)
 - 刑事法特殊研究Ⅰ～Ⅳ(各2)
 - 刑事法特殊研究A～C(各4)
 - 法哲学特研演習Ⅰ～VI(各2)
 - 制法史特研演習Ⅰ～VI(各2)
 - 英米法特研演習Ⅰ～VI(各2)
 - 基礎法特研演習Ⅰ～VI(各2)
 - 憲法特研演習Ⅰ～VI(各2)
 - 行政法特研演習Ⅰ～VI(各2)
 - 國際法特研演習Ⅰ～VI(各2)
 - 公法特研演習Ⅰ～VI(各2)
 - 民法特研演習Ⅰ～VI(各2)
 - 商法特研演習Ⅰ～VI(各2)
 - 民事訴訟法特研演習Ⅰ～VI(各2)
 - 倒産法特研演習Ⅰ～VI(各2)
 - 経済法特研演習Ⅰ～VI(各2)
 - 知的財産法特研演習Ⅰ～VI(各2)
 - 民事法特研演習Ⅰ～VI(各2)
 - 労働法特研演習Ⅰ～VI(各2)
 - 社会保障法特研演習Ⅰ～VI(各2)
 - 社会法特研演習Ⅰ～VI(各2)
 - 刑法特研演習Ⅰ～VI(各2)
 - 刑事訴訟法特研演習Ⅰ～VI(各2)
 - 刑事政策特研演習Ⅰ～VI(各2)
 - 刑事法特研演習Ⅰ～VI(各2)

政治学専攻

詳細はこちら



募集人員

修士課程10名／
博士後期課程5名

キャンパス

市ヶ谷

主な進路

教育関連（教員）、公務、
出版、商社、金融、進学
(博士後期課程)など



昼間開講

(一部夜間開講)

修了要件・履修案内・
時間割・シラバス



今日の政治問題を規範的かつ経験的に解明

【私たちがめざすもの】

政治学専攻は、人間の共存の技術としての政治を、空間的な広がりと時間的な流れに留意しながら、規範的かつ経験的に研究できる能力を持った研究者の養成とともに、政治的現実に働きかける実践を担うことのできる人材の育成をめざしている。この理念のもと、第一に規範論的な研究を追求し、第二に、こうした規範論を踏まえつつ、具体的な現実政治に即した実証研究を行う。すなわち、政治思想史・政治理論、政治史・政治過程論などのアプローチに複合的に取り組む。

みなさんへの要望

政治とは何かを自問自答しながら、自らの政治的関心を主体的に探求してください。

本学大学院出身の専任教員

明田川融教授からのメッセージ

私はこの大学院で、何より権力に対する批判精神と、より自由になるための構想力こそ政治学の生命線であることを教わりました。それから四半世紀がたち、研究者となつたいまでも、その教えが研究活動の駆動力であることに変わりはありません。

政治学の対象である政治とは何であろうか？

All you need is love. ジョン・レノン
それが本当に僕の究極的な政治的信念だ。

政治はサタンの道具である。ボブ・ディラン

あなたの考えは？

[研究室紹介]

政治学史、政治思想史

現代政治の理論的・思想的前提を探る

政治学にはさまざまなテーマやアプローチがあります。政治学史、政治思想史と呼ばれる分野を担当する本研究室は、現代政治の理論的・思想的前提出を分析しています。現代政治の制度や慣行は、さまざまな歴史的な積み重ねによって生まれたデリケートなバランスのうえに成り立っています。その積み重ねの層を一つひとつ丁寧に解明するのが、本研究室の役割です。この研究には、政治学としてのミッションと、過去を正しく理解するという歴史学としてのミッションがありますので、この2つの要請をどのように折り合わせるかという方法論の検討も不可欠です。大学院教育では、外国語文献を正確に読むトレーニングを重視しています。



犬塚 元 教授

[学生・修生の声]

授業以外にも研鑽の機会が豊富。

研究に打ち込むのにこれ以上ない環境です

専攻の魅力

研究テーマ 現代デモクラシー理論

専攻の教授陣は、研究・実践の最前線で活躍されている先生方ばかりと言っても過言ではなく、実際、私も指導を仰ぎたい先生がいたことから同専攻を選びました。授業はもとより、指導教員の先生を囲む読書会などもあり、狭い意味での政治学に留まらず、さまざまな知見に触れる機会が豊富です。専攻の学びは私にとって貴重な財産になりました。



松尾 隆佑

博士後期課程 2016年度修了／
宮崎大学 講師

大学院の魅力

政治学専攻の大学院生が集まり、頻繁に読書会や研究会を開いて研鑽を積んだことが思い出です。また、年に1回は院生の手による学術雑誌を刊行し、編集作業に悪戦苦闘しつつも、自らの研究成果を世に発信する喜びを仲間とともに分かち合いました。院生への支援制度も充実しており、研究に打ち込むのにこれ以上ない恵まれた環境だと思います。

[専任教員一覧] [2022年度] ※年度により授業を持たない場合があります。

専任教員	専攻	研究テーマ	主な担当科目
明田川 融 教授	日本政治史	在日米軍基地および日米地位協定をめぐる政治史、琉球・沖縄政党政治史	日本政治史研究Ⅰ/2
油本 真理 教授	比較政治学・地域研究	現代ロシア政治	※今年度は、特定の科目を担当しません
犬塚 元 教授	政治学史、政治思想史	西洋政治思想史、思想史方法論	政治思想史研究Ⅰ/2
上田 和夫 教授	言語哲学	現代ドイツ言語哲学、フランクフルト学派の哲学とプラグマティズムの間の関係	※今年度は、特定の科目を担当しません
木村 正俊 教授	国際政治とその歴史、現代中東政治	中東における国家形成と国際政治システムの形成・変容、パレスチナ問題	※今年度は、特定の科目を担当しません
河野 有理 教授	日本政治思想史	江戸・明治期を中心とした政治思想史	※今年度は、特定の科目を担当しません
新川 敏光 教授	比較政治学	福祉国家再編論・ポスト福祉国家の政治に関する比較研究	博士論文演習ⅡA/B
杉田 敦 教授	政治理論	権力論、デモクラシー論	政治理論研究Ⅰ/2
塚本 元 教授	現代台湾政治、近代中国政治外交史	現代台湾の選挙・中台関係	※今年度は、特定の科目を担当しません
中野 勝郎 教授	アメリカ政治史・思想史	建国期の政治思想、戦後アメリカの保守主義	※今年度は、特定の科目を担当しません
細井 保 教授	政治体制論	政治体制を制度と理念の両面から考察	政治史研究Ⅰ/2
山口 二郎 教授	政治過程論	現代政治、議会政治、政党政治	政治過程研究Ⅰ/2
山本 阪 教授	福祉国家史	社会政策(史)、スコットランドの社会保障	※今年度は、特定の科目を担当しません

[設置科目] [2022年度] ※開講科目は年度により異なります。() = 単位数

修士課程	博士後期課程
<ul style="list-style-type: none"> ■ 政治学特殊演習1/2(各2) ■ 政治理論研究1/2(各2) ■ 政治理論演習1/2(各2) ■ 政治制度研究1/2(各2) ■ 行政学研究(2) ■ 政治史研究1/2(各2) ■ 日本政治史研究1/2(各2) ■ 政治思想史研究1/2(各2) ■ 政治思想史演習1/2(各2) ■ 公共哲學研究1/2(各2) ■ コミュニティ研究1/2(各2) ■ フェミニズム研究1/2(各2) ■ マスコミ研究1/2(各2) ■ 公共政策研究1/2(各2) ■ 國際刑事裁判研究1/2(各2) ■ 政治過程研究1/2(各2) ■ 行政理論研究1/2(各2) ■ 政策学研究1/2(各2) 	<ul style="list-style-type: none"> ■ 都市思想史1/2(各2) ■ 権力論(2) ■ 政治と科学技術(2) ■ 政治権力論(2) ■ 比較政治論1/2(各2) ■ 連帯社会とサードセクター(4) ■ 立法学研究1/2(各2) ■ 公共事業研究1/2(各2) ■ 自治体研究1/2(各2) ■ 行政改革研究(2) ■ 自治制度研究(2) ■ 公務員制度研究(2) ■ 都市政策特別セミナー1/2(各2) ■ 高齢社会の政治と政策1/2(各2) ■ 雇用・労働政策研究(2) ■ 政策法務論(2) ■ 防災危機管理研究(2) ■ 市民自治と憲法(2) ■ 情報政策研究(2) ■ ジェンダー政治研究1/2(各2) ■ 自治体福祉政策論(2) ■ 自治体議会論(2) ■ NPO論1/2(各2) ■ 市民社会論(2) ■ シンクタンク論(2) ■ 公共政策と非営利セクター(2) ■ 社会運動論(2) ■ 國際NGO概論(2) ■ 国際政治の基礎理論1/2(各2) ■ Asian and Global Politics(2) ■ 国際政治理論研究1/2(各2) ■ 国際開発政策研究1/2(各2) ■ 国際政治史研究1/2(各2) ■ 政治体制論研究1/2(各2) ■ 外交政策研究1/2(各2) ■ 国際地域研究1/2(各2) ■ 東アジア政治研究基礎1/2(各2) ■ アメリカ政治研究1/2(各2) ■ アメリカ外交研究1/2(各2) ■ 日中関係政策論1/2(各2) ■ 平和軍事研究1/2(各2) ■ 国連・平和構築研究1/2(各2) ■ 自治体国際政策研究1/2(各2) ■ 安全保障政策研究(2) ■ 国際情報論1(開発とメディア)(2) ■ 国際情報論2(援助とメディア)(2) ■ 国際情勢分析論1/2(各2) ■ 国際行政研究1/2(各2)

修了生の研究テーマの例

- ステークホルダー・デモクラシーのモデル構築
—ポスト政治期における多元的統治の民主的統御に関する規範理論研究—
- 延辺朝鮮族自治州から見る中朝関係—「1966-1969年」を中心に
—冷戦後日本の中央アジア政策と戦略
—「ユーラシア外交」から「中央アジア+日本」対話を中心に—
- 中国朝鮮族の現状と課題に関する—考察—延辺と東京に焦点を当てて
- 林達夫論—関東大震災への応答—
- ドイツ連邦共和国成立に対する英外交の史的考察—1948年～1954年—
- 『中華人民共和国反家庭暴力法』の立法過程研究—女性団体の参加を中心に—
- 戦後革新勢力の対立と分裂

国際政治学専攻

詳細はこちら



募集人員

修士課程10名

キャンパス

市ヶ谷

主な進路

教育関係、金融、建設業、進学(博士後期課程)など

修了要件・履修案内
時間割・シラバス

国際政治の本質を見極められる 冷静な国際人を養成する

世界の至るところで、グローバリゼーション（世界標準の伝播）とジオポリティクス（個別特殊性の発揮）のせめぎあいや対立が見られます。新しい時代には、これに見合う問題解決とコミュニケーションの能力が求められます。国際政治の諸分野における専門性に裏打ちされた構想力・交渉力・実行力を持つ人材の育成が緊急課題です。国際政治学専攻は、こうした時代の要請に応える、国際政治、開発協力、地球環境、平和構築、人間の安全保障、グローバル・ガバナンスなどの分野において優れた研究・教育実績を持つ専任教員を有しています。留学生や社会人も積極的に受け入れており、多様性に富んだ大学院生を対象にして、国際的に通用する高度専門職業人や研究者の養成を行っています。

[アドミッション・ポリシー]

1. 国際政治に関する専門知識や英語力を身につけ、国際的に通用する高度専門職業人、あるいは国際政治を専門とする研究者をめざす強い意欲が具体的に認められる人材を求める。
2. 大学学部レベルの政治学ないし関連諸学についての既修・未修は問わない。大学における学部教育の未修者であっても、社会的経験と問題意識ないし学問的意欲において大学卒と同等かそれ以上の学力が認められる人材を求める。
3. 上記の条件を満たしているかどうかを入学試験により判定する。一般入試においては、専門科目の筆記試験、研究計画等についての口述試験、そして提出書類の審査により、外国人入試においては、専門科目の筆記試験、研究計画等についての口述試験、そして提出書類の審査により、社会入試においては、研究計画等についての口述試験、そして提出書類の審査により判定を行う。

[研究室紹介]

ヨーロッパ国際関係史—「戦争と平和」をめぐる政治

大国間の権力政治と国際秩序の変動

国際関係論(国際政治学)といっても、その内実はさまざまな学問分野の「寄り合い所帯」であり、研究を遂行するにあたっての方法論も多岐にわたる。政治学、歴史学、哲学、そして経済学はもちろんのこと、知識人などを研究対象とする場合には文学などの素養も求められる。研究テーマを設定し、それに取り組むための方法論を見つけるには、相応の知見が求められる。

本研究室では、歴史的なアプローチに基づき、ヨーロッパの国際関係に関するさまざまな問題を扱う。歴史上の出来事から「政治」を抽出し、それを分析することが目的である。外交文書などの一次史料を渉猟し、そこから戦争と平和をめぐる問題を探るために材料を抽出しなければならない。



宮下 雄一郎 教授

[学生・修了生の声]

奨学制度によりダブルディグリーを取得。

日・英で得た知見を日韓交流に活かしたい

専攻の魅力

研究テーマ

米韓のTHAAD配備と中国の経済報復
—中国の対応変化を中心に—

大学の卒業論文から続く研究テーマを修士レベルに深化する上で、本専攻の多彩なカリキュラムにより研究の視点が広がったと思います。論文の構想発表会やドラフト批評会でも、院生や教授たちによる鋭い指摘が参考になりました。また、イギリスの大学院でも修士号を取得するダブルディグリーをめざしていた私にとって、英語での授業や留学に役立つ講座などが充実している点もありがとうございました。



高 民志

修士課程 2018年度修了／
駐日大韓民国大使館内
韓国国際交流財団(KF)
東京事務所 勤務

将来の目標

現在は、学術や文化の面で日本と韓国の交流を活性化するほか、韓国の公共外交の推進に携わっています。法政大学の海外留学奨学金制度を利用してイギリスに留学し、現地の大学院でも修士号を取得できました。日本とイギリス、両国の学びにより培ったグローバルな視野と姿勢を磨きながら、支援事業や業務を通して、次世代の友好な日韓関係の一助を担いたいと思います。

[専任教員一覧]

[2022年度] ※年度により授業を持たない場合があります。

専任教員	専攻	研究テーマ	主な担当科目
浅見 靖仁 教授	比較政治学、開発学、東南アジア研究	東南アジアの政治経済、開発研究、アジア諸国の中社会福祉制度	国際地域研究(東南アジア)(1)/(2)
熊倉 潤 准教授	中国研究、旧ソ連研究	中国とソ連の民族政策、中国と旧ソ連諸国の国際関係	国際地域研究(中国)(1)/(2)
権 鎬淵 教授	平和軍事研究、政軍関係	日本の防衛政策、日本の対外政策、東北アジアの安全保障問題	国際地域研究(朝鮮半島)(1)/(2)
坂根 徹 教授	国際公共政策、国連研究、行政学等	国際公共政策、国連システムの調達行政、国際行政等	国際公共政策(1)/(2)、国際公共調達研究(1)
高橋 和宏 教授	日本外交史、経済外交論、国際関係史	冷戦期の日米関係、国際経済秩序をめぐる日本外交	日本政治外交研究1/2
福田 圓 教授	国際政治、中国外交、中台関係	中国と台湾の関係史および現状分析、中国外交と国際環境の相互作用	アジア国際政治史
本多 美樹 教授	国際関係論、国際機構論、伝統的・非伝統的安全保障研究、国連研究	国際社会による平和のための協働と確執、アジア太平洋地域の安全保障	非伝統的安全保障研究、地球規模課題政策研究
溝口 修平 教授	比較政治学、旧ソ連地域研究	旧ソ連諸国の政治体制、現代ロシア政治外交	ロシア政治外交研究1/2
宮下 雄一郎 教授	国際関係論、国際関係史、戦争史	フランス外交史、日仏関係史、ヨーロッパ統合論	国際地域研究(ヨーロッパ)(1)/(2)
弓削 昭子 教授	国際開発と平和構築	国連システムの国際開発活動と平和構築	国連・平和構築研究1(国連組織)、持続可能な開発のための教育(ESD)、開発援助運営論:JICA講座、国際機関講座、総合講座・国際協力講座

[設置科目]

[2022年度] ※開講科目は年度により異なります。() = 単位数

修士課程
●基礎理論科目
■国際政治理論(2) ■アメリカ外交史(2) ■政治理論研究1/2(各2) ■国際政治史研究1/2(各2) ■アジア国際政治史(2) ■国際公共政策研究1/2(各2) ■国際協力政策研究1/2(各2) ■非伝統的安全保障研究(2)
●国際政治専門英語科目
■Academic Reading(初級)(2) ■Academic Reading(上級)(2) ■Thesis Writing(初級)(2) ■Thesis Writing(上級)(2) ■Presentation & Debate(初級)(2) ■Presentation & Debate(上級)(2)
●グローバル・イシュー科目
■国連・平和構築研究1(国連組織)(2) ■国連・平和構築研究2(平和構築)(2) ■国際公共調達研究1/2(各2) ■持続可能な開発のための教育(ESD)(2) ■国際食糧資源エネルギー政策(2) ■地球規模課題政策研究(2)
●国際政治科目
■アジア比較政治(2) ■アジア統合論(2) ■戦略と政策(2) ■アメリカの対外政策(2) ■対外政策研究(中国)(1)/(2)(各2) ■対外政策研究(朝鮮半島)(1)/(2)(各2) ■ロシア政治外交研究1/2(各2) ■国際地域研究(中国)(1)/(2)(各2) ■国際地域研究(朝鮮半島)(1)/(2)(各2) ■国際地域研究(ロシア)(1)/(2)(各2) ■国際地域研究(東南アジア)(1)/(2)(各2) ■国際地域研究(ヨーロッパ)(1)/(2)(各2) ■日本政治外交研究1/2(各2)
●実践講座科目
■グローバル政治経済特別セミナー(2) ■開発援助運営論:JICA講座(2) ■国際機関講座(2) ■総合講座・外交総合講座(2) ■総合講座・国際協力講座(2)

修了生の研究テーマの例

- An Analysis of Police Actions during Communal Riots in India using the Theory of Street-Level Bureaucracy
- 1950年代から1960年代までの中ソ関係(権力闘争の視点を中心に)
- 中国の高齢者福祉制度の展望ー日本の介護保険制度からの示唆
- 日本の国際人道支援における人的被害のリスク許容度ーNGOへの渡航制限と世論の関係に着目してー
- 中国現代少数民族のアイデンティティに関する研究ー五峰県の土家族(トウチャ族)を例としてー
- Japan's re-posture in the South China Sea security and implications for Vietnam
- 日本の対ベトナム政策支援型援助の有効性を問うー石川プロジェクトにおける国営企業改革支援事業を事例にー
- 国際連合安全保障理事会改革における日本の外交戦略と戦術の分析ー冷戦後における日本の対国連政策を中心にー
- Kennan and Japan: An Assessment of George Kennan's Occupation Policy toward Japan
- 技能実習制度を利用した建設に係わる技術移転に関する研究
- Formerly Abducted Girl Soldiers in a Post-Conflict Country: A Case of Northern Uganda
- ロシアの戦術核兵器に関する考察

社会学専攻

詳細はこちら



募集人員

修士課程20名／
博士後期課程5名

キャンパス

市ヶ谷・多摩

主な資格

専門社会調査士

主な就職先および勤務先

教育、医療福祉、情報通信
信、出版、印刷など

長期履修制度有 (修士課程)

社会学コース



メディアコース



修了要件・履修案内・
時間割・シラバス



「社会学コース」と「メディアコース」

現代社会の諸課題に応える知的技法の修得

人間は一人で生きることができません。そして、人間が集まると社会が生まれます。その人間と社会をめぐるさまざまな営みが、社会学という学問の対象です。とはいえ、人間も社会も常に変化しています。インターネットの普及、グローバル化が進み人々は国境を越えて移動、家族や夫婦の形も急速に変わりつつあります。社会学専攻では、「社会学コース」と「メディアコース」の2コースにおいて、社会学、メディア論、国際社会論をはじめ、隣接する人文・社会諸科学の成果を学ぶことによって、現代社会の諸問題を系統的に認識・解明する高度な学術研究の遂行能力を有する人材の育成をめざします。

「社会学コース」では、院生が調査研究を行う中心的な土台に社会学を据え、その他の社会科学諸分野の知見を取り入れながら多様な社会問題に取り組む研究者を養成します。「社会学コース」は多摩と市ヶ谷の2キャンパスで昼間授業を開講します。「メディアコース」では、メディア理論、メディアの歴史と思想、メディア分析のための調査研究法など、メディア分野の研究者や高度専門職業人に求められる諸領域を広く学ぶことができます。「メディアコース」は土曜日や夜間にも市ヶ谷キャンパスで授業を開講し、社会人も学びやすい環境を用意しています。

社会学専攻の修了生は、大学など研究機関をはじめ、国内外のさまざまなメディア企業・国際機関・一般企業で活躍しています。

修士課程

アドミッション・ポリシー

(学生受け入れ方針)

カリキュラム・ポリシー

(教育課程の編成・実施方針)

ディプロマ・ポリシー

(学位授与の方針)

修士課程では、社会学、隣接する社会諸科学、人文諸科学の分野に強い学問的関心を持つ、つぎのような人材を広く求める。

- 1.社会学、メディア論、国際社会論の領域で、社会の諸問題をめぐって独立した研究能力を形成する意欲のある人材。
 - 2.社会についての豊かで深い学識を備え、メディア企業・国際機関・一般企業などで働く専門的職業人をめざす人材。
 - 3.社会人としての経験をもとに、社会をめぐる豊かで深い学識を形成し、実践的に課題の解決に向かおうとする人材。
- このため、入学試験では、社会学、メディア論、国際社会論の領域における専門的知識と語学力が一定水準に達しているかが判定される。また「社会人入試制度」を設けて、社会人を積極的に受け入れる。

修士課程では、社会学の課題領域に応じて社会学コースとメディアコースとにわけ、各領域の学問的成果の蓄積と将来の方向性を大学院生が適切に学べるようにするとともに、院生各自の研究テーマに沿ってゼミナール形式で学べる、つぎのような教育を行なう。

- 1.各コースの領域に対応した「基礎演習」を複数開講し、それぞれの領域に即した学習とともに、院生相互の研究交流も促進させる。
- 2.コースごとに「総合演習」を設置し、修士論文の問題構成と構想から執筆に至るまでの過程を、教員全体で集団的に指導する。
- 3.院生各自の研究テーマに結びつくかたちでの調査能力、実践的研究能力の向上を図るために、方法系科目群として「専門社会調査士」資格の取得につながる科目や、「メディア研究実習」といった科目を設置する。
- 4.関東圏の社会学系大学院の単位互換制度に加入し、大学院での開かれた履修機会を用いる。

社会学研究科は、所定の単位の修得、および学位論文の審査によって、つぎに示す能力を有すると認められる者にたいして「修士(社会学)」の学位を授与する。

- DP1.各コースの領域に即した基本的な研究遂行能力。
- DP2.各コースの領域における理論的な成果を的確に理解し、自らの研究にそれを生かせる能力。
- DP3.各コースの領域における個別なテーマについて的確に理解し、分析する能力。
- DP4.学際的なテーマについて的確に理解し、分析する能力。
- DP5.院生各自の研究テーマに応じた高度な調査能力。
- DP6.院生各自の研究テーマに応じた外國語能力。
- DP7.院生各自の研究テーマに必要な学識や方法を身につけ、論理的かつ説得的な議論を展開できる能力。

博士後期課程

アドミッション・ポリシー

(学生受け入れ方針)

カリキュラム・ポリシー

(教育課程の編成・実施方針)

ディプロマ・ポリシー

(学位授与の方針)

博士後期課程では、社会学、メディア論、国際社会論の領域で学術的研究をさらに深く追求しようという意欲を持つ次のような人材を広く求める。

- 1.博士論文執筆に必要な高度な学識と思考力、および分析力を持つ人材。
- 2.博士論文執筆に向けて自立して研究を遂行しようという強い意欲を持つ人材。
- 3.研究遂行に必要な英文読解力を持つ人材。

博士後期課程では、院生に対し「学位論文までの里程碑」を示し、博士学位取得に必要な研究が適切に遂行できるように指導するとともに、すべての設置科目を単位化し、特につぎのような研究指導を進めること。

- 1.各セメスターに、博士学位取得に必要な研究を適切に遂行できるように指導する科目として「博士論文指導」を配置し、指導教員がゼミナール形式の論文指導を行う。
- 2.査読を経て掲載される学術誌などの投稿論文の執筆を指導する科目(「社会学総合演習A」)、教員全体で博士学位申請論文の執筆を指導する科目(「社会学総合演習B」)を設置する。
- 3.英語による学術論文の執筆を指導するための科目(「社会学研究 (Academic English Writing Skills for the Social Sciences)」)を設置する。

社会学研究科は、所定の単位の修得、および学位論文の審査によって、つぎに示す能力を有すると認められる者にたいして「博士(社会学)」の学位を授与する。

- DP1.諸先行研究の成果を十分に理解し、批判的に再構成し、自らの研究テーマに即して応用できる能力。
- DP2.自らの研究テーマに即した高度に専門的な調査能力。
- DP3.博士の学位にふさわしい専門的な学術論文を、問題構成から執筆に至るまで自立して研究を遂行し、当該分野の学術的発展に貢献できる能力。

[研究室紹介]

越境的な社会関係・社会空間を捉える

人びとの移動、つながり、帰属をめぐる社会学

現代社会は国や地域を超えた相互依存関係によって成り立っています。「国際社会」をめぐる社会現象は、国家間関係などのマクロの政治経済構造だけでなく、国境を越えた人びとの移動や経済活動といった「草の根」からの動きによっても生成されています。社会学は、多様なアクター、マクロ構造、メゾンレベルなど重層的な社会過程を扱う分野です。テーマも、移民やエスニシティ、労働・階層や社会運動、家族やジェンダーなど、多岐に渡っています。本研究科の学びでは、従来の「社会」イコール国民国家という枠組みを相対化しつつ、国家や国民の境界を越えた現象を分析する視角を取り入れながら、多様な課題に取り組んでいってほしいと思います。



惠羅 さとみ 準教授

[学生・修了生の声]

医療分野の社会人院生にも、財産となる学び

専攻の魅力

研究テーマ

慢性うつ患者の語りの社会学的視点からの捉え返し

看護学修士論文で積み残した課題を社会学的観点から見直したいと考え、思い切って法政大学大学院の社会学研究科に進学しました。社会学には門外漢だったため当初は不安もありましたが、最初の2年間で専門社会調査士の資格取得をめざしながら、社会調査の方法論の基礎を体系的に学ぶことができました。本専攻には、社会人大学院生が気兼ねなく率直に意見を語れる場が複数あり、またそれを受けとめることのできる広い見識を備えた先生方が大勢いらっしゃいます。そんな先生方との出会いが、私の一生の財産です。



堀川 英起

博士後期課程 2020年度修了

柱となる2コース

- ・2つのコースにはそれぞれ基礎演習を入り口に個別領域のテーマにつながる講義・演習があります。
- ・これらの科目の多くは半期2単位科目ですから、修士課程2年間の間に計画的に履修できます。
- ・指導教員による論文指導のほか、総合演習を通じて複数の教員が修士論文作成に向けてアドバイスします。

社会学コース

昼間開講

「社会学基礎演習」で社会学理論・社会問題の基本概念を修得したあと、「理論社会学」でより深く個別の社会学理論を学びます。また、環境、家族、階層などに関する社会学研究の広がりを学び、実習を通じ社会調査の方法論を身に付けてもらいます。

社会学 基礎演習

社会学の研究法に関する基本的知識の修得

理論的基礎

理論社会学
(ミクロ・マクロアプローチ、学説史、認識論的基礎)

個別領域

社会学特殊研究
(都市、産業、労働、家族、環境、福祉、医療、文化などに関する社会学研究)

方法

統計分析法
社会調査実習
調査研究法
質的資料分析法

専門社会調査士資格((社)社会調査協会認定)が取得できます。

ただし、社会調査士資格未取得の場合には、他専攻科目として開講されている科目を履修する必要があります。

メディアコース

昼夜開講

「メディア社会学基礎演習」では基礎的なメディアの理論と歴史を学び、「メディア理論」で歴史・倫理・テクノロジーに関する理解を深めています。「メディア特殊研究」で広告、ソーシャルメディア、メディア文化などの個別領域を研究するとともに、「メディア研究実習」でメディア分野の実践知を高めています。

メディア社会学 基礎演習

基礎的なメディアの理論と歴史、メディア産業論、オーディエンス論の修得

理論

メディア理論
(歴史・倫理・テクノロジー)

個別領域

メディア特殊研究
(広告、知的財産、メディア経営、ソーシャルメディア、メディア文化)

方法

メディア研究実習

[専任教員一覧] [2022年度] ※年度により授業を持たない場合があります。

専任教員	専攻	研究テーマ	主な担当科目
青木 貞茂	教授 広告論、ブランド論	効果的なブランド広告表現の開発・立案方法について	メディア特殊研究1
荒井 容子	教授 社会教育学	社会教育実践研究、社会教育法制度研究、成人教育・社会教育運動研究、公民館研究	※今年度は、特定の科目を担当しません
稻増 龍夫	教授 メディア文化論	現代メディア文化とコンテンツ産業の分析	※今年度は、特定の科目を担当しません
宇野 齊	教授 組織行動科学、社会ネットワーク論、経営学	社会ネットワーク論、組織論、意思決定論	※今年度は、特定の科目を担当しません
大崎 雄二	教授 現代中国における国民統合・民族政策	現代中国(東アジア)地域研究	※今年度は、特定の科目を担当しません
岡野内 正	教授 社会理論、国際政治経済学、平和学、国際開発学、中東研究	国際社会の人権・平和問題とベーシック・インカム研究	理論社会学4
金井 明人	教授 認知科学・人工知能と映像の修辞学	映像に関する情報物語論	※今年度は、特定の科目を担当しません
菊澤 佐江子	教授 家族社会学	中高年期の家族とライフコースに関する計量社会学的分析	社会学特殊研究3
小林 直毅	教授 メディア文化研究、テレビ・アーカイブ研究	メディア環境における「記録と記憶」の研究	メディア社会学基礎演習2、メディア理論1
斎藤 友里子	教授 理論社会学・数理社会学・社会意識論	ただしさの社会学	※今年度は、特定の科目を担当しません
佐藤 成基	教授 社会学理論、比較ナショナリズム研究	ナショナリズムと国民国家の歴史と現在(ドイツを中心にして)	※今年度は、特定の科目を担当しません
慎 蒼宇	教授 近現代史	朝鮮近現代史、日朝関係史、植民地研究、在日朝鮮人史研究	学際研究3
鈴木 智之	教授 社会学理論、文化社会学	物語説の社会学的分析、特に自己と他者をめぐる語りとその社会的条件の研究	理論社会学2
鈴木 宗徳	教授 社会学史、理論社会学	現代における批判的社会理論の課題	※今年度は、特定の科目を担当しません
武田 俊輔	教授 文化社会学、地域社会学	地域社会における文化、民俗、メディア、地方都市社会論	調査研究法(修士)、社会調査法1(博士)
田嶋 淳子	教授 国際社会学、移民・エスニティ研究	中国系移住者をめぐる文化的市民権と移住第二世代	質的資料分析法(修士)、社会調査法3(博士)、社会学特殊研究1
徳安 彰	教授 社会システム論	社会現象を人間と社会システムの2つの視点から見る	社会学原典講読(修士)、社会学原典研究1(博士)、理論社会学基礎1/2
樋口 明彦	教授 社会政策論	福祉国家論	社会学特殊研究2、外国書講読1/2
平塚 真樹	教授 教育学、若年移行期研究	若者支援におけるyouthworkとsocial pedagogyの意味	学際研究1
藤代 裕之	教授 ジャーナリズム論、ソーシャルメディア論	ソーシャルメディア時代のメディアのあり方	メディア特殊研究4
藤田 真文	教授 コミュニケーション論、メディア論	マス・メディア(テレビ)のテクスト(内容)分析	※今年度は、特定の科目を担当しません
二村 まどか	教授 国際関係論、平和構築論	紛争後の社会における正義追求のあり方について(移行期正義・国際刑事裁判)	※今年度は、特定の科目を担当しません
別府 三奈子	教授 ジャーナリズム規範の国際比較研究、写真研究	負の遺産とジャーナリズムの記録の連関に関する調査と分析	※今年度は、特定の科目を担当しません
堀川 三郎	教授 環境社会学、都市社会学	歴史的環境保存の日米比較、まちづくり、住民運動、公害被害地の追跡調査	社会学特殊研究3

専任教員	専攻	研究テーマ	主な担当科目
三井 さよ	教授	臨床社会学、ケア・支援論	医療・福祉をめぐる社会問題への相互行為論的アプローチ
諸上 茂光	教授	消費者心理学、計算論的脳科学	市場における消費者の心理及び行動の分析とモデル化
吉村 真子	教授	アジア研究、東南アジア地域研究	国際社会 / 東南アジア(マレーシア)地域研究
惠羅 さとみ	准教授	産業社会学、国際社会学	グローバル社会と産業・労働研究、移住労働者と社会統合
堅田 香緒里	准教授	社会福祉学、福祉社会学	貧困研究、批判的社会政策論
高 美智	准教授	映画・表象文化研究	日本映画におけるマイノリティ、ナショナリズム、多文化、ジェンダー表象、アダプテーション映画
白田 秀彰	准教授	情報法、知的財産権法	情報メディアに関する法と規制制度の研究
鈴木 智道	准教授	歴史社会学、教育社会学	教育の歴史社会学、歴史社会学方法論
多喜 弘文	准教授	社会階層論、教育社会学、比較社会学	教育・労働の格差に関する比較社会学的研究
土倉 英志	准教授	社会心理学、認知科学、質的心理学	創造性、経験による学習・創造による学習、コミュニケーションデザイン
土橋 臣吾	准教授	メディア論、コミュニケーション論	デジタルメディアの実践的研究
橋爪 純子	准教授	ユーザ工学、ユーザ中心設計	実文脈におけるユーザの状況や行動の調査と分析
李 舜志	専任講師	人間形成論	メディアによる人間形成および記憶継承
			メディア理論2

[設置科目] [2022年度] ※開講科目は年度により異なります。() = 単位数

修士課程

- 社会学基礎演習1～3(各2)
 - メディア社会学基礎演習1～3(各2)
 - 理論社会学1～5(各2)
 - メディア理論1～5(各2)
 - 理論社会学基礎1/2(各2)
 - 社会学特殊研究1～6(各2)
 - メディア特殊研究1～4(各2)
- ※ 2023年度より科目名称変更予定。

- メディア社会学特殊研究1/2(各2)
- 学際研究1～5(各2)
- 統計分析法(2)
- 社会調査実習(4)
- 調査研究法(2)
- 質的資料分析法(2)
- 取材文章実習(2)*

- 調査報道実習1/2(各2)*
- オーディエンス調査実習(2)*
- メディアテクノロジー実習(2)*
- 社会科学研究法1/2(各2)
- 外国書講読1/2(各2)
- 社会学原典講読(2)
- 論文指導1/2(各2)

博士後期課程

- 社会学総合演習A/B(各2)
- 社会学研究1～3(各2)
- 社会調査法1～3(各2)
- 社会学原典研究1/2(各2)
- 博士論文指導ⅠA/B(各2)
- 博士論文指導ⅡA/B(各2)
- 博士論文指導ⅢA/B(各2)

修了生の研究テーマの例

- 慢性うつ患者の自己管理の捉え返し
—医療者は患者の「混沌の物語」をどう捉えたらよいかー
- 本屋大賞のブランディング分析
- 放送アーカイブを活用した初期テレビドキュメンタリー研究
—NHK『日本の素顔』(1957-1964)を中心にして—
- 戦後台湾における戸籍制度とナショナル・アイデンティティ
- 原発震災と「3月ジャーナリズム」の課題と可能性
- 「普通である」ための技法
—セクマイ・コミュニティと「当事者である/ない」ことをめぐらして—
- 近代朝鮮における教育改革と書堂(1876-1905)
—その重層的把握への試み—
- 日本の外国人労働市場と組合メンバーシップ
—組合形態別にみた組織化と労使関係

- 在日本朝鮮労働総同盟の組織と闘争
—「二重の課題」を視座にして—
- 新聞販売店の諸課題と地域メディア化の可能性
- 新本格ムーヴメントとその社会的背景
—「ミステリ場」を通じた考察—
- 来日中国人留学生の社会的ネットワークとその機能
—2008年以降に来日した20人の事例をもとに—
- インターネットの発展によるコミュニケーションの変容
—口コミサイトにおける中間領域行動を中心に—
- 総合雑誌『世界』における「慰安婦」をめぐる言説と表象
- スポーツにおける不祥事を伝えるメディアに関する考察
～不祥事をメディアはどうのように伝えたのか 2017年11月の大相撲横綱暴行事件を見る～
- テレビドラマに描かれる若者
—「ゆとりですがなくかが描く『ゆとり世代』—

- 日本におけるYouTuberの有名性獲得過程
—コンテンツの変遷に着目して—
- 原爆記憶の継承に関する社会学的実証研究
—長崎における記憶空間の形成と継承実践
- 市民社会の文化社会学
—Alexander市民園論の検討を中心に—
- 技能実習制度の性格とその変化の方向
—2つの二重構造との関連を手がかりに
- 集団就職の新聞報道から読み解く戦後日本の経済成長
- 日本のテレビドキュメンタリー製作者が伝える「中国」
—製作会社テムジンを中心として—
- 日本の新聞における中国の環境問題報道
- 「聖地」奈良への動員
—「靖國神社の体現者たち」—

経営学専攻

詳細はこちら



募集人員

修士課程60名程度／
博士後期課程10名程度

キャンパス

市ヶ谷

入学者の職域

製造、情報通信、金融、
不動産、技術サービス、
教育、医療福祉、サービスなど

昼間コース



昼間開講

夜間コース



夜間開講

修了要件・履修案内・
時間割・シラバス



よい循環づくりで経営と経営学の人材を養成

経営学研究科では、企業組織及び企業の諸活動、企業それを取り巻く環境との関連を研究しています。修士課程、博士後期課程とともに、昼間コースと夜間コース（社会人向け）を設けて、学問と実務のよい循環をつくりつつ、多様な人材を育成しています。特に、日本の私立大学の中でも設立の早かった社会人向け修士課程は、1992年設立以来、1,000名を超える修了生を輩出しています。

現実と理論との相互作用を図る多様な授業が用意されています。たとえば、企業の第一線で活躍される多様なゲストスピーカーをお招きして、現場の生の情報、最新の企業経営動向、最先端の事業動向をお聞きし、ディスカッションする「ワークショップ」を各コースで提供しています。また、現実と学問との間の流れを理解し、現実の問題がその知的な流れのどこに位置するかを把握し、理論と鋭い知見をもって企業経営の現実を分析する能力を徹底的に鍛える種々の授業も提供しています。

修士・博士論文の執筆を通じ、本格的な学術論文を作成する機会も設けられています。論文指導では、指導教員は丁寧な指導を心がけており、少人数教育の強みを最大限生かして、教員と学生間に濃密なコミュニケーションが行われています。

なお、経営学研究科では、教員と在学生だけでなく修了生も加わったよい循環づくりをめざしています。修了生がワークショップ授業のゲストスピーカーとして登壇して、生の情報や経験談を在学生と共有したり、教員になった修了生が在学生に知的な還元を行ったりする例も少なくありません。

アドミッション・ポリシー (学生受け入れ方針)

カリキュラム・ポリシー (教育課程の編成・実施方針)

ディプロマ・ポリシー (学位授与の方針)

経営学研究科では、専門知識と経営学研究への意欲を有し、次のキャリアビジョンを持つ人材を広く求める。昼間・修士課程においては、優れた成果を上げられる研究・教育職、国際職業人の人材を求める。夜間・修士課程においては、企業やその他団体等で高度な経営課題に応えられる経営管理職・専門職の人材を求める。博士後期課程においては、研究者養成のための修士課程だけでなく、高度職業人養成のための修士課程の修了生を含め、独創性に富む専門研究者をめざす人材を求める。

昼間・修士課程では経営学（関連分野を含む）の研究に必要な方法論等を自主的に学ぶこと、また修士論文を作成できるようにすることを配慮して開講科目を設定する。夜間・修士課程では、複数の専門分野別のコースを設け、それぞれの専門分野にふさわしい独自の選択必修科目群を設置する。また、学生のバックグラウンドやニーズが多様であることから、経営学および関連分野の基礎的な科目を設置するとともに、他コースの科目も自由に履修できるようになる。さらに、少人数制による論文指導、コースレベルでの集団指導等を行い、実務経験と適切な理論、方法論を融合した修士論文作成をめざす。博士後期課程では、ステップ制を運営、実施すると共に、指導教員・副指導教員による研究指導と博士コースワークショップを充実化する。

所定の単位の修得により、以下に示す水準に達した学生に対して「修士（経営学）」あるいは「博士（経営学）」を授与する。修士課程では、経営学分野（関連分野を含む）の多様な授業と、個別指導及びコース別集団指導に基づく修士論文の準備・作成によって、経営学分野（関連分野を含む）の研究能力、または高度の専門性を要する職業等に必要な能力を有する。博士後期課程においては、研究者として自立して研究活動を行い、またはその他の専門的な業務に従事するに必要な高度の研究能力およびその基礎となる豊かな学識を十分備えている。

[研究室紹介]

会計データモデルとXBRLを応用した電子開示システムに関する研究

事象アプローチに基づく会計ディスクロージャーの拡張

現代における会計ディスクロージャーは、電子開示システムが大きな役割を果たしています。しかし旧来の紙ベースで行われていた会計情報の開示内容をそのまま電子化しただけでは、その情報を十分に生かすことはできません。データを再利用しやすい形で提供するためには、会計システムのインプット側である仕訳データやアウトプット側である財務諸表データを対象としてデータモデリングを行い、その結果を何らかの記述言語で表現するという地味な作業が必要となります。このデータモデリングについては、データベース理論に関する知識が必要となりますし、記述言語についてはXMLをベースとするXBRLというコンピュータ言語に関する知識が必要となります。我が国における電子開示システムには、金融庁のEDINETや東京証券取引所のTDNetなどがありますが、いずれもXBRLが導入されており、財務諸表の雑形としてのタクソノミが開発されることになります。このタクソノミは会計制度の変更に対応すべく、常に改訂がなされていますが、まだまだ改善の余地があります。現行の電子開示システムをどのように改善すべきか、日々研究を続けています。

[学生・修了生の声]

マーケティングの理論と実践を体系的に習得。

新たな仕事の創出にも結びつきました

専攻の魅力

ユーザー創造製品表示がもたらす影響 —消費者のブランド認識による調整効果—

現職のマーケティング業務に活かしたいと大学院に入った私にとって、専攻の授業は役に立つものばかりでした。「マーケティング論」では基礎を体系的に学び、「マーケティング・リサーチ」では統計ソフトの操作を習得。他にも「流通システム論」や「サービスマネジメント論」などを通じて、アカデミックな考え方や論理的な文章構成力が身につきました。

変化した点

以前は仕事の参考にビジネス書を流し読みくらいでしたが、本や論文を熟読して自分の考えをまとめる習慣が付きました。またさまざまな業界で活躍されている院生の方々から刺激を受け、私自身もさらに前向きに仕事に取り組むようになりました。仲間としての関係が発展し、実際に自社の仕事の創出につながったこともあります。



坂上 学 教授



関 舞奈

修士課程 2019年度修了



日間コース

経営学の基礎から応用までの理論的なアプローチに加え、現実の企業活動や社会現象を実証的に分析するためのさまざまな手法が学べます。また、個別指導を重視した教育を行っています。組織、人事、戦略、アカウンティング、ファイナンス、国際経営、マーケティング、経営史など企業経営の諸側面について幅広く研究できます。また、経済学や統計学に関する科目も開講しており、総合的に企業経営を捉える視点を養うことが可能です。少人数講義やディスカッションを通して高度な知識・理論を習得し、細やかな個別指導のもとで学術的価値の高い修士論文や博士論文の作成をめざします。

夜間コース

経営学専攻夜間コース(法政ビジネススクール:略称HBS)は、日本におけるビジネススクールの先駆けとして1992年に設置されました。実務に関するさまざまな理論が学べる4つのコースが用意されています。他コースや他専攻、他研究科の科目も履修可能で、専門性と同時に幅広い知識を習得できます。HBSでは、理論と実証に必要な知識を基礎から応用まで、少人数・双方向型の講義で習得します。また、ゲストスピーカーを交えたワークショップでは、企業経営の最先端の動向と実践的な知識やスキルを身に付けられます。修士論文の作成が必修であることもHBSの大きな特徴です。これまでの実務経験やHBSで学んだ知識は、修士論文を書き上げる過程を通じて、真の血となり肉となっていきます。

コース制(夜間コースのみ)

企業家養成コース

創業を志す人、社内企業家、後継経営者、企業家の支援に携わる人の養成を目的としたコースです。多彩な科目のほか、実際の企業家を招いてのワークショップを開講。企業や事業を起こして直面した経営上の問題点や課題、その解決方法などをお話しいただき、その後は、教員や学生を交えて活発なディスカッションを展開しています。

マーケティングコース

講義と討議を中心としたマーケティング理論の学習と、実習を併用した定量的・定性的なデータ分析手法の習得をバランス良く配置。他大学院には見られない独自性があります。マーケティングの全体像を知るためのプログラムとして、また、現場体験と実務的知識を再構築する機会として活用できます。

人材・組織マネジメントコース

人事と組織に関わるトピックスを幅広く学べます。また、実証研究を重視し、組織のデータの発掘や職場の事例研究、面接調査、企業・従業員などへの聴取、アンケート調査や統計データの解析など研究目的に応じた研究手法を指導します。実務家による講義、ケーススタディーも行っています。

アカウンティング・ファイナンスコース

2つのサブ・コースを立てて、企業会計とファイナンスの先端的知識を体系的に学びます。アカウンティング・サブコースでは、経理人の再教育とレベルアップを主眼に会計とその関連領域を学びます。ファイナンス・サブコースでは、企業財務および証券投資に関する理論とその応用手法を学びます。

詳細は、経営学専攻(夜間)HP <http://hbs.ws.hosei.ac.jp/> をご参照ください。

修了生の研究テーマの例

- CEOのビッグ・ファイブと企業のリスク・テイキング
: Twitterデータに対する機械学習の応用
- 組織文化とマネジメント・コントロール・システムの関係に関する文献レビュー
- エンターテインメント産業における脱成熟化戦略についての研究
-パンダイの事例-
- 飲食業における創業と生存の要因についての研究
~飲食店の閉店率軽減を目指して~
- 役員秘書の四類型と自発的行動について
- ライン人事のキャリア志向が労働時間管理パフォーマンスに及ぼす影響
- クロスマディア環境下における広告コミュニケーション効果に関する研究
- 消費者イノベーションの実現に関するサーベイデータによる実証研究
- 戦前期日本の財務会計制度の展開の再検討
-商法計算規定・会計実務、「財務諸表準則」の相互の影響に着目して-
- 有形固定資産会計の総合的・分析的検討
-「原価モデル」と「再評価モデル」の比較研究を中心として-

[専任教員一覧] [2022年度] ※年度により授業を持たない場合があります。

専任教員	専攻	研究テーマ	主な担当科目
企業家養成コース	稻垣 京輔 教授	経営組織論、事業創造論	企業家活動と組織変革に関する研究 企業家養成演習、企業家活動
	金 容度 教授	日本経営論、日本経営史、企業間関係論	企業システムの歴史の国際比較、企業間関係に関する研究 企業家養成演習、博士演習III A・III B
	近能 善範 教授	イノベーション・マネジメント	企業間関係とイノベーション 企業家養成演習、ワークショップ（企業家養成）、イノベーション・マネジメント概論
	韓 載香 教授	日本現代経済史・産業史	エスニック・マイノリティビジネスの歴史、産業史 経営史
	福島 英史 教授	戦略的意思決定論	企業戦略と組織、技術革新に関する研究 経営学演習、経営学基礎
	吉田 健二 教授	経営戦略論	経営戦略の策定と実行に関する研究 経営学演習、経営戦略論
	二階堂 行宣 准教授	日本経営史、日本経済史	鉄道産業と交通政策に関する歴史研究 企業家養成演習、企業家史
国際経営コース	安藤 直紀 教授	国際経営戦略論	企業の国際経営戦略、制度理論の多国籍企業分析への応用 国際経営論、国際経営特論、博士演習III A・III B
	高橋 理香 教授	国際経済学、理論経済学	貿易政策に関する理論および実証研究 国際経済学I・II
	洞口 治夫 教授	国際経営論、経営戦略論	日本企業の海外直接投資 経営管理特論
	横内 正雄 教授	金融史・国際金融論	英国系海外銀行の発展に関する研究 国際金融論特論
	李 瑞雪 教授	ロジスティクス論、国際経営論	新興国市場における日本企業のロジスティクス戦略、新興国物流企業の経営戦略 国際物流論、経営戦略特論
人材・組織マネジメントコース	小川 憲彦 教授	経営管理論、組織行動論、キャリア論	組織社会化、組織と個人の適合 人材・組織マネジメント演習、キャリアマネジメント論、博士演習II A・II B
	奥西 好夫 教授	労働経済学、人事・組織の経済学	雇用・人事制度の統計分析、国際比較 人材・組織マネジメント演習、人事制度論
	岸 真理子 教授	経営情報論、経営組織論	情報と経営、組織コミュニケーション 人材・組織マネジメント演習、経営情報論
	佐野 哲 教授	労働市場論、雇用政策、経営社会政策	労働力需給調整システム、社会政策 ※今年度は、特定の科目を担当しません
	佐野 嘉秀 教授	人的資源管理論、産業社会学	人材マネジメント、雇用システム 人材・組織マネジメント演習、人的資源管理論
	長岡 健 教授	組織社会学、経営学習論	職場学習、組織エスノグラフィー 人材・組織マネジメント演習、経営組織論、博士演習III A・III B
	西川 真規子 教授	組織行動論、経済社会学	ジェンダーと労働、仕事と生活 人材・組織マネジメント演習
	戎谷 梓 准教授	国際人的資源管理論	異文化間マネジメント、国際チームマネジメント、グローバル人材 人材・組織マネジメント演習、国際人事
マーケティングコース	木村 純子 教授	サービス・マネジメント論	農作物マーケティング、地理的表示保護制度、地域活性化 マーケティング演習、サービス・マネジメント論
	竹内 淑恵 教授	マーケティング論、広告論	広告コミュニケーション効果、ブランド・マネジメント、消費者行動 マーケティング論、マーケティング特論
	田路 則子 教授	製品開発論	製品開発イノベーション、ハイテク企業の成長戦略 マーケティング演習、定性的方法論、リサーチ・メソッド、博士演習III A・III B
	新倉 貴士 教授	消費者行動論	消費者行動、ブランド・マネジメント 博士演習II A・II B、博士演習III A・III B
	西川 英彦 教授	マーケティング・リサーチ論	デジタルマーケティング、ユーザーイノベーション マーケティング演習、マーケティング・リサーチ論、博士演習II A・II B、博士演習III A・III B
	横山 齊理 教授	流通システム論	日本型流通システム、商業まちづくり マーケティング演習、博士演習III A
	猪狩 良介 准教授	経営統計学、マーケティング・サイエンス	消費者行動の統計分析、広告効果測定、ペイズ統計データ分析 経営学演習
アカウンティング・ファイナンスコース	長谷川 翔平 准教授	マーケティング・サイエンス	購買履歴データの統計分析、マーケティング・サイエンス マーケティング演習、マーケティング・サイエンス論
	神谷 健司 教授	財務会計	中小企業の会計基準のあり方、会計教育プログラムの研究、学校法人会計基準の研究 ※今年度は、特定の科目を担当しません
	川島 健司 教授	財務会計	資産の時価測定に関する実証的研究、資産評価の会計基準分析、時価主義会計の学説研究 アカウンティング・ファイナンス演習、ワークショップ（アカウンティング・ファイナンス）、財務会計論I・II
	岸本 直樹 教授	ファイナンス	オプション等のデリバティブの価格理論、資産の証券化に関する経済学的分析、住宅ローンの期限前償還、ビジネス教育の研究 コーポレート・ファイナンス、ファイナンス入門、ポートフォリオ理論入門
	金 瑞晋 教授	ファイナンス	企業の財務行動 実証ファイナンス入門、博士演習III A・III B
	倉田 幸路 教授	財務会計、国際会計	現代会計理論、EU会計論 財務会計論

専任教員	専攻	研究テーマ	主な担当科目
アカウンティング・ファイナンスコース	坂上 学 教授	財務会計	XBRLと財務ディスクロージャー、財務数値の分布特性に関する研究、機械学習を応用した会計不正の発見
	高橋 美穂子 教授	経営分析	会計数値に基づく企業価値評価
	筒井 知彦 教授	会計政策論	企業会計と利益計算
	福田 淳児 教授	管理会計論、原価計算論	MCSの設計と組織学習、スタートアップ企業におけるMCSの発展
	福多 裕志 教授	経営分析	日米企業の財務位相分析
	山㟢 輝 教授	ファイナンス	金融テクノロジー、資産価格理論
	北田 皓嗣 准教授	管理会計、社会環境会計	サステナブルマネジメント、サーキュラーエコノミー
	大木 良子 教授	産業組織論、法と経済学	競争政策の経済理論分析
コース共通	児玉 靖司 教授	教育工学、人工知能	データマイニング、大規模授業配信のビジネスモデル
	高橋 慎 教授	統計学、計量ファイナンス	金融時系列データの統計分析
	入戸野 健 教授	計算機科学、ネットワーク技術、シミュレーション	ネットワークと知識に関する技法、確率的シミュレーションモデル
	平田 英明 教授	日本経済論	日本の景気変動、日本の金融システム、期待形成と経済政策
	宮澤 信二郎 教授	企業金融論、産業組織論	企業の資金調達と競争に関する戦略の相互作用について
	片桐 満 准教授	金融論	金融政策の理論分析、コーポレートファイナンス
	※ 今年度は、特定の科目を担当しません		
	金融論		

[設置科目] [2022年度] ※開講科目は年度により異なります。() = 単位数

修士課程

- 経営学原理 (4)
- 経営管理論 (4)
- 経営管理特論 (2)
- 経営組織特論 (4)
- 組織認識論 (4)
- 人的資源管理特論 (4・2)
- 組織行動特論 (4)
- 経営戦略特論 (4)
- 國際経営特論 (4)
- マーケティング特論 (4)
- 消費者行動論特論 (4)
- 会計学入門 (2)
- 会計理論 (4)
- 財務会計論 I (2)
- 財務会計論 II (2)
- 財務会計特論 (4)
- 経営分析論 I (2)
- 経営分析論 II (2)
- 財務諸表分析 (2)
- 管理会計特論 (4)
- 原価計算論 (4)
- 原価管理論 (4)
- 監査論 (4)
- 会計政策論 (4)
- アメリカ会計学 (4)
- 國際会計基準論 (4)
- ミクロ経済論 (4)
- マクロ経済論 (4)
- 組織経済学 (2)
- 金融論 (4)
- 財政論 (4)
- ファイナンス入門 (2)
- ポートフォリオ理論入門 (2)
- デリバティブ入門 I (2)
- デリバティブ入門 II (2)
- 国際人事 (2)
- 国際マーケティング論 (2)
- 国際物流論 (4)
- 国際会計論 (4)
- 国際金融論 (4)
- 国際経営特殊研究 (4・2)
- 人材・組織マネジメント演習 (2)
- ワークショップ (人材・組織マネジメント) (4)
- 人的資源管理論 (4)
- 人材育成論 (4)
- キャリアマネジメント論 (4)
- 人事制度論 (4)
- 労働市場論 (4)
- 労使コミュニケーション論 (4)
- 経営組織論 (4)
- 組織行動論 (4)
- 経営情報論 (4)
- 人材・組織マネジメント特殊研究 (4・2)
- マーケティング演習 (2)
- マーケティング・サービスマネジメント演習 (2)
- ワークショップ (マーケティング) (4)
- マーケティング論 (4)
- 消費者行動論 (4)
- マーケティング・リサーチ論 (4)
- 製品開発論 (4)
- マーケティング・サイエンス論 (4)
- サービス・マネジメント論 (4・2)
- 流通システム論 (4)
- 物流政策論 (4)
- マーケティング特殊研究 (4・2)
- アカウンティング・ファイナンス演習 (2)
- ワークショップ (アカウンティング・ファイナンス) (4)

博士後期課程

- 管理会計論 (4)
- 財務会計論 (4)
- 税務会計論 (4)
- 会計情報論 (4)
- 経営分析 (4)
- 租税法 (4)
- 基礎ファイナンス (4)
- 実証ファイナンス入門 (4)
- インベストメント理論 (4)
- コーポレート・ファイナンス (4・2)
- 企業評価論 (4)
- アカウンティング・ファイナンス特殊研究 (4・2)
- 経営学基礎 (4・2)
- 会計学基礎 (2)
- ファイナンス入門 (2)
- 経済学基礎 (2)
- 産業基礎 (2)
- 日本経済論 (4)
- 日本経済基礎 (2)
- 情報学特論 (2)
- 情報技術特論 (2)
- e-ビジネス論 (2)
- 統計データ解析 (4)
- 定性的方法論 (2)
- 企業法 (4)
- 日本語経営学 (4)
- 外国語経営学特殊研究 (4・2)
- 外国語経営学特殊講義 1 / 2 (各2)

福祉社会専攻

詳細はこちら



募集人員

修士課程15名程度

キャンパス

多摩／市ヶ谷

主な進路

独立行政法人、福祉関連機関、まちづくり財団、NPO法人、民間企業、進学（博士後期課程）など

長期履修制度有



昼夜開講

修了要件・履修案内
時間割・シラバス



社会福祉やコミュニティマネジメントの専門 知識と実践能力を修得

「社会福祉」や「コミュニティマネジメント」に関する高度専門職業人（ソーシャルワーカー、政策立案者、コミュニティプランナーなど）、研究者の養成を目的としています。社会福祉、コミュニティマネジメントの幅広い課題に応えるために、ソーシャルワーク系、システム・マネジメント系、コミュニティ・デザイン系の3領域の科目群を設置。また、社会人が学びやすいようにさまざまな制度を整えています。

授業は、昼間は主に多摩キャンパスで木曜、金曜に開講（一部土曜を含む）。夜間は市ヶ谷キャンパスで月曜、火曜に開講。単位互換制度を利用した福祉系13大学の授業の履修も可能です。生活する人の視点に立ち、Well-being社会の創造に寄与する多様な観点やアプローチによる研究に取り組んでいます。

アドミッション・ ポリシー (学生受け入れ方針)

〈入学前に修得しているべき能力〉

【AP1知識】4年制大学で学ぶ社会福祉と地域づくりに関わる知識を修得している
【AP2英文読解力】専門領域に関わる英語力を有している
【AP3思考・判断】研究テーマに関して、論理的に思考し、判断できる
【AP4意欲・関心】研究テーマへの強い研究意欲をもち、実践的な関心を有している

カリキュラム・ポリシー (教育課程の編成・実施方針)

〈教育課程の編成方針〉本専攻の学位授与方針を達成するために、以下の通り教育課程を編成する。

修士（福祉社会）【CP1】DP1専門知識、DP2読解力を養成するため、コースワークとして、研究方法を修得する「専門共通科目」、社会福祉の課題と理論を3つの領域から学ぶ「専門展開科目」をおく【CP2】DP2読解力とりわけ専門英文読解能力養成のため、「原書講読研究」をおく【CP3】DP3表現力とりわけ専門英文表現力養成のため、「学術英語」をおく DP3表現力、DP4実践能力、DP5研究力を養成するため、リサーチワークとして、修士論文に収斂するよう個別指導を行う「演習科目」をおく

修士（学術）【CP4】DP6専門知識、DP7読解力を養成するため、コースワークとして、研究方法を修得する「専門共通科目」、地域づくりの課題と理論を3つの領域から学ぶ「専門展開科目」をおく【CP5】DP7読解力とりわけ専門英文読解能力養成のため、「原書講読研究」をおく【CP6】DP8表現力とりわけ専門英文表現力養成のため、「学術英語」をおく DP8表現力、DP9実践能力、DP10研究力を養成するため、リサーチワークとして、修士論文に収斂するよう個別指導を行う「演習科目」をおく

ディプロマ・ポリシー (学位授与の方針)

福祉社会専攻では、福祉社会の形成に関わる専門知識と研究方法を習得し、それにもとづく基礎的な研究力を、高度な職業活動や実践的な研究において生かすことが可能なか、以下の知識と能力を有する院生に「修士（福祉社会）」あるいは「修士（学術）」を授与する。

修士（福祉社会）

【DP1専門知識】社会福祉分野に関する必要な専門知識を有する【DP2読解力】内外の先行研究を正確に読み取ることができる【DP3表現力】文章および口頭により、自身の考えを他者に論理的に伝達できる【DP4実践能力】職業人もしくは研究者として必要とされる実践を行なえる【DP5研究力】自発的に研究課題を設定し、計画的、系統的に研究を遂行できる

修士（学術）

【DP6専門知識】地域づくり分野に関する必要な専門知識を有する【DP7読解力】内外の先行研究を正確に読み取ることができる【DP8表現力】文章および口頭により、自身の考えを他者に論理的に伝達できる【DP9実践能力】職業人もしくは研究者として必要とされる実践を行なえる【DP10研究力】自発的に研究課題を設定し、計画的、系統的に研究を遂行できる

研究室紹介

地域住民が納得したり、満足する地域政策とは？

現場の人びとの生活の論理から 地域政策を構想する



野田 岳仁 准教授

地域政策は住民の納得や満足が得られなければ、政策の有効性を失ってしまいます。にもかかわらず、実際に住民の納得や満足を得ることは想像以上に難しいものです。住民は意見をコロコロ変えたり、一転して非協力的な態度をみせるためです。ではどうすればよいのでしょうか。野田研究室では、環境社会学の立場から地域住民の意思決定のしくみを分析したり、その意思決定に関与する地域の社会組織の機能を明らかにすることで、住民の価値観や地域社会の論理の解明を試みてきました。私たちは、現場の人びとの生活の論理をふまえたうえで、地域社会が受容可能な地域づくりや地域ツーリズム政策とはどのようなものであるのかを日々研究しています。

学生・修了生の声

国際協力や多民族・地域共生社会など 研究に役立つ専門知識や知見を吸収

専攻の魅力

研究テーマ

日本と新疆の畜産業における多様な人材の活用に関する比較研究

大学時代から社会福祉を勉強し、現在の研究テーマに辿り着きました。専攻の先生方は各分野の専門家揃いで、中でも私の研究テーマに関連する国際協力や多民族・地域共生社会などの分野で活躍する先生方から、専門性の高いアドバイスをいただけることが大きな魅力です。自分の研究がもたらす可能性をさらに切り拓くことができました。



柯 如綾

修士課程 在学中

学びの環境

先生方はもちろん博士後期課程の皆さんとの交流も活発です。留学生や日本人、社会人学生など、それぞれ異なる背景を持つ院生の「想定外の視点」にいつも刺激を受け、その度に学修意欲が高まっています。また各種の研究助成や奨学金が充実しているので生活面でも心配なく、恵まれた環境の中で研究に専念できることが魅力です。

[専任教員一覧] [2022年度] ※年度により授業を持たない場合があります。

専任教員	専攻	研究テーマ	主な担当科目
伊藤 正子 教授	社会福祉方法論、異なる民族・文化的背景を持つ人々への社会福祉援助	社会的排除とソーシャルワーク、多文化ソーシャルワーク	ソーシャルワーク理論研究特論、地域共生社会特論、論文研究演習、実践研究演習
岩崎 晋也 教授	社会福祉原論	社会福祉原理・思想	論文研究演習、実践研究演習
岩田 美香 教授	子ども・家族福祉論、教育福祉論	子育ち・子育ての社会的困難に関する研究、貧困家族に対するソーシャルワーク	児童福祉特論、福祉社会研究法、論文研究演習、実践研究演習
高良 麻子 教授	ソーシャルワーク論	ソーシャルアクション、地域包括ケア	ソーシャルワーク特論Ⅱ、地域共生社会特論、論文研究演習、実践研究演習
佐藤 蘭美 教授	ソーシャルワーク論（特に終末期ケアを中心として）、当事者および家族への支援	当事者・家族への支援、死別ケア、セルフヘルプグループ	ソーシャルワーク特論Ⅰ、福祉社会研究法、論文研究演習、実践研究演習
佐野 竜平 教授	障害インクルーシブな国際協力、アジア地域開発、循環型経済	アジアの障害インクルーシブな国際協力、開発の理論と実践	アジア地域開発特論、地域共生社会特論、論文研究演習、実践研究演習
眞保 智子 教授	障害者福祉論、精神保健福祉、若者支援、就労支援、障害者のキャリアデザイン	若者就労支援、障害者雇用、企業における精神科ソーシャルワーク	障害者福祉特論、地域共生社会特論、論文研究演習、実践研究演習
岡司 直也 教授	農業経渓学、農山村政策論、地域資源管理論	農山村における地域マネジメント、外部人材と協働する地域づくり	地域空間学特論、福祉社会研究法、論文研究演習、実践研究演習
高取 康之 教授	異文化コミュニケーション、英語教育、経営学（マーケティング）	多文化混在社会の今後	原書講読研究
土肥 将敦 教授	ソーシャルイノベーション、社会的企業家、CSR	ソーシャルイノベーションの創出と普及、社会的企業家研究、CSR研究	地域経営特論、論文研究演習、実践研究演習
布川 日佐史 教授	公的扶助論、雇用政策論	就労支援と生活保障の日独比較、生活保護自立支援の検証	ソーシャルポリシー特論、地域共生社会特論、論文研究演習、実践研究演習
水野 雅男 教授	都市住宅政策論、市民活動運営論	地域木造住宅保全システム研究、被災地復興地域づくり研究、創造都市研究	都市・住宅政策特論、福祉社会研究法、地域共生社会特論、論文研究演習、実践研究演習
宮城 孝 教授	コミュニティソーシャルワーク、地域包括ケアなどの地域福祉方法論	コミュニティソーシャルワーク方法論、超高齢化地域における包括的な支援策	※今年度は、特定の科目を担当しません
山本 五郎 教授	コーパス言語学、英語学、辞書学、英語教授法（TESOL）	コーパスを用いた英語の語法研究、英和辞典の項目執筆・校閲	学術英語
岡田 栄作 准教授	福祉疫学、ヘルスプロモーション	介護・医療関連情報の見える化、保健事業・介護予防の一的な実施	保健医療福祉システム特論、論文研究演習、実践研究演習
野田 岳仁 准教授	環境社会学、地域社会学、観光社会学	現場に暮らす生活者の立場からの地域づくり、地域ツーリズムの探究	地域環境特論、地域共生社会特論、論文研究演習、実践研究演習
服部 環 兼担教授（科目担当）	教育心理測定学、心理データ解析	項目反応理論と心理データ解析に関する理論と応用	データ分析法

[設置科目] [2022年度] ※開講科目は年度により異なります。() = 単位数

修士課程

- | | | | | |
|---------------------|---------------|--------------------|-----------------|-----------------|
| ■ 福祉社会研究法(2) | ■ 地域福祉特論(2) | ■ 社会リハビリテーション特論(2) | ■ 都市・住宅政策特論(2) | ■ 学術英語(2) |
| ■ 地域共生社会特論(2) | ■ 児童福祉特論(2) | ■ ソーシャルボリシー特論(2) | ■ 地域空間学特論(2) | ■ データ分析法(2) |
| ■ 社会福學特論(2) | ■ 高齢者福祉特論(2) | ■ 保健医療福祉システム特論(2) | ■ 地域マネジメント特論(2) | ■ 福祉社会特論(2) |
| ■ ソーシャルワーク特論Ⅰ/Ⅱ(各2) | ■ 障害者福祉特論(2) | ■ ケアマネジメント特論(2) | ■ 地域環境特論(2) | ■ 福祉社会データ解析(2) |
| ■ ソーシャルワーク理論研究特論(2) | ■ 精神保健福祉特論(2) | ■ 福祉経営特論(2) | ■ アジア地域開発特論(2) | ■ 論文研究演習Ⅰ/Ⅱ(各4) |
| ■ ソーシャルワーク実践研究特論(2) | ■ 生活問題特論(2) | ■ 地域経営特論(2) | ■ 原書講読研究(2) | ■ 実践研究演習Ⅰ/Ⅱ(各2) |

修了生の研究テーマの例

- | | | |
|--|---|---|
| ■ 外国人介護職員に対する支援のあり方について
一定住外外国人介護職員を長年受け入れている施設の取り組みから
■ 独居高齢者のライフエンディング・ステージにおける準備行動についての研究
－独居高齢者へのインタビュー調査の分析を通じて－
■ 中国残留孤児の介護コミュニティ（デイサービス）による新たなエスニック・アイデンティティ獲得の可能性
■ 在宅で生活する知的障害者の孤立に関する研究
－家族を失った知的障害者に対する支援事例から－
■ 学校における子どもの課題解決に関する考察
－養護教諭の「ケース化」をめぐる検討－
■ 大学ミュージアムの今日的役割
－大学と地域社会との関係性に着目して－
■ 社会的に責任あるグローバル・サプライチェーンの構築
－サプライチェーン・モニタリングシステムとステークホルダー・エンゲージメントの考察から－ | ■ 寺院の社会福祉実践における専門職との連携に関する研究
■ 中国の子どもを亡くした親への組織的支援に関する研究
－「夫独家庭」に対するサポート・グループの関わり方の実際と課題－
■ 大都市における生活困窮者の生活支援と就労支援について
～「ふるさとの会」のケア付き就労を中心～
■ モンゴル人介護技能実習生の受け入れ機関による研修に関する考察
■ 中・軽度知的障害者の青年期における親子依存関係からの脱却に向けた要因と支援のあり方
■ 主介護者による在宅介護におけるリスクの構造とリスクマネジメントに関する研究
■ 仮設住宅の収容期における居住者の生活の現状とその支援のあり方
－岩手県陸前高田市における調査を通して－ | ■ 大震災時の復興過程における知的障害者に対するソーシャルワークの役割と課題
－陸前高田市のフィールドワークを通して－
■ 小地域福祉推進組織の主体形成過程におけるソーシャルワーカーの関与についての研究
～多摩地域をはじめとする大都市近郊をフィールドとして～
■ 地域コミュニティの活性化に向けた公立図書館と求められる図書館職員の役割
～人口10万人以上の都市を事例として～
■ 住民防災組織の地域防災力強化に向けた組織的アプローチの研究
～葛飾区の活動事例を通じて～ |
|--|---|---|

臨床心理学専攻

詳細はこちら



募集人員

修士課程 15名程度

キャンパス

多摩

主な進路

国家公務員（法務省、厚生労働省）、地方公務員（心理職）、医療機関（心理職）、スクールカウンセラー、教育相談機関（心理職）、民間企業（心理職・総合職）など



昼間開講

修了要件・履修案内
時間割・シラバス



多彩な教授陣と実習現場を通して、理論と実践を学ぶ

社会のさまざまな心理臨床の分野で活躍する高度専門職業人（公認心理師、臨床心理士）と、臨床心理学の実践と科学に関わる研究者の養成を目的としています。

専任教員は、心理臨床、カウンセリング、精神医学等の第一線で活躍中の専門家です。広範囲な理論と実習、研究倫理に基づく修士論文の指導体制が整っています。医療・発達・教育などに関わる豊富な実習現場と、学内の臨床心理相談室における実習教育にも特色があります。

大学院修了後に公認心理師試験（公認心理師施行規則が定める科目を修めた者）と臨床心理士試験（第一種指定校）が受験できます。修了生のほぼ全員が臨床心理士資格を取得し、臨床心理関係の専門職に就いて社会で活躍しています。また、博士後期課程（人間福祉専攻）への進学も可能です。

アドミッション・ポリシー (学生受け入れ方針)

〈入学前に修得しているべき能力〉

【AP1知識】4年制大学の心理学科卒業程度の臨床心理学領域を中心とした心理学に関する知識を有している

【AP2英文読解力】専門領域に関わる英語力を有している

【AP3表現力】問題状況に関する自身の見方を他者へ正確に伝達できる

【AP4思考・判断】研究テーマに関して、論理的に思考し、判断できる

【AP5意欲・関心】研究テーマへの強い研究意欲をもち、実践的な関心を有している

カリキュラム・ポリシー (教育課程の編成・実施方針)

〈教育課程の編成方針〉

本専攻の学位授与方針を達成するために、以下の通り教育課程を編成する。

修士（臨床心理学）

【CP1】DP1専門知識、DP2読解力を養成するため、コースワークとして、近年の臨床心理学へのニーズの多様化・高度化に応じた臨床心理学の基幹を修得する「専門基幹科目」、それらをより深く展開する「専門展開科目」をおく

【CP2】DP3表現力、DP4実践能力、DP5研究力を養成するため、リサーチワークとして、臨床実践に関する「実習科目」と修士論文に収斂する「研究指導科目」をおく

ディプロマ・ポリシー (学位授与の方針)

臨床心理学専攻では、心のケアの専門家に必要とされる専門知識と研究方法を習得し、それらにともづく基礎的な研究力を高度な職業活動や実践的な研究において生かすことが可能な、以下の知識と能力を有する院生に「修士（臨床心理学）」を授与する。

【DP1専門知識】臨床心理学に関する必要な専門知識を有する

【DP2読解力】内外の先行研究を正確に読み取ることができる

【DP3表現力】文章および口頭により、自身の考えを他者に論理的に伝達できる

【DP4実践能力】職業人もしくは研究者として必要とされる実践を行なえる

【DP5研究力】自発的に研究課題を設定し、研究を遂行できる

[研究室紹介]

コミュニケーション心理学と遊戯療法に関する研究

心と環境の両方に働きかけて支援する

心の中だけでなく、家族や学校、職場、地域社会などの環境にも働きかける支援を研究しています。この方法の特徴は、治療よりも予防、心の奥深くよりも浅いところ、個人よりも多くの人を重視することです。また現在は、遊戯療法（子どもの心理療法）の研究にも力を入れています。日本の文化に合った遊戯療法のあり方に関心があります。公認心理師・臨床心理士には、他者のためになりたい温かい気持ちと、幅広い知識とスキルを併せ持つことが大切だと考えています。臨床心理学専攻には、さまざまな学派の心理療法、心理検査から基礎心理学まで、バラエティ豊かな教員がいて、研究室の敷居が低く、どの教員にも指導を受けやすいという特徴があります。



丹羽 郁夫 教授

[学生・修了生の声]

心理学を広く深く学べる環境で
「寄り添う力」を磨いています

専攻の魅力

研究テーマ 過去のストレスフルな体験の意味づけがあきらめと
ゆるしを通してPTG(心的外傷後成長)に与える影響の検討

心理学のさまざまな分野の専門家が偏りなく揃い、また所属ゼミの垣根を越えて親身に指導してくださるので、視野の広がりと興味関心の掘り下げ、言うなれば「広さ」と「深さ」が両立した学びができることが専攻の魅力です。学部時代と比べると自ら調べて発表するといった主体的な姿勢が身につき、研究の楽しさを実感しています。

将来の目標

臨床心理検査演習では、専門的な心理検査が対象理解の助けになると感じました。また産業分野の心理職に從事する方々から話を聞いたことも刺激になりました。将来は私自身も専門職としてクライエントが抱えるさまざまな苦しさや悩みに寄り添いながら、一人ひとりの生きる力を最大限に引き出す支援を行うことが目標です。



新井 美奈

修士課程 在学中

[専任教員一覧] [2022年度] ※年度により授業を持たない場合があります。

専任教員	専攻	研究テーマ	主な担当科目
小野 純平 教授	臨床心理学、発達臨床心理学、心理査定	被虐待の心理援助、発達障害のアセスメントと支援、臨床心理アセスメント	臨床心理査定演習I（心理的アセスメントに関する理論と実践）、臨床心理査定演習II、論文研究指導
金築 優 教授	認知行動療法	認知行動療法の理論（特に知覚制御理論）に関する研究	臨床心理学特論、臨床心理実習I（心理実践実習）、臨床心理実習II、心の健康教育に関する理論と実践、論文研究指導
久保田 幹子 教授	臨床心理学、心理療法（森田療法、カウンセリングなど）、心理査定	不安症・強迫症に対する心理療法、森田療法、女性の心理的危機と援助、比較心理療法など	臨床心理基礎実習、医療心理学特論、論文研究指導
末武 康弘 教授	臨床心理学、心理学的支援法、カウンセリング・心理療法	クライアント中心療法（パーソンセンタードセラピー）、フォーカシング指向療法の理論的・実践的研究	臨床心理基礎実習、臨床心理面接特論I（心理支援に関する理論と実践）、臨床心理面接特論II、論文研究指導
関谷 秀子 教授	児童青年精神医学、精神分析学	思春期青年期の発達、精神分析的精神療法、親ガイダンス	精神医学特論（保健医療分野に関する理論と支援の展開）、論文研究指導
丹羽 郁夫 教授	臨床心理学、コミュニティ心理学、子どもの心理療法	子どもの心理療法、日本の遊戯療法、コンサルテーション、移行対象	心理臨床演習、臨床心理実習I（心理実践実習）、臨床心理実習II、論文研究指導
服部 環 教授	教育心理測定学、心理データ解析	項目反応理論と心理データ解析に関する理論と応用	データ分析法、論文研究指導
望月 聰 教授	神経心理学、認知行動病理学	神経心理学的症状とその発生機序・影響についての基礎研究と応用研究、心理的障害やその傾向の発生や維持に関連する機序・要因の実証的研究	認知心理学特論、教育心理学特論、論文研究指導
小林 由佳 准教授	産業精神保健学、臨床心理学（産業・組織）	職業性ストレス、職場のポジティブメンタルヘルス	臨床心理基礎実習、産業・労働分野に関する理論と支援の展開、臨床心理学研究法特論
岩田 美香 兼担教授（科目担当）	子ども・家族福祉論、教育福祉論	子育ち・子育ての社会的困難に関する研究、貧困家族に対するソーシャルワーク	児童福祉特論

[設置科目] [2022年度] ※開講科目は年度により異なります。() = 単位数

修士課程

- | | | |
|------------------------------------|------------------------------------|------------------------------------|
| ■ 臨床心理基礎実習(2) | ■ 認知心理学特論(2) | ■ 高齢者福祉特論(2) |
| ■ 臨床心理学特論(4) | ■ 教育心理学特論(2) | ■ 教育分野に関する理論と支援の展開(2) |
| ■ 臨床心理面接特論I（心理支援に関する理論と実践）(2) | ■ 発達心理学特論(2) | ■ グループ・アプローチ特論(2) |
| ■ 臨床心理面接特論II(2) | ■ 家族心理学特論(2) | ■ 家族関係・集団・地域社会における心理支援に関する理論と実践(2) |
| ■ 臨床心理査定演習I（心理的アセスメントに関する理論と実践）(2) | ■ 犯罪心理学特論（司法・犯罪分野に関する理論と支援の展開）(2) | ■ 投影法特論(2) |
| ■ 臨床心理査定演習II(2) | ■ 精神医学特論（保健医療分野に関する理論と支援の展開）(2) | ■ 心の健康教育に関する理論と実践(2) |
| ■ 臨床心理実習I（心理実践実習）(1) | ■ 障害者（児）心理学特論（福祉分野に関する理論と支援の展開）(2) | ■ 力動的心理療法特論(2) |
| ■ 臨床心理実習II(1) | ■ 産業・労働分野に関する理論と支援の展開(2) | ■ 心理臨床演習(2) |
| ■ 心理学研究法特論(2) | ■ 児童福祉特論(2) | ■ 医療心理学特論(2) |
| ■ データ分析法(2) | | ■ 論文研究指導(4) |
| ■ 臨床心理学研究法特論(2) | | |

修了生の研究テーマの例

- | | |
|--|--|
| ■ 在宅介護・看取りを行った家族の喪失体験の意味づけー在宅介護・看取りの経験が与える影響に着目してー | ■ 大学生の恥意識についての研究
ー対人恐怖心と回避的傾向、及び心理的自立との関連からー |
| ■ ASD傾向、ADHD傾向を有する場合のストレス対処行動及び愛着スタイルが精神健康度に与える影響について | ■ 入院森田療法患者の体験分析 |
| ■ 内觀療法における心理的変容のプロセス
ー愛着スタイルを中心にしてー | ■ 心理士の職業的発達に影響を及ぼす体験についてー自己変容との関連からー |
| ■ 大学生アスリートにおける受傷体験と反すうの関連性 | ■ アタッチメントと長期恋愛経験からみる青年の自己愛的脆弱性と自尊感情
ー大学入学時からの変化に着目してー |
| ■ マインドフルネスが孤独感の低減に及ぼす効果
ー孤独に対する捉え方に着目してー | ■ コンパニオン・アニマルが飼育者に及ぼす心理的影響の検討 |
| ■ ワーク・ライフ・バランスの観点から見たワーク・エンゲイジメント促進要因の検討
ー仕事と家庭に関する価値観とコンフリクトに焦点を当ててー | ■ 精神疾患の親をもつ子どものリカバリーに関する研究 |
| | ■ 心理学的ストレスプロセスにおけるレジリエンスが持つ効果に関する研究 |
| | ■ twitter依存とメンタルヘルスとの関連について
ー愛着と自己愛からの検討ー |

人間福祉専攻

詳細は[こちら](#)

募集人員

博士後期課程5名

キャンパス

多摩

主な進路

国立大学や私立大学の教員・研究員、独立行政法人研究員、医療機関(福祉職)、公務員など



昼間開講

修了要件・履修案内
時間割・シラバス



トータルな人間福祉を実現できる

理論的・実践的研究者へ

21世紀の人間福祉を総合的に実現するための理論的かつ実践的研究者を養成することが本専攻の目標です。そのため、人間の「生」(Life)をトータルに捉えられるカリキュラムを構成しています。選択・必修科目として、「福祉政策系」「福祉社会系」「福祉臨床系」「地域・政策系」「地域・文化系」「臨床心理系」の多彩な特殊講義を設置しています。また、1年次から3年次までの必修科目として「人間福祉特別演習」を設置し、指導教員のほかに副指導教員による複数教員の論文指導を実施しています。

複合的な研究アプローチにより社会的に意義のある博士論文をまとめることをめざしており、開設以降、毎年課程博士を輩出していることも特色の一つです。

アドミッション・ポリシー (学生受け入れ方針)

〈入学前に修得しているべき能力〉
【AP1知識】当研究科の福祉社会専攻または臨床心理学専攻の修了者あるいはそれと同等の専門知識を有している
【AP2英文読解力】研究テーマに関して専門的な英語文献を理解できる英語力を有している
【AP3思考・判断】研究テーマに関して、論理的に思考し、判断できる
【AP4意欲・関心】研究テーマへの強い研究意欲をもち、実践的な関心を有している
【AP5研究力】先端の研究テーマを見出し、自らの研究方法を持って、研究に取り組める

カリキュラム・ポリシー (教育課程の編成・実施方針)

〈教育課程の編成方針〉本専攻の学位授与方針を達成するために、以下の通り教育課程を編成する。
博士(人間福祉)
【CP1】DP1専門知識、DP2読解力、DP3表現力を養成するためコースワークとして、福祉系の科目「特殊講義」をおく
【CP2】DP3表現力、DP4実践能力、DP5研究力を養成するため、リサーチワークとして、論文指導に重点を置いた特別演習を設ける
博士(学術)
【CP3】DP6専門知識、DP7読解力、DP8表現力を養成するためコースワークとして、地域系・臨床心理系の科目「特殊講義」をおく
【CP4】DP8表現力、DP9実践能力、DP10研究力を養成するため、リサーチワークとして、論文指導に重点を置いた特別演習を設ける

ディプロマ・ポリシー (学位授与の方針)

人間福祉専攻では、先端の研究課題を設定し、それに対して、創造的な答えを導き出し、自立して研究を行なうことが可能な、以下の知識と能力を有する院生に「博士(人間福祉)」あるいは「博士(学術)」を授与する。
博士(人間福祉)
【DP1専門知識】人間福祉分野の先端的研究に関する高度な専門知識を有する
【DP2読解力】内外の先行研究を正確かつ批判的に読み取ることができる
【DP3表現力】文章および口頭により、自身の考えを他者に論理的に伝達できる
【DP4実践能力】研究者として必要とされる高度な実践能力を有する
【DP5研究力】先端の研究課題について、オリジナリティ豊かな結論を導き出し、論証できる
【DP6専門知識】臨床心理分野または地域づくり分野の先端的研究に関する高度な専門知識を有する
【DP7読解力】内外の先行研究を正確かつ批判的に読み取ることができる
【DP8表現力】文章および口頭により、自身の考えを他者に論理的に伝達できる
【DP9実践能力】研究者として必要とされる高度な実践能力を有する
【DP10研究力】先端の研究課題について、オリジナリティ豊かな結論を導き出し、論証できる

[研究室紹介]

ウェルビーイング実現に不可欠な対人援助

ソーシャルワーク理論の思想的、文化的観点からの批判的考察

ウェルビーイングを実現するには、生活や人生を支える領域、生活の基盤となる地域やシステムを維持・開発する領域などさまざまなアプローチがあります。ソーシャルワーク理論研究を担当する本研究室は、対人援助方法論の歴史的・理論的検討を行い、多様性と差異という観点から人々の生活問題をどのように捉え、何をめざして援助がなされてきたのか、そこにはどのような原理・思想的基盤があるのかを読み解いていきます。ソーシャルワーク理論がうまれた社会的背景を正しく理解すること、他方では社会の発展と人間尊重という時には相反する現実問題を視野に入れながら、ソーシャルワーク理論を批判的に分析することを通して、多様な文化的文脈における援助のあり方について探っていきます。



伊藤 正子 教授

[学生・修了生の声]

日々変わりゆく福祉の課題を研究を通して問い合わせていく

専攻の魅力

研究テーマ

ソーシャルワーク実践における「自己決定」の支援の再考

学部卒業後、自治体や社会福祉協議会など福祉の現場で働く中で、理論と実践の間にはさまざまな課題があると痛感しています。その課題を研究という形で自分自身や社会に問い合わせたいと本専攻を志望しました。ソーシャルワーク実践研究を進めるうえで、福祉だけでなく、心理や地域づくり等、幅広く専門的な視点からご指導をいただける環境が魅力です。

将来の目標

学生時代から福祉を学んだ者としていま、「福祉の課題は日々変わっていき、実践者にはその変わりゆく課題に対応することが求められる」とあらためて感じています。先生方の専門分野が多岐にわたる専攻の恵まれた特色を有意義に活用し、一つひとつの課題をその変容も含めて問い合わせ続け、解決の糸口を追い求めていくことが将来の目標です。



安西 美咲

博士後期課程 在学中/
和泉短期大学助教

[専任教員一覧] [2022年度] ※年度により授業を持たない場合があります。

専任教員	専攻	研究テーマ	主な担当科目
伊藤 正子 教授	社会福祉方法論、異なる民族・文化的背景を持つ人々への社会福祉援助	社会的排除とソーシャルワーク、多文化ソーシャルワーク	福祉臨床系特殊講義Ⅰ/Ⅱ、人間福祉特別演習
岩崎 晋也 教授	社会福祉原論	社会福祉原理・思想	福祉社会系特殊講義Ⅰ/Ⅱ、人間福祉特別演習
岩田 美香 教授	子ども・家族福祉論、教育福祉論	子育ち・子育ての社会的困難に関する研究、貧困家族に対するソーシャルワーク	福祉臨床系特殊講義Ⅰ/Ⅱ、人間福祉特別演習
小野 純平 教授	臨床心理学、生涯発達心理学、心理検査学、心身障害学	被虐待の心理援助、発達障害のアセスメントと支援、知能検査法	臨床心理系（病理・発達）特殊講義Ⅰ/Ⅱ、人間福祉特別演習
金築 優 教授	認知行動療法	認知行動療法の理論（特に知覚制御理論）に関する研究	臨床心理系（心理・地域）特殊講義Ⅰ/Ⅱ、人間福祉特別演習
久保田 幹子 教授	森田療法、比較心理療法、心理査定	不安症・強迫症に対する森田療法、女性の心理的危機、比較心理療法など	臨床心理系（病理・発達）特殊講義Ⅰ/Ⅱ、人間福祉特別演習
高良 麻子 教授	ソーシャルワーク論	ソーシャルアクション、地域包括ケア	福祉臨床系特殊講義Ⅰ/Ⅱ、人間福祉特別演習
佐藤 蘭美 教授	ソーシャルワーク論（特に終末期ケアを中心として）、当事者および家族への支援	当事者・家族への支援、死別ケア、セルフヘルプグループの支援	福祉臨床系特殊講義Ⅰ/Ⅱ、人間福祉特別演習
佐野 竜平 教授	障害インクルーシブな国際協力、アジア地域開発、循環型経済	アジアの障害インクルーシブな国際協力、開発の理論と実践	地域・政策系特殊講義Ⅰ/Ⅱ
眞保 智子 教授	障害者福祉論、精神保健福祉、若者支援、就労支援、障害者のキャリアデザイン	若者就労支援、障害者雇用、企業における精神科ソーシャルワーク	福祉社会系特殊講義Ⅰ/Ⅱ、人間福祉特別演習
末武 康弘 教授	臨床心理学、心理学的支援法、カウンセリング・心理療法	クライアント中心療法（バーソンセタードセラピー）、フォーカシング指向療法の理論的・実践的研究	臨床心理系（心理・地域）特殊講義Ⅰ/Ⅱ、人間福祉特別演習
図司 直也 教授	農業経渓学、農山村政策論、地域資源管理論	農山村における地域マネジメント論、外部人材と協働する農山村の地域づくり	地域・政策系特殊講義Ⅰ/Ⅱ、人間福祉特別演習
関谷 秀子 教授	児童青年精神医学、精神分析学	思春期青年期の発達、精神分析的精神療法、親ガイドンス	臨床心理系（病理・発達）特殊講義Ⅰ/Ⅱ、人間福祉特別演習
土肥 将敦 教授	ソーシャルイノベーション、社会的企业家、CSR	ソーシャルイノベーションの創出と普及、社会的企业家研究、CSR研究	地域・政策系特殊講義Ⅰ/Ⅱ、人間福祉特別演習
丹羽 郁夫 教授	臨床心理学、コミュニティ心理学	子どもの心理療法、日本の遊戯療法、コンサルテーション、移行対象	臨床心理系（心理・地域）特殊講義Ⅰ/Ⅱ、人間福祉特別演習
服部 環 教授	教育心理測定学、心理データ解析	項目反応理論と心理データ解析に関する理論と応用	臨床心理系（心理・地域）特殊講義Ⅰ/Ⅱ、人間福祉特別演習
布川 日佐史 教授	公的扶助論、雇用政策論	就労支援と生活保障の日独比較、生活保護自立支援の検証	福祉政策系特殊講義Ⅰ・Ⅱ、人間福祉特別演習
水野 雅男 教授	都市住宅政策論、市民活動運営論	地域木造住宅保全システム研究、被災地復興地域づくり研究、創造都市研究、医療経済研究	地域・文化系特殊講義Ⅰ/Ⅱ、人間福祉特別演習
宮城 孝 教授	コミュニティソーシャルワーク、地域包括ケアなどの地域福祉方法論	コミュニティソーシャルワーク方法論、超高齢化地域における包括的な支援策	※今年度は、特定の科目を担当しません
望月 聰 教授	神経心理学、認知行動病理学	神経心理学的症状とその発生機序・影響についての基礎研究と応用研究、心理的障害やその傾向の発生や維持に関する機序・要因の実証的研究	臨床心理系（病理・発達）特殊講義Ⅰ・Ⅱ、人間福祉特別演習
野田 岳仁 准教授	環境社会学、地域社会学、観光社会学	現場に暮らす生活者の立場からの地域づくり、地域ツーリズムの探究	地域・政策系特殊講義Ⅰ、地域・政策系特殊講義Ⅱ

[設置科目] [2022年度] ※開講科目は年度により異なります。() = 単位数

博士後期課程

- 福祉政策系特殊講義Ⅰ/Ⅱ（各2） ■ 地域・政策系特殊講義Ⅰ/Ⅱ（各2） ■ 臨床心理系（病理・発達）特殊講義Ⅰ/Ⅱ（各2）
- 福祉社会系特殊講義Ⅰ/Ⅱ（各2） ■ 地域・文化系特殊講義Ⅰ/Ⅱ（各2） ■ 人間福祉特別演習Ⅰ～Ⅲ（各4）
- 福祉臨床系特殊講義Ⅰ/Ⅱ（各2） ■ 臨床心理系（心理・地域）特殊講義Ⅰ/Ⅱ（各2）

修了生の研究テーマの例

- 生活保護法準用措置による外国人保護実施過程の分析
－形成・展開・限界－
- 構造拘束的な体験様式と心理的距離に関する研究
- 高齢者夫婦間介護のリスクに関する研究
－その構成要因と支援の方法について－
- ソーシャルワーカーの自己生成過程における専門的自己の構築と解体
－中動態から生起する臨床体験－
- 地域主義にもとづく文化財保存と活用に関する研究
－文化財を核としたコミュニティの生成と活動を視野に－
- 居住に困難を抱える単身高齢者の居住支援におけるコミュニティソーシャルワークの意義と機能
- 地域特性に応じた介護保険事業の効率性についての実証的研究
- 自然科学的人間観に着目したクリニックサイロジストの実践性と科学性の関連
- Obsessive-Compulsive Disorder in Adults with Autism Spectrum Disorders Comorbidity:
Examining Neuropsychological Features

政策創造専攻

詳細はこちら



募集人員

修士課程50名／
博士後期課程10名

キャンパス

市ヶ谷

主な進路

会社員、企業経営者、公務員、県市区議会議員・秘書、国公私立大学教職員、経営コンサルタント、社会保険労務士、公認会計士、税理士、デザイナーなど

長期履修制度有 (修士課程)



夜間開講

修了要件・履修案内・
時間割・シラバス



日本の活性化を担う政策デザイン能力を養成

高度知識社会においては、国際的な視野のもとで、多様な価値観、高度な専門的知識、幅広い教養、柔軟な創造力を持ち、具体的に課題解決する能力、すなわち政策を創造する能力が要求されます。特に、グローバルに展開される地域間競争のもとでは、「地域イノベーション」に向け、知的資源を活用した、政策創造能力が問われます。個性的な文化の振興、競争力のある産業の振興、サステナブルな生活環境への改善、自然・都市景観の保護、そして住民や観光客に魅力的な地域空間の形成をすることが必要となります。政策創造の課題は中山間地域、過疎地域、地方の中小都市だけの特別な施策ではなく、高齢化・集中化する大都市にも存在します。

本研究科のカリキュラムの中心は、これらの課題に対応する3つの創造群・9つのプログラムからなります。総合的かつ具体的な観点から、新たな政策創造を教育研究し、問題解決能力や政策デザイン能力の養成、新しい価値観の創出、世界に向けた情報発信を担う高度専門職業人及び研究者の育成を行います。そのため、「政策研究に不可欠な知識とスキルの教授」、「当該分野における創造的な発想の醸成」、そして「政策センスの鍛磨と実務的な政策形成・実施能力の育成」という三位一体の教育研究を実施します。

[研究室紹介]

“まちづくり”を学際的に実証

“まちづくり”について、多角的な観点からアプローチ

近年、全国各地で“まちづくり”という名のもとにさまざまな活動や事業などが行われています。私たちの研究室では、市民参加や市民協働、地域コミュニティ、地域活性化、観光、景観、都市環境など広く“まちづくり”について、学生の関心や研究テーマに即して多角的な観点からアプローチし研究が進められています。また、研究室では学生の学会への論文投稿や学会発表を積極的に促しており、毎年、多くの学生が挑戦しています。地方で行われる学会にあわせ、自治体訪問や“まち歩き”などさまざまな取り組みも行っています。私たちの研究科は実務経験豊かな社会人が多く学んでおり、教員からだけでなく学生同士がお互いに学びあえる場でもあります。



上山 肇 教授

[学生・修了生の声]

後進の育成における課題を研究し 論理的かつ批判的思考力を身につける

専攻を選んだ理由

研究テーマ

手術室看護師の熟達化の過程とその特徴について



村上 香織

修士課程修了後、
研究生として在籍／
医療法人社団創造会 平和台病院

学んで変化したこと

論文執筆にあたり筋道立てた思考過程が求められることや、批判的思考を持つことの大切さを学びました。また研究手法や論文の作法なども詳細に理解できました。こうした力は論文を書くためだけでなく、社会人として生きる上でも必要な力だと気づきました。看護師の仕事や後輩の指導にも役立っています。

・文部科学省「職業実践力育成プログラム(BP)」

政策創造研究科修士課程は、平成28年度文部科学省「職業実践力育成プログラム(BP)」に認定されました。

・専門実践教育訓練給付制度厚生労働大臣指定講座

政策創造研究科修士課程は、専門実践教育訓練給付制度厚生労働大臣指定講座に指定されています。入学1ヶ月前までにハローワークで支給申請手続きを行い、2年間で修了すれば、最大112万円の給付を受けることが可能です。

・平日夜間と土曜日開講

社会人学生に配慮し、都心の市ヶ谷キャンパスにおいて授業は平日夜間（18:35～）と土曜日に開講しており、仕事と学業との両立が可能です。

[専任教員一覧] [2022年度] ※年度により授業を持たない場合があります。

専任教員	専攻	研究テーマ	主な担当科目
石山 恒貴 教授	人的資源管理、組織行動	雇用の変化に伴う人的資源管理の方向性の研究、人材育成とキャリア形成支援の研究、越境の学習、タレントマネジメント、ジョブ・クラフティング等の研究	雇用政策研究（マクロ）、人材育成論、人的資源管理論、地域雇用政策事例研究、プログラム演習、雇用政策特殊研究Ⅰ～Ⅲ
井上 善海 教授	経営戦略論、中小企業経営論	企業の事業戦略、特に新事業創出やイノベーションに関する研究	経営戦略論、新事業創出論、中小企業論、商店街活性化論、プログラム演習、企業経営特殊研究Ⅰ～Ⅲ
小方 信幸 教授	ESG投資、CSR、サステナビリティ経営	ESG要因と投資パフォーマンスの研究、企業が本業を通じて社会価値と経済価値を実現する共通価値の創造（CSV）及びサステナビリティ経営の研究	CSR論、ESG投資と企業経営、SDGsと企業経営、企業活動と社会Ⅰ、プログラム演習、CSR特殊研究Ⅰ～Ⅲ
柿野 成美 准教授	消費者政策、消費者教育、エシカル消費	持続可能な社会に向けた消費者の権利と責任に関する研究、発達段階に応じた消費者の自立支援策と推進体制に関する研究、地方消費者行政、消費者志向経営に関する研究	消費者政策論、生活政策論、実証分析入門、政策ワークショップ、プログラム演習、経済政策特殊研究Ⅰ～Ⅲ
上山 肇 教授	都市政策、まちづくり（市民参加・協働、コミュニティ形成、地域活性化、観光、景観…）	（地区・地域）まちづくりの理論と実践に関する研究、都市空間（親水空間など）が周辺の都市環境に及ぼす影響に関する研究	都市空間論、地域社会論、比較都市事例研究、まちづくり事例研究、研究法、フィールドワーク演習、プログラム演習、都市政策特殊研究Ⅰ～Ⅲ
須藤 廣 教授	観光社会学	観光地を一つのメディアと考え、ポストモダン社会における観光のあり方、あるいは観光地の変容について、理論と実証を結びつける研究	観光社会学、観光開発論、フィールドワーク論、ニューツーリズム論、フィールドワーク演習、プログラム演習
高尾 真紀子 教授	社会保障政策、地域福祉政策	地域政策と幸福度に関する研究、認知症の人の社会参加に関する研究、シニア世代のウェルビーイングに関する研究	調査法、地域活性化システム論、ウェルビーイング論、少子高齢化と社会保障、プログラム演習、地域社会政策特殊研究Ⅰ～Ⅲ
橋本 正洋 教授	イノベーション政策、知財戦略・政策、技術経営、人材育成	イノベーション創成のための国家及び地方におけるエコシステム構築を進めるための政策や仕組み等に関する研究	地域産業論、地域経営戦略論、地域イノベーション論、英語論文文献講読、外国語文献講読、プログラム演習、産業政策特殊研究Ⅰ～Ⅲ
増淵 敏之 教授	文化地理学	コンテンツツーリズムなどの新たな観光行動の研究、食文化、ポップカルチャーなどによる地域創生の研究、異文化交流の研究、SNSなどの新たなメディアとコミュニティ形成の研究、都市におけるカフェ、ライブハウスなどの文化装置の研究	文化地理学、文化基盤形成論、都市文化論、コンテンツツーリズム論、合同ゼミ、フィールドワーク演習、プログラム演習、文化政策特殊研究Ⅰ～Ⅲ

[設置科目] [2022年度] ※開講科目は年度により異なります。() = 単位数

修士課程	博士後期課程
<ul style="list-style-type: none"> ■ 政策分析の基礎(2) ■ 政策ワークショップ(2) ■ 調査法(2) ■ 研究法(2) ■ 質的研究法(2) ■ 日本経済論(2) ■ 人的資源管理論(2) ■ 地域活性化システム論(2) ■ 文化地理学(2) ■ 都市空間論(2) ■ 地域活性特論Ⅰ(2) ■ 観光社会学(2) ■ 地域産業論(2) ■ 中小企業論(2) ■ CSR論(2) ■ 少子高齢化と社会保障(2) ■ ウェルビーイング論(2) ■ 実証分析入門(2) ■ 経済政策論(2) ■ 地方財政論(2) <ul style="list-style-type: none"> ■ 公共選択論(2) ■ 雇用政策研究（マクロ）(2) ■ キャリア理論と統計分析(2) ■ キャリア政策研究(2) ■ 地域雇用政策事例研究(2) ■ 人材育成論(2) ■ 地域コミュニティ論(2) ■ 消費者政策論(2) ■ 生活政策論(2) ■ 男女共同参画政策論(2) ■ 実践地方行政論(2) ■ 地域社会論(2) ■ 都市集積論(2) ■ まちづくり事例研究(2) ■ 比較都市事例研究(2) ■ 文化基盤形成論(2) ■ コミュニティーメディア論(2) ■ 都市文化論(2) ■ 観光文化政策論(2) ■ ニューツーリズム論(2) <ul style="list-style-type: none"> ■ フィールドワーク演習(2) ■ 地域ブランド論(2) ■ 文化社会学(2) ■ コンテンツツーリズム論(2) ■ 観光開発論(2) ■ フィールドワーク論(2) ■ メディア産業論(2) ■ イベント・フェスティバル論(2) ■ 観光マーケティング論(2) ■ 観光とメディア(2) ■ 行動経済学(2) ■ 応用行動経済学(2) ■ 地域経営戦略論(2) ■ ソーシャルキャピタル論(2) ■ 地域イノベーション論(2) ■ 非営利組織特論(2) ■ コミュニティーメディア論(2) ■ 新産業創出論(2) ■ コミュニティービジネス論(2) ■ アントレプレナーシップ論(2) <ul style="list-style-type: none"> ■ イノベーション・マネジメント論(2) ■ 事業承継論(2) ■ 経営戦略論(2) ■ ESG投資と企業経営(2) ■ SDGsと企業経営(2) ■ ダイバーシティ経営(2) ■ コーポレートガバナンス(2) ■ 企業活動と社会Ⅰ(2) ■ 企業活動と社会Ⅱ(2) ■ 特別講義Ⅰ/Ⅱ/Ⅳ(各2) ■ 経済学(2) ■ 社会学(2) ■ レポートライティング(2) ■ 英語論文文献講読(2) ■ プログラム演習(2) <ul style="list-style-type: none"> ■ 研究法(2) ■ 外国語文献講読(2) ■ 合同ゼミ(2) ■ 経済政策特殊講義(2) ■ 雇用政策特殊講義(2) ■ CSR特殊講義(2) ■ 企業経営特殊講義(2) ■ 都市政策特殊講義(2) ■ 産業政策特殊講義(2) ■ 文化政策特殊講義(2) ■ 観光政策特殊講義(2) ■ 地域社会政策特殊講義(2) ■ 経済政策特殊研究Ⅰ～Ⅲ(各4) ■ 雇用政策特殊研究Ⅰ～Ⅲ(各4) ■ CSR特殊研究Ⅰ～Ⅲ(各4) ■ 企業経営特殊研究Ⅰ～Ⅲ(各4) ■ 都市政策特殊研究Ⅰ～Ⅲ(各4) ■ 産業政策特殊研究Ⅰ～Ⅲ(各4) ■ 文化政策特殊研究Ⅰ～Ⅲ(各4) ■ 地域社会政策特殊研究Ⅰ～Ⅲ(各4) ■ 観光政策特殊研究Ⅰ～Ⅲ(各4) 	

修了生の研究テーマの例

- 中小企業における脱コモディティ化イノベーションに関する研究
～スーパー・マーケットを事例として～
- 東京圏における若者の未婚に関する研究
－地域の経済状況と人間関係に注目した未婚化対策－
- 外国人留学生の日本企業におけるキャリア形成の一考察
－就業プロセスにおける心理的変容に着目して－
- 関係人口における移住意向と移住意向者の思考・行動に関する研究
- 高齢者介護施設における介護職員のストレス要因に関する研究
－利用者家族との関わりに着目して－
- 中小企業の新事業展開におけるイノベーション・メカニズムに関する研究
～医工連携による医療機器開発の事例を中心に～
- 信州・まつもと大歌舞伎における伝統芸能による市民参加型まちづくりに関する研究
－運営側の視点から－
- 観光イメージのプランディングによるインバウンド観光客の誘致に関する調査
－和歌山高野山を例として－
- 女性の離職期間における自己効力感向上のプロセス
－転機の解釈と地域のサポート・フレイズがはたす役割－
- 高齢雇用者の縮小的ジョブ・クラフティングの解明
－大企業に勤務する再雇用者に着目して－

公共政策学専攻

詳細はこちら



募集人員

修士課程25名／
博士後期課程10名

キャンパス

市ヶ谷

勤務先の特徴

民間企業、市民団体、
NPO、公益法人、国際
NGO、国際協力機関、地
方自治体、中央政府など

長期履修制度有 (修士・博士後期課程)



夜間開講

修了要件・履修案内・
時間割・シラバス



公共政策分野における 高度専門職業人・研究者的実務家を育成

「ガバメントからガバナンスへ」「新しい公共」などの言葉で語られるように、今日では、公共的課題の担い手の多様化、政府部門に限定されない社会的な課題解決の営みを総合的な観点から研究する必要性が高まっている。公共政策学専攻では、従来の学問的枠組みでは解決が難しい社会的課題を含めた公共政策領域の諸問題に対応するため、マネジメント、ガバナンスという語をキーワードとして、次に示す人材を育成する。

【修士課程】

- ・社会人を対象とする高度専門職業人として、公共政策に関する高度の調査分析能力、高度な政策立案能力のある人材
- ・社会の公共課題の解決を追求する分野において、公共政策の研究、教育を担うことのできる人材

【博士後期課程】

- ・高度専門職業人としての知見や経験の裏づけに基づいて、実践科学としての公共政策学の領域に関して高度な研究能力を備えた人材

アドミッション・ポリシー (学生受け入れ方針)

カリキュラム・ポリシー (教育課程の編成・実施方針)

ディプロマ・ポリシー (学位授与の方針)

現代社会の抱える諸課題に対して適切な解決手段を構想し実行できる政策能力を持つ高度専門職業人を育成することに関連し、下記の受け入れ方針を採っている。

【修士課程】一般学生も含め主として次のような社会人に広く門戸を開く。(1)公共政策分野に関わる複雑な諸課題に対して政策を模索する意欲を強く持っていること(2)統合的、学際的な視点を重視しながら政策研究を行う意欲を強く持っていること(3)課題解決のための政策立案能力を得し、それを実務に生かす意欲を強く持っていること

【修士課程】2年間の学習・研究の期間を標準として、下記4種類の科目群を配置している。(1)共通科目(理論・研究基礎) 大学院における研究の出発点としての学習の始まりである理論や研究に関する基礎科目として、各コースごとに基礎科目を配置している(2)共通科目(方法論・分析技法) 専門的手法を獲得するため、研究の方法論や分析に関する法的な観点からの基礎的科目、社会調査に関する科目、政策評価・分析の科目、行政運営手法に関する科目、主として留学生向けの科目、修士論文作成のための実践的な科目を配置している(3)専門科目 修士論文を執筆するための専門分野における学習を進めるため、各コースの専門的科目を配置している(4)研究指導科目 具体的かつ個別の論文指導によって、修士論文を完成させるため、1年次に履修する論文研究指導1と2年次に履修する論文研究指導2を配置する

【修士課程】所定の単位の修得により、以下に示す水準に達した学生に対して、修士(公共政策学)を授与する。(1)高度な専門知識と領域を横断する柔軟性をもち、自らの専門分野を俯瞰的に捉え公共政策に関する諸課題を研究することができる(2)複雑多様化する諸問題の解決方法等を構想する論理的思考ができる(3)自ら課題を発見・設定し、その解決策を模索するなどの創造的思考ができる(4)戦略的な視野を持ちつつ高度な専門知識に裏打ちされた合理的意思決定ができる

※博士後期課程については、大学院HPをご参照ください。

[研究室紹介]

政策課題の構造を捉え、(政策・制度)を読む

「都市型社会」における市民自治とそのシステム

公共政策は、人々の営みから生まれた無限の課題に対応する〈政策・制度〉であり、その課題は社会の構造から生まれてきます。そのため、〈政策・制度〉の構造は、その社会の構造を捉え、多様な主体の存在と活動を前提に、考察していくことになります。私たちは〈政策・制度〉のネットワークがあつて営みが成り立つ「都市型社会」に生きていますが、そこでは人々は異なる文化、利害、立場、価値観をもつバラバラの存在です。そこに生まれる無限の課題は、当事者とその支援者という少数者によって提起され、解決をめざす多様な主体の無限の取り組みとなって展開します。その主体と機構を理論と事例で読み解いていくことがテーマです。



土山 希美枝 教授



澤井 晴美

博士後期課程 在学中／
東京都職員

[学生・修了生の声]

公共政策の多彩な研究に取り組みながら 社会人院生同士の絆を深めています

専攻の魅力

研究テーマ 道路などインフラの利活用に関する研究

本専攻には国や地方自治体の公務員はもちろん、民間企業やNPOなどさまざまな職業・立場で活躍する社会人が集まっています。公共政策という広い領域において、それぞれ多彩な研究に取り組みながらも、同じ社会人院生としての連帯感が強いところが魅力です。時には励まし合って仕事と研究の両立を実現しています。実務につながる研究はもとより、大学院に進学しなければ出会えなかった、このような仲間を得られたことが大きな財産です。

学んで良かった点

大学院での学びを通して理論的な思考が身につき、職業人としての成長にもつながっていると実感しています。社会人が大学院に進学する機会は限られていますが、新しい仲間や自らの成長など得られるものが大きいので、迷っている方はぜひ挑戦してほしいと思います。

[専任教員一覧] [2022年度] ※年度により授業を持たない場合があります。

専任教員	専攻	研究テーマ	主な担当科目
公共マネジメントコース	杉崎 和久 教授	都市計画、まちづくり、市民参加	地域まちづくり、まちづくり支援システム、社会的合意形成に向けたプロセスデザイン、まちづくりの現代史
	土山 希美枝 教授	公共政策学、自治体論、政治学	社会構造の変動と政治・政策（＜政策・制度＞ネットワーク）の変容、自治体政策
	名和田 是彦 教授	公共哲学、コミュニティ論、法社会学	コミュニティ政策論、日本とドイツの都市内分権制度、「市民社会」の概念史、コミュニティ・ビジネスとコミュニティ・カフェなど
	廣瀬 克哉 教授	行政学、公共政策学	自治体における政治・行政関係
	渕元 初姫 教授	比較政治学、コミュニティ政策、福祉政策	ポスト福祉国家時代の市民社会論、地域社会における社会的包摶、英国・スコットランドの地方自治・自治体内分離
	林 嶺那 准教授	行政学、公共管理論、公共政策学	人事行政システム、公共サービス動機づけ、職場の人間関係、公民比較、官僚就職動機、参加型予算、NIMBY問題、物流行政
政策研究コース	池田 寛二 教授	環境社会学、国際環境政策学、環境・エネルギー政策の国際比較	気候変動政策、エネルギー政策、森林・林業政策の国際比較
	加藤 寛之 教授	産業論、地域産業論	造船産業の産業集積、ハードディスク産業の産業集積、アパレル産業の分業と産業集積
	白鳥 浩 教授	政治学、国際政治学	1.日本の現代政治、2.グローバリズムと国民国家の変容、3.地方政治研究、4.政党に関する理論、5.現代政治のデモクラシー
	関口 浩 教授	財政学、地方財政論、租税論、教育・福祉政策	財政学研究指導（地方分権時代における税財政システムおよび教育・福祉政策の研究）
	中筋 直哉 教授	地域社会学、都市社会学、社会調査法	地域社会構造、近代都市空間と集合行動、コミュニティの心情と論理
	糸久 正人 准教授	イノベーションマネジメント	Webデータ解析と集合知、確率的シミュレーションモデル
	多田 和美 准教授	国際経営論	日本企業の海外進出、国際的な製品開発戦略
	谷本 有美子 准教授	地方自治、行政学、市民自治	人口減少時代の自治体政策、国の自治体統制、市民自治

[設置科目] [2022年度] ※開講科目は年度により異なります。() = 単位数

修士課程

- 【2専攻共通科目】
- 理論・研究基礎
 - 政治理論(2)
 - 行政学基礎(2)
 - 比較行政研究(2)
 - 公共哲学基礎(2)
 - 政治制度研究(2)
 - 政策学基礎(2)
 - 現代政治分析研究(2)
 - 公共政策とジャーナリズム(2)
 - 公共政策の社会理論(2)
 - 財政学基礎(2)
 - 経済学基礎(2)
 - 環境哲学・倫理学(2)
 - 環境法基礎(2)
 - 地球環境学基礎(2)
 - 国際政治学基礎(2)
 - 國際協力論(2)
 - サステナビリティ研究入門(2)
 - SDGsへの招待(2)
- 【専門科目】
- 政策論・分析技法
 - 政策法務論(2)
 - 立法学研究(2)
 - 政策評価論(2)
 - 社会調査法1~8(各2)
 - 政策分析評価技法(2)
 - 市民参加の理論と実践(2)
 - 数理モデル概論(2)
 - 地域コンサルティング論(2)
 - ファシリテーション演習(2)
 - CSR論(2)
 - 政策研究概論(外国語)(2)
 - 公共政策論文技法1/2(各2)
 - 政策学研究(2)
 - 行政事例研究の方法(2)
 - 自治制度研究(2)
 - 自治体研究(2)
 - 自治体議会論(2)
 - 公務員制度研究(2)
 - 都市政策概論(2)
 - 都市政策事例研究(2)

- 政策過程研究(2)
- 自治体福祉政策論(2)
- 行政法事例研究(2)
- コミュニティ制度論(2)
- 日本政治史研究(2)
- 地方自治論(2)
- 自治体経営論(2)
- 比較公務員制度研究(2)
- 比較自治行政研究(2)
- 防災危機管理研究(2)
- 雇用労働政策研究(2)
- 政策過程事例研究(2)
- 政策開発実践論(2)
- 日本の政策決定過程(2)
- 自治体政策実践論1~3(各2)
- ガバナンス研究(2)
- リージョナリズムと非政府組織(2)
- 企業論(2)
- グローバル企業戦略論(2)
- 市民社会ガバナンス論(2)
- NPO論(2)
- 非営利セクター研究(2)

博士後期課程

- 公共政策学特殊研究
1 A/B ~ 3 A/B(各2)
- 公共政策ワークショップ(公共)
1 A/B ~ 3 A/B(各1)
- 公共政策ワークショップ(政策研究)
1 A/B ~ 3 A/B(各1)

修了生の研究テーマの例

- 現代中国におけるカザフ族地域の社会変容と生計戦略の再構築
－新疆ウイグル自治区北部コクトカイ県を事例として－
- 東シナ海の海洋資源と日本の外交政策の変容
－尖閣問題を中心に－
- 地域資源を活かした自治体電力事業の現状と可能性
－北海道寿都町と福岡県みやま市の事例を中心とする実証研究－
- 事故調査制度に関する研究
－刑事手続きとの関係からの考察－
- 健康危機管理をめぐる行政組織の現状と課題
－新型インフルエンザ発生時の対応方針決定過程に関する事例分析－
- 自治体総合計画の意義と課題
－基礎自治体(市・区)における総合計画の位置づけの分析を中心－
- 建築確認の民間開放に伴う実務上の課題と対応策の提言
－「一敷地一建築物の原則」の判断を例に－
- 地域社会における名望家の寄付行動の研究
－茨城県古河地域を事例として－
- 空港騒音政策の複層性に関する実証的研究
－周辺住民の受苦意識と法令における忍受限度論のねじれた関係性に着目して－
- 地域活性化における交流施策について
－交流人口概念の検証と再定義－
- 日本の「新しい公共(空間)」政策言説
－統治性研究アプローチによる「新しい公共」概念の類型化を通じた分析

サステイナビリティ学専攻

詳細はこちる



募集人員

修士課程15名／
博士後期課程5名

キャンパス

市ヶ谷

長期履修制度有
(修士・博士後期課程)

夜間開講

修了要件・履修案内

時間割・シラバス



サステイナブル社会の構築に貢献できる 高度専門職業人を養成

サステイナビリティ学は、世界が抱える複雑で長期的な問題に対して俯瞰的・統合的にアプローチし、持続的な人間活動のあり方を探求する新しい学術体系です。本専攻では環境(Ecology)・社会(Society)・経済(Economy)が三位一体となり、人間活動と資源・環境が調和したSustainable Management体系の確立をめざしています。現代社会が直面する課題へのソリューションを提供することを使命としています。諸問題の解決プロセス等を構想する論理的思考力、新たな価値を生み出す創造力、分野横断的に思考し社会にフィードバックできる実務能力を養います。本専攻では次の5つの中核分野に係る学問領域についての教育研究を行っています。

- サステイナブルマネジメント
(環境経営・環境会計など) ESG課題に対する最適ソリューションの探求
- グローバルパートナーシップ
(国際協力・社会開発など) サステイナブルな国際社会の実現に寄与
- ローカルサステイナビリティ
(地方自治・市民社会など) 持続可能な地域社会の構築に寄与
- 法と制度
(環境行政法・国際法など) 人々の安心した暮らしを実現する社会システムの探求
- 環境サイエンス
(エネルギー・公衆衛生・防災など) 科学の視点から環境保全へ貢献

[アドミッション・ポリシー] (学生受け入れ方針)

[カリキュラム・ポリシー] (教育課程の編成・実施方針)

[ディプロマ・ポリシー] (学位授与の方針)

本専攻では、サステイナビリティにかかる複雑な諸課題に対して適切な解決手段を構想し実行できる政策能力を持つ高度専門職業人を輩出することを目的としている。そのような意欲と潜在能力を持った方に広く門戸を開いている。サステイナブル社会創造のための計画、設計、運営、計測、管理、保全などにかかる専門的知識の修得をめざす者、人と自然、人ととの共生社会の創生に関わる根源的な課題を多様な観点から考察しようとする者などを対象にしている。

5つの中核分野に係る教育研究を行うために、社会科学を基盤に自然科学および人文科学を融合させた学際的なカリキュラムを展開している。次の4つの科目群を設定し、基礎の修得から研究へ発展させるまでのプロセスを段階的に学修することができる。(1) 共通科目（理論・研究基礎）／基礎の修得と学際的研究の意義等の理解、(2) 共通科目（方法論・分析技法）／研究の方法論や分析に関する基礎の修得、(3) 専門科目／5つの中核分野に関する専門知識の修得、(4) 研究指導科目／研究を遂行するための個別指導、である。

修士課程では、例えば高度な専門知識と学問領域を横断する柔軟性をもち、諸問題の解決方法等を構想する論理的思考ができると認められる者に対して修士の学位を授与する。博士後期課程では、例えば次の能力を有すると認められる者に対して博士の学位を授与する。現代社会を取り巻く諸問題を高度な手法によって分析・検証することができ課題解決へ向けてより具体的で適切な政策を立案できること。行政部門、企業部門、国際機関、市民組織などの各現場において研究内容を実際にフィードバックできること。

[研究室紹介]

脱炭素をリードする「サステイナブル経営」の実践

企業価値にかかるESG(非財務)評価モデルの構築

SDGsとパリ協定の登場によって、ビジネスの脱炭素化の流れが加速しており、日本企業の競争優位を支えてきた資源エネルギー多消費型経営モデルは曲がり角にきています。さらに、責任投資原則や責任銀行原則の発効によって企業評価の基準が変わりつつあり、これまで重視されてきたROE(自己資本利益率)などの利益の量的指標に加えて、E(環境)、S(社会)、G(ガバナンス)に代表される利益の質的指標が企業価値の決定要因として注目されるようになりました。サステイナビリティ社会における「企業価値とは何か」や「優れた企業家資質とは何か」について、実務家との協働による実証的アプローチによる研究をめざしたいと考えています。



長谷川 直哉 教授

[学生・修了生の声]

サステイナビリティ学は懐の深い学問。

ODAと環境問題を総合的に研究できます

専攻の志望理由

研究テーマ 日本の開発援助における適応主流化に関する研究

政府開発援助(ODA)に関する専門職に就くには、修士程度の知識があるほうが望ましいと考え、JICAへの転職と同時に大学院を探しました。研究と仕事が相乗効果をもたらす学びの環境を求めて出会ったのがこの専攻です。「サステイナビリティ学」の広範な学びのなかで「ODA」と「環境」のどちらか一つではなく、総合的に研究できるのが大きな魅力でした。

メッセージ

法政大学大学院は良い意味で自由な雰囲気。好きな研究に思いのまま専念できる環境です。また長期履修制度が充実しているので、社会人でも仕事と両立しながら自分のペースで研究を進めることができます。社会人の先輩は志の高い方ばかりで、私も刺激されて先行研究の調査はもちろん、仕事上のちょっとした疑問もすぐに調べる習慣が身につきました。先生と院生の距離感も心地よく、的確な指導をいただきつつ、社会人同士として対等な議論ができます。



槇田 容子

博士後期課程 在学中／
独立行政法人国際協力機構(JICA)

[専任教員一覧] [2022年度] ※年度により授業を持たない場合があります。

専任教員	専攻	研究テーマ	主な担当科目
岡松 晓子 教授	国際法、海洋法、国際原子力法、国際環境法	国際法の履行確保、原子力の平和利用、海洋環境の保護	環境法基礎、国際環境法、論文研究指導1A/B
金藤 正直 教授	経営学、会計学、地域研究	企業や地域の持続的成長を支援するマネジメント手法	環境経営論、論文研究指導1A/B
北川 徹哉 教授	環境流体、気象社会論、流体関連振動	強風の社会への影響と対策、金融工学的手法によるリスク回避、数値流体解析	大気人間環境論、論文研究指導1A/B
小島 聰 教授	行政学、地方自治論、自治体政策論	自治体の環境政策統合と市民参加、都市の持続可能性、域学連携とソーシャル・イノベーション	市民参加の理論と実践、論文研究指導1A/B
杉戸 信彦 教授	自然地理学、自然災害	変動地形、活断層、地震、土地条件	サステナビリティ研究入門A/B、サステナビリティ学事例研究II、論文研究指導1A/B
杉野 誠 教授	環境経済学、都市経済学、応用ミクロ経済学	カーボンプライシングの経済影響、排出量取引制度の制度設計、環境規制と貿易自由化	環境経済論、論文研究指導1A/B
高田 雅之 教授	生物多様性、自然環境政策、自然再生、湿地生態系、景観生態学	湿地生態系、生態系サービス、生物多様性オフセット、アジアの生物多様性保全、生物地理	自然環境共生研究、論文研究指導1A/B
高橋 五月 教授	環境人類学、海洋人類学、災害人類学、科学技術論、沿岸漁業、海洋保全	漁業政策と近代化、東日本大震災後の海洋文化、海洋科学と未来論	論文研究指導1A/B
武貞 稔彦 教授	国際開発、途上国援助、環境と開発、国際協力、開発倫理	開発協力を通じた社会変容、開発協力の自然環境・社会環境へのインパクト	国際協力論、SDGsへの招待、国際協力フィールドスタディ、論文研究指導1A/B
辻 英史 教授	ドイツ近現代史	ドイツ近現代の都市史、社会政策史、市民社会の歴史	論文研究指導1A/B
永野 秀雄 教授	日米比較法（環境法、防衛法、サイバーセキュリティ法）	環境監査と法、インテリジェンス法制、重要インフラのサイバーセキュリティ	環境法基礎、環境私法、論文研究指導1A/B
長谷川 直哉 教授	サステナビリティ経営、CSR、企業倫理、企業家史	企業価値の形成と非財務要素、ESG投資/SRI（社会的責任投資）、企業倫理の形成と思想の要因	サステナブル経営論、論文研究指導1A/B
藤倉 良 教授	国際環境協力、環境システム科学、開発援助、環境リスク、環境政策	ダム開発、住民移転、環境政策過程、開発途上国、政府開発援助	地球環境学基礎、サステナビリティ研究入門A/B、国際環境協力論、環境工学の基礎、論文研究指導1A/B
松本 優明 教授	理論天文学、数値流体力学、宇宙天気	星と惑星の誕生、太陽活動と地球環境の関係	数理モデル概論、論文研究指導1A/B
宮川 路子 教授	予防医学、公衆衛生学、産業保健、分子整合栄養医学	就労者の健康問題、メンタルヘルスケア、栄養療法	公衆衛生研究、論文研究指導1A/B
湯澤 規子 教授	地域経済学、日本近現代史、人文地理学	地域づくりの理論と実践、食と農の地域経済学、女性と家族の近現代史	環境ガバナンスIII、論文研究指導1A/B
横内 恵 准教授	環境法、公法（憲法・行政法）	環境リスクの法的制御、廃棄物処理法制	環境法基礎、環境ガバナンスII、論文研究指導1A/B
吉永 明弘 教授	環境倫理学	都市環境の保全に関する倫理学的研究	環境哲学・倫理学、論文研究指導1A/B
渡邊 誠 教授	計算科学、物性論、非線形力学	カオス・フラクタルの数理と応用、環境問題の熱力学的考察、集団運動と自己組織化現象	論文研究指導1A/B

[設置科目] [2022年度] ※開講科目は年度により異なります。() = 単位数

修士課程	博士後期課程
<p>[2専攻共通科目]</p> <ul style="list-style-type: none"> ●理論・研究基礎 ■行政法基礎(2) ■比較行政研究(2) ■公共哲学基礎(2) ■政策学基礎(2) ■現代政治分析研究(2) ■公共政策とジャーナリズム(2) ■公共政策の社会論理(2) ■財政学基礎(2) ■経済学基礎(2) ■環境哲学・倫理論(2) ■環境法基礎(2) ■地球環境学基礎(2) ■国際政治学基礎(2) ■国際協力論(2) ■サステナビリティ研究入門(2) ■SDGsへの招待(2) <p>●方法論・分析技法</p> <ul style="list-style-type: none"> ■政策法論(2) ■立法学研究(2) ■政策評議論(2) ■社会調査法1~8(各2) 	<p>■政策分析評価技法(2)</p> <ul style="list-style-type: none"> ■市民参加の理論と実践(2) ■数理モデル概論(2) ■地域 ■コンサルティング論(2) ■ファシリテーション演習(2) ■政策研究概論(2) ■公共政策 ■論文技法1/2(各2) <p>●専門科目</p> <ul style="list-style-type: none"> ●法律・行政系科目 ■環境行政法(2) ■環境私法(2) ■環境政策法務と条例(2) ■国際環境法(2) ■国際機構論(2) ■外交政策論(2) ■環境ガバナンスII(2) <p>●専門科目</p> <ul style="list-style-type: none"> ●法律・行政系科目 ■環境行政法(2) ■環境私法(2) ■環境政策法務と条例(2) ■国際環境法(2) ■国際機構論(2) ■外交政策論(2) ■環境ガバナンスII(2) <p>●国際協力系科目</p> <ul style="list-style-type: none"> ■開発経済論(2) ■国際環境協力論(2) ■環境社会論(2) ■地域環境文化研究(2) <p>■国際協力系科目</p> <ul style="list-style-type: none"> ■開発経済論(2) ■国際環境協力論(2) ■社会開発論(2) <p>■国際協力系科目</p> <ul style="list-style-type: none"> ■開発経済論(2) ■国際環境協力論(2) ■論文研究指導1A・B/2A・B(各2)

修了生の研究テーマの例

- 大学発ベンチャーの創出プロセスに関する研究
- マニラのスラムにおけるソーシャルビジネスの効果～Smokey Toursの事例～
- 既婚女性が再就職を意思決定する要因に関する研究
- ダム開発に伴う小規模水道事業の統合における実態と持続可能性
- 戦後の損害保険産業にみる非連続な変化への対応と戦略行動
－大衆保険化、特に自動車保険と企業間競争－
- 日本のODA出口戦略に向けた示唆
－対中国ODA終了宣言後の日中企業間連携における国際協力機構の新たな取り組み－

デザイン学専攻 キャリア

詳細はこちら



募集人員

修士課程20名

キャンパス

市ヶ谷

主な進路

企業人事担当者、人材ビジネス会社経営者、経営コンサルタント、大学職員、大学教員、キャリアコンサルタント（カウンセラー）、高校教員、官庁職員、独立行政法人職員など

長期履修制度有



夜間開講

修了要件・履修案内・
時間割・シラバス



キャリアデザイン学を体系的に学べる 日本初の大学院

企業や公共団体、NPO、大学、高校などの人事・教育・キャリア支援担当者、キャリアコンサルタントとしてより高度な専門職をめざす方などを対象とした研究科です。経営学、教育学と、隣接する学問分野を背景に個人のキャリアを学際的に解明します。授業は2時間連続で夜間と土曜日に開講します。

キャリア支援や生涯学習の視点を重視する「キャリア教育・発達プログラム」と、組織の中でのキャリア形成・支援の視点を重視する「ビジネスキャリアプログラム」の2プログラムを設定。研究の基礎となる調査法を基礎科目で修得し、心理学関連科目を中心とした共通科目を学んだ上で、プログラム科目と演習科目でそれぞれの領域の専門性の涵養と研究の深化をめざします。

アドミッション・ポリシー (学生受け入れ方針)

企業や公共団体、NPO、大学・高校などの機関で人事・教育・キャリア支援などを担当する方や、キャリアコンサルタントとして、より高度な専門職をめざしている方などを積極的に受け入れる。選抜は秋季・春季1回ずつ合計2回、筆記試験ならびに口述試験による選抜試験を行っている。口述試験では、「研究計画書」及び「キャリアヒストリー報告書」に基づいて丁寧な面接を行う。筆記試験ならびに口述試験の結果に基づき、上記ポリシーに即した人材の選抜を行っている。

カリキュラム・ポリシー (教育課程の編成・実施方針)

基礎科目・共通科目をベースにキャリア教育・発達プログラム、ビジネスキャリアプログラムの2分野のプログラムを設置している。それぞれのプログラム科目には、キャリア発達科目群、キャリア・プロフェッショナル科目群、キャリア政策科目群という、ミクロ・メゾ・マクロの3分野からなる科目群を配置している。

それらの科目の履修の上で演習科目において修士論文指導を行う。

ディプロマ・ポリシー (学位授与の方針)

「経営学、教育学と隣接する学問分野をバッケージ化した個人のキャリアの学際的な解明」、「企業、公共団体、NPO、大学・高校などでキャリア支援を担う高度職業人の養成」という教育理念を踏まえ、所定の単位を修得し、修士論文の審査に合格し、以下に示す水準に達した学生に対し、「修士(キャリアデザイン学)」を授与する。

DP1. 学際的な専門知識を身につけている
DP2. 自らの職業経験を生かした研究課題を設定できる
DP3. 社会調査の手法を駆使した実証的な研究を遂行できる

[研究室紹介]

キャリアとメンタルヘルスの統合的アプローチをめざす

現場実践に活かせる 研究の問い合わせ立てることから

私の専門はキャリアカウンセリングと臨床心理学。研究テーマは復職支援など産業領域における心理的支援、メンタルヘルスとキャリアの統合、惨事ストレスなどです。担当授業の「キャリアカウンセリング論」では、スーパー、クランボルツ、サビカスらの理論についてのテキストを院生が分担して発表し討議します。ブリーフセラピーの訓練もします。院生が社会人である特色を活かして、それぞれの現場で起きている問題、事例検討を行い、理論モデルとスキルと具体事例の間を往還しつつ、現場で役立つ実践的な知見を得られるようにしています。修論についても、研究のための研究ではなく、自分の現場の問題から問い合わせ立て、問題解決への糸口が見つかるような研究計画をめざしています。



廣川 進 教授

[学生・修了生の声]

学問を仕事の場に応用・実践して 組織で働く個人のキャリアを支援

専攻の魅力

研究テーマ

長期雇用者と組織との心理的契約の変化に関する研究
— 同一企業の長期雇用者・離職者の事例から —

会社員が最後まで自律したキャリアを築くにはどうすればいいか。会社と個人の関係性を理論立てて学びたいと本専攻を志望しました。会社と個人の関係性を「心理的契約」や「組織コミットメント」といった概念に基づいて考え、調査・分析したことを通じて、学問を仕事に応用、実践することの大切さを学びました。



鈴木 久美子

修士課程 2019年度修了

今後の目標

社内の人材育成や後輩社員のキャリア形成を支援する場面で、専攻で学んだ理論を引用するほか論理的に話を進められるようになりました。今後は会社員としての自身のキャリアと大学院での学びを活かして、女性が考える理想のキャリアと組織のあり方を社会に提示するなど、組織で働く女性のキャリア支援をめざしています。

[専任教員一覧] [2022年度] ※年度により授業を持たない場合があります。

専任教員	専攻	研究テーマ	主な担当科目
キャリア教育・発達プログラム	上西 充子 教授	労働問題、キャリア教育	学校から職業への移行過程と初期のキャリア形成、ならびに、それに関わる支援の在り方
	児美川 孝一郎 教授	教育学	青年期教育、キャリア教育
	久井 英輔 教授	社会教育学	近現代社会教育史、社会教育と社会階層／共同性、生涯学習振興・社会教育行政（施設・職員）
	仲田 康一 准教授	教育行政学、学校改革論	国、地方の教育政策形成と実施、学校経営と教育法制
	筒井 美紀 教授	教育社会学、労働社会学	自治体や地域、学校や企業による生活・学習・就労支援
	田澤 実 教授	教育心理学、生涯発達心理学	キャリア教育の効果測定、包括的な若者支援
ビジネスキャリアプログラム	梅崎 修 教授	労働経済学、教育経済学、人事組織経済学	人材マネジメントの分析、キャリア教育の効果測定、初期キャリア形成の分析
	木村 琢磨 教授	組織行動論、経営組織論	企業における組織内政治とパワー、非公式リーダーシップ、組織の活性化
	坂爪 洋美 教授	産業・組織心理学	ダイバーシティ・マネジメントにおける管理職の役割と裁量権、インターナシップ
	佐藤 厚 教授	産業社会学、人的資源管理論、雇用政策論	ホワイトカラーの仕事とキャリア、労働時間管理とワークライフバランス、人材育成論
	武石 恵美子 教授	人的資源管理論、女性労働論	ダイバーシティ経営と人事管理・キャリア開発、女性のキャリア形成
	松浦 民恵 教授	人的資源管理論、労働政策	働き方改革、人材育成とキャリア形成、労使コミュニケーション
プログラム共通	齋藤 嘉孝 教授	社会学、社会調査、家族論	家族やそれを取り巻く社会環境と、関連する諸政策・制度
	佐藤 恵 教授	社会学（主として福祉、地域、犯罪）、社会調査	支援（ボランティア／NPO、ピア・サポート／自助グループ）、共生、社会問題、質的データ分析
	田中 研之輔 教授	ライフキャリア論、社会調査、エスノグラフィー	広く「社会集団」に関する理論的+経験的な社会学的考察
	廣川 進 教授	臨床心理学、キャリアカウンセリング、産業心理学	メンタルとキャリアの統合
	安田 節之 教授	プログラム評価論、コミュニティ心理学	心理教育プログラムや社会サービスの評価研究、対人・コミュニティ援助
	熊谷 智博 教授	社会心理学、グループダイナミックス	組織の心理的安全性研究、アイデンティティとキャリア、組織内・組織間関係の心理学的研究

[設置科目] [2022年度] ※開講科目は年度により異なります。() = 単位数

修士課程
<ul style="list-style-type: none"> ■ キャリア調査研究法基礎 (2) ■ 量的調査法 (2) ■ 質的調査法 (2) ■ 生涯発達心理学 (4) ■ 教育心理学 (4) ■ 産業・組織心理学 (4) ■ キャリアカウンセリング論 (4) ■ コミュニティとキャリア (4) ■ キャリアガイダンス論 (4) ■ 教育経営論 (4) ■ キャリア教育論 (4) ■ 教育社会学 (4) ■ 生涯学習論 (4) ■ キャリア開発論 (4) ■ 人的資源管理論 (4) ■ 経営組織マネジメント論 (4) ■ 人事組織経済学 (4) ■ 職業キャリア政策論 (4) ■ キャリアデザイン学演習 I / II (各2)

修了生の研究テーマの例

- 後継者のキャリア形成が承継後の企業パフォーマンスに与える影響
- 新入社員研修のエスノグラフィー
- 学生・教員・職員の協働によるキャリア教育のプログラム評価研究
—B大学における全学教育コミュニティの事例に基づいて—
- ミドルマネジャーのリーダーシップが所属組織への満足度に与える影響
- 大企業中堅社員のキャリア形成に関する一考察
- 公務員の効果的な人脈形成について
- 保育士を目指すノンストレーティーとは何者か?
—子ども・自己・学校の「発見」—
- 高校におけるキャリア教育の考察
—外部資源との連携に着目して—
- 食品メーカーA社における再雇用管理職の現状と心理的要因の分析
- 若者の学び直し・リチャレンジにおける専門家の支援
～専門学校生の自己マネジメント能力育成の視点から～
- キャリアコンサルタントの継続的就労におけるネットワークの役割についての実証的研究
- 長期雇用者と組織との心理的契約の変化に関する研究
—同一企業の長期雇用者・離職者の事例から—
- 高齢雇用者の内的権威が内発的動機づけに及ぼす影響
—ジョブクラフティングの媒介効果に着目して
- プロジェクト型業務従事者の組織内キャリア形成に関する研究
—IT系プロジェクトマネージャの役割コンフリクトに着目して—
- 成人中期の女性における労働者役割と母親役割に対する認識の変容

連帯社会 インスティテュート

詳細はこちら



募集人員

修士課程10名程度

キャンパス

市ヶ谷

入学後は政治学研究科
政治学専攻または公共
政策研究科公共政策学
専攻公共マネジメント
コースのいずれかに在籍
することになります。



夜間開講

修了要件・履修案内・
時間割・シラバス



日本の活性化を担う政策デザイン能力を養成

今、世界では、グローバリゼーションやICT化などを背景として、市場の失敗による貧困の増大、格差拡大が経済社会の持続可能性を脅かしています。行き過ぎた市場主義的・競争経済的モデルによって不確実・不安定が日常化された現代は、公益のために連帯する人々の智慧と力と行動がもっとも必要とされている時代ともいえるのではないでしょうか。どのような資本主義であるべきかが問われている一方で、「公」を担う連帯経済・社会的経済、サードセクター（市民セクター）などの構想があり、また社会的排除の問題に取り組む社会的企業に大きな関心が寄せられています。その根源は19世紀の産業革命の時代に見ることができます。政治や経済によってもたらされた悲惨な生活を改善するために、貧窮者などを救済してきた伝統的な教会や慈善組織から非営利組織が生まれました。また労働者は労働組合や協同組合などの連帯の組織を作りました。今に至っては、それぞれの組織原理や手段には自助と共助、共益と公益、政治的行動と経済的行動などの違いがありますが、連帯に基づく社会をめざしている点は共通しています。

グローバル化や競争激化の中で分断された個人や組織をつなぐキーワードとして「連帯社会」の実現を掲げ、組織の壁を乗り越えて大きな連帯をめざすため「連帯社会インスティテュート」を設置しました。

本インスティテュートは、現代社会において連帯による公益の実践をめざすNPO/NGOや社会的企業、さまざまな形の協同組合や労働組合などの活動を担う、政策構想力と実践力を兼ね備えた連帯社会を築く人材の育成を重要な目標とされています。また、本インスティテュートのめざすところは、社会の多くの分野での活躍を志す方々にも、等しく有益なものであると考えます。現代社会における連帯と公益に関心を寄せる多くの方々に門戸を開いたインスティテュートをめざしています。

アドミッション・ポリシー (学生受け入れ方針)

カリキュラム・ポリシー (教育課程の編成・実施方針)

ディプロマ・ポリシー (学位授与の方針)

本インスティテュートは、新たな公共の担い手となる人材の育成を第一義的目的とし、そうした意欲を強く持つ社会人であり、また、潜在能力を持った人々に広く門戸を開くことを基本方針とする。

- (1) 本インスティテュートがめざす人材の育成には、幅広い知識が欠かせない。特に、いわゆる社会人入学に配慮し、社会科学の幅広い知識を得るため、それぞれの概論（入門講座）を専門基礎科目として配置する。
- (2) NPO・社会的企業研究、協同組合研究、労働組合研究の3つのプログラムを柱として、受講生の研究志向に応じた履修モデルを提示し、幅広い専門科目から受講科目を選択する際の一助とする。
- (3) 学問的知識を踏まえつつ、プロフェッショナルとして実際の公益に資する政策の形成・実施を担う人材を育成し、具体的な運動論や手法に関する科目を配置するとともに、実際に社会の最先端で活動する専門家と知的に交流する機会を作る。

修士課程に2年以上在学し、36単位を修得し、かつ修士論文の審査に合格した者に学位を授与する。誰もが多様な働き方を通じて社会参加し、自己実現可能な民主的社会とするために、NPO/NGOや社会的企業、協同組合、福祉事業団体、労働組合などに求められる社会的役割を認識し、解決すべき課題の発見、必要な情報を収集・分析し、政策を立案・発信する能力、それらを実現・解決するための人的・組織的ネットワークを形成する技能、そしてその基盤となる高い志を育成することをめざす。

[研究室紹介]

“協同”を通じて分断社会の課題を克服する

連帯社会建設を牽引する新しい協同組合運動を求めて

協同組合は国内外ともに歴史も長く、農協や生協、共済、労金、信用金庫・信用組合など、私たちの暮らしに身近な存在です。また、全世界では10億人を超えるメンバーが協同組合の事業を利用しています。本プログラムは、協同組合の理念や歴史、理論・法制度・実践まで広く総合的に学ぶことができる国内では他に例をみない教育を提供しています。協同組合組織の現役職員として社会人入学する学生も多く、さまざまな分野の協同組合の出身者によるゼミでの議論を通して、日々新しい発見があります。研究室では、連帯社会の建設をめざし、“共助・協同”というソリューションを用いて複雑な社会課題に立ち向かえる、協同組合運動のリーダー人材育成をめざしています。



伊丹 謙太郎 教授

[学生・修了生の声]

理論と実践の両面から、持続可能な社会の構築に向けた

サードセクターの役割を考える

講義の魅力

研究テーマ “協同”を基盤とする組織形態の多様性とその展望 —共同売店の経営分析を中心に—

労働組合・協同組合・NPOの各プログラムでは、それぞれの立場や仕組み、考え方を専門的かつ横断的に学び、問題を解決するための多角的な視点を養います。オムニバス授業では最前線で活躍する専門家や実務者の話を聞き、社会課題の解決手法を徹底的に考えます。理論と実践を行き来しながら、知識や経験を得られる環境です。指導教授の手厚いサポート、多様性に富んだ授業、切磋琢磨できる仲間との出会いも魅力的です。

社会人として学ぶことの意義

協同組織金融の中央機関に勤務し、ディスクロージャーやSDGsの推進、ESG投資等に従事しています。大学院の学びで引き出しが増え、仕事の質も格段に向上しました。所属先の特性上、労働組合をはじめ、協同組合やNPOとの関わりが多く、授業で得た知識がダイレクトに生きています。仕事と大学院の両立は多忙でしたが、2年間で培ったタイムマネジメント能力や論理的思考力は今、さまざまな場面で役立っていると実感しています。



小正 貴大

修士課程 2021年度修了

[専任教員一覧] [2022年度] ※年度により授業を持たない場合があります。

専任教員	専攻	研究テーマ	主な担当科目
労働組合 プログラム 中村 圭介 教授	労使関係論	労働組合の組織と活動、事業再編と労使関係	労働組合論Ⅰ/Ⅱ、労働組合特論演習Ⅰ/Ⅱ、連帯社会とサードセクター、地域社会運動論、産別機能研究、論文指導Ⅰ/Ⅱ
協同組合 プログラム 伊丹 謙太郎 教授	協同組合論、公共哲学	協同組合思想、協同組合運動史、デジタル経済と協同主義、非営利組織連携論、賀川豊彦研究	協同組合概論Ⅰ/Ⅱ、協同組合特論演習Ⅰ/Ⅱ、連帯社会とサードセクター、協同組合運動の理念と歴史、協同組織運営の論理と制度、論文指導Ⅰ/Ⅱ
NPO プログラム 柏木 宏 教授	NPO論、NPOマネジメント	日米のNPO、社会運動	NPO論（現状と課題）Ⅰ/Ⅱ、NPO特論演習Ⅰ/Ⅱ、連帯社会とサードセクター、NPOとソーシャルチェンジ、サードセクター協働論、論文指導Ⅰ/Ⅱ
新川 敏光 専担教授	比較政治学	比較福祉国家論、比較労働政治	※今年度は、特定の科目を担当しません
長峰 登記夫 専担教授	労使関係論	環境と労働組合運動（特に豪州）、留学生の就職問題他	国際労使関係論
浜村 彰 専担教授	労働法	従業員代表制、労働契約法、労働時間法	労使関係法概論
渕元 初姫 専担教授	比較政治学、コミュニティ政策、福祉政策	スコットランドの自治体内分権、子どもの居場所づくり	政策学基礎

[設置科目] [2022年度] ※開講科目は年度により異なります。() = 単位数

修士課程

[3プログラム共通科目]

- 基礎科目(必修)
 - 労働組合論Ⅰ(2)
 - 労働組合概論Ⅰ(2)
 - NPO論（現状と課題）Ⅰ(2)
 - 連帯社会とサードセクター（※）(4)
(※はオムニバス授業)

●選択必修

- 地域社会運動論(2)
- ユニオン・イノベーション(2)
- 産別機能研究(2)
- 比較社会労働運動史(2)
- 協同組合運動の理念と歴史(2)
- 協同組合・NPOの会計実務(1)
- 協同組合・NPOの法実務(1)
- 協同組合連携論(1)

- 社会構想学(1)
- 協同組織運営の論理と制度(2)
- NPOとソーシャルチェンジ(2)
- NPOと事業創造(2)
- NPOとヒューマンリソース(2)
- NPOの資金環境(2)

●選択科目

- 政治学概論(2)
- 社会調査法4(2)
- 社会調査法5(2)
- 政策学基礎(2)
- 行政学基礎(2)
- 国際労使関係論(2)
- 自治体論(2)
- 雇用労働政策研究(2)
- 労使関係法概論(2)

- 労働契約法・労働基準法概論(2)
- 人事制度論(4)
- 人的資源管理論(4)
- 経済学基礎A/B(各2)
- ジェンダー経済論A/B(各2)
- 公務員制度研究(2)
- 労働市場論(4)
- 市民社会論(2)
- 国際NGO・NPO論(2)
- シンクタンク論(2)
- CSR論(2)
- サードセクター協働論(2)

[労働組合プログラム]

- 専門科目(必修)
 - 労働組合論Ⅱ(2)
 - 労働組合特論演習Ⅰ・Ⅱ(1年次)(各2)
 - 論文指導Ⅰ・Ⅱ(2年次)(各2)

[協同組合プログラム]

- 専門科目(必修)
 - 協同組合概論Ⅱ(2)
 - 協同組合特論演習Ⅰ・Ⅱ(1年次)(各2)
 - 論文指導Ⅰ・Ⅱ(2年次)(各2)

[NPOプログラム]

- 専門科目(必修)
 - NPO論（現状と課題）Ⅱ(2)
 - NPO特論演習Ⅰ・Ⅱ(1年次)(各2)
 - 論文指導Ⅰ・Ⅱ(2年次)(各2)

修了要件
36単位以上基礎科目(必修)
10単位専門科目(必修)
10単位
※所属するプログラムの
科目を履修選択必修科目
4単位以上
(協同組合プログラムは
6単位以上)学籍科目
4単位以上
(所属する専攻が
設置する科目)選択科目
8単位以上
(協同組合プログラムは
6単位以上)

奨学金制度について

本インスティテュートの学生を対象に、独自の奨学金を用意しています。

- (1) 名 称 連帯社会奨学金
- (2) 対 象 者 連帯社会インスティテュートの学生
(一般入試、社会人入試で合格した方)
- (3) 給付の内容 給付額: 1年ににつき約30万円を給付
奨学金の形式: 1年毎に更新し最大2年間給付(原則として返還不要)

修了生の研究テーマの例

- | | | |
|--|--|---|
| ■触法障害者の社会復帰に関する参与観察法による考察
サードセクター組織による入口支援と出口支援の実相と
課題改善への提言 | ■生協宅配における小売ブランド価値
～年代別比較による若年層のブランド価値の特徴把握～ | ■中国資本・台湾資本下の日本企業における人事管理・
労使関係の変化について
-家電メーカーを中心に |
| ■フードバンクの食料提供システムの現状と課題
-フードバンクとデリバリー団体との関係に焦点をあてて- | ■買い物弱者支援における生協と営利企業、行政の協働の効果
～生協とコンビニエンスストアによる一体型店舗からの考察～ | ■高校生等に対する勤労に関する出前講座の現状と課題 |
| ■多文化共生社会の構築をめざして
-官民双方の視点を中心いて- | ■SDGsに向けた生協の取り組み: 実態とその特徴 | ■共済協同組合の職員に対する理念教育のありかた |
| ■自然災害発生における協同組織金融機関に求められる役割
-労働金庫を対象に- | ■共助と他助
-チェンジリーダーに注目して | |
| | ■東京都人事委員会における公民給与比較方法の検証
-ラスパイレス比較の瑕疵- | |

健康学専攻 スポーツ

詳細はこちら



募集人員

修士課程10名／
博士後期課程4名

キャンパス

多摩

主な進路

医療・健康関連産業、自治体での地域スポーツ・生涯スポーツ指導者、中学・高等学校の保健体育科教員、大学・研究所などの教育研究機関、スポーツジャーナリズム関連など

長期履修制度有 (博士後期課程)



昼間開講

修了要件・履修案内・
時間割・シラバス



修士課程ではスポーツ健康学の修得を通して

高度専門的職業人、博士後期課程では

高度専門的職業人を支援できる研究者を養成する

「スポーツ健康学」とは、「健康であること」を基本かつ目標としたうえで、「スポーツ」を軸とした人間社会の充実と発展を為すための学問です。「スポーツ健康学」を追究するために、本研究科では「ヘルスプロモーション」「スポーツマネジメント」「スポーツコーチング」の3つの領域を重要な柱としています。「ヘルスプロモーション」では、人々の生涯を通じた積極的な健康づくりについて考究します。「スポーツマネジメント」では、スポーツに影響を与える社会的要因(政治、経済、産業等)を科学的に分析し、スポーツを健全に「マネジメント」するための原理と方法について考究します。そして「スポーツコーチング」では、パフォーマンス向上のためにスポーツを科学的に解明し、また、人間的成长を促すためのスポーツ指導・教育の在り方について考究します。

アドミッション・ポリシー (学生受け入れ方針)

修士課程

- 【AP1】人間性と社会性を支える教養を身につけている。(知識・理解)
- 【AP2】「スポーツ」と「健康」に関する基礎的な知識と技能を有している。(知識・理解)
- 【AP3】自ら課題を発見することができる。(思考・判断・表現)
- 【AP4】自ら設定した課題について、わかりやすく他者に伝えることができる。(思考・判断・表現)
- 【AP5】スポーツ健康学に关心があり、学ぶ意欲がある。(関心・意欲・態度)
- 【AP6】スポーツと健康づくりに関わる各種の教育や事業を計画・立案することができる。(技能)

博士後期課程

- 【AP1】豊かな人間性と社会性を支える広い教養を身につけている。(知識・理解)
- 【AP2】「スポーツ」と「健康」およびそれらをとりまく「社会環境」(グローバル化を含む)について体系的に理解している。(知識・理解)
- 【AP3】自ら設定した課題について、適切な研究方法を用い、論理的に説明することができる。(思考・判断・表現)
- 【AP4】「スポーツと健康」に関わる多様な実践的課題へ目を向け、それらの解決に取り組むことができる。(関心・意欲・態度)
- 【AP5】スポーツ健康学の探求を通して、社会に貢献する意欲がある。(関心・意欲・態度)

カリキュラム・ポリシー (教育課程の編成・実施方針)

スポーツ健康学に関する基礎的な知識と思考力を修得するための「基礎科目」としての「スポーツ健康学特論」等および、修了後のキャリアを見据えた高度で専門的な知識と技能を修得するための「展開科目」としてのヘルスプロモーション科目群、スポーツコーチング科目群、スポーツマネジメント科目群によってカリキュラムを編成しています。

ディプロマ・ポリシー (学位授与の方針)

- 【DP1】豊かな人間性と社会性を支える広い教養を身につけている。(知識・理解)
- 【DP2】「スポーツ」と「健康」およびそれらをとりまく「社会環境」について体系的に理解している。(知識・理解)
- 【DP3】高度で専門的な知識を有している。(知識・理解)
- 【DP4】自ら設定した課題について、適切な研究方法を用いて考察することができる。(思考・判断・表現)
- 【DP5】自ら設定した課題について、論理的に説明することができる。(思考・判断・表現)
- 【DP6】スポーツ健康学の知を探求し、社会に貢献する意欲がある。(関心・意欲・態度)
- 【DP7】スポーツと健康づくりに関わる各種の教育や事業を企画・立案、管理・運営実践・指導・点検・評価することができる。(技能)

[研究室紹介]

ヒトの動作を司る身体と心の理



林 容市 准教授

身体活動時の感覚知覚と運動制御能力・体力との関係

現在、身体動作の調整力と身体感覚との関係に着目し、専門的に取り組んでいるスポーツ・運動種目の特性や幼児期からのスポーツ・運動経験が、それらの関係にどのように関与するのかに興味を持って探求しています。また、身体活動中の意識の方向や強さと身体感覚との関係についても、特に有酸素性運動に着目して検討を進めています。感覚・知覚などの「心理的要因」と体力レベルや中枢や末梢における神経活動などの「生理的要因」との関係を少しづつでも解明し、身体動作の巧みさ、美しさを生み出す身体の使い方を提示できるよう充実した研究を実践して行きたいと考えています。

[学生・修了生の声]

包括的にスポーツを学び広い視野と科学的な捉え方を得

専攻の魅力

研究テーマ

Effects of cognitive strategy and attentional focus on perceived exertion during aerobic exercise.

本専攻は包括的にスポーツを学修できることが魅力です。運動学や生理学からコーチング、さらにはスポーツビジネスまで幅広く学べるので、科学的かつ広い視野でスポーツを捉えることができ、スポーツ観戦や実践もより楽しく行えるようになりました。自分の研究に活かせる手法や考え方にも多く出会いました。

将来の目標

現在は運動中における注意の焦点と認知的方略の研究に打ち込むとともに、論文執筆に必要な英語やデータサイエンスの知識も懸命に学んでいます。将来は運動分野の研究者として、人々の健康増進に寄与する研究を行なうことが目標です。最終的には法政大学に教員として戻り、学生たちの教育に貢献できればと考えています。



若田部 舜

博士後期課程 在学中

[専任教員一覧] [2022年度] ※年度により授業を持たない場合があります。

専任教員	専攻	研究テーマ	主な担当科目
安藤 正志 教授	リハビリテーション医学、予防医学(筋骨格器系疾患)	運動学、運動療法、スポーツ外傷障害予防、徒手療法、疼痛制御、運動器疾患予防と治療	運動器疾患予防と対処特論、スポーツ健康学演習Ⅰ・Ⅱ・Ⅲ・Ⅳ
泉 重樹 教授	アスレティックトレーニング、スポーツ医学、鍼灸学	体幹(腰部)の運動機能評価、スポーツ外傷・障害予防	アスレティックトレーニング特別演習、スポーツ健康学演習Ⅰ・Ⅱ・Ⅲ・Ⅳ
小田 佳子 教授	スポーツ哲学、体育原理	武道の国際化と文化変容、身体論(無心)	研究デザインフィロソフィー、スポーツ健康学演習Ⅰ・Ⅱ・Ⅲ・Ⅳ
苅部 俊二 教授	スポーツコーチング学、スポーツ心理学	身体運動と言語イメージ	スポーツコーチング学特論、スポーツ健康学演習Ⅰ・Ⅱ・Ⅲ・Ⅳ
鬼頭 英明 教授	学校保健、健康教育、公衆衛生	喫煙・飲酒・薬物乱用防止教育、性教育、医薬品教育、健康教育	学校保健学特論、スポーツ健康学演習Ⅰ・Ⅱ・Ⅲ・Ⅳ
木下 訓光 教授	スポーツ医学、循環器病学	スポーツ心臓、エネルギー代謝、心肺運動負荷試験、生活習慣病の運動療法	スポーツ健康学特論Ⅱ(自然科学)、スポーツ健康学演習Ⅰ・Ⅱ・Ⅲ・Ⅳ
高見 京太 教授	発育発達学、運動生理学	子供の運動や生活習慣と体力・健康づくり、身体活動のエネルギー消費量	発育発達学特論、スポーツ健康学演習Ⅰ・Ⅱ・Ⅲ・Ⅳ
永木 耕介 教授	スポーツ教育学	教材文化論、武道教育論	※今年度は、特定の科目を担当しません
中澤 史 教授	スポーツ心理学	アスリートの心理サポート、チームビルディング、アスリートの人格形成・心理的成長、体育授業・運動部活動の心理学的研究	スポーツ健康学特論Ⅰ(心身科学)、スポーツメンタルトレーニング演習、スポーツ健康学演習Ⅰ・Ⅱ・Ⅲ・Ⅳ、スポーツ健康学高度開発特論C(コーチング領域)
平野 裕一 教授	スポーツバイオメカニクス、トレーニング科学	投打動作の分析、瞬発的なパワー発揮を向上させるための筋力トレーニング	スポーツ運動学特論、スポーツバイオメカニクス特論、スポーツ健康学演習Ⅰ・Ⅱ・Ⅲ・Ⅳ
山本 浩 教授	コミュニケーション論、ジャーナリズム論	スポーツシーンのコミュニケーション、スポーツ実況論	スポーツ健康学特論Ⅲ(人文社会学)、スポーツジャーナリズム特論、スポーツ健康学演習Ⅰ・Ⅱ・Ⅲ・Ⅳ
伊藤 真紀 准教授	スポーツマネジメント、女性スポーツ	スポーツにおけるリーダーシップ、アスリートのキャリア構築	スポーツ健康学特論Ⅲ(人文社会学)、スポーツ組織構造特論、スポーツフィールドスタディー演習、スポーツ健康学演習Ⅰ・Ⅱ・Ⅲ・Ⅳ
井上 尊寛 准教授	スポーツ産業学、スポーツマーケティング	スポーツ観戦者の観戦行動、プロ・スポーツクラブのマーケティング戦略	スポーツ健康学特論Ⅲ(人文社会学)、スポーツ産業学特論、スポーツマーケティングリサーチ演習、スポーツ健康学演習Ⅰ・Ⅱ・Ⅲ・Ⅳ
越智 英輔 准教授	運動生理学、応用健康科学	運動や栄養介入による骨格筋・血管の応答・適応変化に関する研究	スポーツ健康学高度開発特論A(ヘルス領域)、スポーツ健康学演習Ⅰ
島本 好平 准教授	ライフスキルコーチング、スポーツ心理学	アスリート(個人)・チームを対象としたライフスキルコーチングに関する実践研究、ライフスキルに関する調査研究、心理尺度開発	スポーツ健康学特論Ⅰ(心身科学)、健康心理学特論、スポーツ健康学演習Ⅰ・Ⅱ・Ⅲ・Ⅳ
瀬戸 宏明 教授	スポーツ医学、整形外科学	運動器損傷に対する予防と再生について	スポーツ健康学特論Ⅱ(自然科学)、スポーツ健康学演習Ⅰ・Ⅱ・Ⅲ・Ⅳ
林 容市 准教授	応用健康科学、生理心理学	身体活動・スポーツ動作の感覚認知と運動制御、生理的状態と心理的情報との対応、種々の身体パフォーマンスに関する体力の測定・評価	健全体力学特論、体力・機能測定評価演習、スポーツ健康学演習Ⅰ・Ⅱ・Ⅲ・Ⅳ
吉田 政幸 教授	スポーツマーケティング、スポーツ消費者行動	スポーツ消費者行動とウェルビーイング、スポーツファンのマーケティング、スポーツスポンサーシップ	スポーツマネジメント特論、スポーツ消費者行動特論、スポーツ健康学演習Ⅰ・Ⅱ・Ⅲ・Ⅳ
ネメシュロー・ランド 専任教員	コーチング学、ハンドボールコーチング、体育学	GCA(Game Centered Approach)	スポーツトレーニング学特論、スポーツ健康学演習Ⅰ・Ⅱ・Ⅲ・Ⅳ

[設置科目] [2022年度] ※開講科目は年度により異なります。() = 単位数

修士課程	博士後期課程
●基礎科目	●専門科目
■研究デザイン・フィロソフィー(2) ■スポーツ健康学特論Ⅰ(心身科学)(2) ■スポーツ健康学特論Ⅱ(自然科学)(2) ■スポーツ健康学特論Ⅲ(人文社会科学)(2)	■アスレティックトレーニング特別演習(2) ■スポーツメンタルトレーニング演習(2) ■チームビルディング演習(2) ■研究指導科目
●展開科目 [ヘルスプロモーション科目群] ■健康体力学特論(2) ■健康心理学特論(2) ■運動器疾患予防と対処特論(2) ■スポーツ栄養学特論(2) ■公衆衛生学特論(2) ■学校保健学特論(2) ■運動疫学演習(2) ■体力・機能測定評価演習(2)	■スポーツ健康政策学特論(2) ■スポーツジャーナリズム特論(2) ■スポーツ組織構造特論(2) ■スポーツ消費者行動特論(2) ■スポーツフィールドスタディー演習(2) ■スポーツマーケティングリサーチ演習(2) ■研究指導科目
[スポーツコーチング科目群] ■スポーツコーチング学特論(2) ■スポーツ運動学特論(2) ■スポーツバイオメカニクス特論(2) ■スポーツトレーニング学特論(2) ■発育発達学特論(2) ■スポーツ教育学特論(2)	■スポーツ健康学演習Ⅰ(2) ■スポーツ健康学演習Ⅱ(2) ■スポーツ健康学演習Ⅲ(2) ■スポーツ健康学演習Ⅳ(2) ■専門科目
■エクストリームスポーツイベントにおけるスポンサー・フィット ■高校男子サッカー選手における股関節・鼠径部傷害の危険因子の検討 ■大学サッカー選手の2年間の傷害調査および早朝の運動が生体へ与える影響 ■エゴグラムを用いたサッカー選手のポジション別のパーソナリティの検討 -男子中学生を対象として-	■エクストリームスポーツイベントにおけるスポンサー・フィット ■高校男子サッカー選手における股関節・鼠径部傷害の危険因子の検討 ■大学サッカー選手の2年間の傷害調査および早朝の運動が生体へ与える影響 ■エゴグラムを用いたサッカー選手のポジション別のパーソナリティの検討 -男子中学生を対象として-

修了生の研究テーマの例

- プロ野球観戦者のホームグラウンドの感覚と行動意図
- Jリーグクラブが地域に与える社会効果
- バドミントン競技における異なる注意の焦点がスマッシュ動作に及ぼす影響
- 上海で起こった“2018金足農高フィーバー”を分析する
-高校世代を取り巻く日中スポーツ環境比較論-
- エクストリームスポーツイベントにおけるスポンサー・フィット
- 高校男子サッカー選手における股関節・鼠径部傷害の危険因子の検討
- 大学サッカー選手の2年間の傷害調査および早朝の運動が生体へ与える影響
- エゴグラムを用いたサッカー選手のポジション別のパーソナリティの検討
-男子中学生を対象として-

自然科学分野

Natural Science Field



大学院学生数/専門職大学院学生数

法政大学ホームページ:情報公開(修学上の情報)
URL <http://www.hosei.ac.jp/hosei/disclosure/acquire/>

情報科学研究科

| 72 情報科学専攻

デザイン工学研究科

| 74 建築学専攻

| 76 都市環境デザイン工学専攻

| 78 システムデザイン専攻

理工学研究科

| 80 機械工学専攻

| 82 電気電子工学専攻

| 84 応用情報工学専攻

| 86 システム理工学専攻 創生科学系

| 88 システム理工学専攻 経営システム系

| 90 応用化学専攻

| 92 生命機能学専攻

総合理工学インスティテュート

| 94 総合理工学インスティテュート

※各専攻ページに掲載の「開講形態」は原則として修士課程に特化した内容です。

※各専攻の「アドミッション・ポリシー」、「カリキュラム・ポリシー」、「ディプロマ・ポリシー」は要約したものです。年度により変更となる場合がありますので、最新の情報は大学院HPをご参照ください。

情報科学専攻

詳細はこちら



募集人員

修士課程30名／
博士後期課程5名

キャンパス

小金井

主な進路

NTTメディアインテリジェンス研究所、野村総合研究所、フジテレビジョン、ヤフー、NEC、富士通、NTTデータ、特許庁など



昼間開講

修了要件・履修案内
時間割・シラバス



国際的に活躍できる創造性あふれる 専門技術者、研究者を育成

デジタルメディア技術、ITソフトウェア技術によって、異なるハードウェア、文化、教育など社会のこれまでにあったさまざまな障壁を突き崩し、まさに国際化時代、ボーダーレスな競争化時代に突入した感があります。

このような時代では、自分で考えたアイデアをシステムの概念としてまとめ、実際に動くもの、見えるものにする実現技術まで、自己完結した高い専門能力・専門技術の修得が求められています。このような時代の変化に対応できる幅広い人材を育成するため、本研究科では専攻内に3つの研究領域（コンピュータ基礎、情報システム、メディア科学）を設けそれぞれに充実した教授陣を配置し、最先端の教育・研究体制を整えています。また、第4の研究領域として、国際化対応情報科学を設け、英語のみで修士・博士の学位が取得できる教育・研究環境を提供しています。留学生や国際化を意識する日本人学生からも高い評価を受けており、国際的に通用する優れた人材育成の一助になっています。2011年度から開始した中国模範的ソフトウェア学院連盟とのダブルディグリープログラム、2016年度から開始したIIST（理工系英語学位プログラム）なども順調に修了生を送り出すなど大きな成果を上げており、今後のさらなる発展が期待されています。

アドミッション・ポリシー

（学生受け入れ方針）

カリキュラム・ポリシー

（教育課程の編成・実施方針）

ディプロマ・ポリシー

（学位授与の方針）

修士課程では、情報科学分野を希望し、開講科目を受講するのに必要な知識を有する志願者を広く受け入れる。

博士後期課程では、修士課程に求める人材像に加えて、修士課程から現在に至る研究実績を持ち、博士後期課程の学生として相応しい研究遂行能力を有する志願者を受け入れる。

修士課程では、専攻分野の周辺をカバーしつつ、国際社会で通用する高度な知識・技術を獲得できるよう、カリキュラムを編成する。具体的には以下の項目を考慮してカリキュラムを編成する。

1. 分野を複数の研究領域に分類し、それぞれの領域で最新の教育が行われるようにカリキュラムを編成する。
 2. 研究タイプと開発タイプのそれぞれをめざす学生に対して、適切な教育を提供できるようにカリキュラムを編成する。
 3. 学部課程では情報科学・技術を専門としていない入学者に対しては、情報科学・技術の主要な学部科目を履修できるよう柔軟なカリキュラムを編成する。
 4. 国際化に対応したカリキュラムを編成する。
- 修士課程では、所定の単位を修得し、修士論文の審査に合格した者に「修士（理学）」を授与する。この場合の審査は、独創性や創造性を要求する研究タイプと、高度な情報科学技術を駆使してプロジェクトを遂行できる能力を要求する開発タイプの両素養を考慮する。研究タイプは、新規性のある概念等を構成できることを基準とし、開発タイプは、既存の概念を組み合わせて有用な成果物を生み出す技術力を有することを基準とする。

博士後期課程では、所定の単位を修得し、博士論文の審査に合格した者に「博士（理学）」を授与する。審査にあたっては、上記の修士課程の基準に加えて、情報科学の分野全般で高度な素養をもち、新しい研究領域あるいは新しい応用領域の開拓を行う能力を有すること、新しい手法を提案した実績、あるいは、従来の手法の性能を著しく高めた実績を有することを基準とする。

【研究室紹介】

基盤ソフトウェア研究室

堅牢で効率的な基盤ソフトウェアの構築をめざします

情報システムでは、サブシステムに脆弱性対策等で更新があれば、全体の整合性を保つため他のサブシステムに伝播させる必要があります。当研究室では、このような伝播を担う双方向変換技術を中心に、基盤ソフトウェアの系統的構築法を研究し、プログラム内に自然発生する複製の柔軟な同期法等を提案してきました。その他、双方向変換の基礎から応用、セキュリティ要件の仕様記述への組み込みなどの研究を、プログラミング言語の意味論を通して進めています。当研究室では、今後もプログラミング言語を軸足とし、国内外のデータベースやモデル駆動工学などの研究拠点と連携しながら、より堅牢で効率のよいソフトウェアシステムの構築をめざします。



日高 宗一郎 教授

【学生・修了生の声】

専門分野以外の知見も吸収しながら 問題を探究して解き明かす力を

専攻の魅力

研究テーマ

CGにおいて不均質な半透明物体を写実的に描画するための光のシミュレート方法の改良

情報科学研究科には多彩な領域の先生がおられるので、授業や研究発表において、異なる専門分野の先生と話す機会がとても多いです。そのため、分野外の方に自身の研究をわかりやすく伝えるにはどうすれば良いか考えるとともに、想定外の角度からアドバイスをいただくことで刺激を受けています。



中本 啓子

博士後期課程 在学中

今後の目標

あらゆる仕事においてIT化が加速する現代、ITを駆使して人が複雑な課題を解くことが、新たな技術の誕生につながると考えています。本専攻の研究を通して問題を突き詰めて解決する力を養い、社会に出たときに物事を最後までやり遂げる職業人になることが目標です。

[専任教員一覧]

[2022年度] ※年度により授業を持たない場合があります。

専任教員	専攻	研究テーマ	主な担当科目
赤石 美奈 教授	知能工学	物語構造に基づく情報編纂基盤技術、知識メディアの管理・検索・視覚化技術、歴史知識学など	データマイニング特論、情報科学特別研究1A/1B/2A/2B
伊藤 克亘 教授	音声認識、マルチモーダル対話システム、音声インターフェース、情報検索	音声認識、マルチモーダル対話システム、音声インターフェース、情報検索	音声・言語処理特論、情報科学特別研究1A/1B/2A/2B、情報科学特別演習1A/1B/2A/2B
内田 薫 教授	パターン・画像認識、機械学習とその応用	パターン・画像認識、機械学習、バイオメトリクス、情報科学による実世界イノベーション	グローバルCIS特別講義1/2/3/4、論文の書き方と発表技術、CISグローバルセミナー、情報科学特別研究1A/1B/2A/2B、情報科学特別演習1A/1B/2A/2B
尾花 賢 教授	暗号、情報セキュリティ	秘密分散法、秘匿計算などの暗号プロトコル	暗号理論、情報科学特別研究1A/1B/2A/2B、情報科学特別演習1A/1B/2A/2B
小池 崇文 教授	三次元映像技術、コンピュータグラフィックス、拡張現実感	実世界指向メディア、光線情報処理、フィジカルコンピューティング、リアルタイムレンダリング、コンピュテーションナルフォトグラフィ	三次元映像技術特論、情報科学特別研究1A/1B/2A/2B、情報科学特別演習1A/1B/2A/2B
小西 克巳 教授	数理モデリング	スパースセンシング、データ駆動モデルリング、信号修復、制御工学	線形システム特論、情報科学特別研究1A/1B/2A/2B、情報科学特別演習1A/1B/2A/2B
佐々木 晃 教授	プログラミング言語処理系、ドメイン特化型言語、属性文法	プログラム言語処理系の実装技術や理論について	プログラミング言語処理系特論、情報科学特別研究1A/1B/2A/2B、情報科学特別演習1A/1B/2A/2B
佐藤 裕二 教授	インテリジェントコンピューティング、群知能	進化計算を用いた多目的最適化と並列高速化、群知能による多峰性問題の解法、インテリジェントコンピューティングによる強化学習	進化システム論、情報科学特別研究1A/1B/2A/2B、情報科学特別演習1A/1B/2A/2B
善甫 康成 教授	計算材料科学、大規模並列計算(HPC)	光学材料解析技術の開発、高効率大規模並列計算アルゴリズムの開発	科学技術シミュレーション、情報科学特別研究1A/1B/2A/2B、情報科学特別演習1A/1B/2A/2B
高村 誠之 教授	画像符号化、情報圧縮、データモーデリング	高能率映像符号化、映像符号化国際規格技術の符号化最適化、マルチモーダル信号処理	情報科学特別研究1A/1B/2A/2B、情報科学特別演習1A/1B/2A/2B
花泉 弘 教授	画像処理・認識、リモートセンシング、画像計測	リモートセンシング、医用画像処理、顔認識	多次元信号画像処理、情報科学特別研究1A/1B/2A/2B、情報科学特別演習1A/1B/2A/2B
日高 宗一郎 教授	プログラミング言語、基盤ソフトウェア	プログラミング言語、プログラム変換、双方向変換とモデル駆動工学への応用	データベースプログラミング言語、情報科学特別研究1A/1B/2A/2B、情報科学特別演習1A/1B/2A/2B
廣津 登志夫 教授	インターネット、オペレーティングシステム、ユビキタスコンピューティング	分散仮想ルータのための動的中継点制御機構	インターネットアーキテクチャ、情報科学特別研究1A/1B/2A/2B、情報科学特別演習1A/1B/2A/2B
黄 潤和 教授	人工知能、携帯コンピューティング、ユビキタスシステムソフトウェア	Intelligence sharing in smart service systems, Empathetic healthcare service system, Individual human modeling	人工知能特論、情報科学特別研究1A/1B/2A/2B、情報科学特別演習1A/1B/2A/2B
藤田 悟 教授	XML高速処理、Webサービス、サービス指向ソフトウェア	サービス戦略のモデリング、社会のシミュレーション分析、サービス社会を支えるXMLやWebサービスの実行基盤技術	オブジェクト指向言語、情報科学特別研究1A/1B/2A/2B、情報科学特別演習1A/1B/2A/2B
細部 博史 教授	ユーチューバー、情報可視化、制約プログラミング	数理的アプローチによる視覚的・対話的システムの構築法	可視化特論、情報科学特別研究1A/1B/2A/2B、情報科学特別演習1A/1B/2A/2B
馬 建華 教授	ユビキタスコンピューティングとスマートIoT	Smart Internet of Things, Wearable Computing, Emotion Recognition, Personalized AI	先端網とコンピューティング、情報科学特別研究1A/1B/2A/2B、情報科学特別演習1A/1B/2A/2B
雪田 修一 教授	幾何学的・抽象的数学的概念の可視化	ダイアグラムなどを用いた抽象概念の可視化	閑数型言語と圖論、情報科学特別研究1A/1B/2A/2B、情報科学特別演習1A/1B/2A/2B
李 亜民 教授	Computer Architecture, High-Performance CPU Design, Parallel and Distributed Processing	Low-Cost High-Performance Interconnection Networks for Supercomputers	コンピュータアーキテクチャ特論、情報科学特別研究1A/1B/2A/2B、情報科学特別演習1A/1B/2A/2B
相島 健助 准教授	数値計算	数値シミュレーション、並列計算アルゴリズム、データ解析、統計処理、信号処理、逆問題	数理モデリング特論、情報科学特別研究1A/1B/2A/2B、情報科学特別演習1A/1B/2A/2B
佐藤 周平 准教授	コンピュータグラフィックス、画像処理	流体シミュレーション、アニメーション、モーデリング、レンダリング、画像編集	情報科学特別研究1A/1B/2A/2B、情報科学特別演習1A/1B/2A/2B
首藤 裕一 准教授	理論計算機科学	分散アルゴリズム、乱択アルゴリズム、自律適応型アルゴリズム、個体群プロトコル、モバイルエージェント、ブロックチェーン	計算機科学のための数学、情報科学特別研究1A/1B/2A/2B、情報科学特別演習1A/1B/2A/2B

[設置科目]

[2022年度] ※開講科目は年度により異なります。() = 単位数

修士課程

- 3次元映像技術特論(2)
- ビジネスアプリケーションシステム開発(2)
- Webシステム開発(2)
- オブジェクト指向Web設計(2)
- インターネットアーキテクチャ(2)
- オブジェクト指向言語(2)
- コンピュータアーキテクチャ特論(2)
- ソフトウェアプロセス及び品質保証(2)
- ソフトウェア技術者の為の技術英語の書き方(2)
- ソフトウェア要求仕様記述と分析の技術(2)
- デジタル情報の符号化と復号化(2)
- データベースプログラミング言語(2)
- データマイニング特論(2)
- パターン認識特論(2)
- プログラミング言語処理系特論(2)
- 暗号理論(2)
- 音声・言語処理特論(2)
- 可視化特論(2)
- 科学技術シミュレーション(2)
- 関数型言語と圖論(2)
- 企業システム構築のためのソフトウェア基盤(2)
- 計算機科学のための数学(2)
- 進化システム論(2)
- 人工知能特論(2)
- 数理モデリング特論(2)
- 線形システム論(2)
- 先端網とコンピューティング(2)
- 多次元信号画像処理(2)

- 日本語理解1(2)※
- 日本語理解2(2)※
- 論文の書き方と発表技術(2)
- 情報科学特別講義1(アラゴリズムとデータ構造)(2)
- 情報科学特別講義2(画像認識特論)(2)
- 情報科学特別講義3(オペレーティングシステム)(2)
- 情報科学特別講義4(知能メディア処理)(2)
- 情報科学特別講義5(音声・音楽処理特論)(2)
- 情報科学特別講義6(テキストマイニング特論)(2)
- 情報科学特別研究1A/2A(各1)
- 情報科学特別研究1B/2B(各2)

- 情報科学特別演習1A/1B/2A/2B(各1)
- 情報科学オーブンセミナー1/2(各2)
- CISグローバルセミナー(2)
- グローバルCIS特別講義1/2/3/4(各2)
- インターンシップ(2)
- IoTシステムとサイバーセキュリティ(2)

※日本語理解1、2は原則留学生対象の授業です。また、日本語理解1、2は修了単位(30単位)には含まれません。

修了生の研究テーマの例

- An Integrative Personal Character Model and Its Modeling with Scenario-based Fusion
- Homophonic Music Composition Using Pipelined LSTMs for Melody and Harmony Generation
- Cross-Modal and Semantics-Augmented Asymmetric CycleGAN for Data-Imbalanced Anime Style Face Translation
- ユーザの興味とコメント分布によるニコニコ動画の分析
- 能の語分析のための深層学習によるブラインド音源分離を用いたメロディ抽出
- 漢字直接入力によるタブレット用両手フリックキーボード
- 負荷履歴を用いたKubernetesにおけるアダプティブスケジューリング
- 並列マルチタスク学習におけるDeep Generative Replayを用いた知識転移手法の検討
- 主要信号抽出とウェーブレット変換による非接触脈拍数推定法
- GPGPUを用いるエージェントシミュレーション開発用フレームワークに関する実用化のための拡張の研究

博士後期課程

- コンピュータ基礎プロジェクト(2)
- 情報システムプロジェクト(2)
- メディア科学プロジェクト(2)
- 國際インターンシップ(2)
- コンピュータ基礎特別研究1A/2A/3A(各1)
- コンピュータ基礎特別研究1B/2B/3B(各2)
- コンピュータ基礎特別演習1A/1B/2A/2B/3A/3B(各1)
- 情報システム特別研究1A/2A/3A(各1)
- 情報システム特別研究1B/2B/3B(各2)
- 情報システム特別演習1A/1B/2A/2B/3A/3B(各1)
- メディア科学特別研究1A/2A/3A(各1)
- メディア科学特別研究1B/2B/3B(各2)
- メディア科学特別演習1A/1B/2A/2B/3A/3B(各1)

建築学専攻

詳細はこちら



募集人員

修士課程55名／
博士後期課程2名

キャンパス

市ヶ谷

主な進路

建設会社、設計事務所、
公務員、住宅建設・生産、
不動産・建物管理、建築
材料・設備機器メーカー、
建築関係のソフト開発・出版、
広告各社、
研究所、博士後期課程進学など



昼間開講

修了要件・履修案内・
時間割・シラバス



学際的視点に立った 建築と都市の総合デザインを追求

専門知識と先端技術をベースに、学際的視点による建築と都市の総合デザインを追究します。建築デザイン、建築・都市史、建築構造、建築環境、建築構法、という5つの分野をバランス良く網羅しています。学部からの進学率が高く、さらに他大学からの入学者が多いのも特徴の一つ。規模と実績のある専攻として、長年にわたり多くの人材を社会に送り出しています。また2013年度には、UIA(国際建築家連合)が求める5～6年間の一貫した建築教育に対応したJABEE(日本技術者教育認定機構)建築系学士修士課程の認定を受けました。

本専攻では、建築と都市に関わる専門職業人(建築家・建築技術者)、教育者・指導者、研究者を養成するため、次の7項目の学習・教育到達目標を掲げています。

1. 総合デザイン(Holistic Design)力
2. 建築・都市に関する歴史・文化的知見
3. 持続可能な社会をめざす職業倫理
4. 安心・安全・快適を実現する専門技術
5. 技術と芸術を統合する視点
6. 高度なIT能力
7. 國際的なコミュニケーション能力

アドミッション・ポリシー

(学生受け入れ方針)

カリキュラム・ポリシー

(教育課程の編成・実施方針)

ディプロマ・ポリシー

(学位授与の方針)

専門分野に特化した人材、キャリア形成による幅広い人材の育成と、社会人のリカレント教育を重視。これらに対応して修士課程に3コースを設け、それぞれに相応しい人材を受け入れる。1.選抜1年コース(実績・リカレント対応)、2.総合2年コース(筆記重視型・作品評価型の両入試方式による専門特化)、3.キャリア3年コース(非建築系卒業者対応)。博士後期課程では学位論文作成に必要な語学力と専門能力を有する適切な人材を受け入れる。

学生が自ら問題を見いだし、解決策を探求、創造できるよう、以下のコースとカリキュラムを編成。1.学部・大学院の教育一貫性(学部先取り履修、大学院生学部履修、学部・大学院科目の連番配当)、2.修士3コースに2系のカリキュラム(技術者・研究者養成のラボ系、建築デザイナー養成のスタジオ系)、3.アーキテクトマインドを育む充実したデザインスタジオ教育、4.豊富な学内外実習科目、5.自主的活動に対する単位認定、6.博士にコースワーク設定、7.成績評価の公正化・公開制、8.海外交換プログラム。

各課程において所定の単位とコースワークを履修し、かつ必要な研究指導を受けた上、論文の審査と最終試験に合格した者に、修士課程では修士(工学)、博士後期課程では博士(工学)の学位を授与する。これにより、修士課程では総合デザイン力を身に付けた建築・都市デザインに関する高度な専門職業人、博士後期課程ではさらに高度な企画開発能力を有する教育者、研究者、指導者(専門特化型人材)として相応しい学識と人格が涵養されたことを証する。

[研究室紹介]

フィールドとプロジェクトとヒューマンをベースに考える

過去現在未来を通して、 都市や空間や人間の本質を探る

建築学は、数値やロジカルな理論構築による理工学的な要素とともに、芸術や人文科学的な要素も多く含む、大変興味深い分野です。周囲の環境を空間へと取り込み、光や音や熱までも表現する建築は、人間の本質に訴えかけ、恩恵をもたらす力を持っています。私の研究室では、三つの研究と学びを実践しています。一つ目はフィールドワークを通して場や都市のコンテキストを読みとり、地域や環境の良い面を建築計画という行為でトレースしたいと考えています。二つ目は建築設計の実践を通して具体的に「建築とは何か」「何を建築で実現すべきなのか」を考えます。三つ目は空間が人間に与える影響です。建築の中心は人間であり、深く人間の本質について思考していきます。



小堀 哲夫 教授

[学生・修了生の声]

マクロからミクロの視点で幅広く 建築のプロセスを総合的に体験

現在の仕事

研究テーマ

地を這う複層連續体
都市における大地－建築－人の関係性について

建築設計事務所で設計業務と現場監理を行っています。課題とは違い現実では建物を一つ作るにもさまざまな制約や条件がありますが、それを一つひとつクリアするからこそ、建った建築が社会の一部として位置付けられ、労力に勝る達成感を得られるのが醍醐味です。大学院での建築理論の学びはその制約の中でも自身の意匠性を見失わない指針となっています。



松本 和樹

修士課程 2017年度修了／
川辺直哉建築設計事務所

専攻の思い出

デザインスタジオという設計課題を中心とした学生生活でした。町のサーベイから始まり、最終的に選んだ敷地に建築を計画する授業です。都市というマクロから詳細設計のミクロな視点まで綿密に多角的に建築を組み立てていくので、建築のアウトプットの中で自分がどの分野が得意なのかをしっかりと分析することができました。

[専任教員一覧]

[2022年度] ※年度により授業を持たない場合があります。

専任教員	専攻	研究テーマ	主な担当科目
赤松 佳珠子 教授	建築設計、意匠	建築空間は、人々の活動を支えると同時に、さまざまな行為を誘発する場でもあります。建築や都市空間をさまざまなフレイド（流動的要素）を通して捉え、新しい時代に向けての建築空間の在り方を探ります。	デザインスタジオ3/8/11、デザインスタジオX、建築プロフェッショナル総合演習1/2、建築インターンシップ、国際研修プログラム、建築学修士研修1/2、建築学修士プロジェクト1/2、建築学博士プロジェクト1/2/3、建築学博士研修1/2/3
網野 祐昭 教授	建築構法、木造デザイン	木材の創造的活用	デザインスタジオX、建築インターンシップ、建築学修士研修1/2、建築学修士プロジェクト1/2、建築学博士プロジェクト1/2/3、建築学博士研修1/2/3、海外研修プログラム
安藤 直見 教授	建築計画、都市計画	さまざまな建築・都市（例えば、広場とか街路とか）の形態と、その形態が現象させる空間の特質・特性	空間解析特論、建築計画分野研究論考、デザインスタジオ11、建築のしくみ、デザインスタジオX、建築インターンシップ、建築学修士研修1/2、建築学修士プロジェクト1/2、建築学博士プロジェクト1/2/3、建築学博士研修1/2/3
岩佐 明彦 教授	建築計画	建築・都市空間の使われ方やそこでの人の振る舞いに着目し、場所の持つ機能や魅力を高める手法を研究・実践する	建築計画概論、デザインスタジオ3/4/9/11、デザインスタジオX、建築インターンシップ、建築学修士研修1/2、建築学修士プロジェクト1/2/3、建築学博士研修1/2/3、建築計画分野研究論考
川久保 俊 教授	建築環境工学、都市環境工学	サステナブル建築の普及促進方策の検討、公開統計情報に基づく世界の都市の環境性能評価、SDGsに基づく持続可能な社会のデザイン	特殊環境特論、デザインスタジオX、建築インターンシップ、建築学修士研修1/2、建築学修士プロジェクト1/2、建築環境分野論考、建築学博士プロジェクト1/2/3、建築学博士研修1/2/3
小堀 哲夫 教授	建築設計、都市デザイン	地域に根ざした自然環境の一部である建築や都市を分析し、普遍性を持った新しいユニバーサルベースの研究と、建築都市デザインの手法を、歴史とフィールドサーベイを通して探求し、実践する。	デザインスタジオ8/11、デザインスタジオX、都市建築スタジオ、建築インターンシップ、建築学修士研修1/2、建築学修士プロジェクト1/2、国際研修プログラム
下吹越 武人 教授	建築設計、意匠	建築や都市に内在する人間的・文化的現象を解析し、未来を指向する持続性を備えた建築デザインの研究	デザインスタジオ4/10/11、デザインスタジオX、建築設計特論、建築インターンシップ、国際研修プログラム、建築学修士研修1/2、建築学修士プロジェクト1/2/3、建築学博士研修1/2/3
高村 雅彦 教授	都市建築史	日本を含むアジアの都市史および建築史研究	建築史概論、建築史分野研究論考、デザインスタジオ11、デザインスタジオX、建築インターンシップ、建築学修士研修1/2、建築学修士プロジェクト1/2/3、建築学博士プロジェクト1/2/3、建築学博士研修1/2/3
浜田 英明 教授	建築構造学、構造設計	包括的な構造設計手法や理念の探求	建築構造デザイン、構造解析特論、デザインスタジオX、建築インターンシップ、建築学修士研修1/2、建築学修士プロジェクト1/2、建築構造分野研究論考、建築学博士プロジェクト1/2/3、建築学博士研修1/2/3、海外研修プログラム
宮田 雄二郎 准教授	建築構造	循環型社会をめざし、環境負荷低減と自然との共生を実現するため、木質構造を研究する。	部材の力学、材料のデザイン、建物の耐力、建築インターンシップ、デザインスタジオX、建築学修士プロジェクト1/2、建築学博士プロジェクト1/2/3、建築学博士研修1/2/3
山道 拓人 講師	建築設計、意匠、ソーシャルテクニクスデザイン	人々が生きる条件を自ら作っていける建築や社会を構想し、現代における建築意匠の研究と設計を探求していきます。	デザインスタジオ9/11、デザインスタジオX、建築インターンシップ、国際研修プログラム、建築学修士研修1/2、建築学修士プロジェクト1/2/2、海外研修プログラム

[設置科目]

[2022年度] ※開講科目は年度により異なります。() = 単位数

修士課程

- 建築計画概論(2)
- 近現代デザイン概論(2)
- 環境工学概論(2)
- 景観デザイン概論(2)
- 地域・都市再生概論(2)
- 環境技術英語(2)
- 知的財産権論(2)
- 現代産業論(2)
- 国際研修プログラム(3)
- 建築設備特論(2)
- 建築史概論(2)
- 地震工学概論(2)
- 鉄筋コンクリート構造概論(2)
- 建築構造力学特論(2)
- 曲面構造特論(2)
- 構造解析特論(2)
- 特殊環境特論(2)

※この他に、修士課程キャリア3年コースに学部合併科目20科目を設置。
※デザインスタジオ11：小野田泰明大学院客員教授が主に担当する修士設計のためのスタジオ系科目。

博士後期課程

- 建築構造分野研究論考(2)
- 建築環境分野研究論考(2)
- 建築計画分野研究論考(2)
- 建築史分野研究論考(2)
- 建築学博士研修1/2(各2)
- 建築学博士研修3(3)
- 建築学博士プロジェクト1/2(各2)
- 建築学博士プロジェクト3(3)
- 特別研究(2)
- 海外研修プログラム(3)
- 修士論文

修了生の研究テーマの例

- 空間遺棄時代のフラグメント－日本行脚2019にみる都市的創成物が織りなす風景記－
- 孤りのための空間－社会的孤立と地域の接点となる居場所の構築－
- 戦略的スペクタクル－郊外から考える都市の能動的更新手法－
- 「境」をはじく－TOD型都市開発に対する「老城廻」地域のアクセプタンス－
- 音楽と建築－セリーを用いた遊歩道計画－
- 建築基準法における構造計算規定に対する改正の歴史
- ウィーンの歴史的集合住宅の成立と持続保全性の考察
- 企業の公開情報の分析に基づく建築産業におけるSDGs達成に向けた取り組みの特徴把握に関する研究
- 怪異の歴史から解読する江戸の都市民俗学
- AR/VRを用いた空間評価に関する研究

工学専攻 都市環境デザイン

詳細はこちら



募集人員

修士課程25名／
博士後期課程2名

キャンパス

市ヶ谷

主な進路

公務員（東京都など）、鉄道建設・運輸施設整備支援機構、水資源機構、UR都市機構、首都高速道路、東日本高速道路、鉄道総合技術研究所、東京地下鉄、鹿島建設、清水建設、大成建設、オオバ、国際航業、大日本コンサルタント、東電設計、日本工営、パンフィックコンサルタント、太平洋セメント、JFEエンジニアリング、横河ブリッジなど



昼間開講

修了要件・履修案内・
時間割・シラバス



自然と共生する、 持続可能な都市をデザインする

近年、わが国では社会の基盤整備が進んできたとはいえ、大震災のような未曾有の災害に対するハード・ソフト面でのバランスの取れた対応策はまだまだ不十分な段階にとどまっています。また、建設関連の分野で技術者として要求される資質にも大きな変化が生じてきています。すなわち、地球規模の環境保全、自然や生態系と共生できる都市づくり、循環型・低炭素かつレジリエントな社会の構築など、多面的な課題対応が求められているのです。

本専攻では、従来型の「ものづくり」の枠組みを超え、「総合デザイン力」に根ざした広い視野と豊かな感性による新しい時代の都市デザイン能力を養成します。専門領域を「都市プランニング」「環境システム」「施設デザイン」の3分野に大別し、さまざまな問題点を高い視点から捉えて解決する力を養うためのカリキュラムを準備し、国際性を身に付ける外国语系科目も重点的に配置しています。また、社会活動や設計・制作の実践力を高める「スタジオ科目」も用意しています。社会基盤などを設計・建設・整備・管理する最先端の手法を修得し、生活を守る防災技術や自然生態系などとの調和を図りながら環境を保全・再生していくことのできる技術者の養成をめざします。

アドミッション・ポリシー (学生受け入れ方針)

カリキュラム・ポリシー (教育課程の編成・実施方針)

ディプロマ・ポリシー (学位授与の方針)

建設・環境分野の業態が多様化、国際化している現在、専門に特化した人材のみならず、幅広い能力を持つ人材が求められています。また、急速な技術革新に適応するためには社会人に対するリカレント教育も必要です。こうした要請に応えるため、修士課程に、一般入学制度のほか、一般推薦・社会人特別・外国人学生特別、さらにキャリア3年コースなどの多様な入学制度を設けています。博士後期課程では、学位論文作成に必要な語学力と専門能力を有していることを評価します。

従来型の単なる「ものづくり」の能力という枠組みを超えて、新しい時代にふさわしい都市をデザインする、広い視野と豊かな感性を備えた人材を養成することを目指とします。このためには、さまざまな問題点を高い視点からの確に捉え、解決する力が必要となるため、修士・博士後期課程とも、専門領域を「都市プランニング」「環境システム」「施設デザイン」の3分野に大別し、高度な能力を持つ技術者・研究者を育てるためのバランスに配慮したカリキュラムを配置しています。

各課程において、所定の単位とプロジェクト科目を履修し、論文の審査ならびに最終試験に合格した者に、修士課程では修士（工学）、博士後期課程では博士（工学）の学位を授与します。修士課程では、社会基盤システムに係る分野の専門性と創造性、表現力を身に付けた「総合デザイン力」を審査の基準とし、博士後期課程では、社会基盤システムに係る分野の先端的な研究者あるいは高度な専門技術者としての自立性を審査の基準とします。

[研究室紹介]

時代の要求と慎重に向かい合いながら日本の都市を美しく、ふさわしいものに変えていくための研究

人々の生活の場としての都市、その内容と姿はどのようにあるべきか。

快適な都市づくりのための堅牢なデザインを追及する

都市に集中する人口の受け皿として、量的な充足に追われてきたまちづくりは、大きな変革点を迎えています。美しく快適な都市を造るために取り組みは全国の市町村などで続けられてはいますが、その目標や方法は未だ不透明と言えます。本研究室では、都市デザインを広い概念で捉え、気候風土や地域の持つ地形的要素等と都市基盤、土地利用の調和など、その場所にふさわしく、そして美しいまちづくりの内容と方法について研究しています。



高見 公雄 教授

[学生・修了生の声]

都市や地域に興味を持つ仲間と都市デザインについて幅広く議論できます

私の研究

研究テーマ
拠点開発手法としての「多目的広場」の生成課程と現状、その評価に関する研究

国鉄改革により発生した空閑地開発手法として1985年に制度創設された「多目的広場」について研究しています。母国中国での修士課程では、現代中国で整備された大規模広場の環境や快適性に関する研究をしました。博士課程では現代日本で数多く作られた多目的広場に着目し、市街地整備推進の課程におけるその意義と今後の可能性についての研究を進めています。



劉 金燕
博士後期課程 在学中

大学院の魅力

市ヶ谷という交通至便の場所で、東京という大都市に直接触れながら都市について考えられます。また少人数制のため学生同士の交流が深く、相互に刺激し合いながら学べる環境をとても魅力に感じています。

[専任教員一覧]

[2022年度] ※年度により授業を持たない場合があります。

専任教員	専攻	研究テーマ	主な担当科目
今井 龍一 教授	都市交通計画、土木情報学	国土空間・都市活動を計測・分析する	都市環境デザイン工学基礎1、都市交通マネジメント、交通計画、測量学、都市環境デザイン工学研究1/2/3/4
内田 大介 教授	鋼構造、メンテナンス工学	鋼構造物の長寿命化と維持管理	都市環境デザイン工学基礎2、鋼構造の疲労、鋼構造学及演習、都市環境デザイン工学研究1/2/3/4
酒井 久和 教授	地盤地震工学、減災工学	実現可能な地震被害の軽減策を考える	都市環境デザイン工学基礎2、地震減災工学、地盤環境工学、都市環境デザイン工学研究1/2/3/4、環境システム論、都市環境デザイン工学特別研究1/2/3/4/5/6
鈴木 善晴 教授	水文気象学、水文環境学	気象災害の軽減や環境問題の解決	都市環境デザイン工学基礎1、応用水文学、流域水文学、都市環境デザイン工学研究1/2/3/4、都市環境デザイン特別研究1/2/3/4/5/6
高見 公雄 教授	都市設計、都市デザイン	美しく、ふさわしいまちづくり	地域・都市再生概論、サステナブル都市デザイン、都市環境デザイン工学基礎2、国土・地域概論、デザインスタジオ、プロジェクトスタジオ、都市環境デザイン工学研究1/2/3/4、都市プランニング論、都市環境デザイン工学特別研究1/2/3/4/5/6
福井 恒明 教授	景観計画、社会基盤構造物・空間デザイン	良好な地域景観の創出・保全の考え方や手法の研究	景観デザイン概論、自然・環境デザイン、景観とデザイン、都市計画法と政策、デザインスタジオ（都市）、都市環境デザイン工学研究1/2/3/4、都市プランニング論、都市環境デザイン工学特別研究1/2/3/4/5/6
溝渕 利明 教授	コンクリート材料学、構造物診断技術	コンクリートの一生を考える	都市環境デザイン工学基礎1、耐久性力学、コンクリート工学及演習、都市環境デザイン工学研究1/2/3/4、施設デザイン論、都市環境デザイン工学特別研究1/2/3/4/5/6
道奥 康治 教授	環境水理学、河川工学	河川と流域の水質水理学	流域水マネジメント、河川環境工学、水理学2、都市環境デザイン工学研究1/2/3/4、環境システム論、都市環境デザイン工学特別研究1/2/3/4/5/6
山本 佳士 教授	構造工学、計算工学	強靭（レジリエント）なインフラ構造物の整備	複合材料構造解析、都市環境デザイン工学研究1/2/3/4、都市環境デザイン工学特別研究1/2/3/4/5/6

[設置科目]

[2022年度] ※開講科目は年度により異なります。() = 単位数

修士課程

- 建築計画学概論(2)
- 近現代デザイン概論(2)
- 環境工学概論(2)
- 景観デザイン概論(2)
- 地域・都市再生概論(2)
- 環境技術英語(2)
- 知的財産権論(2)
- 現代産業論(2)
- 特別研究(2)
- 都市環境デザイン工学基礎1/2(各2)
- 災害リスクマネジメント概論(2)
- 沿岸防災工学(2)
- 材料科学概論(2)
- 國際研修プログラム(3)
- 都市交通マネジメント(2)
- 空間情報デザイン(2)
- 比較都市環境デザイン(2)
- 自然・環境デザイン(2)
- 流域水マネジメント(2)
- 水域環境の保全(2)
- 応用水文学(2)
- 地震減災工学(2)
- 鋼構造の疲労(2)
- 社会基盤施設の資産管理(2)
- 鋼橋の点検・診断・対策技術(2)
- 複合材料構造解析(2)
- ライフサイクルエンジニアリング(2)
- 耐久性力学(2)
- 計画の可視化(2)
- 河川環境工学(2)
- 国土・地域概論(2)
- コンクリート工学及演習(2)
- 鋼構造学及演習(2)
- RC構造学及演習(2)
- 構造力学2(2)
- 都市計画法と政策(2)
- 交通計画(2)
- 地盤環境工学(2)
- 水理学2(2)
- 水資源工学(2)
- デザインスタジオ(都市)(各3)

博士後期課程

- 耐震工学(2)
- プロジェクトスタジオ(2)
- 流域水文学(2)
- 有限要素法基礎(2)
- 測量学(2)
- サステナブル都市デザイン(2)
- 構造力学(2)
- 構造解析と設計(2)
- 都市環境デザイン工学研究1/2(各2)
- 都市環境デザイン工学特別研究3/4(各2)
- 都市環境デザイン工学特別研究5/6(各3)
- 都市プランニング論(2)
- 環境システム論(2)
- 施設デザイン論(2)
- 都市環境デザイン工学特別研究1/2(各2)
- 都市環境デザイン工学特別研究3/4(各2)
- 都市環境デザイン工学特別研究5/6(各3)

修了生の研究テーマの例

- 「歩いて暮らせるまちづくり」から「新型コロナ危機を契機としたまちづくりの方向性」について
- 平成の合併以降の都市の発展動向に関する研究
- 河川工学の特性からみる左沢の文化的景観—最上川舟運を対象に—
- 「ドボク」マニアによる土木構造物鑑賞行為の社会的意義
- ウェアラブルカメラを用いたコンクリートの打込みのバイブレータの締固め位置の計測に関する研究
- 環境条件および施工条件がコンクリートの乾燥収縮に与える影響に関する研究
- 大規模線状降水帯を対象とした複数の制御手法による豪雨抑制効果に関する研究
- 中規模河床形態の水理特性と水質的役割
- 2016年熊本地震における阿蘇大橋地区的強震動評価および斜面崩壊の再現
- 3次元DEMによる実物大石垣の振動シミュレーション

デザインシステム 専攻

詳細はこちら



募集人員

修士課程30名／
博士後期課程3名

キャンパス

市ヶ谷

主な進路

東芝、トヨタ自動車、ヤクルト本社、オリンパス、博報堂、清水建設、三菱電機、セイコーエプソン、大日本印刷、富士ゼロックス、伊藤忠テクノソリューションズ、デンソー、パナソニック、アズビル、キヤノン、ソフトバンク、LIXIL、イトーキなど



昼夜開講

修了要件・履修案内・
時間割・シラバス



モノづくり、システムづくりの 創生プロセスを総合研究

クリエーションとテクノロジー、マネジメントの融合をめざした新しい概念の創出を目的とした専攻です。工業製品のデザインや機能など、総合的なモノづくりやシステムづくりの創生プロセスを対象に、研究と教育を行っています。プロダクトデザイン、知能機械、シミュレーション、プロジェクトマネジメントなど、さまざまな側面から総合的にユーザビリティーを追究します。新しい時代を切り開く分野を担っていくために、一つの専門に偏った研究者ではなく、複雑な社会に存在する諸問題を、多面的に、俯瞰的に見ることのできる技術者や研究者を育成します。

修士課程にはプロジェクト・ベースド・ラーニング(PBL)科目など、新しい教育方法を導入しています。また、高度職業人の育成にも力を入れています。実務経験を持つ社会人が、その経験を生かして高度職業人としての高度な能力を身に付けられるよう、夜間授業や土曜授業を開講し、社会に開かれた大学院をめざしています。

アドミッション・ポリシー (学生受け入れ方針)

人文科学・社会科学、自然科学、工学などの知性に基づく合理と、人間の感性に依拠した美との融合をめざす「総合デザイン(Holistic Design)」を志向する人材を幅広く求める。そのため、修士課程では、一般入試、社会入試、自己推薦入試などによって、その適性、論文や作品の作成能力を評価する。博士後期課程では、学位論文作成に必要な語学力と専門能力を有していることを評価する。

カリキュラム・ポリシー (教育課程の編成・実施方針)

「総合デザイン力」を身に付けた高度専門職、研究者を養成するために、修士課程では、共通基盤科目、基盤科目、専門科目から構成する科目を配置し、幅広い知識の習得が可能である。修士の専門科目は、クリエーション、テクノロジー、マネジメント分野からなり、それぞれの特徴に合わせた履修が可能。また、昼夜開講の専攻として、夜間と土曜日の履修に配慮。博士後期課程では、論文指導や研究だけでなく、専門領域の講義科目を配置し、幅広い視点での問題解決能力の習得をめざす。

ディプロマ・ポリシー (学位授与の方針)

修士課程では、所定の単位とプロジェクト科目を履修し、論文の審査ならびに最終試験に合格した者に、修士(工学)の学位を授与する。システムデザイン分野の専門性と創造性、表現力を身に付けた「総合デザイン力」を審査の基準とする。博士後期課程では、所定の講義科目とプロジェクト科目を履修し、論文の審査ならびに最終試験に合格した者に、博士(工学)の学位を授与する。システムデザイン分野の専門性、創造性、新規性を持った研究能力を審査の基準とする。

[研究室紹介]

社会的文化的価値を持つデザインの研究と設計

社会の問題を解決し、生活や文化にとって 新たな価値を創出するデザインの研究



安積 伸 教授

生活に関わる器物や環境は、技術の進歩と社会構造の変化に呼応しながら急速に進化しています。しかしそれらが我々にとって真に快適さをもたらす方向に進んでいるかは大いに疑問が持たれるところです。人間が持つ普遍性、歴史や文化に根ざした価値観は急激な変化と反りの合わない部分もあり、無理に捻じ曲げようとすると問題を露呈してしまいます。また今日では人間の多様性に向き合う事も重要な課題となっています。生活を支えるあらゆる器物・環境を研究対象としながら、社会や環境の問題を解決する方法、新たな価値の創出に寄与するアイデアをデザインし実践的検証を行います。

※本専攻には、このほかにテクノロジーやマネジメントなどの分野を扱う、全部で8の研究室があります。

[学生・修了生の声]

技術や知識の探求はもちろん、 業務を円滑に行うための手法も身につきました

学んだこと・身についたこと

研究テーマ

静圧空気軸受を用いた平面アクチュエータによる三脚パラレルメカニズムの特性評価

他大学との交流、学会参加を通して、他者とのコミュニケーションや自分の意見のまとめ方、伝え方が身につきました。特に教授からの論文の赤字添削やプレゼンテーションのフィードバックは、現在の業務でもある複数部署との連携した議論やその準備に活かされると実感しています。技術や知識だけではなく業務を円滑に進める手法を身につけられたことは良い経験だと感じています。



近藤 瞳

修士課程 2012年度修了

法政大学大学院をめざす方へのメッセージ

将来どのような人になりたいか、どのような仕事を行いたいかといった目標を持つことが大切です。私も研究がうまく進まないタイミングもありましたが、周りにいる教授や研究室の仲間と意見を交換することで、新たな気づきにつながり、前に進むことができました。大学院での研究活動は知識の探求だけなく、多くの方々と触れ合いを通じて貴重な経験ができることが魅力ですよ。

[専任教員一覧]

[2022年度] ※年度により授業を持たない場合があります。

専任教員	専攻	研究テーマ	主な担当科目
安積 伸 教授	プロダクトデザイン	生活・文化に関する考察、分析を起点とし、社会に新たな価値を問うプロダクトデザインの研究	ヒューマニティデザイン論、システムデザインワークショップ(PBL)、デザイン創生学特論、システムデザイン修士研修1/2/3/4、システムデザイン修士プロジェクト1/2/3/4/5、システムデザイン博士研修1/2/3/4/5/6
岩月 正見 教授	スマートマシンデザイン	映像を利用した新しい機能をもつデバイスの設計に関する研究	知能情報技術論、システムデザインワークショップ(PBL)、知能システムデザイン特論、システムデザイン修士研修1/2/3/4、システムデザイン修士プロジェクト1/2/3/4/5、システムデザイン博士研修1/2/3/4/5/6
姜 理恵 教授	アントレプレナーシップ、ベンチャー、スタートアップ	起業家・イノベーターの特性解明と起業家教育の実証研究を中心とした、新産業創出マネジメントに資する研究	システムデザイン修士研修1/2/3/4、システムデザイン修士プロジェクト1/2/3/4/5、システムデザイン博士プロジェクト1/2/3/4/5/6
田中 豊 教授	メカトロニクス	人や環境と調和した次世代の高機能なメカトロニクスをデザインするため、「人」と「もの」と「コンピュータ」を結びつけるメカニズムやアクチュエタに関する研究	知能機械デザイン論、システムデザイン特別講義、知能システムデザイン特論、システムデザイン修士研修1/2/3/4、システムデザイン修士プロジェクト1/2/3/4/5、システムデザイン博士研修1/2/3/4/5/6
土屋 雅人 教授	インターフェースデザイン	高度な感性価値の実現をめざす次世代ヒューマンインターフェースのデザイン研究	インタフェースデザイン論、デザイン創生学特論、システムデザイン修士研修1/2/3/4、システムデザイン修士プロジェクト1/2/3/4/5/6
西岡 靖之 教授	知識工学、情報工学、生産工学	製造業のIT利活用、生産計画や製品設計とスケジューリングを統合させるAPS(先進的計画スケジューリング)に関する研究	プロダクションデザイン論、システムマネジメント特論、システムデザイン修士研修1/2/3/4、システムデザイン修士プロジェクト1/2/3/4/5、システムデザイン博士研修1/2/3/4/5/6
野々部 宏司 教授	オペレーションズ・リサーチ、組合せ最適化	問題解決のための最適化手法の開発とその応用に関する研究	マネジメントサイエンス論、システムデザインワークショップ(PBL)、システムマネジメント特論、システムデザイン修士研修1/2/3/4、システムデザイン修士プロジェクト1/2/3/4/5、システムデザイン博士研修1/2/3/4/5/6
大西 景太 准教授	ビジュアライゼーション、モーショングラフィックス	不可視の事象やデータを視覚化・映像化し、人の認知を拡張する表現手法とメディアの研究	システムデザイン修士研修1/2/3/4、システムデザイン修士プロジェクト1/2/3/4
山田 泰之 准教授	メカニズム、デザインエンジニアリング	システム全体を調和して、多様性やロバスト性を生むメカニズムの研究	メカニカルデザイン論、システムデザイン修士研修1/2/3/4、システムデザイン修士プロジェクト1/2/3/4

[設置科目]

[2022年度] ※開講科目は年度により異なります。() = 単位数

修士課程

- 建築計画学概論(2)
- 近現代デザイン概論(2)
- 環境工学概論(2)
- 景観デザイン概論(2)
- 地域・都市再生概論(2)
- 環境技術英語(2)
- 知的財産権論(2)
- 現代産業論(2)
- 特別研究(2)
- 技術英語演習(3)
- テクニカルライティング(2)
- 国際研修プログラム(3)
- プレゼンテーション技法(2)
- ヒューマンサイエンス論(2)
- コンピュータサイエンス論(2)
- グランド戦略とデザイン(2)
- 身体表現論(2)
- システムデザイン特別講義(2)
- ソシオシステムデザイン論(2)
- インダストリアルデザイン論(2)
- ヒューマニティデザイン論(2)
- インタフェースデザイン論(2)
- 製品デザイン原論(2)
- マンマシンデザイン論(2)
- 知能機械デザイン論(2)
- 知能情報技術論(2)
- 構造デザイン論(2)
- メカニカルデザイン論(2)
- プロダクションデザイン論(2)
- マネジメントサイエンス論(2)
- システム工学論(2)
- 品質マネジメント論(2)

博士後期課程

- デザイン創生学特論(2)
- 知能システムデザイン特論(2)
- シミュレーションデザイン特論(2)
- システムマネジメント特論(2)
- システムデザイン
修士研修1/2/3/4/5(各1)
- システムデザイン
修士プロジェクト1/4(各2)
- システムデザイン
修士プロジェクト2/3(各1)
- システムデザイン
修士論文(SD)

修了生の研究テーマの例

- パラレルメカニズムを用いた積層造形法に関する研究
- 機械学習による生体電気インピーダンスの分析と生体認証への可能性検討
- 拡張現実とデプスカメラを用いた立体的コミュニケーション手法の開発
- IoTを用いた製造現場の事業間データ連携システムの開発
- 中間拠点の経由を考慮した配送計画問題に対する列生成法の適用
- 機能性流体を用いたマイクログリッパの研究
- 花を原料とした製品の開発－素材加工方法と製品ブランド提案の研究－
- 表情認識による物体検索モバイルARアプリケーションの開発
- デジタル技術を応用した青焼き写真用カメラ及び感光媒体の研究と制作
- LinkRayを用いたLINE連動型AR伝言板スポットの開発

機械工学専攻

詳細はこちら



募集人員

修士課程50名／
博士後期課程2名

キャンパス

小金井

主な進路

トヨタ自動車、日本車両、IHI、SUBARU、住友重機械工業、川崎重工業、パナソニック、三菱電機、本田技研工業、日産自動車、日立製作所、オリンパス、キャノン、デンソー、NTTなど



昼間開講

修了要件・履修案内・
時間割・シラバス



いつの時代もキー・テクノロジーであり続ける 機械工学

今、産業界はめざましく変化しています。しかし、時代が変化しても、機械工学が産業を支えるキー・テクノロジーであり続けることに変わりはありません。本専攻では、機械工学の柱となる材料力学、機械力学、熱力学、水力学などの専門科目に加えて、機能性材料、宇宙工学、環境エネルギー工学、人工知能（AI）、データサイエンスなどの先端的な講義や研究指導を行っています。また、時代に対応して、常にカリキュラムを革新しています。

修士課程においては、高度な研究・開発を担うことのできる能力を、博士後期課程においては、独創的な研究能力を備え、より高度な研究・開発を担うことのできる能力を養成することが目標です。

幅広い視野を持ち、21世紀の産業と市民社会の期待に応え得る、技術のプロフェッショナルの育成をめざしています。

アドミッション・ポリシー (学生受け入れ方針)

機械工学に関する高度な専門知識を有し、かつ先端的、学際的な分野にも対応し得る技術者および研究者の育成を目的とする。そのため、自然科学の知識を基礎にして、機械工学の専門分野を構成する諸分野の基礎知識を全般的に習得し、機械工学の発展に貢献することを強く望む学生を受け入れている。また、特別入試制度により、科学技術の急速な発展に順応すべく再教育を望む社会人や、グローバル化の中で日本の先進技術の習得を望む外国人も受け入れている。

カリキュラム・ポリシー (教育課程の編成・実施方針)

機械工学分野を構成する各専門分野の、高度で最先端の内容の講義科目を設置。さらに各分野で著名な学外からの講師の協力も得て、複数の専門分野を相互に応用した学際的領域の科目を多数用意している。これらの科目を修士課程（博士前期課程）で履修すると同時に、修士論文につながる専門性の高い研究に取り組む。また、博士後期課程では、機械工学分野の研究者として自立した環境の中で研究に取り組み、さらに学内外の研究活動を通じて豊かな学識を養う。

ディプロマ・ポリシー (学位授与の方針)

機械工学分野を中心とした研究能力、または高度の専門性を要する職業などに必要な能力を身に付けた人材の養成を目的としている。修士課程（博士前期課程）では、すべてのものづくりの基盤となる機械工学に関する高度な専門知識を有し、かつ先端的、学際的な分野にも対応し得る柔軟で幅広い視野を持った技術者を育成する。さらに博士後期課程では、独創的な研究能力を備え、高度な研究、開発を担うことのできる機械技術者や研究者を養成する。

[研究室紹介]

ターボ形流体機械の空気力学的性能の向上に関する研究

航空用や発電用のガスタービンを構成する 翼列内の複雑な流れの挙動を解明

現代人の生活に欠かせない電気を作り出すガスタービンや、航空機の推進力を生むジェットエンジンは、化石燃料の枯渇化や二酸化炭素排出量削減などの環境問題に対処するために、さらなる性能の向上が急務とされています。当研究室では、これらを構成する圧縮機やタービン翼列の空気力学的性能の向上を目的に、その内部の複雑な流れの挙動を実験と数値解析により解明し、損失を低減させる方法を調査しています。また、自然災害時などの非常用電源や分散型発電システムとして、燃料多様性に富んだマイクロガスタービンは非常に有効であり、ガスタービンの小型化をめざした研究も行っています。



辻田 星歩 教授

[学生・修了生の声]

大学院で培った自主性と研究に対する責任感、 将来は世界のエネルギー産業の第一人者をめざす

学んだこと・身についたこと

研究テーマ 小型軸流ファンの音質評価に関する研究

大学院では自由な時間がが多くなり、学ぶゆとりと選択肢が多いことに魅力を感じました。私の例では先生にインターンシップ先を紹介していただき、実務を通してプレゼンテーション技術など仕事に必要になるスキルを習得したり、騒音関係の国家資格取得を通して専門性を身に付けることができました。その他にも海外留学などの選択肢もありますので、自身の目標に対し真っすぐに進める環境が整っているのが魅力です。



西口 誠人

博士後期課程 2014年度修了／
千代田化工建設株式会社

将来の目標

現在は千代田化工建設株式会社でエネルギー・化学関係のプラントを中心に振動問題のコンサルティングを仕事にしています。海外顧客を対象とすることも多く、文化や人間性の違いまで考慮して業務にあたることに苦労しますが、同時に世界中のエネルギー産業に大きく貢献できているやりがいを感じています。将来は世界中で仕事する技術コンサルタントになり、この業界の第一人者になりたいと考えています。

[専任教員一覧]

[2022年度] ※年度により授業を持たない場合があります。

専任教員	専攻	研究テーマ	主な担当科目
新井 和吉 教授	複合材料、宇宙構造材料、材料強度学、化学装置材料、数値解析	耐スペースデブリ用軽量小型複合バンパの開発、野球用ヘルメットとバットの耐衝撃性能	複合材料特論、機械工学特別研究1/2、機械工学特別実験1/2
石井 千春 教授	制御工学、ロボット工学	内視鏡手術ロボットや筋電義手・パワーアシストツールなどの医療・福祉工学に関するロボットの研究・開発	機械力学特論、機械工学特別研究1/2、機械工学特別実験1/2
川上 忠重 教授	燃焼工学、エネルギー変換工学	小型ディーゼル機関の植物油系混合燃料による燃焼生成物低減に関する研究	燃焼工学特論、応用熱力学特論、環境エネルギー技術戦略特論、機械工学特別研究1/2、機械工学特別実験1/2
崎野 清憲 教授	材料強度学、衝撃工学、破壊力学、材料物性	構造材料の衝撃変形特性（金属、非金属の高速変形機構）、高分子系複合材料の衝撃損傷（損傷箇所の超音波深傷）	衝撃破壊工学特論、機械工学特別研究1/2、機械工学特別実験1/2
チャピ ゲンツイ 教授	制御工学、ロボット工学	人間支援ロボティクス、知的制御システムの研究・開発	制御工学特論、機械工学特別研究1/2、機械工学特別実験1/2
塚本 英明 教授	耐熱材料、金属工学、マイクロメカニクス	新構造・機能性材料の開発、傾斜機能材料、ヘテロ構造体の高温変形、マイクロメカニクスに基づく多相材料設計、塑性加工を活かした新材料開発	弾性学特論、機械工学特別研究1/2、機械工学特別実験1/2
辻田 星歩 教授	数値流体工学、流体機械	モデル流路によるターボ機械内部流れの損失生成機構の解明、高負荷タービン翼列内の流れの解析、遠心圧縮機羽根車内の流れの数値解析	流体力学特論1、機械工学特別研究1/2、機械工学特別実験1/2
平野 利幸 教授	流体機械、流体工学	マイクロファンの内部流れおよび性能に関する研究、遠心圧縮機の内部流れと性能に関する研究、物体まわりの流れに関する研究	流体力学特論2、機械工学特別研究1/2、機械工学特別実験1/2
平野 元久 教授	トライボロジー	ナノ摩擦系の理論・実験	摩擦の原子論特論、機械工学特別研究1/2、機械工学特別実験1/2
御法川 学 教授	音響工学、流体工学	小型ファンの静音化および音質向上、サイレンサの性能向上、超小型ターボ機械の開発、小型航空機に関する研究など	機械音響工学特論、航空機設計特論、機械工学特別研究1/2、機械工学特別実験1/2
吉田 一朗 教授	設計工学、計測工学、トライボロジー、製品開発工学、生産技術、データサイエンス	表面性状・粗さ解析、データサイエンス、画像認識、画像処理、精密計測ロボット、エモーショナルデザイン、生産管理に関する研究	精密工学特論、機械工学特別研究1/2、機械工学特別実験1/2
相原 建人 准教授	機械力学、機構学	自動車用ねじり振動低減装置に関する研究、遊星歯車の高効率化・静粛化に関する研究、非線形振動に対する理論解析法の構築	機械振動学特論、機械工学特別研究1/2、機械工学特別実験1/2

[設置科目]

[2022年度] ※開講科目は年度により異なります。() = 単位数

修士課程

- 弹性学特論(2)
- 応力解析特論(2)
- 金属材料学特論(2)
- 耐熱材料特論(2)
- 応用塑性学特論(2)
- 材料強度学特論(2)
- 非金属材料特論(2)
- 複合材料特論(2)
- 精密機械特論(2)
- 制御工学特論(2)
- 機械音響工学特論(2)
- 熱動力学特論(2)
- 燃焼工学特論(2)
- 伝熱工学特論(2)
- 応用熱力学特論(2)
- 流体力学特論1/2(各2)
- 流体機械特論1/2(各2)
- 衝撃破壊工学特論(2)
- 鉄鋼材料工学特論(2)
- 機械技術英語特論(2)
- 人間・感性工学特論(2)
- 航空機設計特論(2)
- 宇宙飛行体特論(2)
- 資源環境物理学特論(2)
- 極地環境学特論(2)
- 環境エネルギー技術戦略特論(2)

- 機械力学特論(2)
- 熱・反応流体特論(2)
- 航空宇宙材料特論(2)
- 数値解析法特論(2)
- プロセス制御特論(2)
- 摩擦の原子論特論(2)
- 機械振動学特論(2)
- 精密工学特論(2)
- 機械工学特別研究1/2(各3)
- 機械工学特別実験1/2(各2)

博士後期課程

- ヒューマンロボティクス
特別研究1/2/3(各3)
- ヒューマンロボティクス
特別実験1/2/3(各2)
- マテリアルプロセッシング
特別研究1/2/3(各3)
- マテリアルプロセッシング
特別実験1/2/3(各2)
- 環境・エネルギー
特別研究1/2/3(各3)
- 環境・エネルギー
特別実験1/2/3(各2)
- 航空宇宙熱流体
特別研究1/2/3(各3)
- 航空宇宙熱流体
特別実験1/2/3(各2)
- 材料物性・強度
特別研究1/2/3(各3)
- 材料物性・強度
特別実験1/2/3(各2)
- デジタルエンジニアリング
特別研究1/2/3(各3)
- デジタルエンジニアリング特別実験1/2/3(各2)
- 機械工学発展ゼミナー(2)

修了生の研究テーマの例

- 卓球ラケットとボールの反発性能評価
- エタノール水溶液の予蒸発添加方式を用いた燃焼生成物低減に関する基礎研究
- 翼負荷最適化設計によるスマートファンの性能向上
- 放電プラズマ焼結と熱間圧延によるカーボンナノチューブ強化アルミニウム基複合材料の作製と評価
- 小型円環翼列による超高負荷軸流タービンの空力性能に関する実験的研究
—翼端間隙高さと翼形状の影響—
- 低周波振動切削による加工表面の適切な計測法および評価法に関する研究
- 原子摩擦モデルの摩擦エネルギー散逸における非線形動力学効果
- パードストライクにおける擬似鳥材料とCFRP損傷機構の検討
- 農薬散布ロボットにおける枯死作物検出と農薬噴霧
- パワーアシストツールの操作性および実用性の改善
- 打楽器シンバルの振動応答と音響特性への影響
- ISO 13565-3の粗さパラメータに基づいたプラト
—表面のなじみ過程解析のための最小二乗法を用いた表面粗さ評価法の研究

工学専攻 電気電子

詳細はこちら



募集人員

修士課程50名／
博士後期課程5名

キャンパス

小金井

主な進路

法政大学大学院博士後期課程進学、ソニー、パナソニック、キヤノン、日立製作所、三菱電機、東芝、NEC、富士通、沖電気、ファナック、オリンパス、オムロン、京セラ、日亜化学工業、セイコーエプソン、TDK、スタンレー電気、三菱ケミカル、NTTデータ、NTTドコモ、KDDI、ソフトバンク、トヨタ自動車、本田技研工業、日産、スバル、スズキ、ヤンマー、東京電力、電源開発、JR東日本、JR東海、鉄道・運輸機構、東武鉄道、JFEスチール、清水建設、竹中工務店、野村総研



昼間開講

修了要件・履修案内
時間割・シラバス

現代の科学技術を支える先端技術を、 基礎から応用まで

マルチメディア、携帯端末、新世代コンピュータ、人工知能、ロボティクス、マイクロマシン、ナノエレクトロニクス、ニューマテリアル、電動化・カーボンニュートラル、これらのキーワードはすべて電気電子工学と関連しています。本専攻では、回路、通信、エネルギー、制御、電子材料、電子物性などの電気電子工学分野に重点をおき、マイクロナノテクノロジー研究センターなどの最新設備を利用しながら、現代の科学技術を支える先端技術の基礎から応用までの研究教育を行っています。修士課程では、深い学識と、高度専門技術者に必要な能力を養うことを目標とし、社会に有益な先端技術として還元する能力を有する人材を育成します。博士後期課程では、豊かな学識を実際の研究成果に結実させることにより研究者養成を目標としています。毎年、国内外で数多くの論文を発表し、研究成果が社会に有益な技術として還元されることをめざしています。

[研究室紹介]

デジタル・アナログ技術で人を豊かにする機器を創る

超高精度信号変換技術で高度化する デジタル処理を活かす



安田 彰 教授

さまざまな分野でデジタル化が進展していますが、リアルワールドの音や画像、力、匂い等はみなアナログ信号です。デジタル化を活かすには、アナログとデジタル信号を相互に高精度に変換する技術が必要です。しかし、半導体等の製造過程での誤差により変換器を構成する素子値などが変動し、これまで変換精度が劣化していました。我々はこの誤差の影響を事实上無視できる程度まで低減できる超高精度変換技術を開発しています。これをデジタル信号を直接、力や熱等の物理量に変換する機器へ応用し、高音質、高効率で安全性の高いデジタルスピーカやデジタルモータを実現しています。今後は、医療や電気自動車への応用を広げ、SDGs実現へ貢献します。

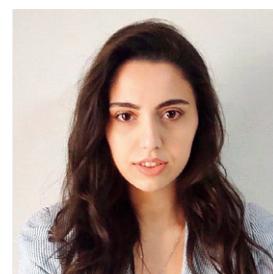
[学生・修了生の声]

Electrical Engineers are some sort of artists, to create things that didn't previously exist

Motivations for Further Studies

研究テーマ

Soft Multi-Legged Robotics



Bezha Klara

修士課程 在学中

From my prospective, Electrical Engineers are some sort of artists, as they take inspiration from nature to create things that didn't previously exist, by using not only the technical abilities that are necessary, but most importantly creativity and imagination to solve issues and create novelty.

For my Master Studies I chose the major of "Electrical & Electronic Engineering", differently from my "Computer Engineering" major during Bachelor Studies, as I wanted to be more in close contact with the physical engineering products that can be used in real-life applications and get to know more about how they are made.

Message for all international prospective students

I want to compliment you for being courageous deciding to study in a foreign country and I want to assure you that this experience will be worth it. The years of your studies may not be easy, as you will probably miss your family & friends, your language, and your culture, but at the end of it, you will feel very proud of yourself for reaching your goal and you will feel enriched not only academically but also culturally.

[専任教員一覧]

[2022年度] ※年度により授業を持たない場合があります。

専任教員	専攻	研究テーマ	主な担当科目
伊藤 一之 教授	知覚情報処理・知能ロボティクス、知能機械学・機械システム、システム工学	強化学習の汎化に関する研究、操作性を考慮したレスキュー・ロボットの開発、生態心理学の自律ロボットへの応用	知能ロボット特論、知的制御特論、電気電子工学特別研究1/2、電気電子工学特別実験1/2
岡本 吉史 教授	電気機器工学、電磁気工学	IPMモータの低損失・高出力化設計、各種モータの抜本的構造最適化、強磁性体の磁気特性計測、永久磁石磁化分布の非破壊逆推定、電磁気センシングを活用した電気自動車の製作	電磁界数値解析特論、電気機器の数理最適化特論、電気電子工学特別研究1/2、電気電子工学特別実験1/2
川口 悠子 教授	米国現代史・日本現代史	第二次世界大戦(特に広島の原爆被害)をめぐる歴史認識	科学技術文技法
斎藤 利通 教授	非線形回路、ニューラルネット、群知能、パワーエレクトロニクス	動的バイナリーニューラルネットの解析とCPGへの応用、進化的多目的最適化法のスイッチング電源回路への応用、スパイキングニューラルネットによるリザーバコンピューティング	回路工学特論2、電気電子工学特別研究1/2、電気電子工学特別実験1/2
柴山 純 教授	機能素子工学	テラヘルツデバイス、センサデバイスの開発、高効率差分時間領域法	情報通信工学特論、電気電子工学特別研究1/2、電気電子工学特別実験1/2
鳥飼 弘幸 教授	複雑システム工学、知能システム工学	生物模倣ハードウェア、脳型コンピュータ、神経補綴デバイス、人工内耳デバイス、ゲノム医療支援用大規模シミュレータ	人工知能回路特論、電気電子工学特別研究1/2、電気電子工学特別実験1/2
中村 俊博 教授	ナノ光物性工学	次世代発光デバイスへの応用に向けた半導体ナノ材料、半導体ランダムレーザー、プラズモニクス発光制御、無機蛍光体材料に関する研究	電子物性工学特論1/2、電気電子工学特別研究1/2、電気電子工学特別実験1/2
安田 彰 教授	電子回路工学、制御工学	通信・情報処理機能やインターフェイス機能等を半導体上に集積するための基礎技術および応用技術についての研究、スピーカー、モータ等アクチュエータのデジタル直接駆動方式の基礎技術および半導体を用いた実装技術の研究	回路工学特論1、電気電子工学特別研究1/2、電気電子工学特別実験1/2
山内 潤治 教授	通信伝送工学、電磁波伝送工学	光波伝送工学、サブ波長光学素子の開発、表面波伝送素子のアンテナへの応用、光ナノアンテナ、メタサーフェスの電磁波通信システムへの応用	通信伝送工学特論1/2、電気電子工学特別研究1/2、電気電子工学特別実験1/2
笠原 崇史 准教授	ナノ・マイクロシステム工学	半導体微細加工・印刷技術を用いたマイクロ流体デバイスの作製に関する研究、ウェアラブルディスプレイの創生に向けた液体有機半導体・電気化学発光材料に関する研究	ナノマイクロシステム工学特論、電気電子工学特別研究1/2、電気電子工学特別実験1/2
中村 壮亮 准教授	知覚情報処理・知能ロボティクス、無線送電・電力工学、システム工学	非運動型VRシステムであるMotion-Less VR、人間支援ロボットの中核技術である自律移動、ワイヤレス給電とロボティクスの統合技術に関する研究	知能システム化技術特論、電気電子工学特別研究1/2、電気電子工学特別実験1/2
西村 征也 准教授	プラズマ物理学、核融合工学	核融合プラズマにおける電磁流体力学の不安定性に関する研究、地球磁気圏におけるプラズマ波動とオーロラに関する研究	電磁力学特論、電気電子工学特別研究1/2、電気電子工学特別実験1/2
佐々木 秀徳 専任講師	機械学習、電気機器工学、数理工学	機械学習を用いた電気機器設計技術に関する研究、トポロジー最適化を用いた設計自動化に関する研究、最適化探索アルゴリズムの高性能化に関する研究	知的電機システム設計特論、電気電子工学特別研究1/2、電気電子工学特別実験1/2

[設置科目]

[2022年度] ※開講科目は年度により異なります。() = 単位数

修士課程

- 回路工学特論1/2(各2)
- 電磁波伝送工学特論1/2(各2)
- 通信伝送工学特論1/2(各2)
- 電磁力学特論(2)
- 半導体デバイス工学特論1(2)
- 電子材料工学特論1/2(各2)
- 電子物性工学特論1/2(各2)
- 知能ロボット特論(2)
- 知的制御特論(2)
- 集積回路特論1/2(各2)
- 半導体工学特論(2)
- 応用ナノマイクロデバイス特論(2)
- イオンビーム応用工学特論(2)
- 電力システム工学特論(2)
- パワーエレクトロニクス特論(2)
- 制御工学特論1/2(各2)
- 情報伝送工学特論1/2(各2)
- 応用数学特論(2)
- 生物模倣回路特論(2)
- 通信機器工学特論1/2(各2)
- 集積化エレクトロニクス工学特論(2)
- オペレーティングシステム特論(2)
- マイクロ波トランジスタ工学特論(2)
- 知能システム化技術特論(2)
- ロボティクス
- シミュレーション特論(2)
- デバイスの数理最適化特論(2)
- ナノ材料工学特論(2)
- 機械学習特論(2)
- 光電変換デバイス工学特論1(2)
- 電気電子工学特別研究1/2(各2)
- 生体センシング
- エレクトロニクス特論(2)
- マルチメディア通信特論(2)

- 情報通信工学特論(2)
- 電子材料プロセッシング(2)
- 電気電子工学特別研究1/2(各3)
- 人工知能回路特論(2)
- 電磁界数値解析特論(2)
- ナノマイクロシステム工学特論(2)
- 知的情報処理特論(2)
- ニューラルネットワークの理論と応用(2)
- 電磁界有限要素法特論(2)
- 知的電機システム設計特論(2)

博士後期課程

- 回路工学特別研究1/2/3(各3)
- 回路工学特別実験1/2/3(各2)
- 通信工学特別研究1/2/3(各3)
- 通信工学特別実験1/2/3(各2)
- プラズマ工学特別研究1/2/3(各3)
- プラズマ工学特別実験1/2/3(各2)
- ナノマイクロシステム工学特別研究1/2/3(各3)
- ナノマイクロシステム工学特別実験1/2/3(各2)
- 電子物性工学特別研究1/2/3(各3)
- 電子物性工学特別実験1/2/3(各2)
- 制御工学特別研究1/2/3(各3)
- 制御工学特別実験1/2/3(各2)
- エネルギー工学特別研究1/2/3(各3)
- エネルギー工学特別実験1/2/3(各2)

修了生の研究テーマの例

- Subgrid法を導入したFDTD法によるテラヘルツ光伝導アンテナの解析
- 三次元環境を移動可能な吸盤6脚ロボット
- デジタルスパイキングニューラルネットワークの同期現象と時系列近似
- 誘電体スロット導波路配列を利用した光学ミラー
- Motion-Less Virtual Realityにおける振動刺激による体性感觉フィードバックの有効性の検証

- 多孔質Siを原料としたSiナノ結晶コロイド粒子の高効率生成プロセスの開発
- 宇宙用22nmを用いた12ビット逐次比較型アナログ・デジタル変換器
- 電磁気・構造連成トポロジー最適化による同期電動機の高トルク・高剛性化設計に関する研究
- 金属酸化物半導体ナノ粒子を組み込んだマイクロ流体電気化学発光素子の開発
- 根拠説明可能な深層学習を用いた電気機器設計技術に関する研究

応用情報工学専攻

詳細はこちら



募集人員

修士課程50名／
博士後期課程4名

キャンパス

小金井

主な進路

トヨタ自動車、NTT東日本、NEC、NTTコミュニケーションズ、リコー、NTTデータ、ソフトバンク、オリンパス、日本ヒューレット・パッカード、セコム、オービック、京セラなど



昼間開講

修了要件・履修案内・
時間割・シラバス



情報化社会の第一線を担う、 高度な技術者・研究者に

情報通信技術は、インターネットの爆発的な普及、それを支えるワイヤレス＆ブロードバンドネットワークにより、急速に発展し続けています。この技術は進歩が非常に速く、特に最近はクラウドコンピューティングによるイノベーション、デバイスの高性能化、小型化によるIoT(Internet of Things) の普及、さらにはヒューマンインターフェースや画像処理応用技術の高度化が急激に進行中です。本専攻はこのような技術を対象としており、「計算機工学」「情報ネットワーク工学」「情報処理工学」「人間情報工学」の4つの分野から構成されます。「計算機工学」では、重要な基盤領域である計算機の高速化、効率化、知能化をめざしたアーキテクチャや、アルゴリズムおよびプログラミングが「情報ネットワーク工学」では、インターネットに代表される多数の計算機がネットワークを介して結合しWebなどを通じて情報処理を行う高度なネットワーク技術が研究対象です。「情報処理工学」では、計算機やネットワークを利用した応用には欠かせない画像処理や知能処理などの情報処理技術を「人間情報工学」では、計算機をより使いやすく身近なものにするための人間と計算をつなぐ技術を研究対象としています。本専攻では、応用情報工学分野の多彩な教授陣を有し、学会誌や国際会議での論文発表なども活発です。昨今、マーケティング分野からの消費スタイルに合わせた場(=コト)づくりの重要性が指摘されています。「コトづくり」に適した「モノづくり」に携わるための幅広い専門基礎学力と独創的能力を持ち、技術の発展に指導的役割を担う技術者・研究者の育成を目的としています。

アドミッション・ポリシー

(学生受け入れ方針)

カリキュラム・ポリシー

(教育課程の編成・実施方針)

ディプロマ・ポリシー

(学位授与の方針)

応用情報工学は、高度情報社会を支える重要な基盤技術である。この基盤技術の基礎を学んだ応用情報工学系の学部卒業生、この分野で一定の勤務実績がある社会人、および留学生などを受け入れる。社会人、留学生に対しては特別入学試験制度を設けている。

研究分野は「計算機工学」「情報ネットワーク工学」「情報処理工学」「人間情報工学」から構成されており、応用情報工学において実用的かつ高度なハードウェアやシステムの開発の知識や技術を習得し、研究能力を高められるように構成されている。修士課程、博士後期課程とともに、国内外の学会での研究発表、論文執筆を積極的に奨励し、最先端かつ実践的な活動を通じて指導を行っている。

修士課程では、応用情報工学における学問的な基礎だけでなく応用力やシステム開発力を重視し、産業分野で実際に活用するための広い視野に立った学識と高い研究能力を有することを基本方針としている。博士後期課程では、自立して世界最先端かつ創造的な研究活動を行うことができる高度な研究能力と実践で通用する広い応用能力を有することを学位授与の方針としている。

[研究室紹介]

機械学習の力を自分の力に、そして社会に貢献へ

知的情報処理研究室

私たちは人工知能の技術として注目を集めている深層学習(Deep Learning)技術の基礎および応用研究を行っています。

例えば現在では主に

(a) 植物病画像診断 (b) 皮膚がん、胃がんなどの自動診断 (c) 脳MRIの類似症例検索技術 (d) データ生成技術 (e) 文書の解析・より効率的な解析法の開発 (f) 電子広告業界への応用 (g) セキュリティ応用などのテーマについて取り組んでいます。国内外の大学、研究機関、企業と連携して積極的に研究を進め、成果は対外的に発表するとともに、一部については利用可能な形で公開、社会実装しています。



彌富 仁 教授



北田 俊輔

博士後期課程 在学中／
日本学術振興会特別研究員

[学生・修了生の声]

人工知能と人がよりよく共存するため

AI技術の拡張に取り組んでいます

私の研究

研究テーマ 摂動に頑健で解釈可能な深層学習モデルの開発と
その解釈性の評価

AI技術の一つ、自然言語処理について研究を進める中で、特に深層学習と呼ばれる、人間の脳を模倣した手法をベースに人間の言葉を理解させる方法について考えています。深層学習による自然言語処理は、人間と同等以上の言語理解性能を示す予測を提示できる一方で、なぜその予測が得出されるのかを人間が理解するのは現時点では困難です。人工知能技術は毎日のように数多くの論文が発表され、人間を凌駕するような結果も始めています。そうした中、私はこのようなAI技術が自身の予測を「説明可能」にし、人間がしっかりと「解釈」できるように技術を拡張することで、AI技術と人間の共存を助けるような取り組みを行って結果を出し、世界に発表したいと考えています。

専攻の魅力

研究活動への支援体制が非常に手厚く、私もそのおかげで日本学術振興会特別研究員という、かなりの狭き門で、かつ若手研究者の登竜門とも言われる制度に応募、採用されました。特別研究員に採用後も、国から交付される科研費の取り扱いについて事務方がしっかりとサポートしてくださいため、何不自由なく研究に専念することができます。他の私立大学や国立大学にも負けない素晴らしい素晴らしい取り組みだと感謝しています。

[専任教員一覧] [2022年度] ※年度により授業を持たない場合があります。

専任教員	専攻	研究テーマ	主な担当科目
彌富 仁 教授	知的情報処理、機械学習、医用工学	人工知能技術および、そのさまざまな領域への応用(医療、農業、言語処理、エネルギーなど)	知的情報処理特論1/2、科学技術文技法、応用情報工学特別研究1/2、応用情報工学特別実験1/2
尾川 浩一 教授	画像工学	医学および工業への応用を目的としたトモグラフィー理論および画像工学理論の展開	画像工学特論1/2、応用情報工学特別研究1/2、応用情報工学特別実験1/2
金井 敦 教授	情報ネットワーク、セキュリティ	安心安全で便利なネットワークサービス技術の創出を目指した情報セキュリティ、ネットワークセキュリティ、ネットワークサービス等の研究	通信ネットワーク特論1/2、応用情報工学特別研究1/2、応用情報工学特別実験1/2
品川 満 教授	情報通信工学、近距離通信	人にも地球環境にもやさしいIoTサービス実現に向けた近距離通信技術の研究	無線ネットワーク特論1/2、応用情報工学特別研究1/2、応用情報工学特別実験1/2
藤井 章博 教授	分散システム設計論	電子商取引、Web知識処理、データ分析、サービスシステム工学	分散処理システム特論1/2、応用情報工学特別研究1/2、応用情報工学特別実験1/2
李 磊 教授	コンピュータサイエンス	高速アルゴリズム、並列アルゴリズム、遺伝的アルゴリズム、ニューロコンピューティング、強化学習アルゴリズム等の設計、解析及び応用	離散アルゴリズム特論1/2、科学技術文技法、応用情報工学特別研究1/2、応用情報工学特別実験1/2
和田 幸一 教授	理論計算機科学	故障耐性の優れた並列分散システムの効率的設計、並列分散アルゴリズム、教育支援システム	計算機システム工学特論1/2、応用情報工学特別研究1/2、応用情報工学特別実験1/2
平原 誠 准教授	脳情報処理、視覚心理、最適化	運動視や記憶に関する工学的および心理学的研究、組合せ最適化(メタヒューリスティクス)	脳情報処理特論1/2、応用情報工学特別研究1/2、応用情報工学特別実験1/2
周 金佳 准教授	画像処理、動画像圧縮、ハードウェア設計	リアルタイム低電力深層学習適用によるマルチメディアシステムの開発	情報信号処理工学特論1/2、応用情報工学特別研究1/2、応用情報工学特別実験1/2
和佐 州洋 専任講師	理論計算機科学	グラフなどの離散構造に関する問題を解くアルゴリズムの研究(特に、列挙や組合せ遷移)	理論計算機科学特論1/2、科学技術文技法

[設置科目] [2022年度] ※開講科目は年度により異なります。() = 単位数

修士課程

- 離散アルゴリズム特論1(2)
- 離散アルゴリズム特論2(2)
- 計算機システム工学特論1(2)
- 計算機システム工学特論2(2)
- 通信ネットワーク特論1(2)
- 通信ネットワーク特論2(2)
- 分散処理システム特論1(2)
- 分散処理システム特論2(2)
- 無線ネットワーク特論1(2)
- 無線ネットワーク特論2(2)
- 情報信号処理工学特論1(2)
- 情報信号処理工学特論2(2)
- 画像工学特論1(2)
- 画像工学特論2(2)

- 知的情報処理特論1(2)
- 知的情報処理特論2(2)
- 感性情報処理システム特論1(2)
- 感性情報処理システム特論2(2)
- 脳情報処理特論1(2)
- 脳情報処理特論2(2)
- 画像解析特論(2)
- 応用信号処理特論(2)
- 学習アルゴリズム特論(2)
- データマイニング特論(2)
- 計算幾何学特論(2)
- 自然言語処理特論(2)
- プログラム意味論特論(2)
- Webサービス技術特論(2)

- センサーネット特論(2)
- インターネットとイノベーション特論(2)
- 感覚・感性センシング特論(2)
- 3次元モデリング特論(2)
- 視覚環境認識・理解特論(2)
- ヒューマンインラクション特論(2)
- マルチモーダル情報処理特論(2)
- 科学技術文技法(2)
- ニューラルネットワークの理論と応用(2)
- 深層学習の効果的処理(2)
- 理論計算機科学特論1(2)
- 理論計算機科学特論2(2)
- 応用情報工学特別研究1/2(各3)
- 応用情報工学特別実験1/2(各2)

博士後期課程

- 計算機工学特別研究1/2/3(各3)
- 計算機工学特別実験1/2/3(各2)
- 情報ネットワーク工学特別研究1/2/3(各3)
- 情報ネットワーク工学特別実験1/2/3(各2)
- 情報処理工学特別研究1/2/3(各3)
- 情報処理工学特別実験1/2/3(各2)
- 人間情報工学特別研究1/2/3(各3)
- 人間情報工学特別実験1/2/3(各2)
- 応用情報工学プロジェクト(2)

修了生の研究テーマの例

- 人体通信における歩行時過渡信号解析に関する研究
- Black-Scholes偏微分方程式の高速並列陰解法
- 表情表出に伴う顔の三次元形状の時系列データの分割と表情認識
- Research on Self-supervised Learning for Image/Video Compression
- 機械学習によるメタヒューリスティクスのオンライン最適化
- トピック分析を応用したブログ情報の解析とサービスへの応用に関する研究
- 深層学習技術を活用した植物病害自動診断
- AR環境におけるビジュアルプログラミングの研究
- 機械学習を用いたフォトンカウンティングCTにおける検出波形の歪み補正
- 自由分散ロボット群に対するアルゴリズムに関する研究
- IoT環境における安全性を高めるセキュリティ制御の研究
- AR環境におけるビジュアルプログラミングの研究

専攻「創生科学系」システム理工学

詳細はこちら



募集人員

修士課程75名／
博士後期課程4名
(創生科学・経営システム系の合計)

キャンパス

小金井

主な進路

パナソニック、三菱電機、
ニコン、富士ゼロックス、
横河電機、富士通、日立
製作所、大日本印刷、
KDDIなど



昼間開講

修了要件・履修案内・
時間割・シラバス



融合領域のシステムが未来を拓く

システム理工学専攻創生科学系には、物理科学、知能科学、人文社会科学の3つの科学系の最先端の領域、および各領域を体系的に関連付ける新たな枠組がある。創生科学系は理学、工学、人文社会科学の分野に貢献できる人材の育成を目的とする。学生は制御工学・通信工学・電気工学などの工学に基づいて科学技術原理を体系的に習得する。更に、数学・物理学・天文学等の理学的な視点、言語学・経済学・社会学・心理学等の人文社会学的な視点を有する。幅広い視点に基づいた問題解決型の技術者・研究者を育成する。物理科学系では宇宙や物質の普遍性を追求する電波天文学、重力波物理学、銀河天文学、原子物質物理学などを学ぶ。知能科学系では、理学と工学の研究成果を豊かな人間社会への還元を目的とする科学技術である人間工学、ソフトウェア工学、シミュレーション工学、ロボット工学、人工知能、情報工学、データ工学、ネットワーク工学などを習得する。更に、人間科学系では、人間を中心とした文系として科学する臨床心理学、応用経済学、文化人類学、言語学、英語教育法などを学ぶ。

アドミッション・ポリシー

(学生受け入れ方針)

カリキュラム・ポリシー

(教育課程の編成・実施方針)

ディプロマ・ポリシー

(学位授与の方針)

システム理工学専攻の修士課程においては、理学、工学、人文社会科学など幅広い分野の学識の習得を通じて、複雑な現象をシステムとして捉える能力を持つ技術者や研究者および社会などの現実の複雑な系を対象に、計算機の力を用いて現実的な解を求めることができる技術者や研究者の育成をめざしている。そのため、数学、物理学、電気工学、情報学など、広範な専門基礎学力の素養を備え、かつそれらを応用するシステム理工学分野、具体的には、物理科学、知能科学、人間科学などの分野で、未知の課題を積極的に解決できる専門的応用能力を有し、社会の発展および自然環境との共生を重視する高度な専門技術者・研究者をめざす学生を広く求める。

システム理工学専攻創生科学系では、現象をシステムとして捉える能力を持つ技術者や研究者および社会などの現実の複雑な系を対象に、計算機の力を用いて現実的な解を求めることができる技術者や研究者の育成をめざしている。そのためには教育課程の編成には、物理科学、知能科学、人間科学に関して効果的に学べるようにカリキュラムを有機的に配置し、実施している。

システム理工学専攻創生科学系では、修士課程では、物理科学、知能科学、人間科学などの幅広い分野の学識の習得を通じて、複雑な現象をシステムとして捉え、現実的な解を求める能力を持つ高度な職業人としての教養と専門応用能力を身に付けたと判断できる者に対し、学位を授与する。また、博士後期課程では、修士課程の能力に加え、システム理工学的なアプローチで高度な研究・開発を遂行できる能力および独創性を持ち、研究者として自立して研究活動を行う素養を持つと判断できる者に対し、学位を授与する。

[研究室紹介]

人間を凌駕するほどの賢い人工知能をめざして

機械学習・深層学習の理論および実社会への応用

機械学習は、人工知能の一つの分野で、さまざまなデータから、何らかの予測や認識をコンピュータに学習させる学問です。特に、深層学習は、大規模なニューラルネットワークを膨大なデータから最適化するもので、人工知能の目覚ましい発展を引き起した手法です。深層学習の手法を研究し、言語や画像を対象とし、より自然な対話文生成、画像認識・生成、異常検知などに取り組んでいます。より興味深い研究としては、ネットワークの内部でどのように情報がエンコードされるかが重要で、より優れたエンコードを研究することで、例えば、教師データが少くとも、優れた予測や推論が可能になるなど、さまざまな利点が得られることが明らかになっています。



柴田 千尋 准教授

[学生・修了生の声]

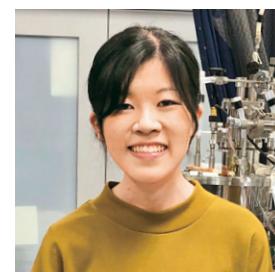
研究の最前線で学べる魅力

専門の枠を越えた知見も得られます

現在の学び

研究テーマ 超流動ヘリウム中原子周囲に形成される
バブルのダイナミクス

レーザーの光を用いて、目に見えない原子の物理を研究しています。所属する研究室は理化学研究所と共同研究を行っていて、最先端の研究現場で実際に手を動かしながら学べることが魅力です。学会や討論会などに参加する機会が多く、多くの人の意見や異なる視点を得られる発表の場があることに、研究に携わる者としてやりがいを感じています。



竹内 由衣花

修士課程 2020年度修了

専攻の魅力

自然科学に加え、知能系や人文系といった幅広い研究室から興味のある講義を受講することができます。異なる分野の話に刺激を受けることも多く、専門の枠を越えてさまざまな知見が得られます。また、伝える相手や状況によって、自分の研究内容を的確に説明する力もつきました。後輩にも教える楽しさを感じています。

[専任教員一覧]

[2022年度] ※年度により授業を持たない場合があります。

専任教員	専攻	研究テーマ	主な担当科目
伊藤 隆一 教授	パーソナリティ、産業心理学、臨床心理学	投影法やビジネスゲームを用いたパーソナリティ、職業適性の研究など	産業人間科学特論1/2
金沢 誠 教授	数理論理学、形式言語理論	形式言語のアルゴリズム的学習の理論、非古典論理、数理言語学、定理証明支援系による証明の形式化	応用論理・数理言語学特論1/2、システム理工学特別研究1/2、システム理工学特別実験1/2
吳 晓林 教授	応用経済学、産業分析、デジタル経済（電子商取引ECなど）	産業発展の経路依存と経路変更、経済のサービス化・情報化に伴う生産・流通・販売の変化	産業経済分析特論、eビジネス特論
小林 一行 教授	センシング工学、センサ信号処理	屋外環境における環境認識、自律走行	知能化センシングシステム特論、センサ信号処理特論、システム理工学特別研究1/2、システム理工学特別実験1/2
小宮山 裕 教授	銀河天文学、観測天文学、天文観測装置開発	近傍宇宙で探る銀河形成進化・観測的宇宙論、最先端技術を用いた天文観測装置の開発など	システム理工学特別研究1/2、システム理工学特別実験1/2
佐藤 修一 教授	重力波物理学、相対論実験	レーザー干渉計、精密測距、重力波物理学、量子光学	時空間物理学特論1/2、システム理工学特別研究1/2、システム理工学特別実験1/2
塩谷 勇 教授	グラフ文法、時系列処理、人工知能	マルチエージェントの協調動作について	言語科学特論2、エージェント科学特論、システム理工学特別研究1/2、システム理工学特別実験1/2
鈴木 郁 教授	人間工学	センサーや機械学習を用いた見守り機器、生理指標による負担評価、高齢者向けの音声加工など	人間工学特論、生体情報信号処理特論、システム理工学特別研究1/2、システム理工学特別実験1/2
梨本 邦直 教授	言語学、アイルランド語	音響音声学、認知意味論、アイルランド語文学、アイルランド語歴史言語学	言語科学特論1
福澤 レベッカ 教授	文化人類学、教育社会学	教育と社会階層	フィールドワーク特論、科学技術英語表現
松尾 由賀利 教授	レーザー分光、原子分子物理学、量子エレクトロニクス	精密レーザー分光を用いた原子分子物理と原子核への応用	量子エレクトロニクス特論、原子分子物理特論、システム理工学特別研究1/2、システム理工学特別実験1/2
柴田 千尋 准教授	人工知能、深層学習、統計的機械学習	深層学習の基礎と応用、自然言語処理、画像認識・生成、統計的機械学習、深層表現学習	機械学習特論1/2、システム理工学特別研究1/2、システム理工学特別実験1/2
田中 幹人 准教授	観測的銀河考古学、天文文化論	すばる望遠鏡を用いた近傍銀河の構造と形成進化の解明、天文学を軸にした福岡県八女市星野村活性化プロジェクト	銀河考古学特論、天文文化特論、システム理工学特別研究1/2、システム理工学特別実験1/2
柳川 浩三 准教授	応用言語学	第2言語リスニング分析、内容言語統合型指導法、タスク中心指導法と学習者心理	言語能力評価特論

[設置科目]

[2022年度] ※開講科目は年度により異なります。() = 単位数

修士課程

- 計算工学特論1(2)
- 計算工学特論2(2)
- 言語科学特論1(2)
- 言語科学特論2(2)
- エージェント科学特論(2)
- 機械学習特論1(2)
- 機械学習特論2(2)
- 応用論理・数理言語学特論1(2)
- 応用論理・数理言語学特論2(2)
- データサイエンス特論(2)
- 最適制御特論(2)
- システム・モデリング特論(2)
- 知能化センシングシステム特論(2)
- センサ信号処理特論(2)
- 電波計測光学特論1(2)
- 電波計測光学特論2(2)
- 時空間物理学特論1(2)
- 時空間物理学特論2(2)
- 銀河考古学特論(2)
- 天文文化特論(2)
- リスクマネジメント特論(2)
- eビジネス特論(2)
- 量子エレクトロニクス特論(2)
- 原子分子物理特論(2)
- 最適化特論1(2)
- 最適化特論2(2)
- 人間工学特論(2)
- 生体情報信号処理特論(2)
- 産業人間科学特論1(2)
- 産業人間科学特論2(2)
- 産業経済分析特論(2)
- フィールドワーク特論(2)
- 言語能力評価特論(2)
- 科学技術英語表現(2)
- 知識獲得特論(2)
- インテリジェントセンシング(2)

博士後期課程

- 計測システム特別研究1/2/3(各3)
- 計測システム特別実験1/2/3(各2)
- 数理科学特別研究1/2/3(各3)
- 数理科学特別実験1/2/3(各2)
- 制御システム特別研究1/2/3(各3)
- 制御システム特別実験1/2/3(各2)
- 計算工学特別研究1/2/3(各3)
- 計算工学特別実験1/2/3(各2)
- 物質科学特別研究1/2/3(各3)
- 物質科学特別実験1/2/3(各2)
- 水工学特別研究1/2/3(各3)
- 水工学特別実験1/2/3(各2)
- 人間システム特別研究1/2/3(各3)
- 人間システム特別実験1/2/3(各2)
- 創生科学博士プロジェクト(2)

修了生の研究テーマの例

- Deep Learningを用いた横断歩道走行のための自動車トラッキングに関する研究
- SCT筆跡から受ける日本人の印象の構造
- 宇宙重力波望遠鏡LISAのためのフォトレシーバの開発
高・低周波数帯を分離したトランシスインピーダンスアンプ
- 太陽活動領域の特徴量を用いたデリンジャー現象の多変量解析
- 大学生の進路の選択における社会的影響及び認知的影響
- 気泡管を用いた体動検知センサー
- 複雑ネットワークにおける集団形成と揺らぎ
- 超高速分光法による超流動ヘリウム中Rbの原子バブル緩和時間測定のためのD1発光の観測
- Energy Consumption and Computation Models of Storage Systems
- ストリームデータにおける重要語抽出に関する研究

専攻「経営システム系」 システム理工学

詳細はこちら



募集人員

修士課程75名／
博士後期課程4名
(創生科学・経営システム系の合計)

キャンパス

小金井

主な進路

アズビル、横河電機、三
菱自動車工業、パナソ
ニック、日立製作所、ニコ
ン、ソフトバンクグループ
通信など



昼間開講

修了要件・履修案内・
時間割・シラバス



ヒト・モノ・カネをつなぐ「システム」で、 無限の可能性を拓く

システム理工学専攻経営システム系では、社会のあらゆる組織の経営に必要とされる能力である、「現状を客観的に理解し、常に新しい事業を計画立案し、実施する」ことができる人材の養成を目的としています。そのための基礎になる数理モデルの構成と適用と評価を、理工学的アプローチで研究します。

物事のメタなることを捉えるために、対象をシステム的に分析・理解し、さまざまな要素を結合し、今までになかったシステムの構築方法を習得した研究者と、市民としての教養を身に付けた独創性に優れる技術者を養成します。

[アドミッション・ポリシー]

(学生受け入れ方針)

[カリキュラム・ポリシー]

(教育課程の編成・実施方針)

[ディプロマ・ポリシー]

(学位授与の方針)

複雑なシステムを分析の対象とするため、理学、工学、社会科学にわたる幅広い基礎的知識を有する、あるいはそれらに興味を持つ学生の入学が望ましい。急速に変化、進歩する技術とその限界を理解し、社会や企業の要請に応えられるプロジェクトを創り出し、その運営のシステムを構築し、最適なマネジメントを編み出す能力も求められる。また、広範な人材の確保という観点からも、社会人の特別入学制度を設けている。

複雑なシステムを数理的、工学的に分析するため、修士課程では数学などの基礎から最先端の応用に至る広範な内容を取り扱う講義項目を設けている。博士後期課程については、人間システム、応用統計工学、応用数理工学、応用経済分析の分野について高度な研究能力を養うことを目的にカリキュラムを構成している。

企業、社会などの複雑なシステムを対象に適切なマネジメントのあり方を探求する。そのためには、システムの数理的構造を理解した上でモデルを構築し、法や制度、財務などの諸制約のもとで最適な解を導くことが必要となる。修士課程では、実際のシステムに関する現実的な解を求めていくセンスを有する管理技術者としての能力を得ていること、博士後期課程では、専門領域において独創的な工夫と創造で解を求めることが自立的な研究者となることを、学位授与の基本方針とする。

[研究室紹介]

離散最適化における数理構造の解析とアルゴリズム設計

数理的な理論を現実の諸問題に適用する

離散最適化は、カーナビのルート探索や学生・研究室間のマッチングなど、日常の中で自然と現れる問題である。本研究室では、見かけ上は異なる離散最適化問題が共通して背景にもつ数理的な構造を見出すこと、および、その構造を用いて汎用性が高く性質の良いアルゴリズムを設計することを研究テーマとしている。具体的には、グラフ構造におけるマッチング、マトリオイド、ボリマトリオイド、離散凸解析に関する理論を専門とする。さらに、これらの理論を、巡回セールスマン問題など応用上重要な問題や、ゲーム理論などの近接分野に適用する研究も行っている。



高澤 兼二郎 準教授

[学生・修了生の声]

研究や国内外での学会発表を通じて
多くの新たな発見が得られます

私の研究

研究テーマ

フォワードパフォーマンス過程を用いた最適投資戦略

確率解析を用いた最適投資戦略に関する研究を行っています。最適投資戦略における最適性の定義は一般に期待効用最大化理論を用いて議論されます。しかし、この定義に対するアプローチにはいくつかの問題点があるとされています。そこで新たな最適性の定義のもとでより実務に適したモデルを考え、最終的にそのモデルの特徴や問題点を解明していきます。



佐藤 大地

修士課程 2019年度修了

大学院の魅力

大学院では研究がメインになるため、一つの問題を深く掘り下げて考えることができます。最新の動向を追ってさまざまな論文を読み、どのように自分の研究に活かしていくか試行錯誤を繰り返す中で多くの学びを得ました。また国内外での学会発表を経験することもできます。他の研究者との意見交換を通じて新たな発見もでき、研究のモチベーションにもつながります。

[専任教員一覧]

[2022年度] ※年度により授業を持たない場合があります。

専任教員	専攻	研究テーマ	主な担当科目
磯島 伸 教授	非線形可積分系	超離散化法を用いたセルオートマトンの研究	関数解析特論1/2、システム理工学特別研究1/2、システム理工学特別実験1/2
木村 光宏 教授	信頼性工学、品質管理工学	依存故障解析に関する研究、信頼性解析に対する機械学習アプローチ	信頼性工学特論、システム理工学特別研究1/2、システム理工学特別実験1/2
五島 洋行 教授	オペレーションズ・リサーチ、経営数理工学	離散事象システムの最適制御とそのスケジューリング問題、時空間データの効率的な格納と計算	数値計算法特論、システム理工学特別研究1/2、システム理工学特別実験1/2
寺杣 友秀 教授	数論的代数幾何、ホッジ理論	代数幾何の不変量として現れる種々のコホモジーの研究とその数論的応用	符号理論特論1/2、システム理工学特別研究1/2、システム理工学特別実験1/2
林 俊介 教授	連続最適化、均衡問題	連続最適化アルゴリズムの設計、均衡問題に対する最適化アプローチ	最適化ファイナンス特論、システム理工学特別研究1/2、システム理工学特別実験1/2
宮越 龍義 教授	応用金融分析	金融システムのグローバル化と世界的金融危機	公共経済学特論、応用金融分析特論、システム理工学特別研究1/2、システム理工学特別実験1/2
劉 慶豊 教授	計量経済学 経済統計、統計科学	高次元データ解析、ビッグデータ、機械学習、モデル選択	計量経済学特論、システム理工学特別研究1/2、システム理工学特別実験1/2
高澤 兼二郎 准教授	数理計画、離散最適化	離散最適化アルゴリズムの設計、離散システムにおける数理構造の解析	離散最適化特論1/2、システム理工学特別研究1/2、システム理工学特別実験1/2
田村 信幸 准教授	確率システム解析、オペレーションズ・リサーチ	マルコフ決定過程を用いた最適保全政策の解析、劣化モデルの統計的推測	オペレーションズ・リサーチ特論1、確率システム解析特論、システム理工学特別研究1/2、システム理工学特別実験1/2
千葉 英史 准教授	オペレーションズ・リサーチ	Just-In-Timeスケジューリング、製造ラインの効率化、施設配置問題に関する研究	オペレーションズ・リサーチ特論2、システム理工学特別研究1/2、システム理工学特別実験1/2
安田 和弘 准教授	確率解析、数理ファイナンス	確率解析を用いた数理ファイナンスやその周辺に関する研究	確率過程特論1/2、システム理工学特別研究1/2、システム理工学特別実験1/2
作村 建紀 専任講師	社会システム工学・安全システム、統計科学	加速寿命試験データと蓄積疲労の数理モデル、双方向性を持つ適応型CBTによる能力評価とその試験システムの実装	生産情報特論

[設置科目]

[2022年度] ※開講科目は年度により異なります。() = 単位数

修士課程

- 関数解析特論1(2)
- 関数解析特論2(2)
- 確率過程特論1(2)
- 確率過程特論2(2)
- 数値計算法特論(2)
- 最適化ファイナンス特論(2)
- デリバティブ理論特論(2)
- オペレーションズ・リサーチ特論1(2)
- オペレーションズ・リサーチ特論2(2)
- 計量経済学特論(2)
- 確率システム解析特論(2)
- 生産情報特論(2)
- 信頼性工学特論(2)
- 応用経済分析特論(2)
- 符号理論特論1(2)
- 符号理論特論2(2)
- 公共経済学特論(2)
- 応用金融分析特論(2)

- 離散最適化特論1(2)
- 離散最適化特論2(2)
- 先端経営科学特論(2)
- システム理工学特別研究1(3)
- システム理工学特別研究2(3)
- システム理工学特別実験1(2)
- システム理工学特別実験2(2)

博士後期課程

- 数理科学特別研究1/2/3(各3)
- 数理科学特別実験1/2/3(各2)
- 応用統計工学特別研究1/2/3(各3)
- 応用統計工学特別実験1/2/3(各2)
- 応用数理工学特別研究1/2/3(各3)
- 応用数理工学特別実験1/2/3(各2)
- 応用経済分析特別研究1/2/3(各3)
- 応用経済分析特別実験1/2/3(各2)
- 経営システム工学コアスタディ(2)

修了生の研究テーマの例

- NNによるSAPシステムデータの不正検知
- 豊み込みを考慮した動的多層化ニューラルネットワーク
- 3ファンド-CPPI戦略に関する数値的研究
- 時間経過に伴い設備が移動する配置集合被覆モデル
- ディープニューラルネットワークを用いた株価モデルパラメータ推定に関する考察
- 硬性バネ方程式の超離散不定解に関する考察
- セルオートマトンを用いた二車線の交通流シミュレーションによる車線解析
- 種々の多変数ホークス過程のExact Simulation
- Error analysis of stochastic optimal control problem with deep fictitious play
- Forecasting GDP based on the Mixed Frequency Data Model
- Portfolio Insurance Strategies under Volatile Market

応用化学専攻

詳細はこちる



募集人員

修士課程30名／
博士後期課程3名

キャンパス

小金井

主な進路

TDK、YKK、出光興産、エスティー、オルガノ、京セラ、日産自動車、スズキ、大日本印刷、三井ホーム、三菱マテリアル、明電舎、ヤマザキナビスコ、産業技術総合研究所など



昼間開講

修了要件・履修案内
時間割・シラバス



最先端化学を学び、持続的社会構築に貢献できる研究開発者・技術者を育成する

現代における重要課題である環境問題の解決や新素材開発において、応用化学の果たす役割は大変重要性を増しています。地球環境における物質循環や生体への影響を俯瞰的に捉え、環境に関わる諸問題に対する化学的アプローチを習得し、持続可能な社会の構築に貢献できる人材が求められています。

本専攻は、物質の持つさまざまな機能の探求と新規機能性物質の創製をめざす「物性化学分野」低環境負荷型機能性材料の開発をめざす「材料化学分野」環境に調和する化学プロセスの開発をめざす「化学工学分野」人間および地球環境の保全や地球資源の有効利用の観点から化学的解決をめざす「環境化学分野」の4研究分野を設置し、化学の諸問題について自ら課題を発見し解決する意欲のある人、化学に関する深い知識および応用技術を身に付け、持続的社会の構築に貢献することができる能力の習得をめざす人を求めています。修了後は、製造業を中心として幅広い産業界および研究機関等において化学の専門的な能力を生かして持続的社会の構築に貢献できる研究開発者技術者としての活躍が期待されます。

[研究室紹介]

環境低負荷なプロセスを利用した無機微粒子材料の創製

さまざまなサイズの前駆体をボトムアップして 環境・エネルギー材料を創る

無機合成化学から環境サステイナビリティに貢献するために、環境低負荷な化学反応プロセスを用いて、無機微粒子材料を作製しています。前駆体となるビルディングブロック（構造単位）を化学的にボトムアップするアプローチを、キーワードとして研究を進めています。合成プロセスの本質の解明をしながら、さまざまな大きさの構造単位、ミクロンサイズの「微粒子」、ナノサイズの「量子ドット」、さらに小さな「結晶の基本構造単位」を、3次元的に組み上げます。酸化物、硫化物、水酸化物、炭酸塩などのビルディングブロックを、高度に、また効率的に配列して、環境・エネルギー機能を有する材料の作製をめざしています。



石垣 隆正 教授

[学生・修了生の声]

問題を一面的に捉えず解決手段を増やす。 プレゼン力も大きく向上

専攻で学んだこと

研究テーマ

ゼオライトを用いた福島汚染土壤中の放射性セシウムの回収と固定化

大学院に進学して、専門的な知識や研究に対する考え方さらに深く身につきました。さまざまな装置を使い、自分が得たい情報を得るにはどうしたらいいのか、教授と相談したり論文を読んだりしながら研究を進めています。特に学会参加を通して新たな観点を得られました。問題を一面的に見るのではなく、その周辺知識も含めて問題解決の手段を増やすことを学びました。



森山 里咲

修士課程 2021年度修了

変化したこと

学部時代と比べてプレゼンテーション能力が大きく向上しました。ゼミの発表や後輩をサポートする際に、グラフやスライドの作成を通してわかりやすく伝える工夫を行うとともに、言語化する力が養われたと思います。研究を後輩に伝える立場にもなったので、さらに責任感を持って取り組んでいます。

[専任教員一覧]

[2022年度] ※年度により授業を持たない場合があります。

専任教員	専攻	研究テーマ	主な担当科目
明石 孝也 教授	無機材料化学、固体電気化学	高温用構造材料の耐久性向上、レアメタルの分離・回収技術の開発、高温用強誘電体材料の開発	無機反応化学特論、応用化学特別研究1/2、応用化学特別実験1/2
石垣 隆正 教授	無機合成化学	プラズマ、超音波などの化学プロセスを利用したセラミックス・金属ナノ粒子の環境低負荷合成、ナノ粒子を分散した光・電子・磁性機能材料の作製	無機合成化学特論、高機能セラミックス特論、応用化学特別研究1/2、応用化学特別実験1/2
緒方 啓典 教授	物性化学、機械性材料化学	低環境負荷型高機能性ナノマテリアルの開発とデバイス応用、各種分光学的手法を用いた機能性物質の物性解明	固体分光学特論、先端材料物性特論、応用化学特別研究1/2、応用化学特別実験1/2
河内 敦 教授	有機典型元素化学、有機金属化学	主に1、2、13および14族を中心とした新規有機典型元素化合物の合成、新規反応の開拓、機能発現および有機合成化学の利用	有機化学反応特論、有機合成化学特論、応用化学特別研究1/2、応用化学特別実験1/2
杉山 賢次 教授	高分子合成化学、有機合成化学	環境応答性インテリジェント・マテリアルの開発、リビング重合法による新規官能基化ポリマーの精密合成	高分子合成化学特論、高分子設計特論、応用化学特別研究1/2、応用化学特別実験1/2
高井 和之 教授	物性物理化学	π 共役物質と異種元素の間における界面相互作用を用いた環境・エネルギー材料の開拓、軽元素を用いた空間空隙制御による次世代型の磁性体・触媒の創製	分子シミュレーション特論、分子分光学特論、応用化学特別研究1/2、応用化学特別実験1/2
森 隆昌 教授	化学工学、粉体工学	新規スラリー評価技術の開発及び各種湿式成形プロセスの最適化、粒子状物質の新規漏れ性評価技術及び装置の開発、直流電場を利用した液中粒子の凝集・分離技術及び装置の開発	化学装置物性特論、分離工学特論、応用化学特別研究1/2、応用化学特別実験1/2
山下 明泰 教授	生体化学工学	物質移動論に基づく各種人工臓器の設計、製作、評価、膜透過理論に基づく新規ドラッグデリバリーシステムの構築	物質移動特論、反応工学特論、応用化学特別研究1/2、応用化学特別実験1/2
渡邊 雄二郎 教授	環境化学、環境材料化学	環境水の分析と資源循環型機能性材料による水質浄化、無機複合体を用いた放射性物質の回収と長期安定化システムの開発、ゼオライト等無機多孔体を用いた環境保全型農業システムの開発	環境科学特論、水環境工学特論、応用化学特別研究1/2、応用化学特別実験1/2
小鍋 哲 准教授	物性理論	ナノカーボン材料や原子層材料の電子・光物性の解明、新規なエネルギー変換機構の開拓	フロンティア化学特論A/B

[設置科目]

[2022年度] ※開講科目は年度により異なります。() = 単位数

修士課程

- 分子シミュレーション特論(2)
- 分子分光学特論(2)
- 固体分光学特論(2)
- 先端材料物性特論(2)
- 高分子物理化学特論(2)
- 無機合成化学特論(2)
- 高機能セラミックス特論(2)
- 有機化学反応特論(2)
- 有機合成化学特論(2)
- 高エネルギー反応場特論(2)
- 無機反応化学特論(2)
- 高分子合成化学特論(2)

- 高分子設計特論(2)
- 化学装置物性特論(2)
- 反応工学特論(2)
- 物質移動特論(2)
- 分離工学特論(2)
- 微粒子材料工学特論(2)
- 結晶化学工学特論(2)
- 水環境工学特論(2)
- 環境計測特論(2)
- 環境衛生学特論(2)
- 環境科学特論(2)
- 起業特論(2)

- Conference presentation in Applied Chemistry (国際会議化学英語表現法)(2)
- フロンティア化学特論A(2)
- フロンティア化学特論B(2)
- コンピュータ利用化学特論(2)
- 科学プレゼンテーション演習(2)
- サステイナビリティ研究入門A(2)
- サステイナビリティ研究入門B(2)
- 応用化学特別研究1/2(各3)
- 応用化学特別実験1/2(各2)

博士後期課程

- 応用化学発展ゼミナー(2)
- 先端応用化学特別研究1/2/3(各3)
- 先端応用化学特別実験1/2/3(各2)

修了生の研究テーマの例

- 高温安定性を有するNb添加TiO₂光触媒のメカノケミカル合成
- 木質系バイオマスを用いた電荷移動塩の開発と物性研究
- リチウムイオン二次電池正極スラリー中の粒子集合状態がスラリー特性および電極微構造に及ぼす影響
- 機能性層状複水酸化物を利用した水浄化技術の開発
- 酸化グラフェン中の官能基量とニトロ基還元反応における触媒活性との相関
- PMMA-b-PF9MAフィルム表面の構造解析と液滴除去性
- 吸着剤包埋ゲルと膜型濾過器を用いたポンプレスな血液浄化システムの開発
- テープキャスト法によるオキシアパタイト型ランタンシリケートを用いたアノード支持型固体酸化物型燃料電池の製造と発電特性評価
- ホウ素置換シリルリチウムの合成
- Synthesis of ZnO films by chemical bath deposition using hexagonal plate-like particle seeds

生命機能学専攻

詳細はこちら



募集人員

修士課程40名／
博士後期課程4名

キャンパス

小金井

主な進路

化学・食品・製薬・農葉
メーカー、造園会社、国家
公務員・研究員・技術員・
科学ジャーナリストなど



昼間開講

修了要件・履修案内・
時間割・シラバス



理学と工学を融合した 最先端の生命科学を展開

ヒトを含めたさまざまな生物の全ゲノム構造の解明が進み、21世紀の生命科学はまさに新しい時代を迎えてます。蓄積された膨大な知見の上に立った新しい発見が続き、医学・薬学・農学・工学分野との連携は大きく発展しつつあります。こうした時代においては、自ら課題を設定しそれを追求できる能力をもつ自立した人材が、以前にも増して必要とされています。本専攻では、微生物・植物・動物の個々の分子や細胞のふるまいから高次の生命現象を理解する生命科学、「生命機能学」を学修するカリキュラムが設定されています。それらを基盤に、ゲノム機能・タンパク質機能・細胞機能・生命システム・基盤植物医科・実践植物医科という6つの分野を中心とする教育・研究を行います。これによって、高い専門性はもとより、広い視野と教養、学際的な知識、高度な技術を身に付けた研究者・職業人を養成し、最先端の生命科学研究を推進すること、大きな社会貢献を果たすことが目標です。

アドミッション・ポリシー

(学生受け入れ方針)

カリキュラム・ポリシー

(教育課程の編成・実施方針)

ディプロマ・ポリシー

(学位授与の方針)

修士課程では以下に示す学生を受け入れます。

1. 生命機能学研究に必要な基礎学力をもつもの
2. 当該専門分野における知識と技術を学ぶために、一定以上の英語および日本語の運用能力を有するもの
3. 高い志と粘り強さで高度な専門技術者や研究者をめざす意欲あるもの

博士後期課程では以下に示す学生を受け入れます。

1. 生命科学・植物医科学全般の基礎学力を有するもの
2. 生命機能学の特定の専門領域における研究実績を有するもの
3. 当該分野の研究に必要な英語および日本語の運用能力を有するもの
4. 高い志と粘り強さで高度な専門技術者や研究者をめざす意欲あるもの

基礎学力を習得することを目標とした「基幹科目群」、専門知識と技術を身につけるための「発展科目群」、そして所属研究室における研究活動や学会活動を通じて技術者・研究者として積極的に社会参加する能力を身につけるための「特別実験」と「特別研究」によってディプロマ・ポリシーを達成します。博士後期課程では、複数の教員が提供する課題への対応や研究課題に対する質疑応答を行う「発展ゼミナール」、および学位論文の執筆とそれにつながる関係学会での研究成果の対外発表を行う「発展特別実験」「発展特別研究」によってディプロマ・ポリシーを達成します。

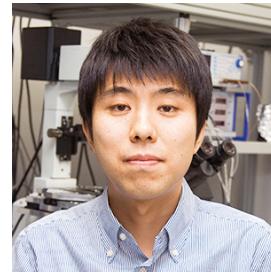
生命機能学の専門知識の習得専攻分野に必要とされる専門知識と技術を身につけていること、学位論文執筆の過程を通じて研究内容を自身の言葉で論理的に表現できる能力を身につけていること、所属研究室における研究活動や学会活動を通じて技術者・研究者として積極的に社会参加ができるここと、これらを満たす者に修士（生命科学）を授与します。博士後期課程では上記に加え、高度な研究企画力を有すること、自立して研究・開発を実践できること、高度な技術者・研究者として国際社会においても活動できること、これらを満たす者に博士（生命科学）を授与します。

[研究室紹介]

生物分子機械の運動計測

生物がもつ高効率エネルギー変換機構の 解明に取り組む

細胞のあらゆる活動は、蛋白質・核酸などの生体分子が集合してきた分子機械によって支えられています。本研究室では、細胞運動を駆動する生体分子機械の一つである細菌ペン毛モーターの研究を進めています。ペン毛モーターは、入力であるイオン流を回転運動へと高効率に変換し、1秒間に数百回転もの高速駆動をしながら、回転方向をスイッチさせることができます。研究室で開発した顕微鏡を駆使して、分子1個の動きを観察して操作し、遺伝子工学技術を利用したモーター機能改変による特性変化を評価しています。生命科学とナノテクノロジーを融合した境界領域で研究を進め、生物分子機械の化学-力学エネルギー変換機構の解明をめざします。



曾和 義幸 教授

[学生・修了生の声]

未知の機能を解析し、作物被害の減少に寄与したい

私の研究

研究テーマ ファイトプラズマの膜タンパク質 DegQ に関する研究

ファイトプラズマとは植物に感染して病気を引き起こす細菌で、毎年農場に甚大な被害をもたらしています。私が取り扱っている「DegQ」と呼ばれるタンパク質は、ファイトプラズマの細胞膜上に存在する機能未知のタンパク質です。このDegQが植物にどのような影響を与えていているのか、植物体内で作製して機能を解析しています。

変化したこと

学部生の時と比べて研究に費やす時間が確保しやすく、研究活動に一層専念できるようになりました。大学院生が担当するTA業務による収入もあるため、外でアルバイトをする必要もありません。DegQ機能の解析に向けて遺伝子組換え植物を作製するのはかなり根気のいる作業ですが、しっかり時間をかけて行うことができます。



小田 秀将

修士課程 2021年度修了

[専任教員一覧]

[2022年度] ※年度により授業を持たない場合があります。

専任教員	専攻	研究テーマ	主な担当科目
金子 智行 教授	生物物理学、細胞生物学	細胞間コミュニケーションと集団化効果および人工脂質膜小胞を用いた人工細胞の構成的構築に関する研究	細胞生物学特論、生命機能学演習1、生命機能学特別研究1/2、生命機能学特別実験1/2
川岸 郁朗 教授	分子生物学、生物物理学	細菌の環境応答センサーが刺激を感じるメカニズム、およびセンサーを含む超分子システムによる情報伝達のメカニズムを分子レベルで解明する	生命システム工学特論、生命機能学演習2、生命機能学特別研究1/2、生命機能学特別実験1/2
佐藤 勉 教授	分子生物学、ゲノム生物学	細菌の細胞分化におけるDNA再編成のメカニズムおよび細胞分化の遺伝子ネットワークの全体像を解明する	ゲノム科学特論、生命機能学演習1、生命機能学特別研究1/2、生命機能学特別実験1/2
常重 アントニオ 教授	生物物理化学、蛋白質科学、生体分子分光学	蛋白質間、蛋白質-低分子相互作用の熱力学。高分子クラウディング環境における生体高分子の構造-機能相関。蛋白質における水和、溶媒の影響	蛋白質工学特論、生命機能学演習2、生命機能学特別研究1/2、生命機能学特別実験1/2
廣野 雅文 教授	細胞生物学、分子生物学	中心子と織毛がもつ普遍的構造の構築機構、中心子の細胞分裂における機能発現機構、織毛の運動発生機構の研究	生命システム科学特論、生命機能学演習1、生命機能学特別研究1/2、生命機能学特別実験1/2
水澤 直樹 教授	光合成生物学	酸素発生型光合成装置の構造と機能、光合成装置の安定化・アセンブリーのメカニズムの分子レベルでの解明	細胞工学特論、生命機能学演習2、生命機能学特別研究1/2、生命機能学特別実験1/2
山本 兼由 教授	分子生物学、ゲノム生物学	環境変化に伴った多様な細菌適応能力について、ゲノム機能の発現ネットワークを中心にその仕組みを解明する	ゲノム工学特論、生命機能学演習2、生命機能学特別研究1/2、生命機能学特別実験1/2
曾和 義幸 教授	生物物理学	細菌運動に関わる生体分子モーターの構築機構、力発生機構、高効率エネルギー変換機構の解明	蛋白質科学特論、生命機能学演習1、生命機能学特別研究1/2、生命機能学特別実験1/2
西川 正俊 准教授	生物物理学	胚の非対称性を生み出す機構、細胞骨格の作用による細胞極性形成機構の研究	細胞操作工学特論、生命機能学特別研究1/2、生命機能学特別実験1/2
石川 成寿 教授	植物臨床医科学	植物病の診断技術を開発するとともに、有用微生物などの収集、評価を行い、環境に配慮した独創的な予防・治療技術開発に取り組む	植物総合診療科学特論、植物医科学演習1、植物医科学特別研究1/2、植物医科学特別実験1/2、応用生物生態特論
大井田 寛 教授	植物医科学、応用昆虫学	植物を加害する昆虫、ダニ類の診断技術開発や生態解明、天敵の能力評価、環境保全型害虫管理技術の開発などを通じ、現場への寄与をめざす	応用生物生態学特論、植物医科学演習1、植物医科学特別研究1/2、植物医科学特別実験1/2
大島 研郎 教授	植物ゲノム医科学	ゲノム解析やトランスクリプトーム解析などの最新技術を活用して病原体の感染メカニズムを解き明かし、植物を病気から守るために新たな分子基盤を構築する	基礎植物医科学特論、植物免疫分子システム学特論、植物医科学演習1、植物医科学特別研究1/2、植物医科学特別実験1/2
佐野 俊夫 教授	植物栄養生理学	植物無機栄養素の吸収と代謝の分子メカニズムを研究し、植物生理障害の予防と診断技術、および食品機能面での有用作物を開発する	基礎植物医科学特論、生物アシミレーション科学特論、植物医科学演習2、植物医科学特別研究1/2、植物医科学特別実験1/2
津田 新哉 教授	植物医科学、植物ウイルス学	植物病原体の伝染環で起こる生命現象を解明し、その反応を制御する環境に優しい防除技術を開発することで持続可能な農作物生産を支援する	応用植物医科学特論、植物医科学演習2、植物医科学特別研究1/2、植物医科学特別実験1/2
濱本 宏 教授	植物医科学、植物病理学	植物病の診断・治療・予防の基盤技術構築・先端技術開発を行うとともに、バイオテクノロジーを用いた植物病抵抗性育種に取り組む	生物アシミレーション科学特論、植物病先端研究特論、植物医科学演習1、植物医科学特別研究1/2、植物医科学特別実験1/2
廣岡 裕史 准教授	菌類学、森林病理学	顕微鏡観察や遺伝子解析等を用いて作物から樹木までさまざまな植物に発生する病原菌類を理解し、菌類病の診断や防除法の開発に貢献する	応用植物医科学特論、植物総合診療科学特論、植物医科学演習2、植物医科学特別研究1/2、植物医科学特別実験1/2
鍵和田 聰 専任講師	植物病生理生態学	植物病の診断技術の開発と植物病原微生物の同定法の確立、および微生物が植物に病気を生じさせる際の分子レベルでのメカニズムの解明を行う	植物免疫分子システム学特論、植物病先端研究特論、植物医科学演習2

[設置科目]

[2022年度] ※開講科目は年度により異なります。() = 単位数

修士課程

[基幹科目]

- ゲノム科学特論(2)
- 蛋白質科学特論(2)
- 細胞生物学特論(2)
- 生命システム科学特論(2)
- ゲノム工学特論(2)
- 蛋白質工学特論(2)
- 細胞工学特論(2)
- 生命システム工学特論(2)
- 基礎植物医科学特論(2)
- 応用植物医科学特論(2)
- 植物病先端研究特論(2)
- 植物総合診療科学特論(2)

[発展科目]

- バイオインフォマティクス特論(2)
- 生体超分子構造学特論(2)
- 生体分子設計特論(2)
- 生体分子計測工学特論(2)
- 細胞操作工学特論(2)
- 細胞間コミュニケーション特論(2)
- 画像工学特論1/2(各2)
- 分子シミュレーション特論(2)
- 有機化学反応特論(2)
- 有機合成化学特論(2)
- 高分子物理化学特論(2)
- 反応工学特論(2)

■ 環境科学特論(2)

- 水環境工学特論(2)
- 環境計測特論(2)
- 環境衛生学特論(2)
- 生物アシミレーション科学特論(2)
- 植物免疫分子システム学特論(2)
- 応用生物生態学特論(2)
- 植物病原学特論(2)
- 植物葉学総合特論(2)
- 土壌環境ゲノム科学特論(2)
- 有用植物開発学特論(2)
- 生命機能学演習1/2(各2)
- 植物医科学演習1/2(各2)

■ 特別実験・特別研究

- 生命機能学特別研究1/2(各3)
- 生命機能学特別実験1/2(各2)
- 植物医科学特別研究1/2(各3)
- 植物医科学特別実験1/2(各2)

博士後期課程

- 生命機能学 発展特別研究1/2/3(各3)
- 生命機能学 発展特別実験1/2/3(各2)
- 植物医科学 発展特別研究1/2/3(各3)
- 植物医科学 発展特別実験1/2/3(各2)
- 生命機能学発展ゼミナール(2)
- 植物医科学発展ゼミナール(2)

修了生の研究テーマの例

- 環状心筋細胞ネットワークの伝導特性の解析
- 小頭症に関連する中心子タンパク質RTTNの新規クラミドモナス突然変異株の同定と解析
- 部位特異的光架橋法を用いた細菌ペん毛モーターの回転子-固定子間相互作用の解析
- 枯草菌溶原性ファージSPβとその類縁ファージφ3Tとの競合
- ホスファチジルグリセロール(PG714)と相互作用する反応中心D1/D2のアミノ酸残基部位特異的置換が光合成に与える影響
- シソにおけるシソサビダニとモトジロアザミウマの生物的防除に関する研究
- シソ科植物含有の抗酸化物質を用いたBotrytis cinerea防除に対する有効性の検討
- ウメ輪紋ウイルスM系統の日本分離株と欧州分離株による病徵の差異と蓄積されるsiRNA量との関連
- 土壌細菌Pseudomonas chlororaphisの抗真菌活性とGacSによる転写調節に関する研究
- イネ苗立枯細菌病菌Burkholderia plantariiの病原性因子および6型分泌機構に関する研究

インスティテュート 総合理工学

詳細はこちら



募集人員

15名

キャンパス

小金井

入学後は理工学研究科または情報科学研究科のいずれかに在籍することになります。



昼間開講

修了要件・履修案内
時間割・シラバス



総合理工学を英語で学ぶ 横断型大学院プログラム

社会活動の急速な拡大とグローバル化が進む現在、諸活動のサステイナブルな発展をいかに担保するかが重要な課題となっている。総合的な地球規模の問題解決には、科学的基盤に根差した高度なテクノロジーを駆使したデザインと実践が求められる。

IISTは大学院情報科学研究科と理工学研究科が協働し、理系専攻分野の先端的研究を遂行するとともに専攻横断的な研究分野を設けサステイナブルなグローバル社会の実現に向けた問題解決に取り組むことを目的に2016年9月に設立された。以下の6分野で構成される。

- ① 実世界を補完するサイバーワールドの効率的セキュアなシステム構築を研究するグローバル情報システム分野 (Global Information Systems)
- ② ミクロなデバイスから宇宙通信まで広範囲に存在する通信技術を研究するユビキタス通信ネットワークシステム分野 (Ubiquitous Network and Communication Systems)
- ③ グローバル経営、イノベーションに欠かせない高度な数理分析手法を扱うグローバル経営情報分野 (Global Business Analyses and Innovation)
- ④ さまざまなメディアやビッグデータ情報処理の手法を研究するメディア・情報処理分野 (Media and Information Processing)
- ⑤ 人口爆発、高齢化社会に対応する医療・健康・福祉理工学分野 (Medical and Health Care Systems Design)
- ⑥ 「生命」、「植物」、「物質」の側面から21世紀の諸問題を解決する先端化学・生命科学分野 (Advanced Bioscience and Chemical Engineering)

入学者は理系専攻領域の専門性を身につけた上で、これら横断的な教育研究プログラムにより社会的ニーズの高いグローバルな課題解決の実践的な知識と研究能力を身につけることができる。

※今後、分野は追加される予定である。

[研究室紹介]

膨大な動画像データを処理する次世代の技術

人工知能に基づく 知的マルチメディア処理システムの開発

本研究室では、次世代情報社会への貢献をめざして、イメージセンシング、画像解析・圧縮、深層学習等の技術に基づく知的マルチメディア処理システムの開発に取り組んでいます。「低消費電力動画収集機能をもつ高分散型監視システムの開発」、「遠隔医療システム向け知的動画像圧縮技術の研究」、「知的動画像処理技術の創出」、「10億画素監視カメラの開発」などの研究を行っています。そして、これら研究を通じて、海外の他大学や研究機関等と共同研究を行うこと、多くの国際会議で研究成果を発表することでグローバルな場で活躍できる研究者になれるようにサポートしています。



周 金佳 準教授

[学生・修了生の声]

Being surrounded by experts in related fields motivates me to keep going and learning

Research theme

研究テーマ Deep learning-based video coding technologies

I am always interested in technologies and how to apply them to real-world applications. I have been targeting to go further and deeper into applying deep learning to visual communication systems.

Now I really enjoy the laboratory environment where I learn and communicate with professors and other lab members. I have opportunities to join and study in collaboration research where members kindly and publicly share their knowledge, skills, and experiences in research. Being surrounded by experts in related fields motivates me to keep going and learning every day.

Message

To me, studying at Hosei University is more than education. I have joined and enjoyed the environment, the courses, and life at Hosei University and Japan. It is a wonderful journey where I meet amazing friends, learn from experts in different fields, and be supported by our friendly staff. I am sure you will have an amazing experience and good friends here.



Pham Do Kim Chi

博士後期課程 在学中

IISTは情報科学研究科と理工学研究科が協働する英語学位プログラムであり教学方針は両研究科の3つのポリシーに加え、グローバル化への貢献を見据えた下記方針を定めている。

アドミッション・ポリシー
(学生受け入れ方針)

カリキュラム・ポリシー
(教育課程の編成・実施方針)

ディプロマ・ポリシー
(学位授与の方針)

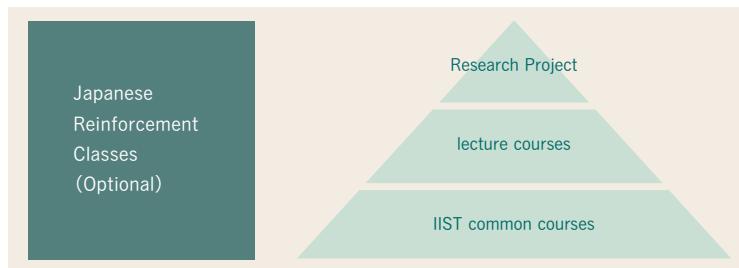
グローバル社会において総合理工学分野のリーダーとして活躍する意欲に溢れる学生を広く受け入れる。英語による講義でプログラムが組まれているため日本語能力は要求しないが、日本語運用能力があればさらに幅広い学びが可能となる。入学者はあらかじめ受け入れ担当教員を決め研究計画を提出し、学識審査を経て入学が許可される。

理工系研究科（情報科学または理工学）の各専攻専門領域の教育プログラムと研究科・専攻横断的なフィールドの教育プログラムを統合し、深い専門性と幅広い問題解決能力を身につけることを可能とするカリキュラムを提供する。グローバルな研究開発分野のニーズに対応する実践知の涵養をめざすとともに、ブリッジエンジニアに求められる日本語コミュニケーション能力の基礎を教授する。

サステイナブルなグローバル社会を支える理工学分野の実践知と実行力を有し、グローバル社会でリーダーとして活躍できる高度技術者・研究者としてふさわしい人材に学位を授与する。所定の単位を取得し、修士論文または博士論文を提出、審査に合格することを修了要件とする。

コース構成

High-level Global Leader in Science and Technology



[専任教員一覧]

[2022年度] ※年度により授業を持たない場合があります。

専任教員	専攻	研究テーマ	主な担当科目
余 恪平	准教授	Applied Informatics	Next Generation Internet, Cyber Security, IIST Seminar, Technical Writing Workshop2 , Technical Presentation Workshop2 ,Machine Learning, Blockchain Technology and Applications, Smart Grid Communications, Info-Telecommunication and International Standardization

[設置科目]

[2022年度] ※開講科目は年度により異なります。() = 単位数

修士課程

- IIST特別講義1(次世代インターネット (Next Generation Internet)) (2)
- IIST特別講義2(サイバーセキュリティ (Cyber Security)) (2)
- IIST特別講義3(ブロックチェーンテクノロジーとアプリケーション (Blockchain Technology and Applications)) (2)
- IIST特別講義4(機械学習 (Machine Lerning)) (2)
- 暗号とその応用 (2)
- 先進総合理工学特論1(スマートグリッド通信 (Smart Grid Communications)) (2)
- 先進総合理工学特論2(情報通信と国際標準化 (Info-Telecommunication and International Standardization))
- バイオインフォマティックス入門 (2)
- IISTセミナー (2)
- 先進経営科学特論 (2)
- ニューラルネットワーク理論と応用 (2)

- 深層学習の効率的処理 (2)
- テクニカルライティングワークショップ1 (2)
- テクニカルライティングワークショップ2 (2)
- テクニカルプレゼンテーションワークショップ1 (2)
- テクニカルプレゼンテーションワークショップ2 (2)
- 日本語コミュニケーション1 (2)
- 日本語コミュニケーション2 (2)
- 日本語コミュニケーション3 (2)
- 日本語コミュニケーション4 (2)

※上記以外の各専攻主催科目については、HPを参照のこと。
※日本語コミュニケーション1 / 2 / 3 / 4は修了要件には含まれません。

修了生の研究テーマの例

- A complex event processing engine with sharing calculation of conditions among queries
- Research on High-Spped Image Reconstrucion based on Compressed Sensing
- Sentiment Analysis using an CNN-BiLSTM deep model based on attention classification
- Forecasting GDP based on the Mixed Frequency Data Model
- Synthesis of ZnO films by chemical bath deposition using hexagonal plate-like particle seeds



キャリア形成



キャリア

法政大学大学院では、キャリアセンターを中心に、きめ細かなサポートを積極的に展開しています。日常的な就職相談はもちろんのこと、さまざまな形で就職活動を支援する企画・イベントを用意。学生の持っている資質・能力を最大限に引き出すことができるようなサポート体制をとっています。

修了生 インタビュー



後藤 圭

人間社会研究科 臨床心理学専攻
修士課程 2020年度修了
山梨県庁 心理職員

複雑な心理の子どもを理解・援助するために 大学院の学びが日々活きてています

臨床心理学専攻では精神分析等の知識はもとより、子どもが安全な環境のもと遊びを通して抑圧した感情を開放するプレイセラピーや、相手との親密さを表現しようとする愛着行動の理論を深く学びました。次第に未来ある子どもたちのために尽力したいと思うようになり、地元の県庁の心理職にチャレンジして採用。公務員試験対策では研究科の先輩方に沢山の助言をいただきました。現在はさまざまな理由で不登校になった児童を預かり、生活支援や心理療法を施しながら学校復帰をめざす、県立の児童心理治療施設で心理職員として働いています。時には子どもたちと遊んだり日常生活の手助け

をしたりすることもあり、日々の支援の中でこれまで学んだ心理の知識全般が活かされていると実感しています。また児童福祉法などの法律に関することや、児童たちが服用する薬の効能を把握しておくことも大切で、大学院の講義を思い出して“復習”に励んでいます。今児童福祉に求められているのは地域総ぐみの支援体制です。将来的には県営の児童福祉関連施設と、民間が営む養護施設や医療施設がより円滑に連携できるよう、関係構築や仕組みづくりに関わりたいと思っています。大学院での学びを土台に自己研鑽を重ね、県の福祉向上に貢献することが目標です。

キャリア形成 サポート

公務員試験の面接対策のためにキャリアセンターを活用し、何度も面接の練習をしていただいたことで、自信をもって本番に臨めました。研究科の先輩方には公務員試験の過去問集を融通してもらったことも思い出します。

修了生 インタビュー



神尾 ちひろ

理工学研究科 機械工学専攻
博士後期課程 2021年度修了
群馬大学 大学教員

どんな研究課題にも取り組み 国内外で活躍する研究者をめざします

世界でも有名な日本の自動車業界に、研究者として携わりたい——。学部3年次の時に抱いたそんな思いから自動車関連の研究室がある法政大学大学院を選び、在学中は地球温暖化対策としても注目が高まる電気自動車の振動について研究しました。電気自動車の動力源となるモータは稼働時にトルク変動を発生させ、モータに接続される動力伝達機構にさまざまな悪影響を与えてしまいます。問題の解決に向け、実験やシミュレーションモデルによる解析に力を注ぎました。学位を取得した後も引き続きこの研究を進めたいと考えるようになり、それが可能で研究環境も整っていた点か

ら、群馬大学への就職を決めました。現在は研究活動とともに、大学運営や授業に関する業務にも積極的に取り組んでいます。研究では自分の専門分野以外の新しい研究にも挑戦していますが、大学院でもさまざまな研究に携わらせてもらったので臆することはできません。各分野でトップレベルの教授陣に直接指導していただいた経験を自信に、どんな研究課題に対しても果敢に挑んでいきたいと思っています。将来は幅広い研究成果を上げ、国内外で活躍する研究者になることが目標です。また大学教員として、機械工学分野の発展に貢献できる人材育成にも努めています。

キャリア形成 サポート

指導教員の先生には大学や企業選びのポイントはもちろん、応募書類の書き方などさまざまなアドバイスをしていただきました。周りの先生方も何かと気にして声をかけてくださったので、とても心強かったです。

キャリアセンターの主なサポートプログラム



専門スタッフによる就職個別相談

経験豊富なキャリアセンター職員、キャリアアドバイザーが親身になって、キャリアや就職活動について、1対1の個別相談を行っています。希望により、対面・webを選択できます。



学内企業説明会

有名企業や優良中堅企業など法政大学・大学院の学生に対し採用意欲の高い企業が年間800社以上参加しています。この説明会をきっかけに内定を得た方も数多くいます。



学内で行われる選考会

企業説明会と一次選考に、キャンパス内にて同日で参加できる学内選考会を複数回行っています。開催日時・参加企業などはキャリアセンターHPにて随時告知をしています。



他大学合同 模擬面接会

他大学の学生と合同で、グループディスカッションやグループ面接を体験できる、貴重な機会です。法政大学・青山学院大学・上智大学・中央大学・明治大学などが参加しています。



学内模擬面接会

企業の採用試験で、最も重要視されている面接試験。さまざまな業界から各日約50社の人事採用担当者にご協力いただき、実戦ながらの面接を行います。採用担当者から直接講評をいただけるため、毎年人気のイベントです。



OB・OG、社会人との交流

社員座談会、卒業生パネルトークなど、卒業生と就活生との交流を促しています。多くの社会人と接し、業界・企業情報や実際の業務内容、働く上の心得などを身近な距離で学ぶことができます。

▶ 法政企業人コミュニティ（法政BPC※）

本学卒業生による継続的なキャリア形成支援を実現する独自のコミュニティを展開

法政BPCは、組織的・持続的な卒業生による学生へのキャリア形成支援を目的としたコミュニティとして2012年7月に発足しました。法政大学キャリアセンターと卒業生の代表が事務局を担い、各業界から参画する加盟企業90社の若手・中堅卒業生有志とともに、学生と現役社会人の交流の場を提供しています。

フリートーク形式でざっくばらんに仕事や就職について語り合う「プレOB・OG訪問体験会 in 学内」や、座談会形式で業界（企業）について語り合う「業界本音トーク」など、本学独自の学生サポート施策を継続的に実施しています。

※BPCは、Business Persons Community の頭文字です。

▶ 学校推薦（理系）

理系特有の学校推薦応募も実施

学校推薦は理系特有の応募方法です。企業から、研究科・専攻単位で推薦依頼が来る場合があります。このような企業に対しては、研究科・専攻単位で選考会を行い、企業ごとに推薦者を決定します。

理系 大学院進学のメリット

1 基礎学力・知的体力の向上

大学院での講義および研究を通して、基礎科目・関連科目の本質的な理解や創造性が育成され、多角的な視野から専門分野の知識・理解が深まり、技術者・研究者としての資質が向上します。

2 橫断的な学問領域の把握によるエンジニア総合力向上

これからの持続可能で環境にやさしい国際的なエンジニアには、専門分野のみならず関連分野の知識や学問領域での実践的経験が必要であり、大学院での学びは必須です。

3 研究に関する専門的およびグローバルな体験

大学院における研究成果の専門・関連分野での国際会議、シンポジウムおよび交流会等でのポスターセッションやプレゼンテーション発表により、国際的な研究交流の体験が可能です。

4 職業選択自由度の向上

大学院での研究や講義による経験を生かすことにより、研究職や技術職へのキャリアパスのチャンスが広がり、専門分野を含む関連企業、各種研究所等、就職の幅が広がります。

5 研究成果の発表および修士・博士論文

執筆を通じた、研究およびキャリアスキルの向上

論文投稿の準備や修士・博士論文作成により、研究力や問題点の把握能力が育成され、また、英語レベル、プレゼンテーション能力やリーダーシップ能力の向上により、就業スキルがアップします。

進路状況

文系就職状況

教育をはじめ、サービス、製造、公務員、情報通信・マスコミなど、進路・就職先業種は多種多様。

各業界の有名企業で活躍する修了生も数多く見られます。

社会人学生の多い本学大学院には、さまざまな環境や分野で経験を積んだ方々が集まり、お互いの知識や情報、意見を交換し合うことで、より高い専門性と広い視野を養っています。

▶ 就職内定先一覧（過去4年間／2017～2020年度）※名称等は変更になっている場合があります。

教育

(学)亜細亜学園 亜細亜大学、茨城県教員委員会、(株)学究社、(特非)キッズドア、(株)京進ランゲージアカデミー、(大)京都大学、群馬県教員、国立国会図書館、(株)さなる、(株)小学館集英社ブロダクション、(大)千葉大学、(大)筑波大学、(大)東京学芸大学 教育学部自然科学系、東京都教員、(学)東洋大学、(大)鳥取大学、(学)日本女子大学、(株)日本入試センター、練馬区教員、八王子市教育センター、広島県教員、(学)法政大学、北海道教員、目黒区教員、(大)山梨大学 など

情報通信・マスコミ

アリババ(株)、(株)ウェザーニューズ、NECネクサソリューションズ(株)、(株)NHK出版、(株)幻冬舎メディアコンサルティング、(株)サイバーエージェント、(株)JTBパブリッシング、(株)出版文化社、(株)富山富士通、(株)新潟日報社、(株)日本経済新聞社、(株)日立システムズエンジニアリングサービス、(株)富士キメラ総研、みずほ情報総研(株)、(株)三越伊勢丹システム・ソリューションズ など

公務・法務

愛知県庁、海上保安庁、川口市役所、川崎市役所、警視庁、厚生労働省、相模原市役所、相模原市立青少年相談センター、衆議院事務局、東京都庁、内閣府、東浅川保健福祉センター、防衛省、法務省、目黒区役所、山口県庁、山梨県庁、横浜少年鑑別所 など

サービス

(株)青山財産ネットワークス、NHK営業サービス(株)、(株)エヌ・ティ・ティ・データ経営研究所、(株)オリエンタルダイニング、川崎北公共職業安定所、セコム(株)、(株)千葉ロッテマリーンズ、野池会計事務所、船井総研ロジ(株)、(株)船井総合研究所、(株)星野リゾート、(株)ミキハウス など

医療・福祉

足立区こども支援センターげんき、オリックス・リビング(株)、川崎中部児童相談所、全国健康保険協会、(地独)東京都健康長寿医療センター、(株)ベネッセスタイルケア など

製造

(株)コーチー、デンヨー(株)、東芝三菱電機産業システム(株)、TOWA(株)、日本製紙クレシア(株)、パナソニックシステムソリューションズジャパン(株)、マツダ(株)、(株)村田製作所 など

卸・小売

イオンリテール(株)、(株)H&T International、(株)ジェイエル東日本商事、(合)西友、(株)セブン-イレブン・ジャパン、(株)ニトリ、(株)ファミリーマート、まいばすけっと(株)、(株)ユニークロ など

金融・保険

九州労働金庫、さわかみ投信(株)、(株)セブン＆アイ・ホールディングス、三井住友信託銀行(株) など

運輸・公益

ANAテラート(株)、国際航業(株) など

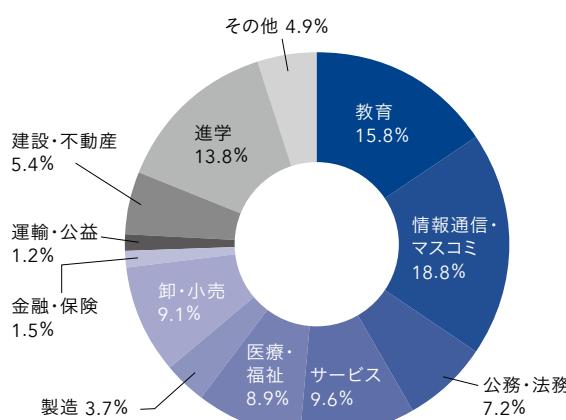
建設・不動産

ジョンズラングラー(株)、住友林業(株)、大建工業(株)、大和ハウスリフォーム(株)、東急リバブル(株)、ハウスコム(株)、三井不動産リアルティ(株)、三菱地所レジデンス(株) など

その他

(公社)秋田県農業公社、NPO日本地域福祉研究所、大磯町郷土資料館、(公財)財務会計基準機構、参議院事務局、(公財)世界自然保護基金ジャパン、日本年金機構、三島市議会 など

就職内定者業種別割合



在籍者/勤務先

伊藤忠商事(株)、(株)伊藤忠総研、NTTコミュニケーションズ(株)、(株)NTTドコモ、大田区役所、花王(株)、神奈川県庁、環境省、(株)京王プラザホテル、KDDI(株)、厚生労働省、(独)国際観光振興機構、(独)国際協力機構(JICA)、(学)駒澤大学、埼玉県庁、(株)サンテレビジョン、(一社)JA共済総合研究所、(株)JTB、(株)小学館集英社ブロダクション、消費者庁、全日本空輸(株)、総務省、ソフトバンク(株)、損害保険ジャパン日本興亜(株)、タイ王国行政裁判所、千葉県庁、帝京大学キャリアサポートセンター、東京都庁、東京日本語学校、(株)東芝、凸版印刷(株)、内閣官房、ナブテスコ(株)、(株)日経BP、日本工営(株)、(公財)日本生産性本部、日本たばこ産業(株)、日本テレビ放送網(株)、日本貿易振興機構、日本放送協会、日本労組連合会、(株)博報堂、(株)日立製作所、(株)ファミリーマート、富士通(株)、(株)ブリヂストン、PayPay(株)、(株)ベネッセコーポレーション、防衛省航空自衛隊、マツダ(株)、丸紅ITソリューションズ(株)、(株)みずほ銀行、みずほ証券(株)、三菱UFJ信託銀行(株)、港区役所、山梨県庁、横浜市役所、(学)立教学院、(株)ローソン、(独)労働政策研究・研究機構 など

理工系就職状況

過去4年間で見ると半数弱が製造業に就職。

主に研究職や開発職などの専門職において、理系ならではの高度な専門知識・技術を発揮しています。

▶ 就職内定先一覧（過去4年間／2017～2020年度）※名称等は変更になっている場合があります。

教育

(大)岡山県立大学、神奈川県教員、(大)京都大学、埼玉県教員、千葉県教員、(大)東京大学 東京大学物性研究所、東京都教員、博士研究員(国立遺伝学研究所)、(学)法政大学など

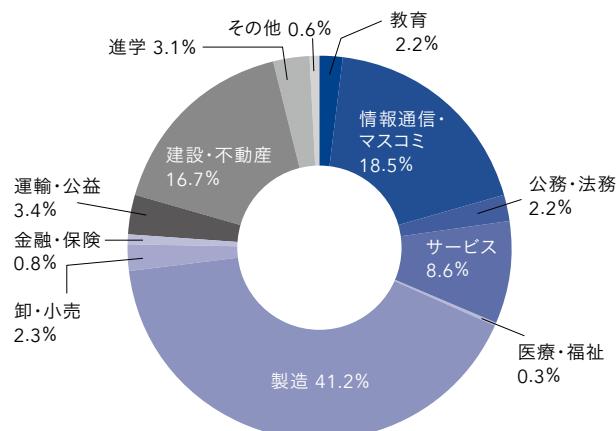
情報通信・マスコミ

伊藤忠テクノソリューションズ(株)、宇宙技術開発(株)、N T Tコミュニケーションズ(株)、(株)エヌ・ティ・ティ・データ(株) NTTドコモ、(株)カブコン、京セラコミュニケーションシステム(株)、KDDI(株)、(株)サイバーエージェント、さくら情報システム(株)、ジェイアール東海情報システム(株)、(株)JR 東日本情報システム、(株)ジャパンテレコム、セコムトラストシステムズ(株)、ソフトバンク(株)、東京ガスiネット(株)、(株)トヨタシステムズ、(株)ドワンゴ、日本アイ・ビー・エム(株)、日本電気航空宇宙システム(株)(NEC航空宇宙システム)、日本電子計算(株)、日本放送協会(NHK)、日本郵政インフォメーションテクノロジー(株)、(株)野村総合研究所、(株)ハル研究所、東日本電信電話(株)(NTT東日本)、(株)日立ソリューションズ、富士通エフ・アイ・ビー(株)、(株)マイナビ、(株)ミクシィ、三菱UFJインフォメーションテクノロジー(株)、ヤフー(株)、ヤマトシステム開発(株)など

公務・法務

国土交通省、さいたま市役所、埼玉県庁、渋谷区役所、杉並区役所、千葉県庁、東京都庁、戸田市役所、農林水産省、防衛省 海上自衛隊、横浜市役所など

就職内定者業種別割合



サービス

アクセンチュア(株)、(株)衛生微生物研究センター、(一財)関東電気保安協会、セコム(株)、(株)電通パブリックリレーションズ、東京電力ホールディングス(株)、東洋製罐グループホールディングス(株)、(株)日産オートモーティブテクノロジー、日本アイ・ビー・エムデジタルサービス(株)、野村不動産パートナーズ(株)、(株)日立パワーソリューションズ、(株)リクルートR&Dスタッフティングなど

医療・福祉

I Q V I A サービシーズジャパン(株)、(株)新日本科学P D、パレクセル・インターナショナル(株)など

卸・小売

キヤノンマーケティングジャパン(株)、グローバル電子(株)、大建工業(株)、富士エレクトロニクス(株)、睦自動車(株)など

金融・保険

(株)あおぞら銀行、東京電力ホールディングス(株)、日本郵政(株)、三井住友信託銀行(株)、三菱UFJ信託銀行(株)、ユニゾホールディングス(株)など

運輸・公益

京王電鉄(株)、京成電鉄(株)、京浜急行電鉄(株)、京葉ガス(株)、首都高速道路(株)、西武鉄道(株)、東海旅客鉄道(株)(JR東海)、東京地下鉄(株)(東京メトロ)、東武鉄道(株)、成田国際空港(株)、西日本鉄道(株)、東日本高速道路(株)、東日本旅客鉄道(株)(JR東日本)など

製造

朝日工業(株)、いすゞ自動車(株)、(株)イトーキ、沖電気工業(株)、カシオ計算機(株)、川崎重工業(株)、関西ペイント(株)、キヤノン(株)、京セラ(株)、(株)クボタ、コカ・コーラボトラーズジャパン(株)、コクヨ(株)、コニカミノルタ(株)、(株)資生堂、シチズン時計(株)、シャープ(株)、スズキ(株)、(株)SUBARU、住友ゴム工業(株)、住友重機械工業(株)、ソニー(株)、大王製紙(株)、ダイキン工業(株)、大日精化工業(株)、大日本印刷(株)、太陽誘電(株)、(株)デンソー、(株)東芝、東芝テック(株)、東芝メモリ(株)、TOTO(株)、(株)東ハト、東洋合成工業(株)、凸版印刷(株)、トヨタ自動車(株)、日産自動車(株)、日清食品ホールディングス(株)、(株)日立電子、(株)日本計器製作所、日本軽金属(株)、日本航空電子工業(株)、日本信号(株)、日本電気(株)(NEC)、日本電産(株)、日本特殊陶業(株)、日本飛行機(株)、日本ヒューレット・パッカード(株)、野村マイクロ・サイエンス(株)、パナソニック(株)、(株)日立製作所、日野自動車(株)、富士ゼロックス(株)、富士通(株)、扶桑化学工業(株)、本田技研工業(株)、マツダ(株)、三井化学(株)、三井造船(株)、(株)M i z k a n、三菱ガス化学(株)、三菱ケミカル(株)、三菱自動車工業(株)、三菱商事フードテック(株)、三菱電機(株)、(株)村田製作所、(株)森永生科学研究所、森永乳業(株)、ヤマザキマザック(株)、ヤマハ(株)、横浜ゴム(株)、ライオン(株)、(株)L I X I L、理研計器(株)、(株)リコー、理想科学工業(株)、Y K K A P(株)など

建設・不動産

旭化成ホームズ(株)、アバマンション(株)、伊藤忠都市開発(株)、NECネットエスアイ(株)、NTT都市開発(株)、小田急不動産(株)、鹿島建設(株)、(株)建設技術研究所、小堀哲夫建築設計事務所、(株)再生建築研究所、(株)ジェイアール東日本都市開発、JR東日本メカトロニクス(株)、清水建設(株)、(株)首都圏総合計画研究所、住友林業ホームテック(株)、大成建設(株)、大東建託(株)、大洋建設(株)、大和ハウス工業(株)、(株)タカハ都市科学研究所、タマホーム(株)、東急建設(株)、東急テクノシステム(株)、(株)東電設計、東洋エンジニアリング(株)、(独)都市再生機構、野村不動産(株)、パナソニックホームズ(株)、ミサワホーム(株)、安田不動産(株)など

その他

国立研究開発法人新エネルギー・産業技術総合開発機構、全国農業(協組)連合会(JA全農)、(財)鉄道総合技術研究所、(地独)東京都立産業技術研究センター、(公財)福武財団、(独)水資源機構など

科目等履修生

科目等履修制度は、本学大学院修士課程が開講する授業を1科目から履修できる制度です。

※一部履修できない科目があります。また、正規学生の履修に支障をきたす場合、履修ができません。

科目等履修生は、毎年7月下旬と3月中旬に募集しています。



科目等履修生のメリット

① 大学院進学の準備期間として活用

2年間通学できるか心配な方には、大学院通学の疑似体験としても利用できます。どのような授業が行われているか、通学に支障がないか、体験してみてください。

POINT

単位	一年度 12単位以内	費用	<参考>文系4単位科目1科目の場合 登録料 10,000円 + 履修料 60,000円	合計 7万円
----	---------------	----	--	--------

本制度利用の目的はさまざまです！ 例えば…

- 学部で学んだ内容を今一度確認し、資料解釈の幅をさらに広げたい方
- 経営学専攻
【日本考古学特殊研究Ⅰ・Ⅱ】
- 企業家としてイノベーションを主導したい方
- 経営学専攻
【イノベーション・マネジメント概論】
- 企業の海外戦略を理論的・実践的に学びたい方
- 経営学専攻
【国際経営論】
- 消費者のニーズを体系的に分析したい方
- 経営学専攻
【マーケティング・リサーチ論】
- キャリアコンサルタント国家資格化に伴い、専門性の深化した学びを必要としている方
- キャリアデザイン学専攻
【キャリアカウンセリング論】

科目等履修生は、大学院における正規学生の授業に支障のない範囲で授業担当者および当該研究科教授会承認を経て許可されます。ただし、履修できる授業は、正規学生の登録がある修士課程の科目に限ります。科目等履修生の募集受付は、年2回。春学期(通年開講科目、春学期科目)と秋学期(秋学期開講科目)になりますが、1年を通じ12単位までの受講が可能です。「いずれ大学院に進学したいと思うが、今は通学できる時間が十分確保できない」「週1回程度なら受講できる」あるいは「大学院に進学したいと思っているが、研究テーマを絞り切れていない」「大学院の授業についていけるかどうか不安である」等々の理由で大学院進学の準備期間として本制度を活用していただくことができます。本制度の申請受付期間は、春学期は毎年前年度末の3月中旬～、秋学期は7月下旬～の1週間程度となります。応募資格、申請期間、登録料・受講料、提出書類など詳しい情報に関しては、募集要項にて確認してください。

▶ 募集研究科・専攻

研究科名	専攻名
人文科学研究科	哲学専攻・日本文学専攻・英文学専攻・史学専攻・地理学専攻・心理学専攻・国際日本学インスティテュート
国際文化研究科	国際文化専攻
経済学研究科	経済学専攻
法学研究科	法律学専攻
政治学研究科	政治学専攻・国際政治学専攻
社会学研究科	社会学専攻
経営学研究科	経営学専攻
キャリアデザイン学研究科	キャリアデザイン学専攻
公共政策研究科	公共政策学専攻・サステナビリティ学専攻
政治学研究科・公共政策研究科	連帯社会インスティテュート
理工学研究科	機械工学専攻・電気電子工学専攻・応用情報工学専攻・システム理工学専攻・応用化学専攻・生命機能学専攻
デザイン工学研究科	建築学専攻・都市環境デザイン工学専攻・システムデザイン専攻
人間社会研究科	福祉社会専攻
政策創造研究科	政策創造専攻
スポーツ健康学研究科	スポーツ健康学専攻

*情報科学研究科 情報科学専攻、人間社会研究科 臨床心理学専攻は、科目等履修生を募集しません。

*経済学(懇親会)、社会学、人間社会研究科の授業は、市ヶ谷キャンパスおよび多摩キャンパスで行われますので、時間割に注意してください。
なお、理工学研究科の授業は小金井キャンパスで行われます。

▶ 履修できる科目

科目等履修生として履修することができるのは、正規学生の履修登録がある修士課程の授業科目のみです。博士後期課程の授業科目は履修できません。併せて、以下の点に注意してください。

- 修士論文の完成を目的とした「論文指導科目」や、在学生の研究成果発表を目的とした科目は履修できません。専攻によって、論文指導科目を「○○○演習」の名称で表現している場合があります。
- 科目の性質により、受講を認めない場合があります。出願する科目について不明な点がありましたら、担当窓口までお問い合わせください。
- 出願を受け付けた科目については、書類審査を経て受講許可・不許可の判断をいたします。必要に応じて面接を課す場合もあります。授業の性質により、担当教員が受講を許可しない場合がありますので、予めご了承ください。
- 受講許可となった科目でも、正規学生の履修登録がない科目については判明した時点で履修の継続ができません。

▶ 2022年度出願資格

- 1 大学を卒業した者
- 2 独立行政法人大学改革支援・学位授与機構により学士の学位を授与された者
- 3 外国において、学校教育における16年の課程を修了した者
- 4 外国の学校が行う通信教育における授業科目をわが国において履修することにより当該外国の学校教育における16年の課程を修了した者
- 5 文部科学大臣の指定した者
- 6 大学に3年以上在学した者で、又は外国において学校教育における15年の課程を修了した者で、本大学院において、所定の単位を優れた成績をもって修得したものと認めた者
- 7 本学大学院において、個別の入学資格審査により、大学を卒業した者と同等以上の学力があると認めた者で、入学時点まで22歳に達した者

※HPの募集要項で最新の出願資格を確認してください。
※出願資格の確認が必要な方は、事前に各研究科担当窓口にお問い合わせいただき、指定期日までに、本学所定の履歴書のほか、最終学歴の卒業証明書と成績証明書をご提出ください。なお、研究科によって追加書類の提出を求める場合があります。

▶ 学費

登録料	10,000円 ただし、同一年度内に本学大学院内（専門職課程含む）の科目等履修生の登録料を納入済みの場合は不要です。
履修料	①人文科学研究科（国際日本学インスティテュートを含む）・ 国際文化研究科・経済学研究科・法学研究科・政治学研究科・ 社会学研究科・経営学研究科・キャリアデザイン学研究科・ 公共政策研究科・連帯社会インスティテュート・人間社会研究科 (1) 4単位科目1科目につき60,000円 (2) 2単位科目1科目につき30,000円
	②理工学研究科・デザイン工学研究科 (1) 4単位科目1科目につき94,000円 (2) 2単位科目1科目につき47,000円
	③政策創造研究科 2単位科目1科目につき50,000円
	④スポーツ健康学研究科 2単位科目1科目につき34,000円
その他	上記のほか、授業で利用する教材等で別途料金の負担が必要になることがあります。

▶ 公共政策研究科SDGs Plus履修証明プログラム



「公共政策研究科SDGs Plus履修証明プログラム」はSDGsをテーマとした履修証明プログラムであり、大学に社会人を積極的に受け入れることにより、大学の社会貢献を一層進めるために設けられた制度です。大学の学位（修士や修士等）に比べ、より短期間に修得することが可能です。修了者には学校教育法に基づき履修証明書が発行されます。

【プログラムの概要】(予定)

履修期間	秋学期から開講する1年間のプログラムです。
開講時期	2022年9月
定員	15名
出願資格	募集要項をご確認ください。 ※出願資格を満たす方であれば、どなたでも出願できます。
受講料	122,000円（登録料10,000円、受講料112,000円）
出願期間	2022年6月中旬予定 ※詳細はHPをご確認ください。
開講科目	公共政策研究科開設科目のうち、SDGs17目標に合致する科目 ※大学院HP「履修証明プログラム生募集要項」中の「2022年度 SDGs Plus履修証明プログラム対象科目」を参照してください。
履修科目数	10科目を上限とします。 ただし、公共政策研究科に入学した場合の単位認定は最大15単位とします。詳細はお問い合わせください。

▶ 2022年度時間割表・シラバス公開

各研究科HPで公開しています。

研究科名	時間割表・シラバスの公開
人文科学研究科（国際日本学インスティテュートを含む）・国際文化研究科・経済学研究科・法学研究科・政治学研究科・社会学研究科・経営学研究科・キャリアデザイン学研究科・公共政策研究科・連帯社会インスティテュート	
情報科学研究科・理工学研究科	
デザイン工学研究科	
人間社会研究科	
スポーツ健康学研究科	
政策創造研究科	

<https://www.hosei.ac.jp/gs/jukensei/yoken/>

協定大学院・プログラム

教育・研究活動のさらなる充実を目的として、
学外のさまざまな大学院やプログラムと提携しています。
また、外国人学生の受け入れなどにより、学内でも多様な交流を推進しています。

協定大学院・プログラム

▶ 他大学院との単位互換について

本学大学院では、相互聴講に関する協定を他の大学院と締結しています。英文学・地理学・経済学・政治学・社会学・経営学・福祉社会の各専攻では、研究上の必要性により、他大学院の授業科目の聴講を希望する場合、協定校の授業を10単位（経済学・経営学・経営学（夜間）専攻の協定は8単位）まで受講することができます。また専攻の枠を超えて、他大学院で履修できる「首都大学院コンソーシアム」制度を利用することもできます（専攻に限定あり）。他大学院で修得した単位は、一定限度内で本学大学院の修了所要単位として認定されます。

▶ 上海外国语大学（中国）とのダブルディグリープログラム

人文科学研究科国際日本学インスティテュート（修士課程）では、上海外国语大学（中国）との間でダブルディグリープログラムに関する協定を締結し、2019年度からそれぞれの大学から派遣する学生が双方の課程を修了することにより、両者の修士学位を取得することが可能となりました。このプログラムは教育の国際的な展開を図り、本インスティテュートの教育・研究水準向上に寄与するものです。

▶ 2022年度 協定大学院一覧（国内）

●英文学専攻

青山学院大学大学院／上智大学大学院／明治大学大学院／明治学院大学大学院／日本女子大学大学院／立教大学大学院／聖心女子大学大学院／東北学院大学大学院／東京女子大学大学院／東洋大学大学院／津田塾大学大学院

●地理学専攻

駒澤大学大学院／明治大学大学院／専修大学大学院／国士館大学大学院／日本大学大学院

●経済学専攻

青山学院大学大学院／専修大学大学院／中央大学大学院／東洋大学大学院／日本大学大学院／明治学院大学大学院／明治大学大学院／立教大学大学院

●経済学・経営学専攻

立教大学大学院／明治大学大学院／中央大学大学院／専修大学大学院

●政治学専攻

学習院大学大学院／成蹊大学大学院／中央大学大学院／日本大学大学院／明治大学大学院／立教大学大学院

●社会学専攻

茨城大学大学院／大妻女子大学大学院／駒澤大学大学院／埼玉大学大学院／成蹊大学大学院／専修大学大学院／創価大学大学院／成城大学大学院／千葉大学大学院／中央大学大学院／都留文科大学大学院／東洋大学大学院／常盤大学大学院／日本女子大学大学院／日本大学大学院／武藏大学大学院／明治学院大学大学院／明治大学大学院／立教大学大学院／立正大学大学院／流通経済大学大学院

●経営学専攻（夜間）

関西学院大学専門職大学院

●福祉社会専攻

上智大学大学院／明治学院大学大学院／日本女子大学大学院／東洋大学大学院／淑徳大学大学院／日本社会事業大学大学院／大正大学大学院／立正大学大学院／ルーテル学院大学大学院／関東学院大学大学院／立教大学大学院／日本大学大学院

●首都大学院コンソーシアム

順天堂大学大学院／専修大学大学院／中央大学大学院／東京電機大学大学院／東京理科大学大学院／東洋大学大学院／日本大学大学院／明治大学大学院／共立女子大学大学院

●理工学研究科

総合研究大学院大学物理科学研究科

TOPICS

法政大学では全学的に
教育のグローバル化を
推進しています。

① 法政大学スーパークリーパー大学創成支援事業

法政大学は、文部科学省・平成26年度スーパークリーパー大学等事業「スーパークリーパー大学創成支援（タイプB：グローバル化牽引型）」に採択されました。この事業は、「大学改革」と「国際化」を断行し、国際通用性、ひいては国際競争力の強化に取り組む大学の教育環境の整備を目的として、国から重点的に財政支援されるものです。今回採択された本学の構想名は、「課題解決先進国日本からサステナブル社会を構想するグローバル大学の創成」です。世界的な規模で多様な研究を本学に集結させ、自然環境のみならず、高度な教育を通じた安定的な経済社会の持続可能性や、長い歴史と多様な展開をしてきた文化の持続可能性を含め、日本だからこそなし得る「日本発」のサステナブル教育の確立と発信を通じて、わが国社会のグローバル化を牽引する大学をめざします。

理工系の連携大学院

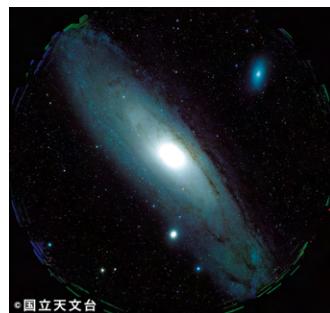
▶ JAXA 宇宙航空研究開発機構

本学とJAXAは2010年度に旧研究開発本部と連携大学院協定を締結しました。2014年度には旧航空本部、宇宙科学研究所との協定にも発展し、さらに2019年度からは部門を指定しない「ALLJAXA」との協定となりました。JAXAの職員が客員教員として理工学研究科の学生の研究指導にあたる一方、理工学研究科に在籍する学生がJAXA内で研究指導を受けることができます。協力体制の確立により、JAXAの優れた研究設備、人材、研究テーマなどを本学大学院研究に活用し、教育研究活動のより一層の充実を図るとともに、新しいミッションの実現をめざした技術開発と研究指導を行います。機構の研究活動を推進し、その成果・普及を更に促進することにより、わが国における宇宙科学、宇宙航空技術分野および宇宙理工学分野の発展に寄与することをめざします。



▶ 国立天文台 自然科学研究機構

2014年度より、本学と国立天文台は、連携大学院に関する協定を締結しました。これまで本学と国立天文台とは電波天文学、重力波天文学および光赤外線天文学分野で共同研究の実績がありましたが、協定の締結により、これらの3つの分野を中心に、そこに所属する優れた研究者を客員教員として招聘し、国立天文台が保有する最先端の研究設備を共同利用することができます。そこから得られるデータや経験を大学院での教育研究に活用することにより、本学における天文宇宙に関する教育研究活動を一層充実させることができます。例えば、本学が所有する天体望遠鏡制御に関する共同開発を行ったり、すばる望遠鏡など最新望遠鏡用観測機器の共同開発とそれを用いた観測研究や、すばる望遠鏡を用いた銀河研究に取り組むことができます。



▶ ダブルディグリープログラム — 中国模範的ソフトウェア学院とのダブルディグリープログラム —

情報科学研究科では、2011年度より中国教育部が所管する模範的ソフトウェア学院連盟（中国国家重点大学を中心とした37大学を統括）と情報科学系大学院生の共同学位プログラム（ダブルディグリープログラム）を継続しています。

本プログラムでは、双方の大学に1年ずつ在籍して英語による講義や研究指導を受けることで、履修単位の相互認定制度により両大学から修士の学位を取得できます。これまでに70名を超えるプログラム修了生がおり、国際会議での活躍、博士課程への進学など、教育・研究の両面において大きな成果を上げています。

本学としては、本制度による双方の学生による互いの大学院への留学を始めとして、教育研究の両面で実りあるグローバルな学術交流を推進しています。



2 法政大学グローバルポリシー

本学は2014年7月「法政大学グローバルポリシー」を制定しました。2023年までの10年間をかけて、「世界に開かれた大学」「市民に開かれた大学」「多様な知に開かれた大学」を基本理念に据え、「持続可能で平和な地球社会の構築に貢献する大学」をめざします。

3 海外との交流も推進

各研究科では外国人留学生に門戸を開いており、複数の専攻で外国人入試を実施しています。また、本学と協定を結んでいる中国、ベトナム、ロシア、イタリアなどの各大学・研究機関から研究員を受け入れ、学術交流を行っています。

スーパーグローバル大学としての取り組み

【海外留学制度の拡充】

派遣留学制度、スタディ・アブロード（SA）制度を拡充し、単位修得を伴う留学を増加させます。

【外国人留学生3,000名の実現】

入試制度の多様化、英語による学位コースの新設等により在留資格「留学」の留学生を2,000名に、短期実践日本語研修・文化体験やフィールド体験学習プログラムの充実等により在留資格「留学」以外の留学生を1,000名にします。

【海外協定校を250校に拡大】

海外協定校を250校に拡大します。

【国際学生寮等の整備】

国際学生寮（混住型宿舎）、短期研修専用の教育施設を整備します。

【海外オフィスの拡充（6拠点の整備）】

中国、台湾、ベトナム等に海外事務所を展開します。

【文理融合サステナビリティ研究の推進】

文理融合型の「サステナビリティ研究」を核にして世界水準の研究成果を発信します。

研究所・図書館

附属研究施設

数々の実績を挙げている、高度な専門研究・調査機関

法政大学には、さまざまな分野にわたる附属研究施設があり、いずれも多くの実績を挙げています。研究・調査活動の成果は学会、シンポジウム、講演会などで発表されたり、報告書などの形で一般公開されています。下記、学則附置11研究所のほか、サステナビリティ実践知研究機構に4研究センター（地域研究センター、エコ地域デザイン研究センター、マイクロ・ナノテクノロジー研究センター、江戸東京研究センター）があります（2022年4月現在）。

▶ 野上記念法政大学能楽研究所

本学元総長の野上豊一郎博士の功績を記念し、1952年に創設された、日本を代表する能楽の総合研究機関です。全国屈指の所蔵量を誇る能楽関係資料（重要文化財含む）は約4万点。能楽研究の発展と能楽の振興をめざし、さまざまな活動を展開しています。



▶ 法政大学沖縄文化研究所

琉球列島（奄美～宮古・八重山）とその周辺地域の文化・社会について総合的に研究を行う目的で1972年に設立されました。現在は、沖縄研究の世界的な広がりに応えて、国内外の研究者を結ぶ情報ネットワークセンターとしての役割を果たしています。



▶ 法政大学 大原社会問題研究所

社会労働問題に関する文書館・研究機関で、1919(大正8)年設立、約100年の歴史を誇る民間の社会科学分野では最も歴史がある研究所として知られています。

▶ 法政大学 スポーツ研究センター

体育・スポーツの調査および研究を主たる目的として設立。スポーツ科学における多様な分野からの研究成果に基づき、学生のスポーツ活動のサポートや健康維持の増進に向けた助言等を行っています。

▶ 法政大学 国際日本学研究所

日本初の「国際日本学の構築」を掲げて、世界各国の日本研究機関をつなぐ役割を担う研究組織として設立されました。研究対象とする時代や地域、分野を広げ、新しい国際日本学の展開をめざして活動中です。

▶ 法政大学 イオンビーム工学研究所

私立大学では数少ないイオン加速器を2台所有。集積回路の製造技術や次世代通信機器などの研究開発に利用しています。

▶ 法政大学 日本統計研究所

全国的にもユニークな統計の専門研究機関です。政府統計の企画・設計に貢献するため、国際ワークショップを開催するなど、海外の事情を調査しています。

▶ 法政大学イノベーション・ マネジメント研究センター

イノベーションをキーワードに産学官連携を図り、産業・経営に関する学術交流を行い、その研究成果を講演会、学術雑誌や叢書として公表しています。経済系資料では国内最大級の蔵書(約28万点)を公開しています。

▶ 法政大学情報メディア 教育研究センター

ITを駆使する計算科学およびデータサイエンスやAIを活用する教育システムなど、ITが関わる分野の研究および開発を行っています。

▶ 法政大学 比較経済研究所

日本および諸外国とりわけ東・東南アジア地域の経済について国際比較の観点を重視しつつ、学外の専門家と共に創造的な研究プロジェクトを推進しています。

▶ 法政大学ボアソナード記念 現代法研究所

日本近代法の父として知られ、草創期の法政大学に多大な貢献をしたボアソナード博士に関する文献・資料を収集。従来の法律学では解決が困難な諸問題を対象にプロジェクト研究を実施しています。

法政大学大学院特定課題研究所

大学院特定課題研究所は、本学専任教員が研究代表者となって、受託研究費などの学外資金により共同研究を行う場合に5年間を限度に設置できる時限的研究所です。既に設置された研究所は30を数え、大学院修了者が共同研究者となっている研究所もあります。大学院博士後期課程在籍者もリ

サーチ・アシスタント（R・A）として参加することができるようになっており、大学院の研究機能の強化と併せて、大学院学生の研究能力の向上に資することが期待されています。

図書館

法政大学には市ヶ谷、多摩、小金井の3キャンパスに図書館があり、学習用図書・学術図書・政府刊行物を約173万冊所蔵しています（2021年3月31日現在）。この中には、俳人・歌人である正岡子規、梅謙次郎や和辻哲郎、三木清、戸坂潤ら著名研究者の蔵書など、貴重なものも含まれています。この他に新聞・雑誌・マイクロフィルムなどの所蔵資料や各種データベース・電子ジャーナルも利用できます。いずれのキャンパスの図書館も年間約320日開館しており、違うキャンパスにかかわらず、どのキャンパスの図書館も自由に利用でき、他キャンパスの図書館から資料を取り寄せて貸出・返却することができます。

とも可能です。また、本学は山手線沿線私立大学図書館コンソーシアムの加盟大学図書館（青山学院、学習院、國學院、専修、東洋、明治、明治学院、立教）と相互利用協定を結んでおり、法政大学の学生証を持参すれば、これらの大学図書館を利用できます。その他、本学図書館と相互利用に関する覚書を結んでいる関西大学図書館の館内閲覧も可能です。その他詳細は図書館HP（<https://www.hosei.ac.jp/library/>）をご覧ください。



図書館 HP



市ヶ谷図書館

市ヶ谷キャンパス「80年館」にあり、地下4階から地上2階までの6フロアで構成されています。また市ヶ谷田町校舎に閲覧室、富士見坂校舎にラーニングコモンズがあります。和洋図書約750,000冊の他、和洋雑誌・新聞約9,800タイトルを所蔵しています。



多摩図書館

多摩キャンパスのほぼ中央に位置する図書館・研究所棟の中になります。地下2階から地上4階までの合計6フロアで構成されています。和洋図書約850,000冊の他、和洋雑誌・新聞約10,700タイトルを所蔵しています。



小金井図書館

小金井キャンパス南館にあり、閲覧室・ラーニングコモンズ・メディアライブラリー・書庫で構成されています。理系資料を中心に所蔵し、電子資料も積極的に収集しています。



netラウンジ（大学院棟2F）

デスクに設置されたノートパソコンでネットワークを利用できます。



freeラウンジ（大学院棟13F）

高層階からの眺望が楽しめる開放的なスペースで、パソコンを利用し自習することができます。



ボソナード・タワー

地上27階、地下4階の市ヶ谷キャンパスのシンボル。最新設備の研究施設や教室、食堂などがあります。



薩埵ホール（外濠校舎6F）

870名収容。省エネルギーESCO事業を導入し、講演会・セミナーや進学相談会などが行われます。



キャリアセンター（外濠校舎2F）

就職活動やキャリア形成をサポート。相談ブースや就職資料を閲覧できるコーナーがあります。



グローバル教育センター（大内山校舎2F）

留学生の、各種奨学金の申し込みや資格外活動、医療費補助の相談などのサポートを行っています。



スカイホール（ボソナード・タワー26F）

国際会議や学会・行事に利用される多機能スペース。同時通訳システムやAVシステムなどの設備があります。



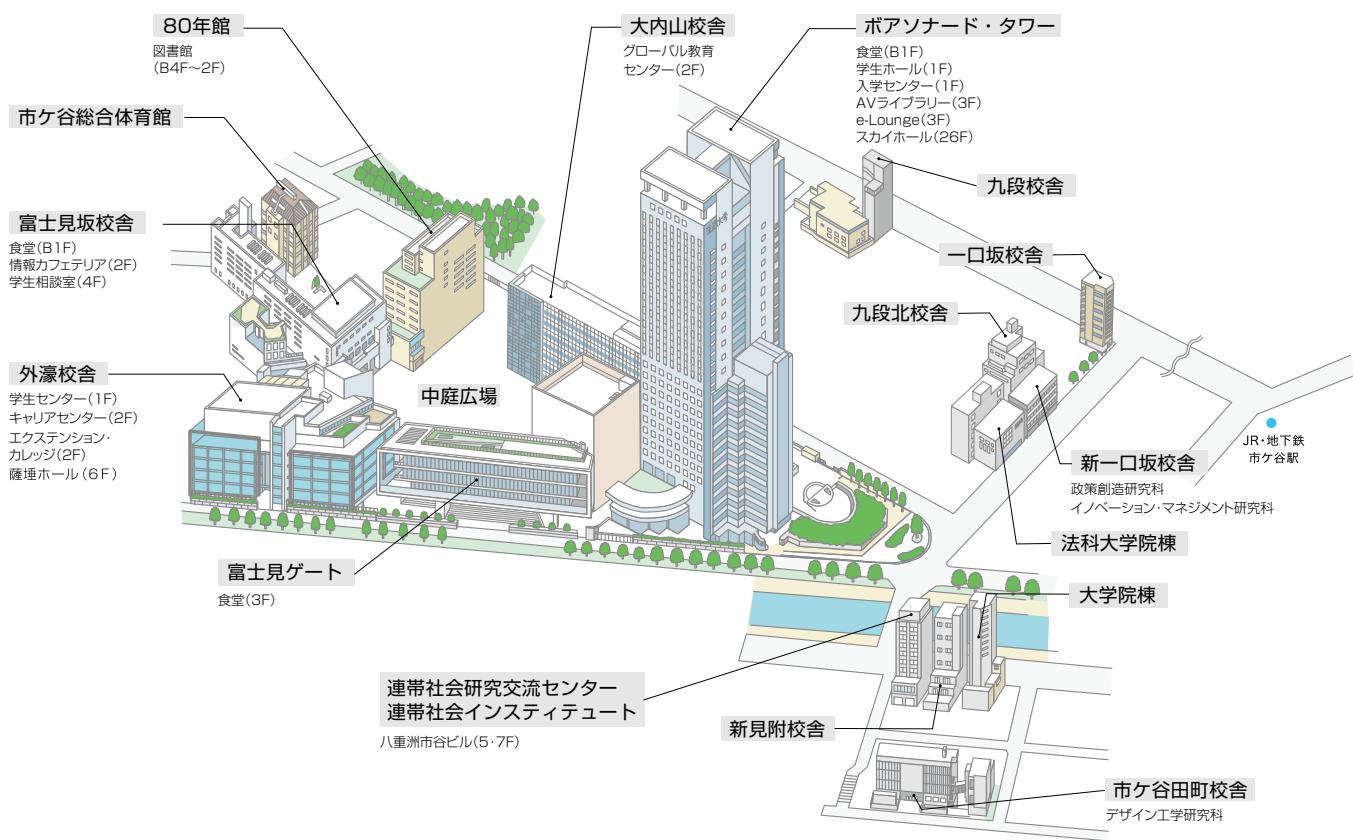
市ヶ谷田町校舎

デザイン工学部、デザイン工学研究科の授業が行われており、最新設備を備えたスタジオなどが設置されています。

キャンパス・施設

市ヶ谷キャンパス

法政大学のシンボル「ボアソナード・タワー」をはじめ、大学院棟があります。



▶周辺地図



[JR 線]

總武線: 市ヶ谷駅または飯田橋駅下車徒歩10分

[地下鉄]

都営新宿線: 市ヶ谷駅下車徒歩10分

東京メトロ有楽町線: 市ヶ谷駅または飯田橋駅下車徒歩10分

東京メトロ東西線: 飯田橋駅下車徒歩10分

東京メトロ南北線: 市ヶ谷駅または飯田橋駅下車徒歩10分

都営大江戸線: 飯田橋駅下車徒歩10分

[JR 線]

中央線: 新宿駅から快速で21分、東小金井駅下車、徒歩約15分

【バス】東小金井駅から「武藏小金井駅行」に乗車、「法政大学」下車

[京王線]

新宿駅から特急で41分(準特急で49分)、めじろ台駅下車、バスで約10分

[JR 線]

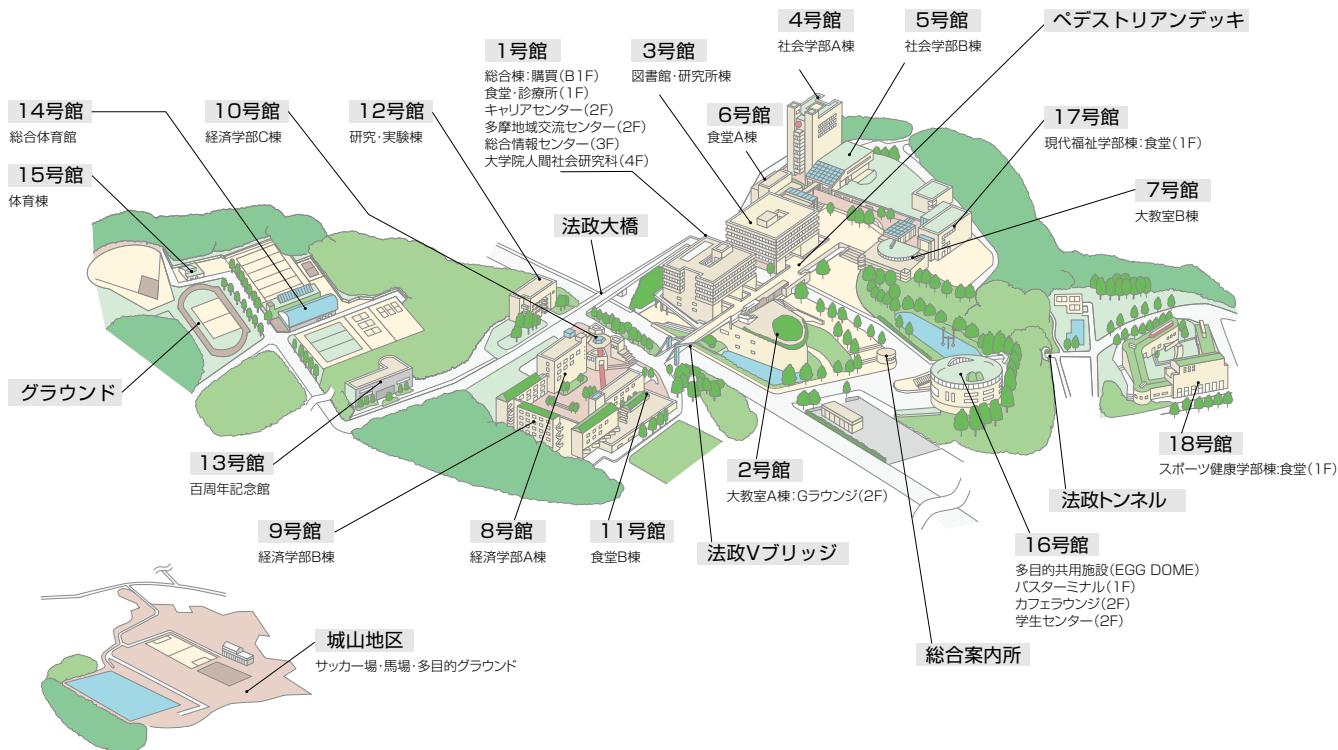
中央線: 新宿駅から快速で50分(特別快速で41分)、西八王子駅下車、バスで約22分

横浜線: 新横浜駅から快速で30分、相原駅下車、バスで約13分

*上記各バスで「法政大学」下車

多摩キャンパス

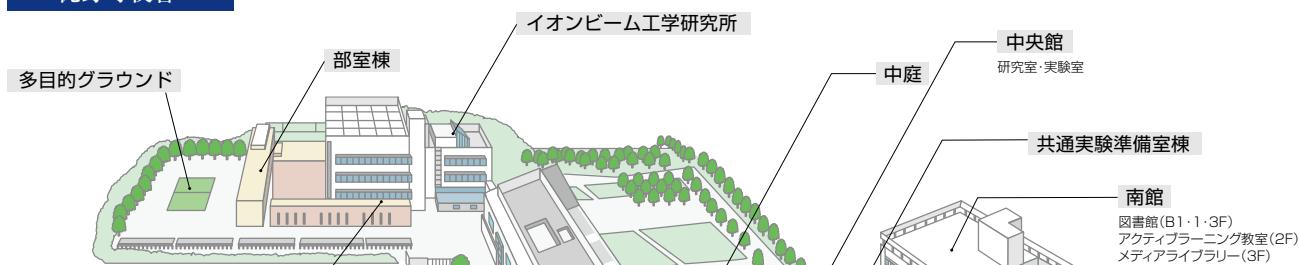
豊かな自然と調和した開放的なキャンパス。



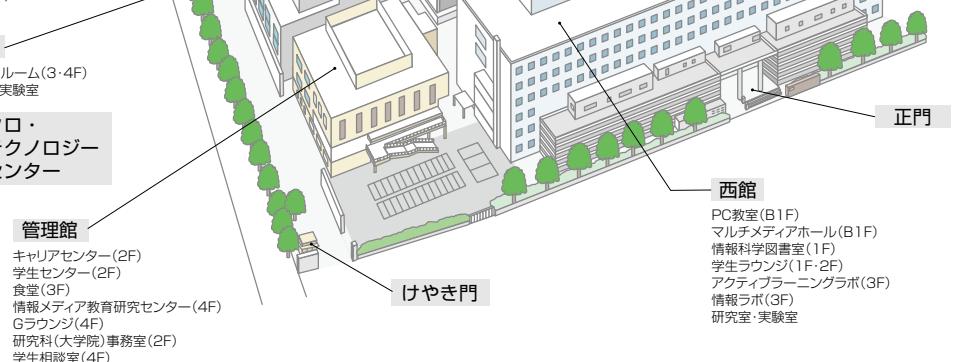
小金井キャンパス

最先端科学・技術を学ぶための設備が充実したインテリジェント・キャンパス。

梶野町校舎



緑町校舎



学費と各種助成金・奨学金制度

学費



経済的負担の軽減
のための借置等に関する情報

① 入学金

本学出身者は無料です。
(政策創造研究科 修士課程は除く)

② 授業料

各種助成金・奨学金制度を用意しています。
(下記参照)

(円)

学費一覧(年額) (2023年度予定)		人文科学・国際文化・経済学(注1)・ 法学・政治学・社会学・経営学・ 人間社会・公共政策・キャリアデ ザイン学研究科・連帯社会インス ティテュート		スポーツ健康学 研究科(注2)		情報科学・デザイン工学・ 理工学研究科・ IIST(注3)		政策創造研究科	
		修士	博士後期	修士	博士後期	修士	博士後期	修士	博士後期
入学金	自校	—	—	—	—	—	—	135,000	—
	他校	200,000	200,000	200,000	200,000	200,000	200,000	270,000	270,000
授業料		570,000	400,000	644,800	470,000	770,000	600,000	750,000	750,000
教育充実費		80,000	60,000	100,000	100,000	100,000	100,000	135,000	135,000
実験実習費	心理学専攻 臨床心理学専攻 50,000	—	100,000	100,000	100,000		—	—	—
	地理学専攻 20,000(注4)				生命機能学専攻 植物医科学領域のみ 160,000				

★詳細はお問い合わせください。

授業料等は第一期(春学期)(4月末日まで)・第二期(秋学期)(9月末日まで)の2回に分けて納入していただくことになります。
ただし、1年次(初年度)の第一期分は、入学手続時に納入していただくことになります。

※上記のほかに専攻によって2,000~4,000円程度の諸費用が必要。

※年間休学在籍料100,000円。ただし春学期、秋学期休学については半分(2分の1)とする。

※自校とは、本学の学部卒業者または大学院修了者を指し、他校とはその他の者を指す。

(注1) 経済学研究科修士1年制コースの授業料は860,000円。入学金、教育充実費は上表のとおり。

(注2) スポーツ健康学研究科のみ授業料には昼食代が含まれている。

(注3) 総合理工学インスティテュート(IIST)の授業料は880,000円(修士課程)、600,000円(博士後期課程)、入学金は200,000円(修士・博士後期課程)、教育充実費は100,000円(修士・博士後期課程)、実験実習費は80,000円(修士・博士後期課程)。生命機能学専攻植物医科学領域のみ、140,000円。

(注4) 国際日本学インスティテュートを除く。

修学支援、留学・研究奨励制度

2022年度実施予定の制度です。制度の概要はP.6、7をご覧ください。

名 称	対象者(応募資格)
法政大学100周年記念大学院修士課程奨学生	修士課程在学生(標準修業年限内)
法政大学大学院博士後期課程研究助成金	博士後期課程在学生(標準修業年限内)
法政大学大学院海外留学補助金	修士課程・博士後期課程在学生・入学予定者
法政大学大学院学生論文掲載料補助	修士課程・博士後期課程在学生
法政大学大学院学会等発表補助金	
法政大学大学院諸外国語による論文等校閲補助	修士課程・博士後期課程在学生(市ヶ谷、多摩キャンパスの研究科)
法政大学大学院現地調査実施費用補助	
法政大学大学院優秀博士論文出版助成金	博士後期課程修了生(修了後5年以内)

※詳細は入学後、募集要項でご確認ください。

教育訓練給付制度（一般教育訓練給付）

右記の専攻は「教育訓練給付制度厚生労働大臣指定講座」の指定を受けています。この制度は、修了後、本人がハローワークへ申請することで、雇用保険の被保険者期間（3年以上または初めて教育訓練給付の支給を受ける方は1年以上）により、教育訓練経費（入学金と初年度授業料）の20%（上限額10万円）の教育訓練給付金が支給されるものです。

<修士課程>

- 國際文化専攻
- 経済学専攻
- 政治学専攻
- 國際政治学専攻
- 社会学専攻
- 経営学専攻（夜間）
- 福祉社会専攻
- 公共政策学専攻
- サステイナビリティ学専攻
- キャリアデザイン学専攻
- デザイン工学研究科（全専攻）
- 理工学研究科（全専攻）

教育訓練給付制度（専門実践教育訓練給付）

政策創造研究科政策創造専攻（修士課程）は、「専門実践教育訓練給付制度厚生労働大臣指定講座」の指定を受けています。本人が講座受講開始日の1ヵ月前までにハローワークに申請することで、雇用保険の被保険者期間（3年以上または初めて教育訓練給付金の支給を受ける方は2年以上）に

より、教育訓練経費（入学金と授業料）の50%（年間上限40万円）が2年間、2年間で修了した場合には追加給付として教育訓練経費（入学金と授業料）の20%が支給され、最大112万円の給付金が支給されます。

学外奨学金制度

▶ 地方公共団体・民間奨学財団奨学金

不定期でありますが、各種団体が奨学生を募集しています。
募集の都度、お知らせしています。

（主な奨学金）

- ・公益財団法人平和中島財団外国人留学生奨学生
- ・公益信託川嶋章司記念スカラーシップ基金奨学助成金
- ・公益財団法人綿貫国際奨学財団奨学生
- ・公益財団法人神林留学生奨学会私費外国人留学生奨学生
- ・公益財団法人日本国際教育支援協会JEES ドコモ留学生奨学金
- ・一般財団法人守谷育英会

▶ 日本学生支援機構奨学金

日本学生支援機構の奨学金は貸与型です。返還の義務がありますので、奨学金を希望する学生は、将来の返済を念頭において出願してください。

出願資格	修士・博士後期課程の在学生。 ただし、以下の方は資格外です。 (1) 最短修業年限を超えた在学生 (2) 外国人留学生 (3) 収入基準額を超える者	
	第一種 奨学金	
種類	第二種 奨学金	無利子
	①利率固定方式 ②利率見直し方式いずれかの選択 (いずれも利率は年3%上限)	
貸与月額	第一種 奨学金	修士課程…50,000円または88,000円 博士後期課程……80,000円または 122,000円
		5万・8万・10万・13万・15万円から選択

（日本学生支援機構による）

▶ 留学生対象の奨学金

文部科学省などの奨学金があります。

（主な奨学金）

- ・私費外国人留学生学習奨励費給付制度
- ・文部科学省スーパーグローバル大学創生支援事業
国費外国人留学生



ウェブサイトについて

法政大学大学院ウェブサイト

法政大学大学院 |



検索

<https://www.hosei.ac.jp/gs/>

[大学院で学びたい方へ]
をクリック

もしくは、
[大学院入試情報]
をクリック



<https://www.hosei.ac.jp/gs/jukensei/>

上記ページから、入学試験に関する情報を確認できます。

なお、年度の途中でも入試情報の追加や変更が生じる場合がありますので、ご出願の際は必ず最新の入試情報をご確認ください。

掲載情報の一例)

- ▶ 入試要項
- ▶ 入試日程
- ▶ 入試結果
- ▶ 教員情報 ※教員の連絡先は公開しておりません。
- ▶ 入試に関する Q & A
- ▶ 進学相談会の詳細
- ▶ 履修案内、時間割、シラバス

入試結果

▶ 2022年度入試結果

注1：下段は外国籍の学生で、内数。
 注2：博士後期課程の一般には学内入試・外国人入試を含む。
 注3：協定による外国人入試および上海外国语大学とのダブルディグリープログラム、博士論文研究基礎力審査（QE）による入学者は含まない。
 注4：秋季入学者（2021年9月入学）向け入試を含む。
 注5：総合理工学インスティテュート（IIST）の一般には指定校推薦入試を含む。

研究科	専攻/ インスティテュート	修士課程										博士後期課程					
		志願者					合格者					志願者			合格者		
		学内	一般	外国人	社会人	計	学内	一般	外国人	社会人	計	一般	社会人	計	一般	社会人	計
人文科学	哲 学	9 (5)			1	9 (5)	5 (2)			5 (2)		2			2	1	1
	日本文学	10 (15)	15 (15)	1	26 (15)	26 (15)	7 (5)	5 (1)	1	13 (5)	3 (1)	3			3	2	2
	英 文 学	5 (3)	5 (3)		10 (3)	5 (1)	2 (1)			7 (1)	1				1	1	1
	史 学	10 (4)	6	16 (4)	4 (1)	4 (1)			3 (1)	7 (1)	2	1	3 (1)	2	1	1	3
	地 理 学	3 (2)	5 (2)	1	9 (2)	2 (2)	3 (2)			1 (2)	6 (2)	1			1	1	1
	心 理 学	1 (2)	13 (2)		14 (2)	1 (2)	4 (4)			5 (5)	4 (11)	4			4	3	3
	小 計	9 (16)	52 (15)	15 (15)	8	84 (31)	8 (6)	25 (5)	5 (5)	43 (11)	13 (1)	1 (1)	14 (1)	10 (1)	1	11	
国際文化	国際日本学 インスティテュート	4 (4)	45 (45)	2 (1)	51 (50)		16 (16)	2 (1)	18 (17)	3 (2)		3 (2)	1 (1)	1 (1)	1 (1)		
	国際文化	2	1	12 (12)		15 (12)	2		2 (2)		4 (2)	1	1	2	1	1	2
	経済学	1 (10)	13 (20)	20 (20)	3	37 (30)	1 (30)	5 (4)	12 (12)	2 (12)	20 (16)	1 (1)	2 (1)	3 (1)		1	1
	法学	2 (1)	7 (5)	22 (22)	1	32 (28)	2 (1)	1 (4)	4 (4)	1 (1)	8 (5)	2 (2)	2 (2)	2 (2)	2	2	2
	政治学	2 (1)	3		5 (1)	2 (1)	1 (1)			3 (0)							1
	国際政治学	3 (5)	10 (15)	15 (15)		28 (20)	1 (2)	4 (3)	3 (3)		8 (5)						
	小 計	5 (6)	13 (15)	15 (15)		33 (21)	3 (2)	5 (3)	3 (3)		11 (5)	2		2 (2)	1 (1)	1 (1)	
社会学	社会学	3 (1)	10 (6)	60 (60)		73 (67)	2 (1)	2 (2)	2 (2)		6 (3)	4 (2)	4 (2)	2 (2)	2	2	2
	経営学	1 (1)	53 (51)		50 (58)	104 (58)		15 (14)		29 (14)	44 (14)		6 (6)		6	6	2
	福祉社会	2 (1)	8 (7)	6 (3)	1	17 (11)	2 (1)	4 (4)	1 (1)	1 (1)	8 (5)						
	臨床心理学	28 (21)	38 (23)			66 (44)	9 (7)	6 (6)			15 (13)						
	人間福祉											3 (2)	3 (2)	2 (1)	2 (1)	2 (1)	2
	小 計	30 (22)	46 (30)	6 (3)	1	83 (55)	11 (8)	10 (10)	1 (1)	1 (1)	23 (18)	3 (2)	3 (2)	2 (1)	2 (1)	2 (1)	2
	政策創造	64 (52)		39 (4)	103 (56)		26 (17)			30 (18)	56 (18)	2 (1)	3 (1)	5 (1)	1 (1)	2 (1)	3
公共政策	公共政策学	13 (10)		11 (10)	24 (10)		4 (3)			8 (3)	12 (3)		4 (4)	4 (4)		4	4
	サスイナビリティ学	11 (7)		11 (2)	22 (9)		5 (2)			10 (1)	15 (3)		3 (3)	3 (3)		3	3
	小 計	24 (17)		22 (2)	46 (19)		9 (5)			18 (1)	27 (6)		7 (6)	7 (7)		7	7
	キャリアデザイン学	42 (1)			42 (1)		18 (1)			18 (18)							
	政治学 公共政策 連帯社会 インスティテュート	1 (1)		10 (1)	11 (1)					9 (9)	9 (9)						
	スポーツ健康学	8 (4)	11 (4)		19 (4)	8 (2)	8 (2)			16 (2)	1 (2)	4 (1)	5 (1)	1 (1)	4 (1)	5 (1)	
	情報科学	17 (9)	17 (1)	1 (1)		35 (10)	17 (10)	7 (5)	1 (1)		25 (6)	1 (1)	1 (1)	1 (1)	1 (1)	1 (1)	1 (1)
デザイン工学	建築学	29 (1)	47 (10)	3 (3)	1 (1)	80 (15)	29 (1)	42 (5)	2 (2)	1 (1)	74 (9)	1		1	1	1	1
	都市環境 デザイン工学	17 (2)	12 (2)	2 (2)	1	32 (2)	17 (2)	8 (2)	2 (2)	1 (2)	28 (2)		1	1		1	1
	システムデザイン	12 (1)	6 (1)	1 (1)		20 (1)	12 (1)	6 (1)	1 (1)	1 (1)	20 (1)						
	小 計	58 (1)	65 (10)	6 (6)	3 (1)	132 (18)	58 (1)	56 (5)	5 (5)	3 (1)	122 (12)	1	1	2	1	1	2
	機械工学	23 (6)	38 (6)		61 (6)	23 (4)	31 (4)			54 (4)	1			1	1	1	1
	電気電子工学	32 (3)	23 (3)			55 (3)	32 (2)	19 (2)			51 (2)	2		3	5	2	3
	応用情報工学	25 (4)	20 (4)			45 (4)	25 (2)	17 (2)			42 (2)						
理工学	システム理工学	20 (1)	16 (5)			36 (6)	19 (1)	13 (5)			32 (6)						
	応用化学	28 (6)	24 (6)			52 (6)	28 (4)	18 (4)			46 (4)						
	生命機能学	9 (1)	17 (1)			26 (1)	9 (1)	16 (1)			25 (1)	2		2	2		2
	小 計	137 (1)	138 (24)			275 (25)	136 (1)	114 (17)			250 (18)	5 (5)	3 (5)	8 (5)	5 (5)	5 (5)	5
	情報科学 理工学 インスティテュート		9 (9)			9 (9)	9 (9)			9 (9)	5 (5)						
	全 研 究 科 総 計	273 (27)	570 (255)	202 (199)	139 (14)	1184 (495)	248 (12)	310 (96)	51 (50)	100 (4)	709 (162)	44 (17)	28 (17)	72 (11)	33 (11)	22 (11)	55 (11)

進学相談会・公開セミナー

進学相談会

2022年度進学相談会は、2021年度に引き続き、HP上での動画、コンテンツ配信、リアルタイムオンラインによる相談会を行います。

詳細は6月以降大学院HPで発表いたします。

2021年度は以下の内容で実施いたしました。

▶ 動画配信

- 1 法政大学大学院のご案内
- 2 法政大学大学院 受験生向け紹介動画
- 3 国際文化研究科
 - 国際文化研究科で学ぶ－本研究科を志望される方のために－
- 4 政策創造研究科
 - 政策創造研究科のご案内 一リーダーシップを発揮できる人材育成のために－
 - 2022年度入学試験について
 - 専門教育訓練給付金について

▶ コンテンツ配信

- 1 国際日本学インスティテュート
 - あなたも2022年4月から法政大学で学んでみませんか？
- 2 経済学研究科
 - 経済学研究科を知ろう！

▶ リアルタイムオンラインセミナー・進学相談会

- 1 政治学研究科
 - MBAセミナー・進学相談会（2021年7月10日（土）、10月16日（土）Zoomでオンライン開催）
 - 進学相談会（2021年12月11日（土）Zoomでオンライン開催）
- 2 キャリアデザイン学研究科
 - シンポジウム・進学相談会（2021年10月16日（土）Zoomでオンライン開催）
 - 研究計画書説明会・進学相談会（2021年12月11日（土）Zoomでオンライン開催）

公開セミナー

知の社会還元および社会に開かれた大学院をめざして、毎年各種の公開講座・シンポジウム・セミナーなどを開催しています。

※本年度の予定は順次HPに掲載いたしますのでご確認ください。皆様のご参加をお待ちしています。

まちづくりセミナー 2022 年度 12 月開催予定

1977年から40年以上にわたって続いている伝統あるセミナーです。地域の課題を地域で解決していく取り組みに焦点をあてた企画です。自治体関係者・大学院学生らの根強い支持があり、毎年多くの受講者を集めています。

- 2021年度：コロナ、都市の危機と再生を問う
- 2020年度：コロナ時代のまちづくり・都市政策（ミニセミナー、オンライン配信）
- 2019年度：（台風19号の影響により中止）
- 2018年度：縮退時代の都市空間－ひとのつながりと居場所を問い合わせなおす－
- 2017年度：都市縮退時代の郊外を考える

MBA セミナー

- キャリアに役立つ法政大学MBA
- 私が法政大学MBAをオススメする理由
- HBSで何を学び、どう活かすか

キャリアデザイン学研究科 セミナー

- キャリア・マネジメントのパラダイム変遷と研究課題
- デジタル革新世代の働き方とキャリア
- 高校・大学・社会をつなぐ

Q & A

Q&A

以下はよくある質問の一例です。詳しくはこちらのURLから「大学院入試に関するQ&A」をご確認ください。 <http://www.hosei.ac.jp/gs/jukensei/faq/>

▶ 出願について

Q 出願にあたり「入学後の希望指導教員」や
その他の教員に連絡をする必要がありますか。

A. 専攻により異なりますので、入試要項（募集要項）をご確認ください。入試要項に特段の記載がない場合は、事前の連絡や研究室訪問は必要ありません。なお、研究生や科目等履修生への出願を検討されている場合は別途、各研究科担当窓口へお問い合わせください。

▶ 入学試験について

Q 過去問題集はどのように入手できますか。

A. HP「資料請求」から請求、進学相談会の会場で入手、大学院の窓口で入手などの方法で入手できます。専攻により過去問題集を作成していないものもあります。なお、過去問題集は「受験者がいなかった場合」「口述試験のみで筆記試験が実施されなかった場合」には、その問題が掲載されていませんのでご注意ください。

Q 秋季入試（もしくは第1回目入試）で不合格でした。
この場合、春季入試（もしくは第2回目入試）に出願はできますか。

A. 可能です。出願期間内に書類をご提出ください。

Q 秋季入試（もしくは第1回目入試）で多数の合格者がいた場合、
春季入試（もしくは第2回目入試）を実施しない可能性はありますか。

A. ありません。合格者数にかかわらず、予め定められた入試日程に則って試験を実施します。なお、入試日ごとの募集定員や合格者数の速報値については回答できかねますのでご了承ください。

▶ 学業・学生生活について

Q 授業はすべて日本語で行われますか。

A. 原則としてすべて日本語で行います。入学試験の際には日本語能力を示す証明書の提出、筆記試験、面接などで、日本語の能力を判断することができます。

※情報科学研究科ダブルデグリープログラム、総合理工学インスティテュート（IIST）、専門職大学院イノベーション・マネジメント専攻Global MBA Programを除く。

Q 私は「留学」の在留資格をもっています。
この資格があればすべての専攻に出願が可能ですか。

A. 専攻により入学を認めない場合があります。
詳しくは入試要項をご確認ください。

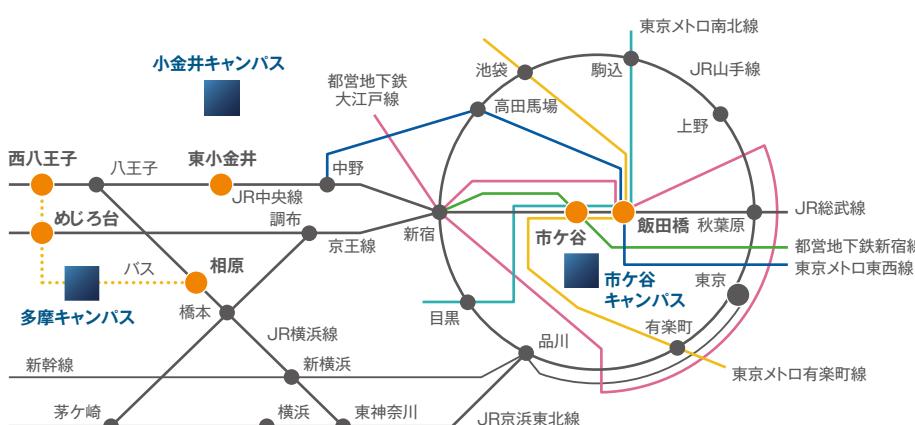
Q 口述試験とはどのようなものですか。
過去問題はありますか。

A. 口述試験の過去問題はありません。なお、口述試験の内容については、各研究科・専攻によって異なります。
一人あたりの試験時間が約20分で面接委員が4～5名のケース、専攻の担当教員全員が出席するケース、グループ面接を実施するケース、プレゼンテーションを実施するケースなど、内容はさまざまです。

Q 研修生との併願制度とはどのようなものですか。

A. 修士課程入試で不合格になった方を対象に、修士課程入試結果を使って、同時に研修生としての合否判定を行う制度です（出願時の申請が必要です）。合格の場合、研修生として1年間、在籍することができます。
※志望する研究科・専攻に併願制度があるかどうかは、必ず入試要項をご確認ください（全専攻で実施しているわけではありません）。

キャンパス交通案内



最寄り駅のご案内

市ヶ谷キャンパス
JR総武線・東京メトロ／
市ヶ谷駅または飯田橋駅から徒歩約10分

多摩キャンパス
京王線／めじろ台駅からバスで約10分
JR中央線／西八王子駅からバスで約22分
JR横浜線／相原駅からバスで約13分

小金井キャンパス
JR中央線／東小金井駅から徒歩約15分

資料請求・問い合わせ先

市ヶ谷キャンパス

人文科学研究科・国際文化研究科・
経済学研究科・法学研究科・
政治学研究科・社会学研究科・
経営学研究科・公共政策研究科・
キャリアデザイン学研究科・
連帯社会インスティテュート

▶ 大学院事務部 大学院課
〒162-0843 東京都新宿区市谷田町2-15-2
TEL : 03-5228-0551 / FAX : 03-5228-0555
E-mail : i.hgs@ml.hosei.ac.jp

政策創造研究科

▶ 大学院事務部 大学院課 政策創造研究科担当
〒102-0073 東京都千代田区九段北3-3-9
TEL : 03-3264-6630 / FAX : 03-3264-3990
E-mail : rpd-j@hosei.ac.jp

デザイン工学研究科

▶ 大学院事務部 大学院課 デザイン工学研究科担当
〒162-0843 東京都新宿区市谷田町2-33
TEL : 03-5228-1347 / FAX : 03-5228-3491
E-mail : jsd@hosei.ac.jp

多摩キャンパス

人間社会研究科

▶ 多摩事務部 大学院課 人間社会研究科担当
〒194-0298 東京都町田市相原町4342
TEL : 042-783-2809 / FAX : 042-783-2808
E-mail : fukushi@hosei.ac.jp

スポーツ健康学研究科

▶ 多摩事務部 大学院課 スポーツ健康学研究科担当
〒194-0298 東京都町田市相原町4342
TEL : 042-783-3003 / FAX : 042-783-3009
E-mail : sports@hosei.ac.jp

小金井キャンパス

情報科学研究科・理工学研究科・
総合理工学インスティテュート (IIST)
▶ 小金井事務部 大学院課
〒184-8584 東京都小金井市梶野町3-7-2
TEL : 042-387-6014 / FAX : 042-387-6048
E-mail : hge@hosei.ac.jp

専門職大学院

法務研究科

▶ 大学院事務部 専門職大学院課 法科大学院担当
〒102-0073 東京都千代田区九段北3-3-12
TEL : 03-3264-9039 FAX : 03-3264-9885
E-mail : lawschool@hosei.ac.jp

イノベーション・マネジメント研究科

▶ 大学院事務部 専門職大学院課
イノベーション・マネジメント専攻担当
〒102-0073 東京都千代田区九段北3-3-9
TEL : 03-3264-4341 / FAX : 03-3264-3990
E-mail : innovation@hosei.ac.jp